

西中中
喜村村
光田田
所地所
遺地遺
跡跡跡

中 村 田 所 遺 跡
中 村 田 所 東 遺 跡
西 喜 光 地 遺 跡

- 一般国道11号新居浜バイパス・新居浜市道西喜光地町副道1号線
埋蔵文化財調査報告書 -

一〇二二・三

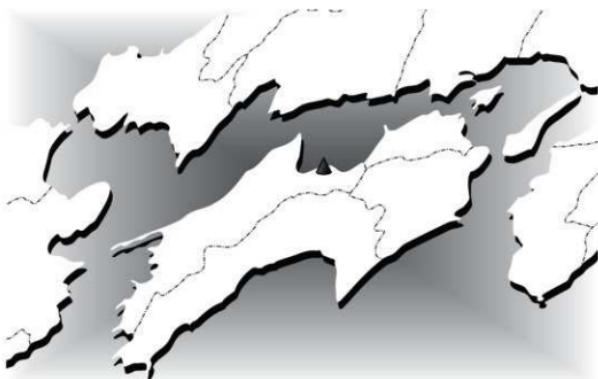
公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター

2022.3

公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

中 村 田 所 遺 跡
中 村 田 所 東 遺 跡
西 喜 光 地 遺 跡

- 一般国道11号新居浜バイパス・新居浜市道西喜光地町副道1号線
埋蔵文化財調査報告書 -



2022.3

公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

序 文

このたび、一般国道11号新居浜バイパス・新居浜市道西喜光地町副道1号線の建設に伴い、愛媛県(事業主体・国土交通省)ならびに新居浜市からの委託を受け、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターが、平成29年度から令和2年度に発掘調査を実施した愛媛県新居浜市中村松木・土橋・西喜光地町に所在する中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡について報告書を刊行することとなりました。

新居浜平野における縄文時代後期から中世の各時期におよぶまとまった集落遺跡の調査となり、とくに弥生時代の遺構・遺物は新居浜地域の低地部における弥生時代集落の変遷を考える上で重要な手がかりとなるものと考えられます。

今後、本報告書が地域の歴史や考古学研究の資料として、多くの方々に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査に対しましてご理解とご協力を賜りました国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所・新居浜市・新居浜市教育委員会をはじめ、ご指導いただいた関係諸機関および地元の方々に厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本報告書は、愛媛県新居浜市中村松木・土橋・西喜光地町に所在する中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および報告書の作成は、一般国道11号新居浜バイパス・新居浜市道西喜光地町副道1号線の建設に伴い、愛媛県(事業主体・国土交通省四国地方整備局)ならびに新居浜市の委託を受け、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は平成29年度から令和2年度に実施し、整理作業および報告書の作成は平成30年度ならびに令和3年度に実施した。
- 4 発掘調査および整理・報告書の作成は、次の職員が担当した。

発掘調査

首藤久士 青木聰志 田中いづみ 佐野祐樹

整理作業

首藤久士 岡美奈子 田中いづみ

- 5 発掘調査および報告書作成において、下記の職員および作業員の協力を得た。

職員

池尻伸吾 石貫弘泰 柴田圭子 多田仁 中野良一 乗松真也 松村さを里
眞鍋昭文 三好裕之 山口莉歩

現場外業作業員

青野徳扇 有安史一 安藤賢治 伊藤志穂 伊東準治 大田順一 大森夏子
長船浩司 小野莊太郎 神山典久 条野祥子 黒瀬久義 近藤聖治 佐々木敏幸
白石均 高橋光子 西原丈晴 深川伸一 山内智千 山下裕次 山根義人

現場内業作業員

伊藤日奈子 川又洋子 村上志帆

衣山内業作業員

泉藤江 越智直美 川村りか 福山多恵子 藤山幸子 八木美薫

- 6 委託業務に関しては以下のように実施した。
 - 基準点・水準点の設定は、有限会社東洋光測量設計(平成29年度・令和2年度)・株式会社西条設計コンサルタント(平成30年度・令和2年度)に委託し、世界測地系に準拠した。
 - 理化学分析は株式会社古環境研究所に委託した。
 - 金属製品の保存処理は株式会社イビソクに委託した。
- 7 本報告書の執筆は、第7章第2節2を乗松、それ以外を首藤が行い、編集は首藤・岡が行った。
- 8 本書に掲載した図のうち図1.9～11,63.64,105,106で使用した都市計画図については、新居浜市長の承認を得て、同市作成の2,500分の1都市計画図を複製したものである。(測量法第43条に基づく成果複製承認 令和4年新建都第23号)
- 9 出土遺物は愛媛県教育委員会文化財保護課が、造構原図・遺物実測図・写真類は公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターがそれぞれ保管している。
- 10 発掘調査および報告書作成では、多くの方々や関係機関のご指導・ご助言をいただきました。記して謝意を表します。(50音順・敬称略)

岡田敏彦 桑内章裕 柴田昌児 高橋洋毅 土岐幸司
新居浜市教育委員会 信里芳紀 村上恭通

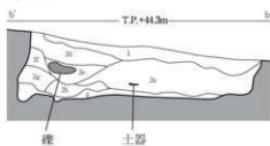
凡例

一覧表の略記号表記例

遺構の略号	
堅	穴 建 物
掘	立 柱 建 物
土	立 突 坑
墓	ST-
溝	SD-
不 明	遺 構
柱 穴	SX-
・ 小 穴	SP.-

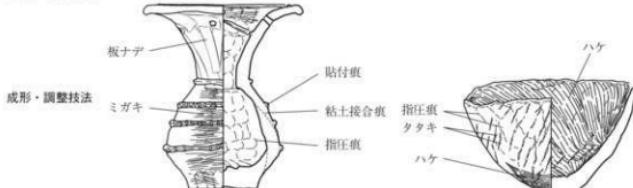
遺物の一覧表の略分類	
略記号	内 容
L	長 度
W	幅
H	容高・高さ
T	厚 さ
R	直 径
MR	最 大 径
HR	孔 径
TR	I.D. 径
NR	頸 部 径
LR	底 径
g	重 量
()	推 定 値
[]	残 存 値

遺構の表現例

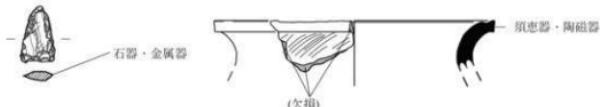


土層断面図中の網伏せは櫛、塗りつぶしは土器を示す。

遺物の表現例



断面・欠損表記



土色・土器の色調については、「新版 標準土色帖(2014年度版)」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に従う。
煩雑さを避けるために、弥生土器の壺形土器・甌形土器などの「形土器」は省略した。

本文目次

第1章 調査にいたる経緯と経過.....	1
第1節 調査にいたる経緯.....	1
1 試掘調査.....	1
第2節 調査の経過.....	1
1 発掘調査の経過.....	1
2 調査成果報告会の実施.....	5
3 整理作業.....	5
4 調査体制.....	5
第2章 遺跡の立地と環境	7
第1節 地理的環境.....	7
第2節 歴史的環境.....	7
1 縄文時代.....	7
2 弥生時代.....	7
3 古墳時代.....	8
4 古代.....	8
5 中世.....	10
6 近世以降.....	13
第3章 中村田所遺跡の成果.....	15
第1節 中村田所遺跡の概要.....	15
1 地形と調査区.....	15
2 基本層序.....	15
3 遺構と遺物の概要.....	15
第2節 縄文時代の遺構と遺物.....	29
1 概要.....	29
2 土坑.....	29
3 小穴の出土遺物.....	30
4 遺構外の遺物.....	30
第3節 弥生時代の遺構と遺物.....	31
1 概要.....	31
2 壓穴建物.....	33

3 挖立柱建物	54
4 土坑	56
5 壺棺墓	56
6 溝	57
7 小穴	58
8 造構外の出土遺物	61
第4節 中世の遺構と遺物	64
1 概要	64
2 挖立柱建物	64
3 土坑	66
4 小穴の出土遺物	67
5 造構外の出土遺物	67
第5節 時期不明の遺構	67
1 土坑	67
2 溝	67
3 小穴	68
4 性格不明遺構	68
第6節 時期不明の遺物	71
第7節 小結	72
 第4章 中村田所東遺跡の成果	85
第1節 中村田所東遺跡の概要	85
1 地形と調査区	85
2 基本層序	85
3 遺構と遺物の概要	85
第2節 弘生時代の遺構と遺物	99
1 概要	99
2 竪穴建物	99
3 挖立柱建物	99
4 土坑	101
5 溝	103
6 小穴	105
7 自然流路	108
8 造構外の出土遺物	108
第3節 中世の遺物	114
1 造構外の出土遺物	114

第4章 時期不明の遺構	115
1 土坑	115
2 溝	115
3 小穴	116
4 性格不明遺構	116
第5章 時期不明の遺物	116
第6章 小結	118
 第5章 西喜光地遺跡の成果	131
第1節 西喜光地遺跡の概要	131
1 地形と調査区	131
2 基本層序	131
3 遺構と遺物の概要	132
第2節 弥生時代の遺構と遺物	145
1 概要	145
2 掘立柱建物	145
3 土坑	154
4 遺構外の出土遺物	163
第3節 古代の遺構と遺物	163
1 概要	163
2 溝	163
第4節 中世の遺構と遺物	169
1 概要	169
2 溝	169
3 遺構外の出土遺物	170
第5節 時期不明の遺構	170
1 掘立柱建物	170
2 土坑	170
3 溝	170
4 小穴	183
第6節 時期不明の遺物	185
第7章 小結	186
 第6章 自然科学分析	201
第1節 目的	201
第2節 概要	201

第3章 火山灰分析.....	201
第4節 SK7出土炭化材の放射性炭素年代測定.....	206
第5節 SK7出土炭化材の樹種同定.....	208
第6節 SI2～4出土炭化材の樹種同定.....	210
第7節まとめ.....	214
 第7章 総括.....	217
第1節 遺構の変遷.....	217
1 縄文時代以前.....	217
2 弥生時代.....	217
3 古代以降.....	220
第2節 特徴的な遺構・遺物.....	220
1 中村田所遺跡出土の火山灰.....	220
2 中村田所東遺跡出土のサヌカイト石器.....	221
3 西喜光地遺跡出土の掘立柱建物.....	221
4 中村田所遺跡出土の讃岐系土器.....	222
5 中村田所遺跡出土の壺棺墓.....	222
6 中村田所東遺跡出土の瀬戸美濃鉢皿.....	223
第3節 出土した弥生土器について.....	223
1 弥生土器の変遷.....	223
第4節 新居浜バイパス関連遺跡群における遺跡分布と弥生時代集落.....	224
1 これまでの調査状況.....	224
2 遺跡の分布傾向.....	225
3 弥生時代集落の変遷.....	225

図 目 次

図1 試掘の位置.....	2
図2 試掘トレンチ土層柱状図1.....	2
図3 試掘トレンチ土層柱状図2.....	3
図4 試掘トレンチ土層柱状図3.....	4
図5 遺跡周辺の地質.....	9
図6 周辺の遺跡分布.....	11
図7 中村田所遺跡現場作業.....	15
図8 2区東壁火山灰出土状況.....	15
図9 調査区の位置.....	16

図10	中村田所遺跡(1・2区)調査区位置図	17
図11	中村田所遺跡調査区基本層序測量位置図	18
図12	中村田所遺跡基本層序模式図および土層説明	19
図13	1区基本層序(A-A'・A''-B-B'・C-C')	21
図14	2区基本層序(D-D'・D''-E-E'・F-F')	23
図15	2区基本層序(E-E'・F-F')	25
図16	1・2区遺構配置図	27
図17	SK1平面面図および縄出土状況および出土遺物	29
図18	SK7平面面図および遺物・縄出土状況および出土遺物	30
図19	SK8平面面図および遺物・縄出土状況および出土遺物	31
図20	小穴の出土遺物(縄文時代)	31
図21	包含層出土遺物(縄文時代)	32
図22	出土地不明遺物(縄文時代)	32
図23	SI1平面面図および遺物ドット	33
図24	SI1出土遺物	34
図25	SI2平面面図	35
図26	SI2遺物・遺物ドット・焼土・炭化物出土状況(上層・下層)	37
図27	SI2出土遺物(1)	39
図28	SI2出土遺物(2)	40
図29	SI2出土遺物(3)	41
図30	SI2出土遺物(4)	42
図31	SI3平面面図および遺物・焼土・炭化物出土状況	43
図32	SI3出土遺物	44
図33	SI4平面面図	45
図34	SI4遺物・遺物ドット・焼土・炭化物出土状況(上層・下層)	47
図35	SI4出土遺物(1)	49
図36	SI4出土遺物(2)	50
図37	SI4出土遺物(3)	51
図38	SI4出土遺物(4)	52
図39	SB1平面面図および縄出土状況	53
図40	SK9平面面図および遺物ドット・炭化物出土状況および出土遺物	54
図41	ST1平面面図および遺物出土状況	55
図42	ST1出土遺物(1)	55
図43	ST1出土遺物(2)	56
図44	SD1平面面図	57
図45	SD5平面面図	57
図46	SD10,12,13平面面図および出土遺物	59
図47	SP140,142,236平面面図および遺物出土状況および出土遺物	61
図48	包含層出土遺物(弥生時代)(1)	62
図49	包含層出土遺物(弥生時代)(2)	63
図50	包含層出土遺物(弥生時代)(3)	64

図51	SB2平断面図および遺物出土状況および出土遺物	65
図52	SK5平断面図	66
図53	その他SP出土遺物(中世)	66
図54	包含層出土遺物(古代～中世)	66
図55	SK3平断面図	67
図56	SD2,3,4平断面図	67
図57	SD6～9,11平断面図	69
図58	SP8,112～115,127,183平断面図および遺物出土状況	70
図59	SX1平断面図	71
図60	包含層出土遺物(時期不明)	71
図61	中村田所東遺跡現場作業1	85
図62	中村田所東遺跡現場作業2	85
図63	中村田所東遺跡(1・2区)調査区位置図	86
図64	中村田所東遺跡調査区基本層序測量位置図	87
図65	中村田所東遺跡基本層序模式図および土層説明	88
図66	1区基本層序(A-A' B-B')	89
図67	1区基本層序(C-C' D-D')	91
図68	2区基本層序(E-E' F-F' G-G' H-H')	93
図69	2区基本層序(I-I' J-J')	95
図70	1・2区遺構配置図	97
図71	SI1平断面図および焼土・炭化物出土状況	100
図72	SI1出土遺物	101
図73	SB1平断面図	101
図74	SB2平断面図	102
図75	SK1平断面図および遺物・礫出土状況	103
図76	SK1出土遺物(1)	104
図77	SK1出土遺物(2)	105
図78	SK4平断面図および遺物ドットおよび出土遺物	106
図79	SD2平断面図および出土遺物	107
図80	SP72平断面図および遺物出土状況および出土遺物	107
図81	その他SP出土遺物(弥生時代)	107
図82	SRL2平断面図および遺物ドット	109
図83	SR1出土遺物(1)	110
図84	SR1出土遺物(2)	111
図85	SR2出土遺物	111
図86	包含層出土遺物(弥生時代)(1)	112
図87	包含層出土遺物(弥生時代)(2)	113
図88	包含層出土遺物(弥生時代)(3)	114
図89	包含層出土遺物(中世)	115
図90	出土地点不明遺物(中世)	115
図91	SK3平断面図および礫出土状況	115

図92	SD1.3平面図.....	116
図93	SP58.118.206.332平面図および遺物出土状況および出土遺物.....	117
図94	SX1平面図.....	117
図95	包含層出土遺物(時期不明).....	118
図96	中村田所東遺跡現場作業3.....	118
図97	中村田所東遺跡現場作業4.....	118
図98	黒褐色礫層の隆起.....	131
図99	西喜光地遺跡現場作業1.....	131
図100	西喜光地遺跡現場作業2.....	132
図101	西喜光地遺跡現場作業3.....	132
図102	西喜光地遺跡現場作業4.....	132
図103	西喜光地遺跡現場作業5.....	132
図104	西喜光地遺跡現場作業6.....	132
図105	西喜光地遺跡(1・2区)調査区位置図.....	133
図106	西喜光地遺跡調査区基本層序測量位置図.....	135
図107	1区基本層序模式図および土層説明(A-A'・B-B'・B").....	137
図108	1区基本層序(A-A'・A"・B-B'・B").....	139
図109	2区基本層序模式図および基本層序(C-C'・D-D'・D"・E-E'・E"・F-F'・F").....	141
図110	1・2区遺構配置図.....	143
図111	SB2平面図および遺物出土状況.....	146
図112	SB2出土遺物.....	147
図113	SB3平面図および遺物出土状況.....	148
図114	SB4平面図.....	149
図115	SB5平面図および礫出土状況.....	151
図116	SB6平面図および遺物出土状況.....	152
図117	SB7平面図および遺物出土状況.....	153
図118	SB7出土遺物.....	154
図119	SB8平面図および遺物出土状況.....	155
図120	SB8出土遺物.....	156
図121	SB9平面図および礫出土状況.....	157
図122	SB10平面図および礫出土状況.....	158
図123	SK1.2平面図および遺物出土状況.....	159
図124	SK1.2出土遺物(1).....	160
図125	SK1.2出土遺物(2).....	161
図126	SK1.2出土遺物.....	162
図127	SK3平面図.....	162
図128	SK5平面図および遺物出土状況.....	163
図129	SK5出土遺物.....	164
図130	SK6平面図および出土遺物.....	165
図131	SK7平面図および遺物出土状況および出土遺物.....	166
図132	包含層出土遺物(弥生時代)(1).....	167

図133	包含層出土遺物(弥生時代)(2).....	168
図134	SD1～4平断面図.....	171
図135	SD6,13,14平断面図および出土遺物.....	173
図136	SD5,9～12平断面図および出土遺物.....	175
図137	SD7,8,19平断面図および出土遺物.....	177
図138	包含層出土遺物(中世).....	179
図139	SB1平断面図.....	180
図140	SK4平断面図.....	180
図141	SK8平断面図.....	181
図142	SD15～18平断面図.....	182
図143	SP6,13,30,31,51,83平断面図.....	183
図144	SP103,126,152,277,293,294平断面図.....	184
図145	SP392,393,395,396平断面図.....	185
図146	包含層出土遺物(時期不明).....	186
図147	出土地点不明遺物(時期不明).....	186
図148	2区東壁火山灰分析試料採取地点.....	202
図149	中村田所遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム.....	204
図150	火山灰顕微鏡写真.....	205
図151	暦年較正結果.....	207
図152	SK7出土炭化材顕微鏡写真.....	209
図153	SI2炭化材試料採取地点(試料1～12).....	211
図154	SI3炭化材試料採取地点(試料13).....	211
図155	SI4炭化材試料採取地点(試料14～20).....	211
図156	SI1～3出土炭化材顕微鏡写真(1).....	215
図157	SI1～3出土炭化材顕微鏡写真(2).....	216
図158	中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡遺構変遷図(1).....	218
図159	中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡遺構変遷図(2).....	219
図160	石器の大きさの階級別点数.....	221
図161	石器種類別点数比率(不明剥片除く).....	221
図162	石器種類別点数比率.....	221
図163	香川県における弥生時代の掘立柱建物事例.....	222
図164	東予地方における讃岐系土器の出土遺跡.....	223
図165	新居浜バイパス関連遺跡群における弥生土器の変遷(1).....	226
図166	新居浜バイパス関連遺跡群における弥生土器の変遷(2).....	227
図167	新居浜バイパス関連遺跡群における弥生時代遺構の変遷(1).....	228
図168	新居浜バイパス関連遺跡群における弥生時代遺構の変遷(2).....	229

表 目 次

表1	調査体制.....	5
----	-----------	---

表2	主要遺構一覧(中村田所遺跡).....	73
表3	柱穴一覧(中村田所遺跡).....	74~78
表4	掲載遺物一覧(中村田所遺跡).....	79~81
表5	出土遺物一覧(中村田所遺跡).....	82,83
表6	主要遺構一覧(中村田所東遺跡).....	119
表7	柱穴一覧(中村田所東遺跡).....	120~127
表8	掲載遺物一覧(中村田所東遺跡).....	128,129
表9	出土遺物一覧(中村田所東遺跡).....	130
表10	主要遺構一覧(西喜光地遺跡).....	187
表11	柱穴一覧(西喜光地遺跡).....	188~195
表12	掲載遺物一覧(西喜光地遺跡).....	196,197
表13	出土遺物一覧(西喜光地遺跡).....	198,199
表14	テフラ分析結果.....	203
表15	火山ガラス比分析結果.....	203
表16	屈折率測定結果.....	204
表17	測定試料及び処理.....	206
表18	測定結果.....	207
表19	樹種同定結果.....	210
表20	愛媛県内の瀬戸美濃鉄皿.....	224
表21	新居浜バイパス関連発掘調査一覧.....	225

図 版 目 次

図版1	遺跡遠景(滝の宮公園より)
図版2	上:I区調査前状況(南西より)／下:2区調査前状況(北東より)
図版3	上:I区東半遺構検出状況(南東より)／下:I区中央北半遺構検出状況(南東より)
図版4	上:I区西半北側遺構検出状況(南東より)／下:F:1区東半南側遺構検出状況(北東より)
図版5	上:2区北半遺構検出状況(南東より)／下:2区南半遺構検出状況(北西より)
図版6	上:I区東半北側完掘状況(南西より)／下:I区東半南側完掘状況(南西より)
図版7	左上:I区西半北側完掘状況(南東より)／右上:I区北端部完掘状況(南東より) 中左上:2区南半完掘状況(北西より)／中上右:2区北端部完掘状況(北西より) 下:2区北半完掘状況(南東より)
図版8	上:SI1完掘状況(東より)／上右:SI1土層断面(北西より)／中上右:SI1土層断面(南東より) 下:SI1遺物出土状況(北西より)
図版9	上:SI2完掘状況(西より)／中下左:SI2土層断面(北西より)／中下右:SI2土層断面(南東より) 下左:SI2遺物出土状況(南東より)／下右:SI2遺物出土状況(北東より)
図版10	上:SI2焼土・炭化物出土状況(西より)／中下左:SI2焼土・炭化物出土状況(南より)

- 中下右SI2焼土・炭化物出土状況(南東より)／下左SI2焼土・炭化物出土状況(北西より)
 下右SI2焼土・炭化物出土状況(北より)
- 図版11 上SI2下層遺物出土状況(北西より)／中下左SI2下層遺物出土状況(南より)
 中上左SI2下層遺物出土状況(北西より)／下左SI2-SP10土層断面(北西より)
 下右SI2-SP239土層断面(西より)
- 図版12 上左SI3完掘状況(南より)／上右SI3土層断面(東より)／中上右SI3土層断面(西より)
 下SI3焼土・炭化物出土状況(南より)
- 図版13 上SI4完掘状況(北西より)／中下左SI4土層断面(北西より)／下左SI4土層断面(南東より)
 下右SI4床面検出状況(北西より)
- 図版14 上SI4焼土・炭化物出土状況(北西より)／下左SI4焼土・炭化物出土状況(西より)
 中下右SI4焼土・炭化物出土状況(南東より)／下右SI4下層遺物出土状況(南東より)
- 図版15 上左SI4下層遺物出土状況(北西より)／上右SI4下層遺物出土状況(北東より)
 中上右SI4下層遺物出土状況(東より)／中下左SI4-SP12遺物出土状況(南西より)
 中下右SI4-SP12土層断面(南東より)／下左SI4-SP244土層断面(南より)
 下右SI4-SP246土層断面(南西より)
- 図版16 上SB1完掘状況(南東より)／中下左SB1-SP169縲出土状況(西より)
 中下右SB1-SP174縲出土状況(西より)／下左SB1-SP169土層断面(西より)
 下右SB1-SP171土層断面(南西より)
- 図版17 上SB2完掘状況(北西より)／中下左SB2-SP177遺物出土状況(北より)
 中下右SB2-SP177土層断面(南東より)／下左SB2-SP181土層断面(南より)
 下右SB2-SP182土層断面(南西より)
- 図版18 上SK1遺物・縲出土状況(北より)／下左SK1完掘状況(北より)／中下右SK1土層断面(南より)
 下右SK1土層断面(北より)
- 図版19 上SK7S完掘状況(南東より)／中下左SK7遺物出土状況(南東より)／中下右SK7土層断面(南東より)
 下左SK8遺物出土状況(南西より)／下右SK8土層断面(南東より)
- 図版20 上SK9遺物出土状況(西より)／中下左SK9完掘状況(南西より)／中下右SK9土層断面(南東より)
 下左SK3土層断面(南より)／下右SK5完掘状況(西より)
- 図版21 上ST1内部完掘状況(北より)／中下左ST1検出状況(北より)／中下右ST1内部完掘状況(下層)(北西より)
 下左ST1内部土層断面(北より)／下右ST1土層断面(北より)
- 図版22 上左1区東半北側群群完掘状況(北西より)／上右SD10.11完掘状況(西より)
 中上左SD12完掘状況(北西より)／中上右SD13西半完掘状況(南より)
 中下左SD13東半完掘状況(東より)／中下右SD1b-b'土層断面(北より)／下左SD2土層断面(北東より)
 下右SD6土層断面(南より)
- 図版23 上左SD8土層断面(東より)／上右SD10土層断面(西より)／中上左SD11土層断面(西より)
 中上右SD12土層断面(西より)／中下左SD13a-a'土層断面(北より)／中下右SD13b-b'土層断面(西より)
 下左SP8土層断面(北より)／下右SP112土層断面(東より)

- 図版24 上左:SP113土層断面(南東より)／上右:SP114埋出土状況(東より)／中上左:SP140遺物出土状況(北西より)
中上右:SP142遺物出土状況(南西より)／中下左:SP144土層断面(西より)
- 中下右:SP183土層断面(南東より)／下左:SP236土層断面(南より)／下右:SX1土層断面(南より)
- 図版25 上:I区北壁(A-A'・A")東半断面(南西より)／中下左:I区北壁(A-A'・A")西半断面(南東より)
下左:I区西壁(B-B')断面(南東より)／下右:2区南壁(F-F')断面(北西より)
- 図版26 上:2区北壁(D-D'・D")断面(南西より)／下:2区東壁(E-E')断面(南西より)
- 図版27 弥生時代 出土遺物 集合写真／縄文時代 出土遺物 SK・SP・包含層 (1~15)
- 図版28 縄文時代 出土遺物 包含層・出土不明／弥生時代 出土遺物 SI (16~28,30,33~35)
- 図版29 弥生時代 出土遺物 SI (29,31,32,36~43,47~50)
- 図版30 弥生時代 出土遺物 SI (44~46,51~57,62)
- 図版31 弥生時代 出土遺物 SI (58~61,63~70,73~76,78)
- 図版32 弥生時代 出土遺物 SI・SK・SD・SP・包含層 (71,72,77,79,83~91,94)
- 図版33 弥生時代 出土遺物 ST (80~82)
- 図版34 弥生時代 出土遺物 包含層／中世 出土遺物 SB・SP・包含層 (92,93,95~105,107~113)
- 図版35 弥生時代 出土遺物 包含層／中世 出土遺物 包含層 (106,114~122)
- 図版36 上:1区東側調査前状況(南東より)／下左:1区西側調査前状況(南西より)／下右:2a区調査前状況(北より)
- 図版37 上:1区中央造構検出状況(北西より)／中下左:1区東側造構検出状況(南東より)
中下右:1区西側造構検出状況(南より)／下左:2a区造構検出状況(北東より)
下右:2c区東半造構検出状況(西より)
- 図版38 上:1区中央完掘状況(南西より)／下左:1区東側完掘状況(南東より)／下右:1区西側完掘状況(南西より)
- 図版39 上:2c区東半完掘状況(西より)／下左:2a区完掘状況(南より)／下右:2b区完掘状況(北東より)
- 図版40 上:SI1完掘状況(南東より)／中下左:SI1-SP170土層断面(南より)／中下右:SI1-SK2土層断面(南より)
下左:SI1-SK2土層断面(北西より)／下右:SI1-SK2周辺焼土・炭化物出土状況(東より)
- 図版41 上:SB1-2完掘状況(南西より)／中下左:SK4完掘状況(南西より)／下左:SK4土層断面(北より)
中下右:SK4遺物出土状況(南西より)／下右:SK4遺物出土状況近景(南西より)
- 図版42 上左:SK1完掘状況(南西より)／上右:SK1土層断面(西より)／中上右:SK1土層断面(北より)
下:SK1遺物出土状況(南東より)
- 図版43 上左:SK3完掘状況(南西より)／上右:SK3土層断面(南西より)／中上左:SD1完掘状況(南より)
中上右:SD1土層断面(北東より)／中下左:SD3完掘状況(北より)／中下右:SD3土層断面(南西より)
下左:SD2土層断面(南西より)／下右:SX1土層断面(南より)
- 図版44 上左:SR1完掘状況(東より)／上右:SR1a-a'土層断面(西より)／中上右:SR1b-b'土層断面(東より)
中下左:SR2e-c'土層断面(東より)／中下右:SR2遺物出土状況(北東より)
下左:SP72遺物出土状況(南東より)／下右:SP332遺物出土状況(北東より)
- 図版45 上:I区北壁(D-D'・D")東半断面(南西より)／下:1区北壁(D-D'・D")東半断面(南東より)
- 図版46 上左:I区北壁(C-C')断面(南東より)／上右:1区東壁(A-A'・B-B')北半断面(南西より)
中上右:2a区北壁(F-F')断面(南より)／中下左:2a区東壁(G-G')断面(北西より)

- 中右2b区西壁(J-H)断面(東より)／下左2c区東壁(J-J)断面(南西より)
 下右2c区北壁(J-J)断面(南西より)
- 図版47 弥生時代 出土遺物 集合写真・SI・SK(123~137,139)
- 図版48 弥生時代 出土遺物 SK・SD・SP・SR (138,140~160)
- 図版49 弥生時代 出土遺物 SR・包含層 (161~170,172~176)
- 図版50 弥生時代 出土遺物 包含層・出土地不明／中世 出土遺物 SP・包含層 (171,177~187)
- 図版51 上1区調査前状況(南東より)／下2a区調査前状況(南西より)
- 図版52 上1区中央部南半道構検出状況(北より)／下1区中央部北半道構検出状況(南より)
- 図版53 上左1区南端部道構検出状況(南より)／上右1区北端部道構検出状況(南より)
 下2a区南半西側道構検出状況(北より)
- 図版54 上左2a区南東側道構検出状況(北東より)／上右2a区北端部道構検出状況(南東より)
 下左2a区北側道構検出状況(西より)／下右2a区中央部道構検出状況(西より)
- 図版55 上1区中央部南半完掘状況(北より)／下1区中央部北半完掘状況(南より)
- 図版56 上1区南端部完掘状況(北より)／下左1区北端部完掘状況(北より)／下右2b区完掘状況(北より)
- 図版57 上2a区南半完掘状況(北より)／下2a区北半完掘状況(南より)
- 図版58 上左SB1完掘状況(南より)／上右SB2-SP1遺物出土状況(南東より)／中上右SB2-SP1土層断面(南より)
 中下左SB2-SP2遺物出土状況(北東より)／下右SB2-SP2下層遺物出土状況(北東より)
 下左SB2-SP2最下層遺物出土状況(北東より)
- 図版59 上左SB3完掘状況(北西より)／上右SB3-SP346土層断面(南西より)／中上左SB4-SP355土層断面(北より)
 下SB4完掘状況(北西より)
- 図版60 上SB5,9,10完掘状況(北西より)／中下左SB5-SP358土層断面(北西より)
 中下右SB5-SP360土層断面(南東より)／下左SB9-SP381土層断面(北東より)
 下右SB10-SP388土層断面(北東より)
- 図版61 上左SB6完掘状況(北西より)／上右SB6-SP365土層断面(南より)／中上右SB6-SP367土層断面(北東より)
 下左SB7北半完掘状況(北東より)／中下右SB7-SP368遺物出土状況(南より)
 下右SB7-SP153隕出土状況(東より)
- 図版62 上左SB8完掘状況(南東より)／上右SB8-SP376隕出土状況(南より)
 中上左SB8-SP372遺物出土状況(南より)／中上右SB8-SP372下層遺物出土状況(北西より)
 中下左SB8-SP375遺物出土状況(南東より)／中下右SB8-SP375土層断面(北東より)
 下左SB8-SP377遺物出土状況(北西より)／下右SB8-SP378遺物出土状況(南より)
- 図版63 上左SK12完掘状況(南西より)／上右SK12遺物出土状況(北西より)
 中下左SK12遺物出土状況(北西より)／中下右SK12遺物出土状況(北より)
 下左SK12遺物出土状況(南より)／下右SK12土層断面(南東より)
- 図版64 上左SK5完掘状況(北より)／上右SK5遺物出土状況(北より)／下左SB5.10・SK6完掘状況(北東より)
 中下右SK6遺物出土状況(東より)／下右SK6土層断面(南東より)
- 図版65 上左SK7完掘状況(南東より)／上右SK7遺物出土状況(南東より)

- 中上右:SK7北側遺物出土状況(北より)／中下左:SK3完掘状況(北西より)
 中下右:SK4完掘状況(北より)／下左:SD5.6土層断面(南より)／下右:SD5b-b'土層断面(北より)
- 図版66 上左:I区中央南北溝群完掘状況(南東より)／上右:SD1a-a'土層断面(南より)
 中上右:SD1b-b'土層断面(南より)／中下左:SD2d-d'土層断面(南より)／中下右:SD2f-f'土層断面(南より)
 下左:SD3土層断面(南より)／下右:SD4土層断面(北より)
- 図版67 上左:I区北側溝群完掘状況(北より)／上右:SD6c-c'土層断面(西より)／中上左:SD9d-d'土層断面(北より)
 中上右:SD10土層断面(南より)／中下左:SD7.8完掘状況(南西より)／中下右:SD7.19完掘状況(南西より)
 下左:SD15完掘状況(南東より)／下右:SD14完掘状況(南東より)
- 図版68 上左:SD7.8a-a'土層断面(東より)／上右:SD7c-c'土層断面(東より)／中上左:SD15a-a'土層断面(南より)
 中上右:SD19d-d'土層断面(西より)／中下左:SD19e-e'土層断面(東より)／中下右:SP30土層断面(西より)
 下左:SP51土層断面(西より)／下右:SP27.7土層断面(西より)
- 図版69 上左:1区西壁(A-A'-A')南半断面(南東より)／上右:1区西壁(A-A'-A')北半断面(南東より)
 中上右:1区西壁(B-B'-B')南半断面(南東より)／中下左:1区西壁(B-B'-B')北半断面(北東より)
 中下右:2b区西壁(C-C')断面(北東より)／下左:2a区西壁(D-D'-D')南半断面(南東より)
 下右:2a区西壁(D-D'-D')北半断面(南東より)
- 図版70 上左:2a区南壁(E-E'-E")東半断面(北西より)／上右:2a区南壁(E-E'-E")西半断面(北西より)
 中上左:2a区東壁(F-F'-F")北側断面(南西より)／中上右:2a区東壁(F-F'-F")北半断面(南西より)
 下左:2a区東壁(F-F'-F")南半断面(北西より)
- 図版71 弥生時代 出土遺物 集合写真・SB・SK (188~191,200~202)
- 図版72 弥生時代 出土遺物 SB・SK (192~197,199,206)
- 図版73 弥生時代 出土遺物 SK (198,203~205,207,208,211)
- 図版74 弥生時代 出土遺物 SK (209,210,212~217,219)
- 図版75 弥生時代 出土遺物 SK・包含層 (218,220~228,230,231)
- 図版76 弥生時代 出土遺物 包含層／中世 出土遺物 SD・包含層・出土地不明 (229,232~251)

第1章 調査にいたる経緯と経過

第1節 調査にいたる経緯

1 試掘調査(図1～4)

国土交通省四国地方整備局(以下「国交省」)は一般国道11号新居浜バイパス建設工事に伴い、あわせて新居浜市は新居浜市道西喜光地町副道1号線建設工事に伴い、建設予定地内に遺跡が存在する可能性があることから愛媛県教育委員会(以下、「県教委」と協議を行い、平成28年5月～令和2年9月に県教委が試掘調査を行った。その結果、中村松本土橋地区(平成28年5月:T1～3、同年11月:T3・4、同29年:T8・10～14)および西喜光地地区(令和元年:T1、同2年5月:T6)において合計3箇所で弥生時代を中心とする遺跡の存在が明らかとなった。

試掘調査の結果、工事に先立つ発掘調査が必要となったため、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターが愛媛県(国交省からの再委託による)ならびに新居浜市の委託を受け、発掘調査を実施することになった。また、試掘調査で出土した遺物については、中村田所東遺跡に該当する平成29年度調査分3点を第4章第2節に記載した。

第2節 調査の経過

1 発掘調査の経過

中村田所遺跡の発掘調査は平成29年9月から調査準備を行い、9月25日に着手した。現地における発掘調査は平成30年3月9日に終了した。また北端部分については用地買収の関係上、令和元年10月1日に着手し29日に終了した。中村田所東遺跡については、平成30年4月18日～8月31日に調査を実施した。また現況道路部分は、令和2年4月14日～17日を行った。西喜光地遺跡については、令和2年4月20日～7月17日および10月1日～12月28日に調査を実施した。

中村田所遺跡については中央に位置する水路を挟み西側を1区、東側を2区とし、1区から2区の順で調査を進めた。調査中の遺構検出状況や土層観察ならびに試掘調査により、調査区西側および南東側へ遺跡の展開が確認できたため、調査区を拡張した。

調査では、重機によりトレーナーを掘削し、直ちに人力で壁面精査を行い土層の堆積状況を確認した。その後、重機を用いて調査区内の造成土等のIII層までを除去し人力でIV層上面の遺構の検出作業を行った。耕作土下には包含層が厚く堆積しており、包含層が堆積する時間の中で遺構が形成された可能性が考えられたため、包含層除去時に精査を繰り返し遺構検出に努めた。しかし、検出に至らなかったため複数のトレーナーを掘削し土層確認のうち、一部畦を残し地山まで掘削を行った結果、遺構が検出されたため順次掘り下げを行い遺構の検出を進めた。

検出後は遺構の掘削を行い、それらの作業と並行して平・断面図の測量および写真撮影などの観察・記録を実施した。また、遺物の取り上げについては層位・遺構ごとに行い、必要に応じて



図1 試掘の位置

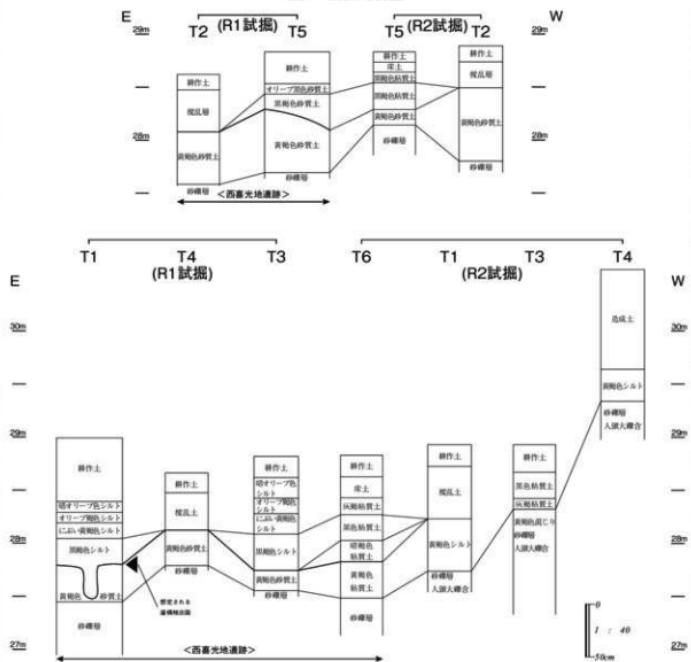


図2 試掘トレンチ土層柱状図 1

調査の経過

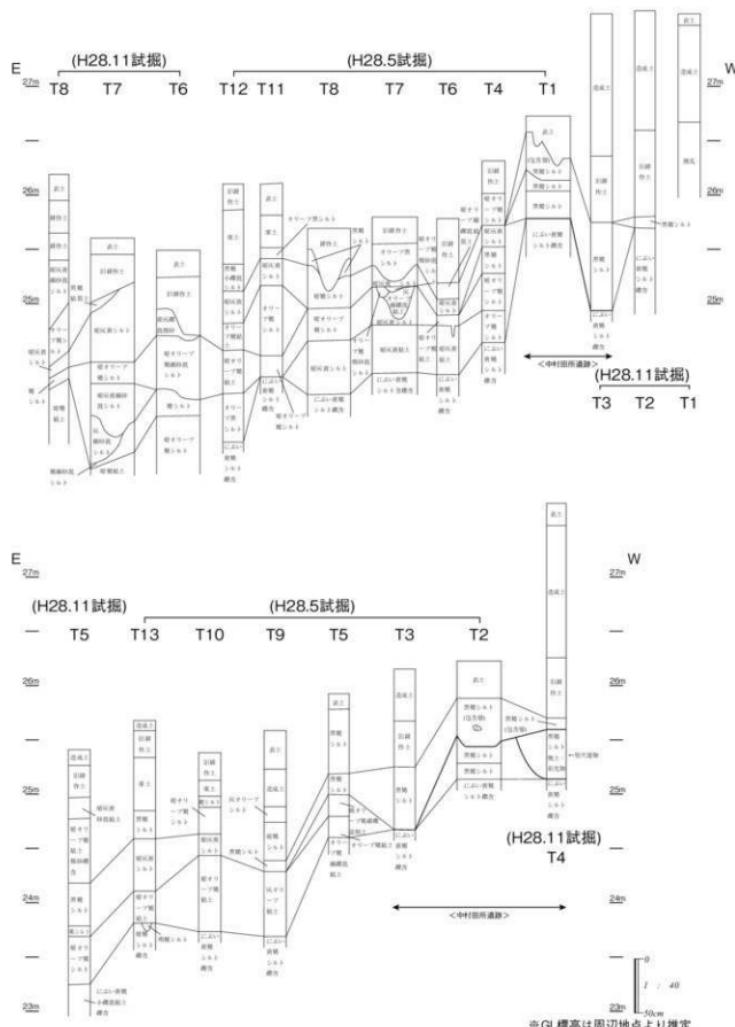


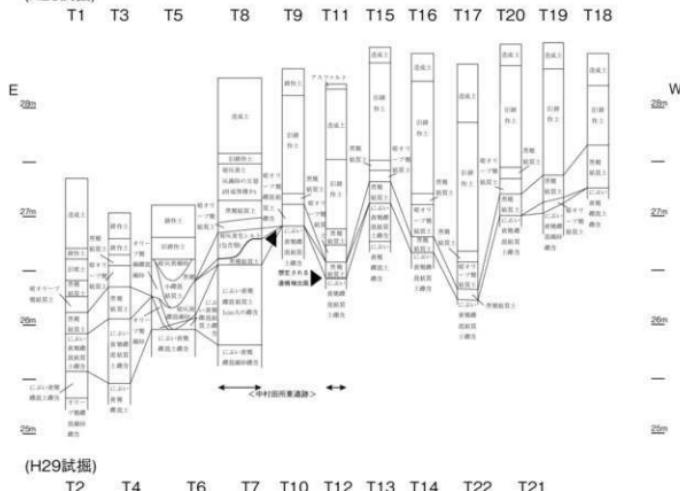
図3 試掘トレントレンチ層柱状図 2

調査にいたる経緯と経過

出土状況図を作成した。なお、測量については基準点(WGS84系測定成果2000)を調査区周辺に打設してこれを用いた。

中村田所東遺跡については、中央西寄りに位置する水路を挟み東側を1区、西側を2区とし、1区から2区の順で調査を進めた。調査は用地引き渡しの関係により各区を細分し、1区では東部→

(H29試掘)



(H29試掘)

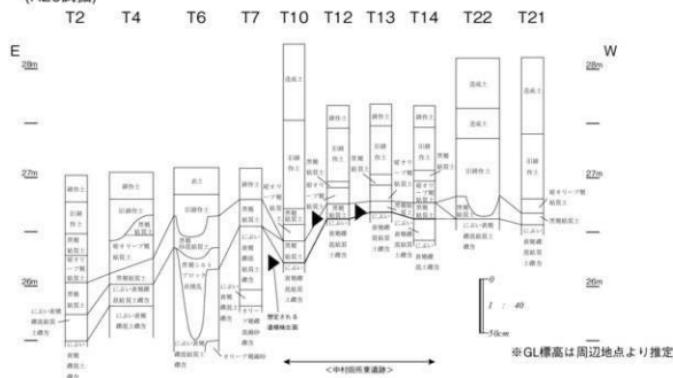


図4 試掘トレンチ土層柱状図3

西部→中央部分の順で、2区は北側(2a区)→南側(2c区)→現況道路部分(2b区)の順で調査を行なっている。

西喜光地遺跡については、水路の西側を1区とし調査を開始したが調査中に遺跡の東側への広がりが確認されたため2区として、あわせて調査を実施した。両調査区ともに排土処理の都合により追って返しを行い、南北半分に分割して調査を実施した。

なお、国交省と新居浜市の事業について調査を行ったため、調査費用は調査対象面積による按分にて行うこととなった。発掘調査費については国交省が100%負担したが、西喜光地遺跡2区の発掘調査費については国交省と新居浜市が94対6の割合で負担した。整理作業費については3遺跡合計面積での比率としたため負担の割合は国交省と新居浜市の負担が98対2となった。

2 調査成果報告会の実施

平成30年8月19日には調査報告会を中萩公民館において実施し、30名の参加を得た。

3 整理作業

平成30年9月～10月に中村田所遺跡の基礎整理作業を行った。また、令和3年5月～令和4年3月には中村田所遺跡の残りと中村田所東遺跡・西喜光地遺跡について遺構図面作成、遺物実測、原稿執筆などの報告書作成業務を実施し、報告書の印刷を行った。

4 調査体制(表1)

発掘調査および報告書作成の調査体制は、表1の通りである。

表1 調査体制

平成29年度		平成30年度		令和元年度	
理 事 長	前 國 實 知 雄	理 事 長	前 國 實 知 雄	理 事 長	前 國 實 知 雄
常 務 理 事 兼	岩 國 元	常 務 理 事 兼	岩 國 元	常 務 理 事 兼	岩 國 元
事 務 局 長		事 務 局 長		事 務 局 長	
秘 書 課 長	大 西 正 喜	秘 書 課 長	藤 田 享	秘 曹 課 長	藤 田 享
調 査 課 長	中 野 良 一	調 査 課 長	中 野 良 一	調 査 課 長	榮 田 圭 子
調査課副課長	柴 田 圭 子	調査課副課長	柴 田 圭 子	調査第一係長	多 田 仁
兼調査第一係長				主任調査員	首 藤 久 士
調 査 員	首 藤 久 士	調 査 員	首 藤 久 士	調 査 助 手	佐 野 祐 树
嘱 記	田 中 い づ み	嘱 記	田 中 い づ み		

令和2年度		令和3年度	
理 事 長	前 國 實 知 雄	理 事 長	前 國 實 知 雄
常 務 理 事 兼		常 務 理 事 兼	
事 務 局 長 兼	藤 田 享	事 勿 局 長 兼	藤 田 享
秘 書 課 長		秘 書 課 長	
調 査 課 長	柴 田 圭 子	調 査 課 長	柴 田 圭 子
担当係長	松 村 さ り 里	担当係長	松 真 也
主任調査員	首 藤 久 士	主任調査員	首 藤 久 士
調 査 員	青 木 啓 志	主任調査助手	圓 美 奈 子
調 査 助 手	佐 野 祐 树		

調査にいたる経緯と経過

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境(図5)

中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡は愛媛県東部の新居浜市に所在する。新居浜市は行政区画上、東は四国中央市、西は西条市、南は高知県いの町に接している。北側は瀬戸内海の燧灘、新居浜平野南部を東西に走る中央構造線の南側は三波川帯に属する黒森山や笹ヶ峰などが連なる四国山地石鎚山系の山岳部が広がっている。

新居浜市北半部に広がる新居浜平野は、大部分が黒森山・西山・西赤石山・兜山山系を源とし中央部を流れる国領川の堆積作用により形成された扇状地や沖積地より成る。東西は平野部に突出する和泉層群の新居浜東部山地・金子山山地、南側は洪積世の扇状地が活断層の隆起によって形成された大生院台地・東川低位台地が広がる。

今回報告する3遺跡はいずれも平野西寄りの国領川扇状地性氾濫原に位置し、中村田所遺跡および中村田所東遺跡は尻無川左岸に、西喜光地遺跡は尻無川右岸に立地している。

第2節 歴史的環境(図6)

1 繩文時代以前

旧石器時代の遺跡は新居浜市内では発見されておらず、現在のところ様相は不明である。

繩文時代では、早期および後期、晩期の遺跡が確認される。中萩の横山遺跡(36)ならびに横山古墳群(37)より早期中葉の押型文土器(山形文・楕円文)や後期の土器が確認されている。萩生の大師泉遺跡(39)では後期中葉の磨消繩文土器が採取されている。また、外山町の星原市東遺跡(25)では後期の縁帶文土器が出土しており、滝の宮町の滝の宮遺跡(11)では縁帶文系もしくは凹線文系繩文土器や晩期の土器が出土している。国領川右岸に位置する郷の上郷遺跡(20)では、晩期の土坑や土器埋設構造より突窓文土器が出土している。これらの遺跡は台地上および丘陵裾部に位置しており、おむね標高40m以上の扇状地上で人的な活動痕跡がみられる。

2 弥生時代

前期では、滝の宮遺跡で包含層から遺物が出土しているほか、国領川右岸で阿方式に類する土器が採取された東田遺跡(26)や尻無川右岸の割ケ内遺跡(22)がある。国領川左岸の星原市遺跡(24)では前期末～中期初頭の竪穴建物などが検出されている。

中期では国領川左岸の若宮遺跡(17)で土器や多量の石錐・石庖丁が採取されている。上郷遺跡では中期中葉の竪穴建物が検出されている。国領川右岸の松端遺跡(28)では凹線文をもつ壺や甕が出土し、いわゆる「松端式」として中期後半の標識資料とされてきた。尻無川右岸の松原遺跡(23)では、中期後葉～後期初頭の竪穴建物が検出され、低地部における集落の一端が明らかになっている。また、政枝遺跡(15)や正光寺山古墳群(16)で土器が出土している。集落域は低地部か

ら段丘上へ分布し、拡大傾向が見受けられる。また、中期では戸屋ノ鼻遺跡(46)があり、隣接地域の医王寺遺跡群(四国中央市土居町)や半田山遺跡(西条市)と同様に新居浜市域においても丘陵部へ弥生集落が展開するものと考えられる。

後期～古墳時代初頭では尻無川左岸の金栄遺跡(12)から複合口縁壺や、タタキ目を残す甕などが出土している。瀧の宮遺跡や本郷遺跡(33)、尻無川右岸の尻無遺跡(14)で布留式土器が出土しているほか、中村遺跡(34)・角野遺跡(32)があり、大師泉遺跡からは平形銅劍の出土が報告されている。

3 古墳時代

集落遺跡に関しては現在までに調査例が無いため詳細は不明ながら、赤土遺跡(40)のほか金栄遺跡や政枝遺跡が当期の遺跡である可能性が想定されている。また、金子遺跡(7)や上小深遺跡(8)で遺物が出土しており、低地部である標高10m台まで人的活動が認められる。生産遺跡としては、からつ山窯跡(41)が知られる。

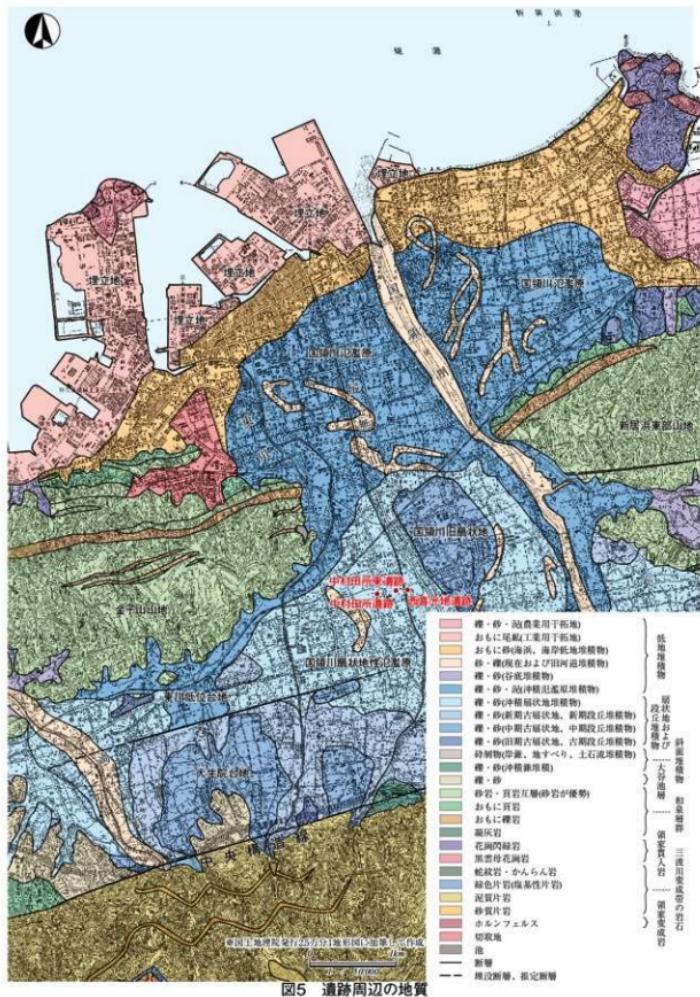
古墳については、前期では確認されていない。中期後半には5世紀後半の金子山古墳(10)が築造される。1号墳は新居浜地域の首長墓と推定されており、金子山東部に張り出した尾根上に位置する。直径約25m、高さ約5mの円墳で墳丘裾部には円筒・朝顔形埴輪が並んでいた。内部主体は竪穴式石室であり、内部からは珠文四鈴鏡や鉄劍、直刀のほか多量の玉類など多数の副葬品が出土している。なかでも、画文帝神獸鏡は熊本県江田船山古墳と同形の鏡であり金銅製垂飾付耳飾は技術的に朝鮮半島との強い関係性がうかがえ、これらの副葬品を入手する際には在地首長層と大和政権との結びつきが想定される。

後期になると古墳数が急増する。上郷遺跡で検出された円墳1基と溝3条は、数基の群集墳であった可能性が指摘されている。1号墳は直径約9mの円墳で横穴式石室からは須恵器や土製切子玉が出土し、時期は6世紀中頃～後半とされる。昭和期に松岡文一氏により調査された正光寺山古墳群では、近年JR新居浜駅前土地区画整理の公園整備に伴い調査が行われ、丘陵上に6世紀後半～7世紀の円墳6基が確認された。1号墳は6世紀後半に築造された直径約15.2mの円墳で、冠と推定される歩搔付金銅製品や多量の玉類などの副葬品が出土している。2号墳からは鹿角製把の刀子が出土した。計5基の横穴式石室から多くの須恵器・鉄製品・玉類が出土し、10基以上で構成される地域の有力者層の群集墳であったと推定されている。

また、横山古墳群では5世紀末～6世紀前葉・7世紀前半の群集墳が調査され、垣生山の小山古墳(1)は後期後半の群集墳であったとされるほか、唐津塚古墳(38)・東田古墳群(27)・下泉古墳(18)・大生院王塚古墳(44)・西之谷古墳(5)・轟塚古墳(29)などが知られ、継続して古代寺院が建立される大生院地区をはじめ市内各所に古墳の築造が広がる。

4 古代

古代において新居浜地域の平野部はおおむね伊予国新居郡に該当する。大宝元(701)年の大宝律令制定による郡設置当初は神野郡であったが、『類聚国史』によれば大同4(809)年即位の嵯峨天



皇の諱(神野親王)と重なることを避け、郡名を新居郡と改称したとされる。郡内5郷のうち、市域では尻無川周辺を境として東側に井上郷、西側に新居郷が置かれたと考えられている。

古代寺院についてはまず河内寺遺跡(13)があげられる。尻無川左岸に位置する当遺跡からは白鳳期の素弁九葉蓮華文や複弁八葉蓮華文軒丸瓦、均整忍冬唐草文軒平瓦などが出土しており、塔の礎石は心礎を含め元位置から移動しているものの現存している。法隆寺の寺庄と同寺瓦の分布が類似することは知られているが、当遺跡より出土した法隆寺系の均整忍冬唐草文軒平瓦と法隆寺が天平19(747)年に神野郡内に置いたとされる「庄一処」との関連は詳らかでない。このほか、大生院の正法寺遺跡(43)でも多くの泥塔・泥仏・布目瓦などが出土しており古代寺院と考えられる。また、「延喜式」式内社としては黒島神社があり、海沿いの立地からは海上交通との関連も想定される。

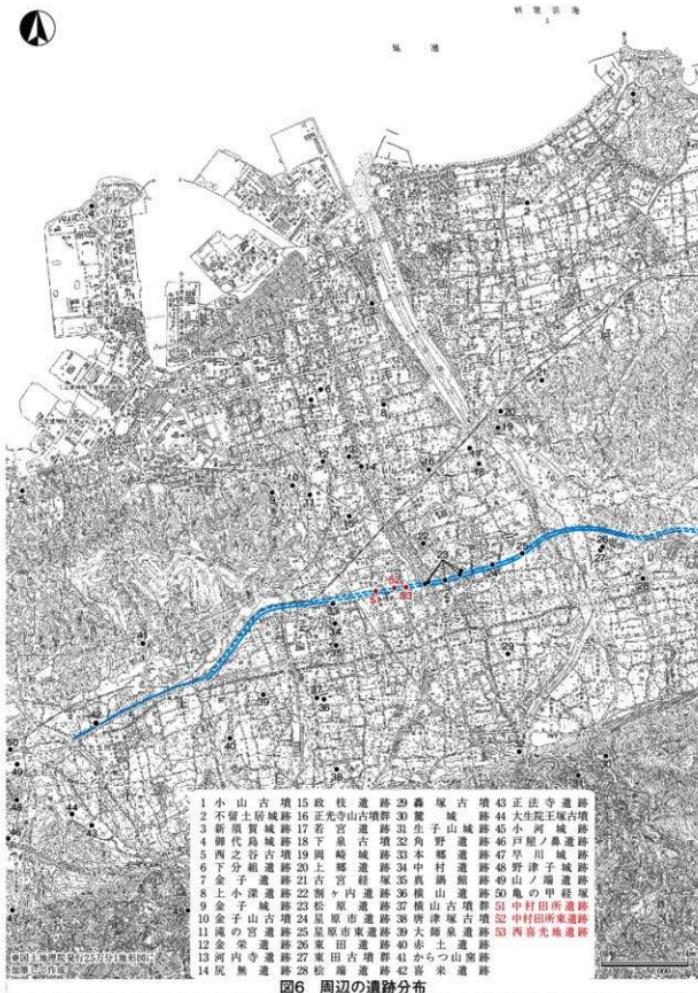
古代官道である南海道は東田以西でおおむね現在の旧国道付近を通過したとされ、中村松木の地名は「馬繼(うまつき)」から転訛したものとして新居駅家に比定されている。また、近隣の本郷遺跡は建物群の配置や火葬墓の出土よりも、郡家別院などの末端官衙もしくは富豪層や有力豪族等の居宅といった当地域における下部組織と推定される。

東大寺領新居庄は、「東大寺諸莊文書并絵図目録」によると天平勝宝8(756)年に東大寺領となり、その領域は東限が関戸、西限が国領川、南限が駅路(船木南方山麓部)、北限が郷山にいたる船木地区に比定されている。カメ谷窯跡のある池田池は、かつて点在した小規模な池を江戸期に改修したとされる。過去に灰原が調査され、須恵器の椀皿類や壺・壺などのかわ瓦が出土しており、小規模な池の近くに営まれた8世紀後半頃の瓦陶兼業窯であったと考えられる。なかでも、獸足硯や「庄」・「加」の刻書須恵器からは窯の公的な性格もうかがえる。庄域とされる船木地区では、現在のところ生産遺跡であるカメ谷窯跡以外の古代遺跡は見つかっておらず、今後の調査によって文献史料との対比ができる好例となりうる。

下分組遺跡(6)は市役所南側から金子小学校方向にかけて広がり、一宮神社にも近隣している。金子遺跡でも土師器や須恵器・磁器が出土することから、新居氏もしくは官衙との関連が推定されている。渕井川右岸の喜来遺跡(42)は、7世紀後半~8世紀が中心で、土師器甕を再利用した煙道を持つ小型堅穴建物が流路際で検出されたほか、権状石製品や赤色塗彩土器、内面黒色土器、企釘型甕などが出土し、流路の上流域に官衙関連遺跡が想定される。政枝遺跡や滝の宮遺跡、上小深遺跡では8世紀~10世紀の遺物が見られるが、集落構造等は不明である。古宮経塚(21)からは平安時代後期と考えられる青銅製経筒や陶製外容器が出土している。現在認められている古代の遺跡数は前時代に比して少ないが、尻無川周辺域でも特に左岸周辺部への分布傾向がある。

5 中世

新居氏は古代から中世前期において新居郡新居郷を本拠とし、東予各所に所領(得恒名)を有する在地豪族であった。『与州新居系図』によれば、新居氏は古代氏族・越智氏を出自とし、越智(押志)為成の子・成俊は「新居大夫」を称しており伊予国衙の在庁官人と考えられる。新居氏の



居館は久保田町付近に昭和初期まで存在したホノギ「新居殿屋敷」に想定され、東側を尻無川に接することから河川交通との関連も指摘される。新居氏は治承・寿永の乱で河野氏と同じく幕府方と推定され鎌倉御家人となるが、承久の乱(1221年)で後鳥羽上皇側に味方して敗北し、本拠地の新居郡を没収され桑村郡へ移る。

新居氏の没落後、新居郷の新補地頭として西遷御家の金子氏が武藏國より移り住んだとみられ、弘安5(1282)年の『將軍政所下文』が史料上の初見となる。鎌倉幕府滅亡後、南北朝の動乱で伊予府中(今治市)より南朝勢力が一掃されると河野氏と細川氏の争いが顕著化する。佐志久原での河野通堯(通直)戦死後に和議が成立し、新居郡・宇摩郡の東予2郡は細川京兆家が分郡守護となつたため、新居郡には代官として備中守護代の石川氏が入部した。石川氏は高崎城(西条市)を本拠とし、実質的な領主として支配を行っていくこととなる。

また、南北朝期には若水町の「葛籠(つづら)淵」が焼き討ちされたと伝わり尻無川河口部に港津や倉が想定できることから、当地域における河川交通の要衝であったと考えられる。中世後期の新居浜地域には、金子城の金子氏・岡崎城の藤田氏・生子山城の松木氏が軍記物『澄水記』などに見える「六人の郡衆」とされるほか、富留土居城の高橋氏・真鍋館の真鍋氏など多くの在地領主層がひしめく中、天文・弘治年間の「当都錯乱」・「郡中錯乱」で功績のあった金子元成や石川氏と婚姻関係を結んだ元宅父子により金子氏が台頭し、のちに周囲方面へ勢力拡大を図るようになる。

天正9(1581)年、金子元宅は進出してきた土佐の長宗我部氏と同盟を結び人質を土佐へ送っている。こうした事象を背景として、一部の城郭(金子城・岡崎城)には長宗我部系の築城技術が導入されたとの見解もある。天正13(1585)年に羽柴(豊臣)秀吉による四国征伐に伴い小早川隆景軍が今治浦へ上陸する。氷見高尾城(西条市)に籠った金子元宅を中心とする在地勢力は野々市原へ打って出て討ち死を遂げ、一連の小早川氏による侵攻はのちに「天正の陣」と呼ばれる。四国国分により伊予国主となった小早川氏が戦後処理として城割を敢行したため、新居浜地域の中世城郭は廃城になったものとみられる。

関連する石造物として、境内に石塔群を残す慈眼寺の北側に位置し、金子城北麓に所在する五輪塔群が注目される。伊予の白石のほか天霧石・国分寺石など讃岐系石材を含む様相から、鎌倉後期以降の金子氏関連とみられる。岡崎城の所在する郷山北側裾部の薬師堂には鎌倉後期の宝篋印塔が位置している。

古代末から中世前期遺跡の調査例は少なく、滝の宮遺跡や上郷遺跡、上小深遺跡で和泉型瓦器碗などが見られるが13世紀以降が中心である。13世紀の例として松原遺跡と政枝遺跡があり、後者では県内最古級となる13世紀代の備前焼壺が出土している。14世紀に入ると滝の宮遺跡や星原市遺跡があり、後者では土師器の一括出土や備前焼擂鉢と東播系須恵器捏鉢との共伴事例が見られ、上郷遺跡でも同様の共伴例がある。また、中村・岡の久保では「ゼニガメ」が耕作中に発見された。常滑焼甕を容器に使用し約6万枚の古代から中世にいたる鏡貨が埋納されており、埋納鏡の時期は14世紀頃とされる。

15世紀以降の遺跡は調査例が多い。政枝遺跡では16世紀にかけて金子城東側に近接する集落遺

跡が、滝の宮遺跡では金子城東隣で16世紀以降の溝が検出される。上郷遺跡からは硯や朝鮮陶磁瓶が出土しているが、隣接する岡崎城との関連は不明である。上小深遺跡では理化学分析により建物の柱材が中世後期以降と推定され、遺跡所在の庄内地域には岡崎城主藤田氏の里館があったと伝えられる。ほかに星原市東遺跡では鍛冶関連とみられる廃滓遺構が検出されている。

6 近世以降

江戸期には伊予八藩体制となる中、新居浜地域では西条藩主一柳氏改易ののち、寛文10(1670)年に御三家紀州藩主の徳川頼宣次男である松平頼純が西条藩三万石の定府大名として入封し、西条藩領は幕末まで続く。西条一柳家分家の小松藩領も幕末まで継続する。

元禄3(1690)年に別子鉱床の露頭が山師により発見され、翌年には泉屋住友の請負により銅の採掘が開始される。元禄11(1698)年には江戸期の最大産出量(約1,500t)を記録し、銅山は当時の長崎貿易輸出品としての銅生産に貢献した。また別子銅山が天領となるに伴い、輸送路も西条藩領との替え地により天領化され、新居浜浦の口屋にいたるルートが新設された。

このように江戸期の新居浜地域は西条藩領(新居浜浦など十五村)、小松藩領(大生院村など二村)、天領(大永山村など七村)が入り組む複雑な様相を呈していた。また西条藩を中心に沿岸部の干拓が進められ、元禄16(1703)年には深尾権太輔により多喜浜塩田の開発が始まり、のちに240町歩あまりの規模となった。

別子銅山は、江戸期の旧別子大火災をはじめ明治期の政府による接收危機や山崩れなどの困難を乗り越え採掘が続けられた。住友家の初代総理事となった広瀬宰平は、海外技術を導入し近代化に努め明治26(1893)年には日本初の山岳鉄道となる上部鉄道を整備し銅鉱石輸送を効率化した。加えて、採掘の発展にともない公害対策にも取り組むこととなり煙害のため精錬所を山根の生子山(通称・煙突山)などへ移動したのち、燧灘沖の四阪島(今治市)へ移転した。なお、鉱毒による土壤汚染対策として昭和期には上部地区(宇川・角野・中萩)や金子地区などで、田畠の上下の土を入れ替える「天地返し」が広範囲に行われている。

約300年続いた採掘作業も海面下1,000mを超える地下水の排水問題や、鉱石価格の下落もあり採掘が困難となった。採掘作業は昭和48(1973)年に終焉を迎えたが、この別子銅山や銅山ゆかりの人々が、現在にいたる新居浜の風土や地域文化を形成する大きな原動力となった。

遺跡としては、星原市東遺跡・松原遺跡・政枝遺跡・上小深遺跡で江戸期の遺構・遺物が報告されている。

参考文献

- 石岡ひとみ2009「四国出土の中世備前焼」「備前歴史フォーラム録倉・BIZEN～中世備前焼のスガタ～」
- 備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館
- 内海清志1992「伊予国新居莊小史」「四國中世史研究」第2号・四國中世史研究会
- 愛媛県史編さん委員会1986「愛媛県史資料編考古」
- 愛媛県教育委員会1987「愛媛県中世城館跡分布調査報告書」
- 川岡勉2006a『中世の地域権力と西国社会』清文堂出版

- 川岡勉2006b「中世の新居都と領主支配」『政枝遺跡』新居浜市教育委員会
- 鬼頭清明1977「法隆寺の庄倉と軒瓦分布-忍冬唐草文軒平瓦について-」『古代研究』11
- 久葉裕可1986「伊予国的新居氏について」『伊予史談』263号伊予史談会
- 久葉裕可1990「続伊予国的新居氏について」『四国中世史研究』創刊号,四国中世史研究会
- 島方洋一編2009『地図でみる西日本の古代』平凡社
- 柴田昌児2002「瀬戸内海縦遷南岸の中期弥生集落その1-中期後半丘陵性集落の動態-」
- 『環瀬戸内海の考古学上巻』
- 白石友治1934「金子備後守元宅」帝国教育学会
- 曾我幸弘2002「別子銅山の鉛毒水について(3)」『新居浜史談』第325号,新居浜郷土史談会
- 十亀幸雄1984「新居浜市大師泉遺跡の縄文土器」「遺跡」第25号,遺跡発行会
- 常磐茂1985「新居浜市金子古墳の円筒埴輪」「遺跡」第27号,遺跡発行会
- 中萩古文書を読む会2011「中萩の歴史探訪」
- 長井数秋2010「新居浜市内の中世ならびに中世様式の宝篋印塔」「ふたな」第8号,愛媛考古学研究所
- 名本二六雄1988「金子山城跡と出土明三彩」「遺跡」第31号,遺跡刊行会
- 新居浜市編2021「新居浜市の歴史」新居浜市経営部市史編さん室
- 新居浜市教育委員会1980「地名の由来新居浜」
- 新居浜市史編纂委員会1980「新居浜市史」
- 新居浜市文化財保護委員会1986「新居浜の文化財」新居浜市教育委員会
- 新居浜市文化財保護委員会2007「新居浜の文化財」新居浜市教育委員会
- 橋本雄一2015「南海道伊予」「古代の都市と条里」吉川弘文館
- 日和佐宣正2001「伊予国における長宗我部氏築城技術の導入について-愛媛県東部の事例を中心に-」
『城館研究論集』発刊準備号
- 兵庫埋蔵調査会編1999「中村岡の久保出土銭」新居浜市教育委員会
- 藤田達生1991「戦国期分国に関する一考察-四国国分を中心にして-」『日本史研究』342
- 藤田達生2000「伊予国における近世の開闢」「日本中・近世移行期の地域構造」校倉書房
- 藤田達生2016「伊予国新居郡の景観復元-寛永伊予国絵図研究序説-」「新居浜史談」第395号
- 正岡睦夫・十亀幸雄1985「日本の古代遺跡22愛媛」保育社
- 松田朝由2011「香川県から来た石造物」「石造物が語る中世の佐田岬半島」岩田書院
- 真鍋修身1984「新居浜の弥生遺物について」「遺跡」第25号,遺跡発行会
- 真鍋修身1985「新居浜市大師泉出土の平形鋼劍について」「遺跡」第27号,遺跡発行会
- 真鍋修身1990「新居浜の弥生遺物について(2)」「遺跡」第32号,遺跡発行会
- 山内治朋2016「小早川期伊予の城郭政策-統一致権下の城割と領国統制-」
『戦国大名の土木事業中世日本の「インフラ」整備』成光社出版
- 山内謙1989「中世伊予の領主と城郭」青葉図書
- 山内謙1996「室町時代の新居・宇摩郡と細川氏」「西条史談」第37号,西条史談会
- 山内謙2020「細川京兆家と伊予国宇摩郡」「伊予史談」396号,伊予史談会
- 吉本拡2015「金子氏・村上(義弘)氏の盛衰譜II・南北朝動乱と新居津倉淵焼討ち事件-」「新居浜史談」
第393号,新居浜郷土史談会

第3章 中村田所遺跡の成果

第1節 中村田所遺跡の概要

1 地形と調査区(図9・10)

中村田所遺跡は国領川扇状地性氾濫原内で、尻無川左岸約300mに位置する。行政上は愛媛県新居浜市中村松木二丁目で、調査区の絶対位置は北緯 $33^{\circ} 56' 16''$ ・東経 $133^{\circ} 17' 23''$ の交差する付近である。調査前は西側が畠地および宅地、東側は耕地を造成した宅地であった。

現地面の標高は西側約26.2m・東側約27.7mで、南東側から北西方向へ緩やかに傾斜している。調査区は東西約66.8m・南北約40.8mの長方形を呈する。調査対象面積は $2,772\text{m}^2$ である。

2 基本層序(図11～15)

基本層序は近現代の客土を除き、大きく4層に分かれる。

I層は耕作土である。II層は耕作盛土で22層に細分できる。

III層は包含層で40層に分かれる。遺物量は少ないが、弥生時代を中心とし縄文時代～中世の遺物が出土する。

IV層は上面が遺構検出面となる。調査区西側では、国領川扇状地性氾濫原および段丘堆植物と考えられる、礫を含む褐色粘質土がみられる。東端では火山灰由来の黒ボクと思われる黒褐色層(IV7層)および火山灰を含む黄褐色層(IV8層)が分布する。いずれも遺物の出土はない。

3 遺構と遺物の概要(図16)

検出した遺構は竪穴建物4棟・掘立柱建物2棟・土坑10基・壺棺墓1基・溝15条・小穴250穴・性格不明遺構1基である。これらの遺構は縄文時代から中世にかけてのもので、IV層上面で検出された。

出土遺物は縄文土器・弥生土器・土師器・瓦器・土師質土器・石器・石製品・鉄製品・ガラス製品である。



図7 中村田所遺跡 現場作業



図8 2区東壁火山灰出土状況

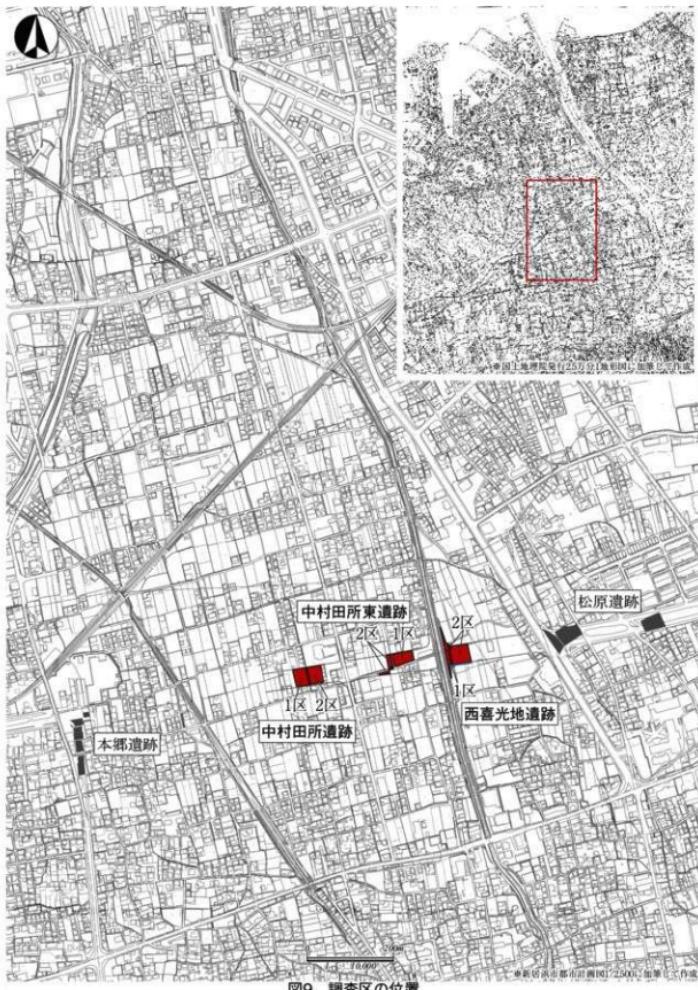




図10 中村田所遺跡(1・2区) 調査区位置図

中村田所遺跡の成果

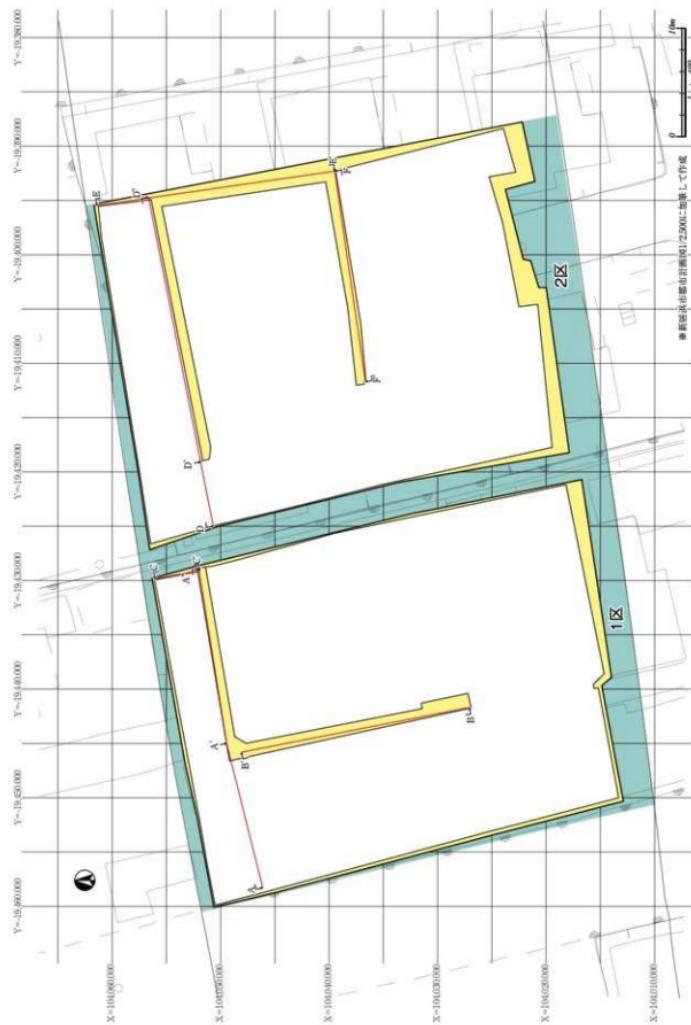


図11 中村田所遺跡 調査区基本層序測量位置図

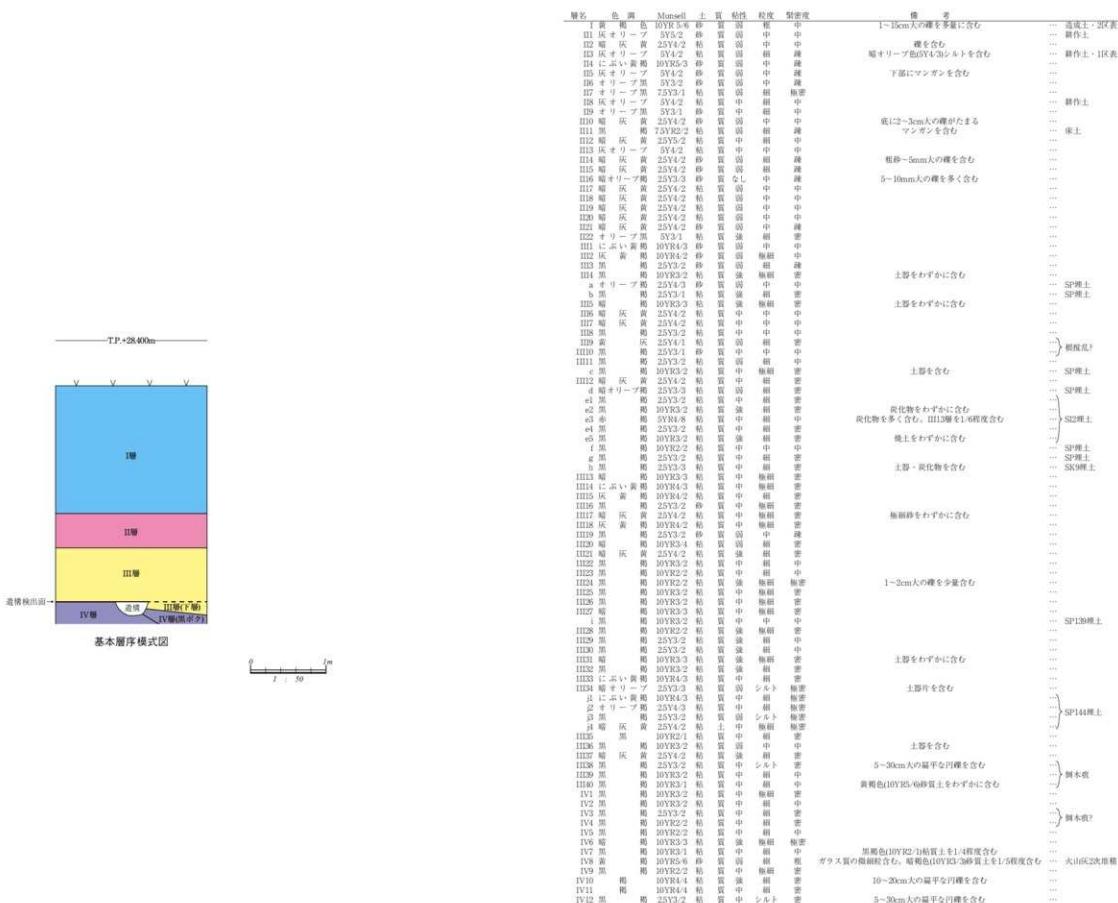


図12 中村田所遺跡 基本層序模式図および土層説明

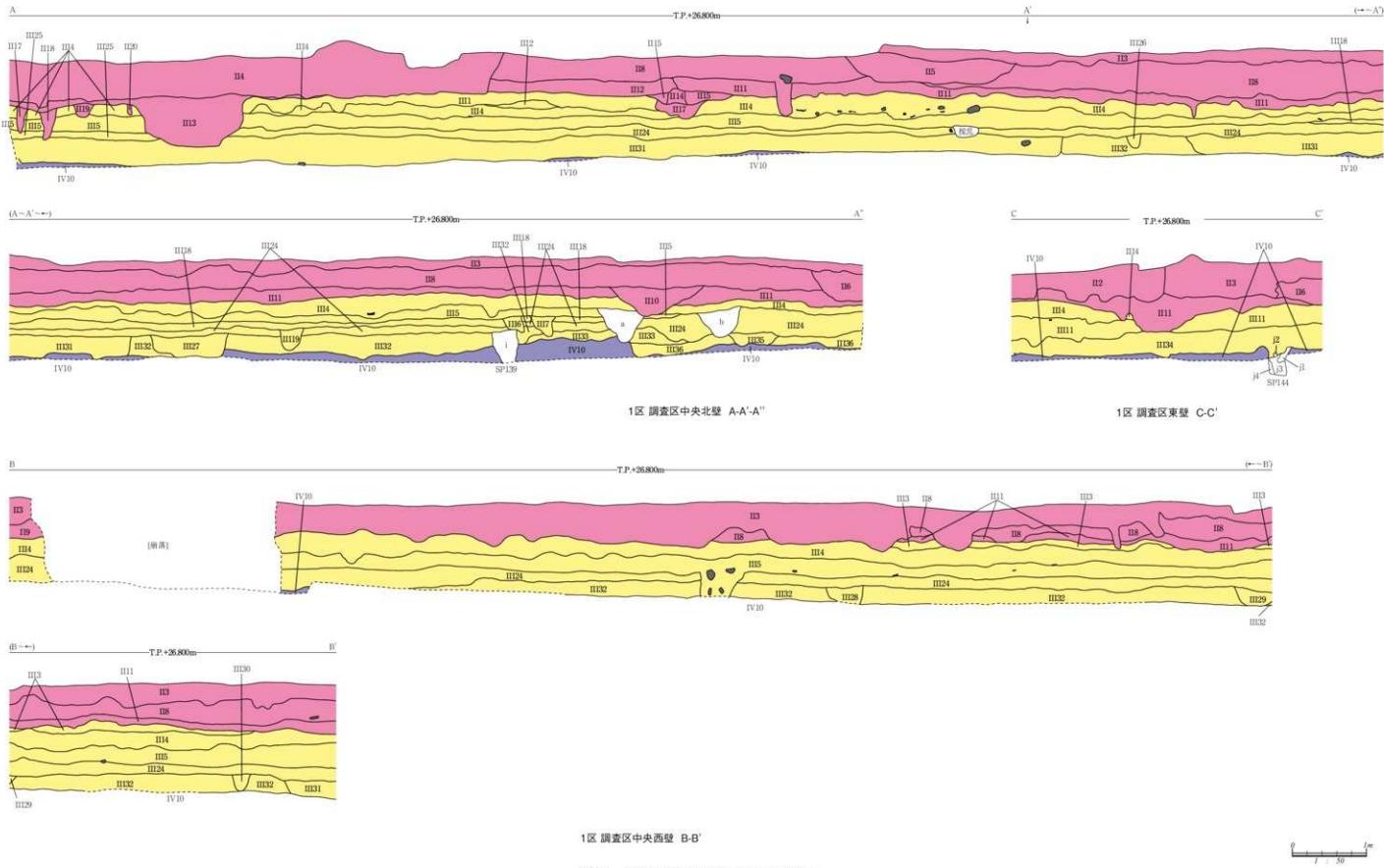
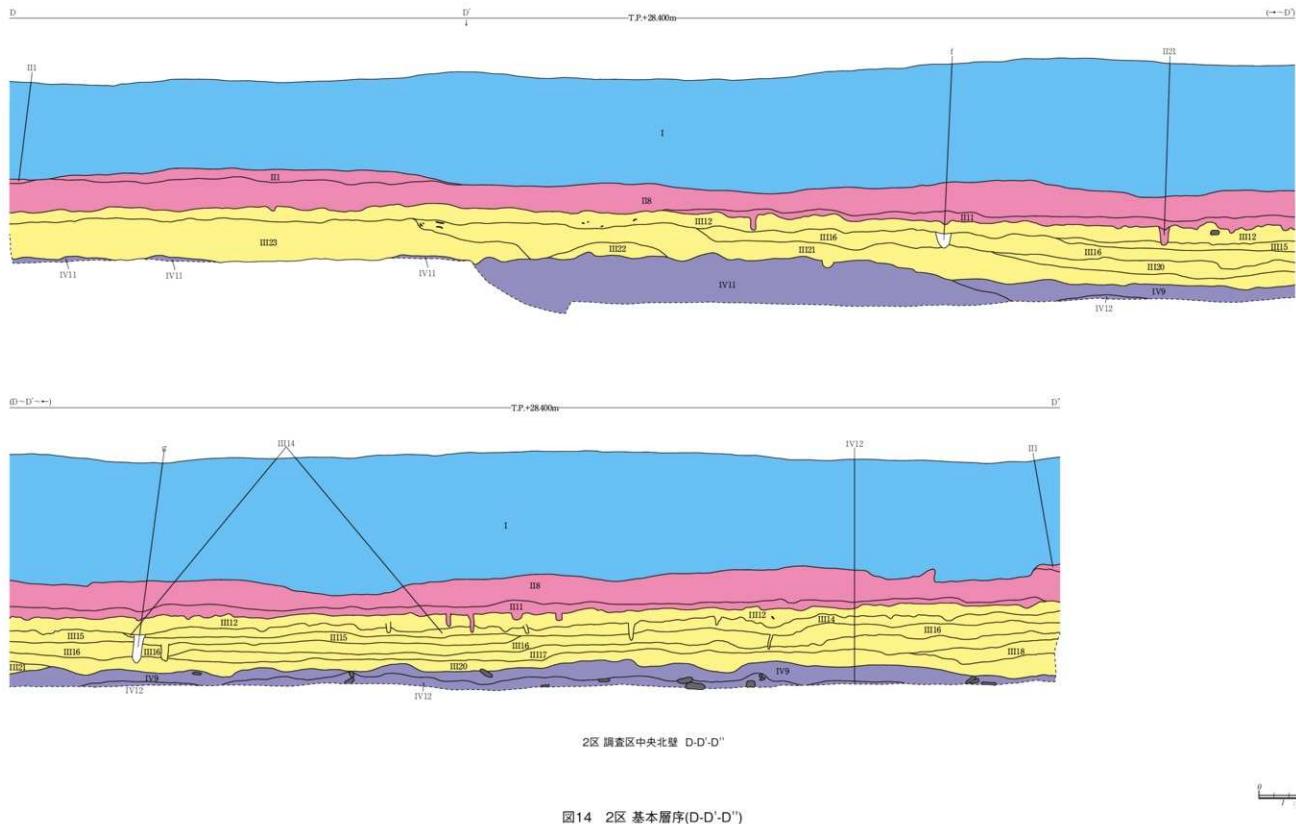


図13 1区 基本層序(A-A'-A'',B-B',C-C')



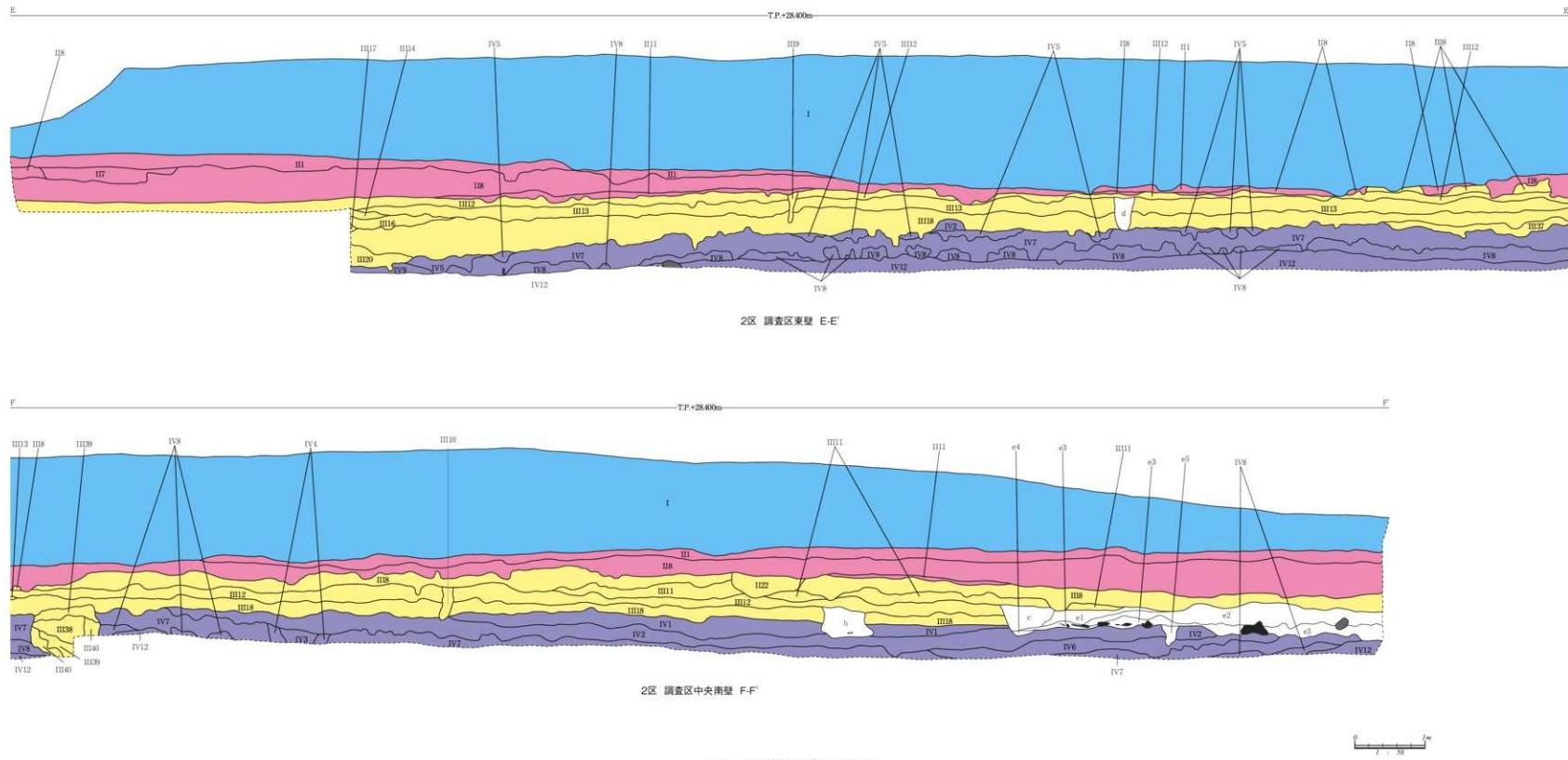


図15 2区 基本層序(E-E',F-F')

中村田所遺跡の概要

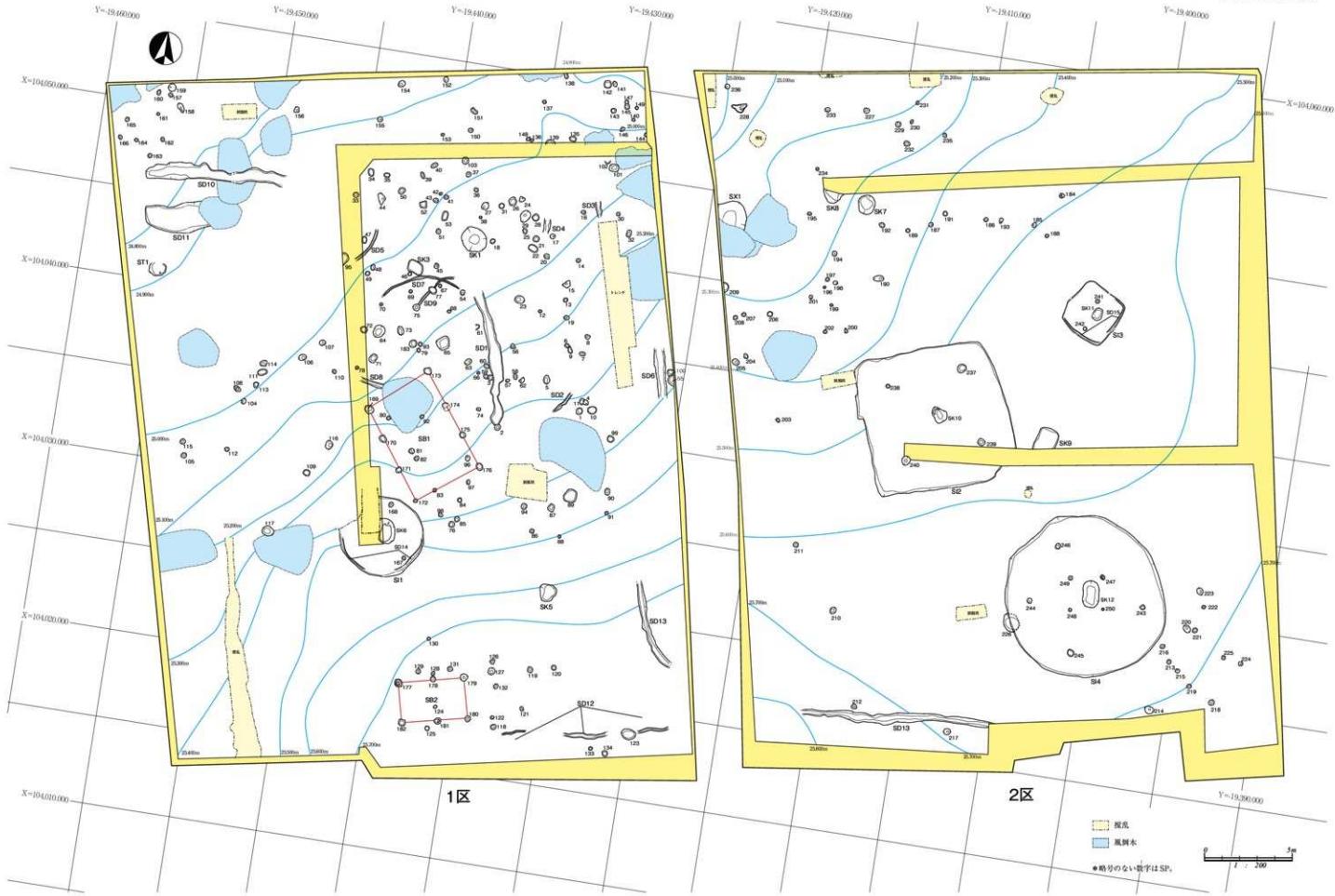


図16 1・2区 遺構配置図

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1 概要

検出した遺構は土坑3基・小穴1穴である。全てIV層上面で検出しており、これらの遺構は縄文時代後期前葉が中心である。主に調査区北半部に分布しており、遺構はさらに北方向へ続くものと考えられる。出土遺物には縄文土器深鉢、浅鉢、石器がある。

2 土坑

(1) SK1(図17)

遺構 1区北寄りにあり、検出標高は約25.1mである。平面形は直径152cmの円形を呈し、検出面からの深さは52cmである。直径方向はN-57.71°-Wを指向する。土坑内に堆積した土は黒色粘質土で2層に分かれ、中央付近に掘方の底面より若干浮いた状態で集石がみられた。遺物は縄文土器が出土している。SK1の時期は検出層位と出土遺物より縄文時代後期と考えられる。

遺物 1は鉢の脇部である。外面には縄文、内面はミガキが施される。

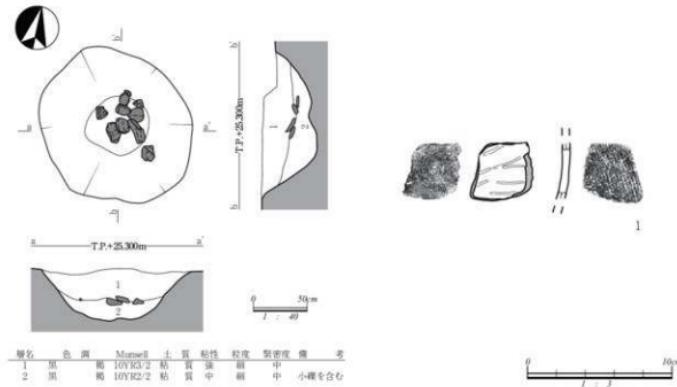


図17 SK1平面面図および発出土状況および出土遺物

(2) SK7(図18)

遺構 2区北西側にあり、検出標高は約25.23mである。平面形は直径約110cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは17cmである。長軸方向はN-26.16°-Eを指向する。土層は黒色粘質土で、中央付近では縄文土器および縄の集積が少量認められた。出土した炭化材については樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属コナラ節を含むことが判明した。

また、同炭化材の放射性炭素年代測定の結果、補正¹⁴C年代が 3450 ± 20 年BPの結果が得られた(第6章第4節・第5章参照)。SK7の時期は、検出層位と出土遺物より縄文時代後期と考えられる。

遺物 2は深鉢である。内面は条痕を残す。

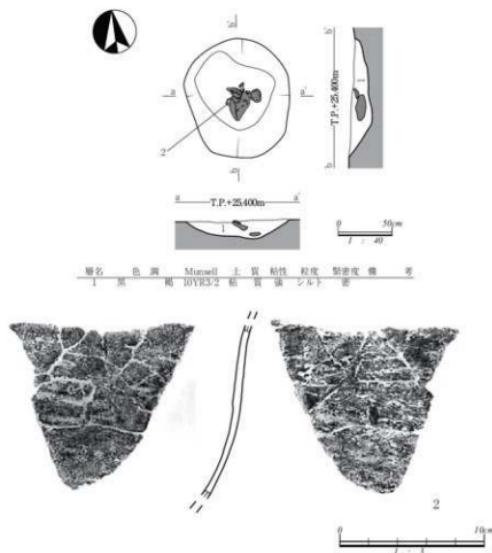


図18 SK7平面面図および遺物・礫出土状況および出土遺物

(3)SK 8(図19)

遺構 2区北西側にあり、検出標高は25.23mである。平面形は長径約108cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは21cmである。土層は黒色粘質土で、中央付近では縄文土器や石器を含む礫の集積が少量認められた。SK8の時期は検出層位と出土遺物より縄文時代後期と考えられる。

遺物 3は精製浅鉢である。外面に磨消縄文、内面にミガキが施される。4は鉢の胴部である。5は鉢の口縁部である。口唇部にキザミが施され、外面に条痕を残している。6は緑色片岩製で打製石器の石鉋である。

3 小穴の出土遺物(図20)

7はSP191より出土した鉢の胴部である。外面に磨消縄文が施される精製浅鉢と考えられる。

4 遺構外の遺物(図21・22)

8~15は1区、16~20は2区、21は排土より出土した。8~12は鉢の口縁である。8・9は口縁部に

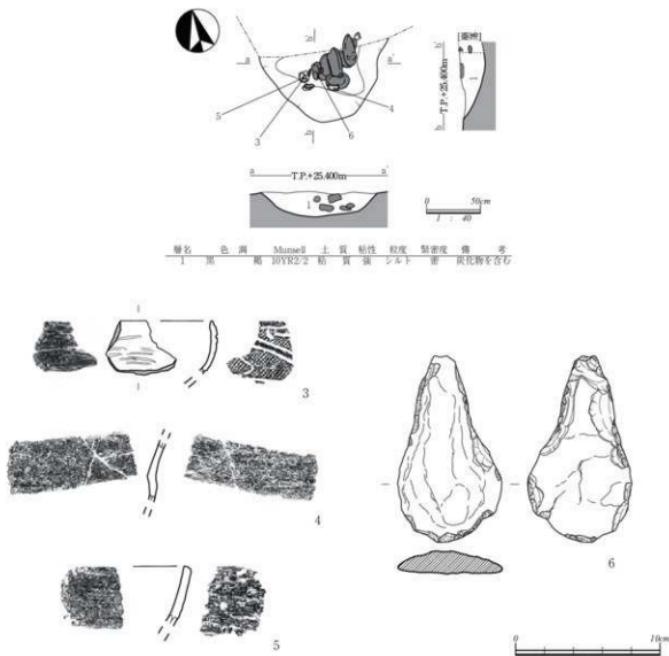


図19 SK8平面面図および遺物・礫出土状況および出土遺物

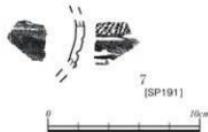
磨消繩文が施される。10~12は外面に条痕を残す。13は鉢の高台状の底部である。14・15は鉢の胴部である。14は磨消繩文、15は繩文を外面に施している。16~19は鉢の口縁である。16は繩文、17・18は沈線、19は条痕が外面に見られる。20は鉢の口縁部付近である。21は鉢の口縁部である。口縁部に繩文、外面に縦や横方向の沈線を刻む。

図20 小穴の出土遺物(縄文時代)

第3節 弥生時代の遺構と遺物

1 概要

弥生時代の遺構は、竪穴建物4棟・掘立柱建物1棟・土坑1基・壺棺墓1基・溝5条・小穴20穴で



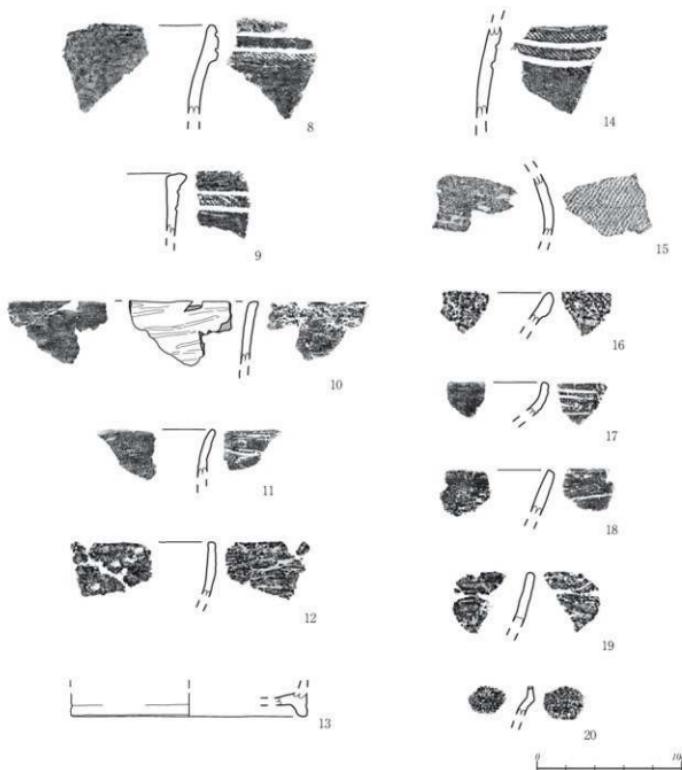


図21 包含層出土遺物(縄文時代)

ある。全てIV層上面で検出しておる、これらの遺構は弥生時代中期以降と考えられ、弥生時代終末期を中心とする。なお、出土遺物は終末期を中心とし中期～後期を含んでいる。出土遺物は弥生土器壺・甕・高杯・鉢、石器、石製品、鐵製品、ガラス製品がある。

図22 出土地不明遺物(縄文時代)



2 墓穴建物

(1) SI1(223・24)

遺構 SI1は1区南寄りにあり、検出標高は約25.37mである。平面形は円形で、直径約4.78m、検出面からの深さは0.19mであった。小穴が2穴検出されたが、いずれも浅く明確な主柱穴は検出できなかった。壁溝(SD14)は幅2~11cmで南半分で部分的に確認した。床面からの深さは最深部で16cmである。床面はほぼ平坦であるが、若干南側が高い。土層は黒褐色粘質土が主体である。建物中央付近で中央土坑(SK6)を検出した。SK6底面付近に堆積した6・7層中には多量の炭化物が

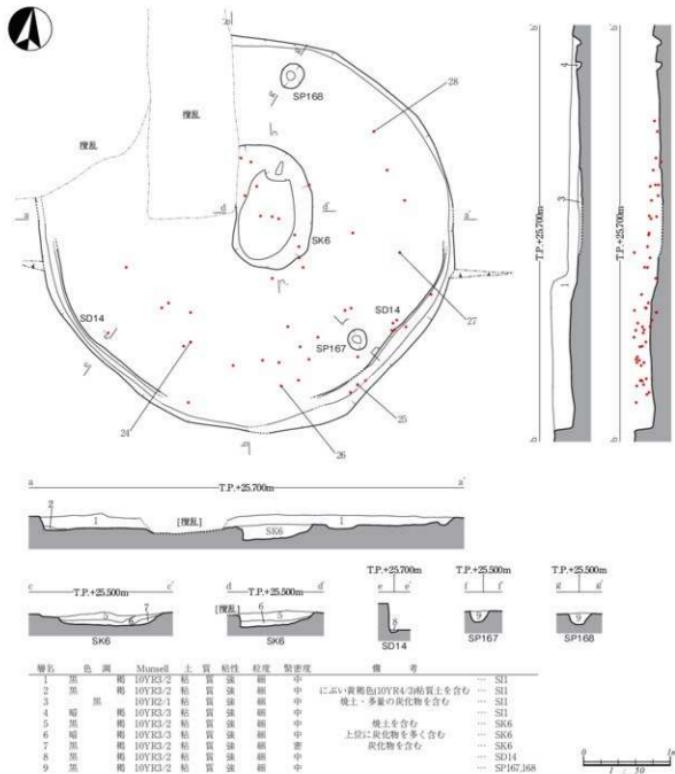


図23 SI1平面面図および遺物ドット

含まれる。建物北西側では壁面の立ち上がりが不明瞭であるとともに礫層の持ち上がりが確認されたことから、搅乱を受けているものと考えられる。遺物は縄文土器・弥生土器・石器・鉄製品が出土している。SI1の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代終末と考えられる。本遺構の北東部にSB1が位置するが、SII・SB2は接近しており時間的に隔たりがあるものとみられる。遺物 22・23は壺である。22の外面はタタキ後にハケを施している。24は小型の鉢である。25は壺または鉢の下半部である。26は緑色片岩の石器素材である。27は鐵鏃である。28は縄文土器鉢の底部で、高台状である。

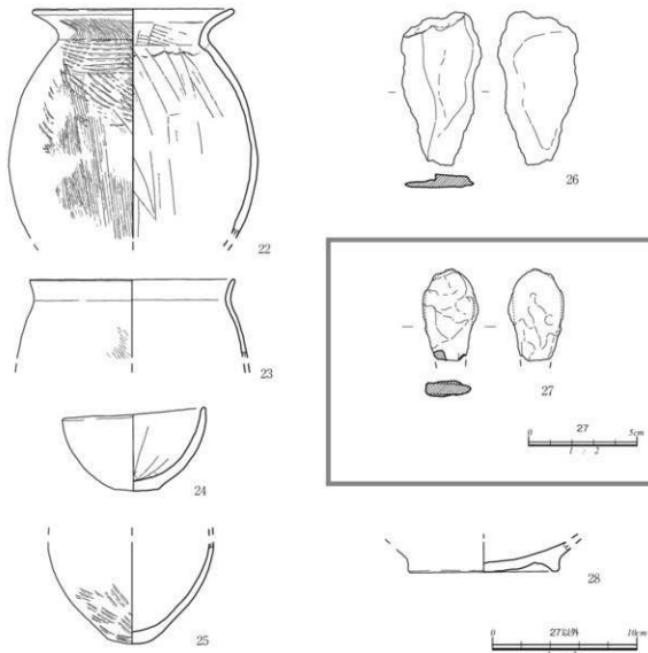


図24 SI1出土遺物

(2) SI2(図25~30)

遺構 SI2は2区中央付近にあり、検出標高は25.43mである。大型の竪穴建物で、平面形は隅丸方形である。長辺8.56m・短辺8.12m・検出面からの深さは0.49mであった。長軸方向はN-23.01° -Wを指向する。壁溝は確認できなかった。床面はほぼ平坦で西側が若干低くなる。主柱穴は4穴検

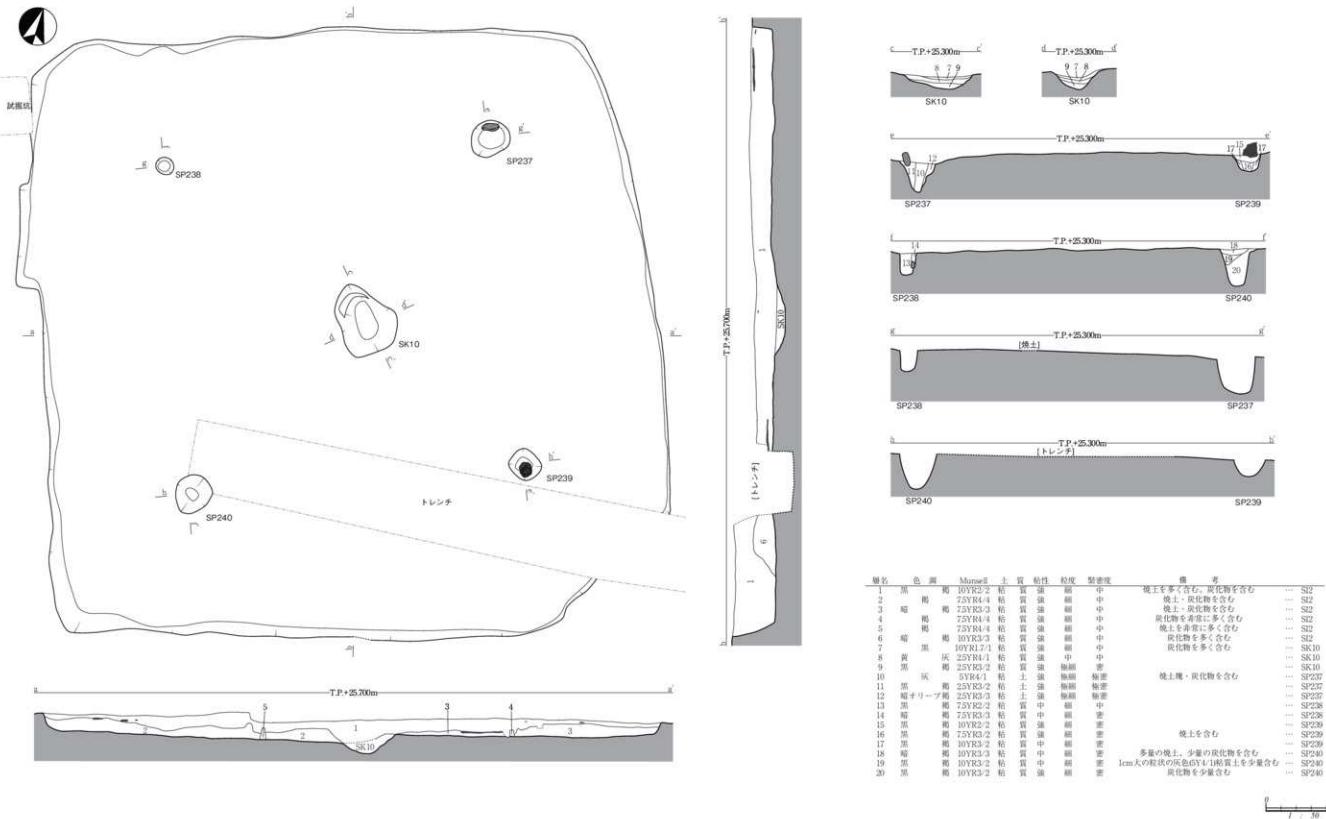


図25 SI2平断面図

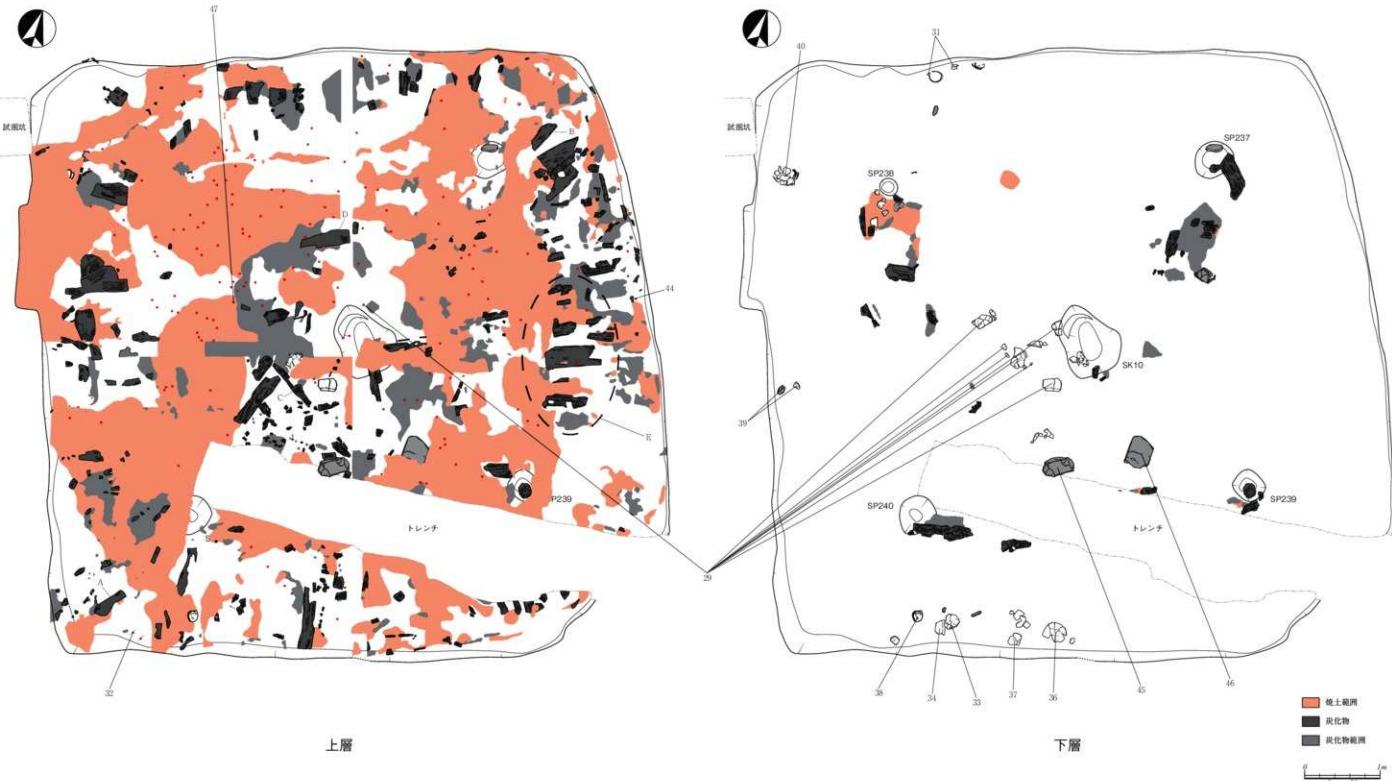


図26 S12遺物・遺物ドット・焼土・炭化物出土状況(上層・下層)

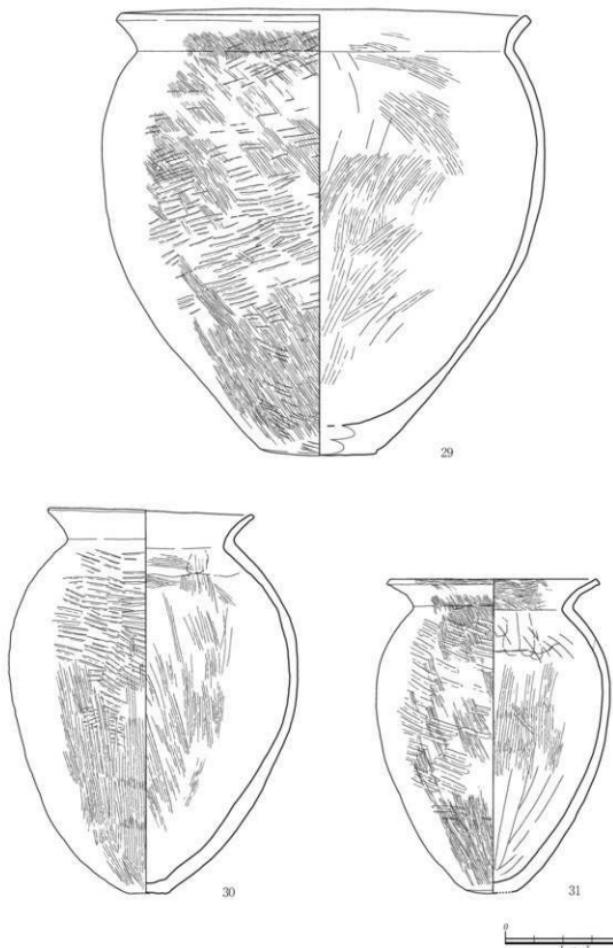


図27 SII出土遺物(1)

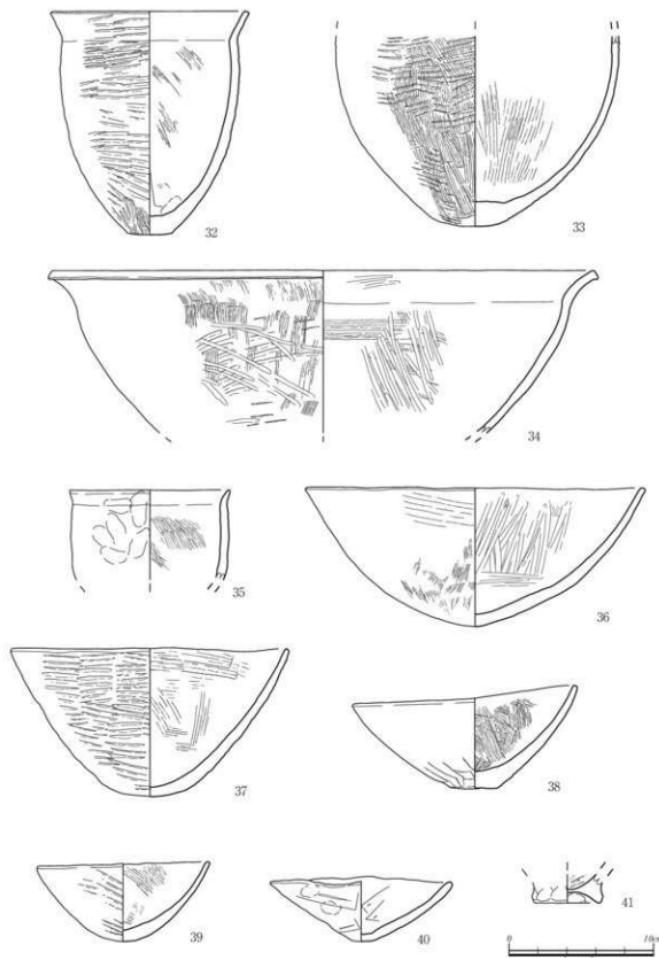


図28 SI2出土遺物(2)

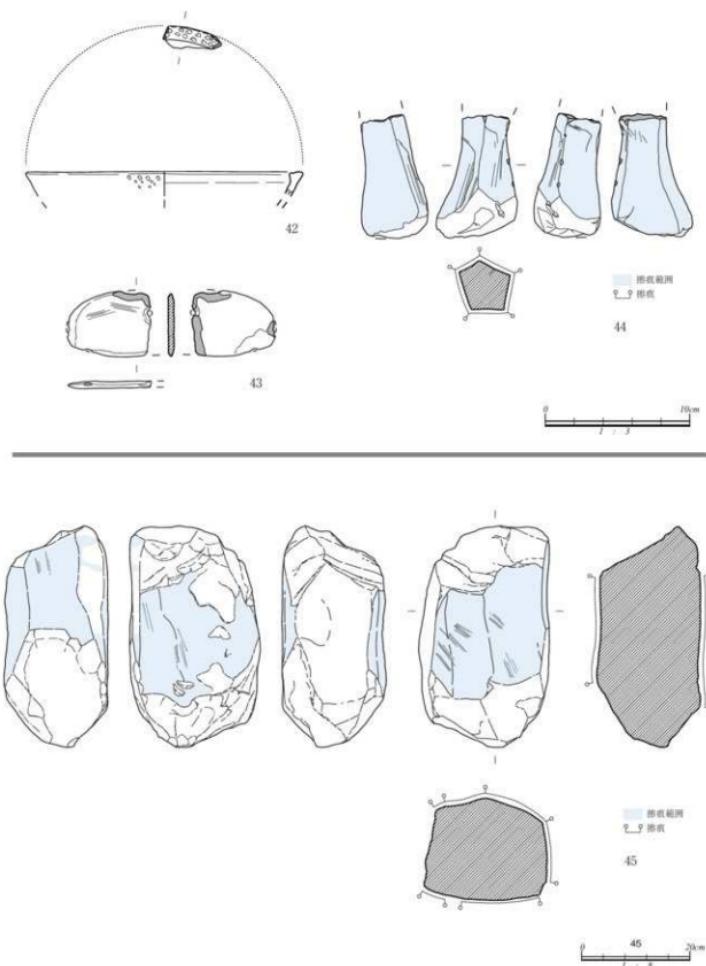


図29 SI2出土遺物(3)

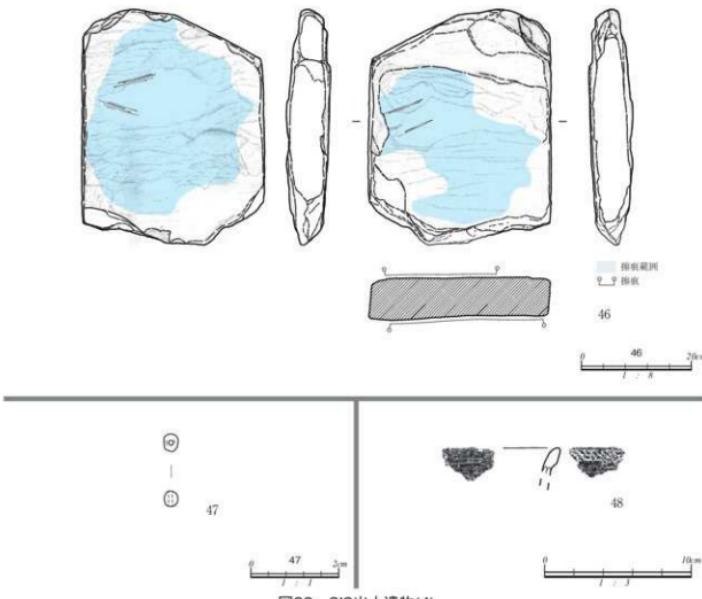


図30 SI2出土遺物(4)

出されたため、建物の柱構造は4本柱構造と考えられる。土層にはいずれも焼土や炭化物が含まれており、主体となる黒褐色粘質土の下位に褐色または暗褐色粘質土がみられる。

建物中央部で土坑(SK10)を検出した。SK10では最上層の7層で炭化物がみられた。

掘方内の全域では多量の焼土および炭化材が検出されたため、焼失建物とみられる。焼土下より炭化物が出土する他、両者の混在もあった。炭化物の中には棒状もしくは板状の木材が含まれており、中心部から放射状に広がる様子(図26中A,B)や直行する様子(図26中C,D)が観察できた。また壁側では炭化材が並んだ様子(図26中E)も観察されることから、これらは建物の屋根材または壁材と考えられる。主柱穴周辺でも柱状の炭化材が確認されているが、どの柱穴にも柱材は遺存していないことから、焼失時に柱材は外されていた可能性がある。これらの炭化材については樹種同定を12点行なった結果、クヌギ節を中心にマツ属複雑管束亞属・スダジイ・ツブラジイ・センダン類似種の5種類が判明している(第6章第6節参照)。遺物は縄文土器・弥生土器・石器・ガラス製品が出土している。SI2の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代終末と考えられる。遺物 29は甕または鉢である。外面はタタキ後にハケ、内面は板ナデ後にハケが施される。30~32は甕である。いずれも外面にタタキ痕を残し、法量に差がある。33は甕の下半部である。34・

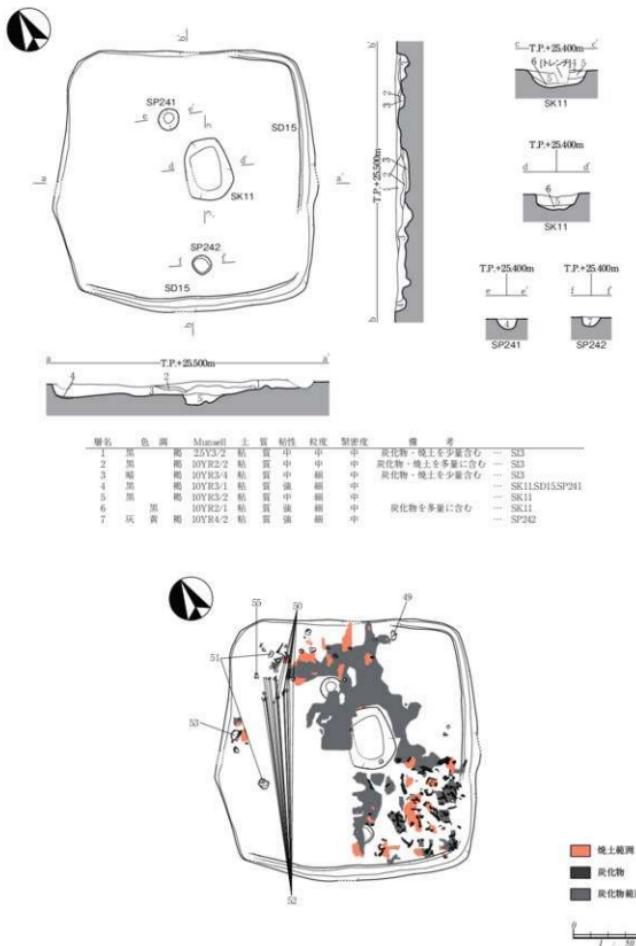


図31 SI3断面図および遺物・焼土・炭化物出土状況

35は鉢の口縁部である。34は大型品で外面はタタキ後にナデ、内面はハケ後にミガキが施される。35は小型品で外面に指オサエ痕がある。36~40は鉢で法量差がみられる。41は鉢の底部で脚台状である。42は口縁部である。高杯の可能性も考えたが器種は不明である。口縁端部および口縁部外面に列点文が施される。43は緑色片岩製の磨製石庵丁で、穿孔が1箇所みられる。44は流紋岩製の砥石である。45は砂岩製の砥石である。46は緑色片岩製の石皿または台石である。47はガラス小玉である。48は繩文土器鉢の口縁部である。口唇部に繩文が施される。

(3) SI3(図31・32)

遺構 SI3は2区北東側にあり、検出標高は約25.28mである。小型堅穴建物で平面形は隅丸方形である。長辺3.00m・短辺2.98m・検出面からの深さは0.14mであった。長軸方向はN-27.37°-Eを指向する。小穴は2穴検出されたもののいずれも浅く、明確な主柱穴は検出できなかった。壁溝(SD15)は幅9~21cmで主に南側および西側で確認した。床面からの深さは最深部で3cmである。床面はほぼ平坦であるが若干西側が低い。土層は黒褐色または暗褐色粘質土である。建物中央付近で土坑(SK11)を検出した。SK11最下層の6層では炭化物の堆積がみられた。

また、建物埋土には比較的まとまった焼土および炭化材が確認された。炭化物は建物の南東側を中心に分布するが、形状などは不明なものが多い。炭化物の樹種同定ではスダジイの使用が認められた(第6章第6節参照)。遺物は繩文土器・弥生土器・石器が出土している。SI3の時期は検出層位と出土遺物より弥生時代終末期と考えられる。

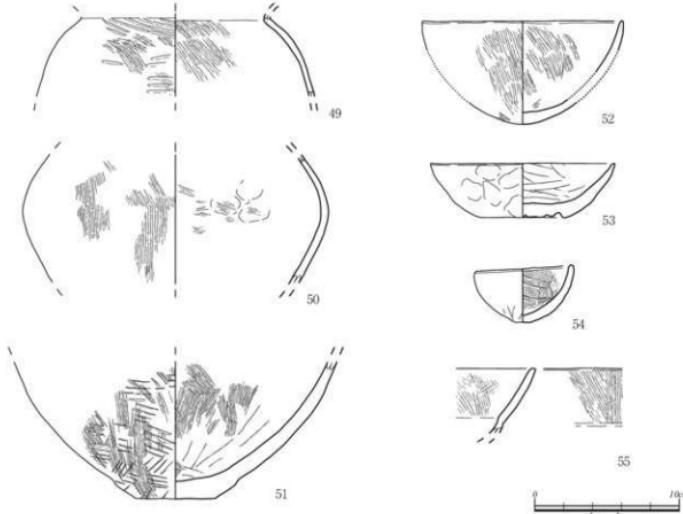
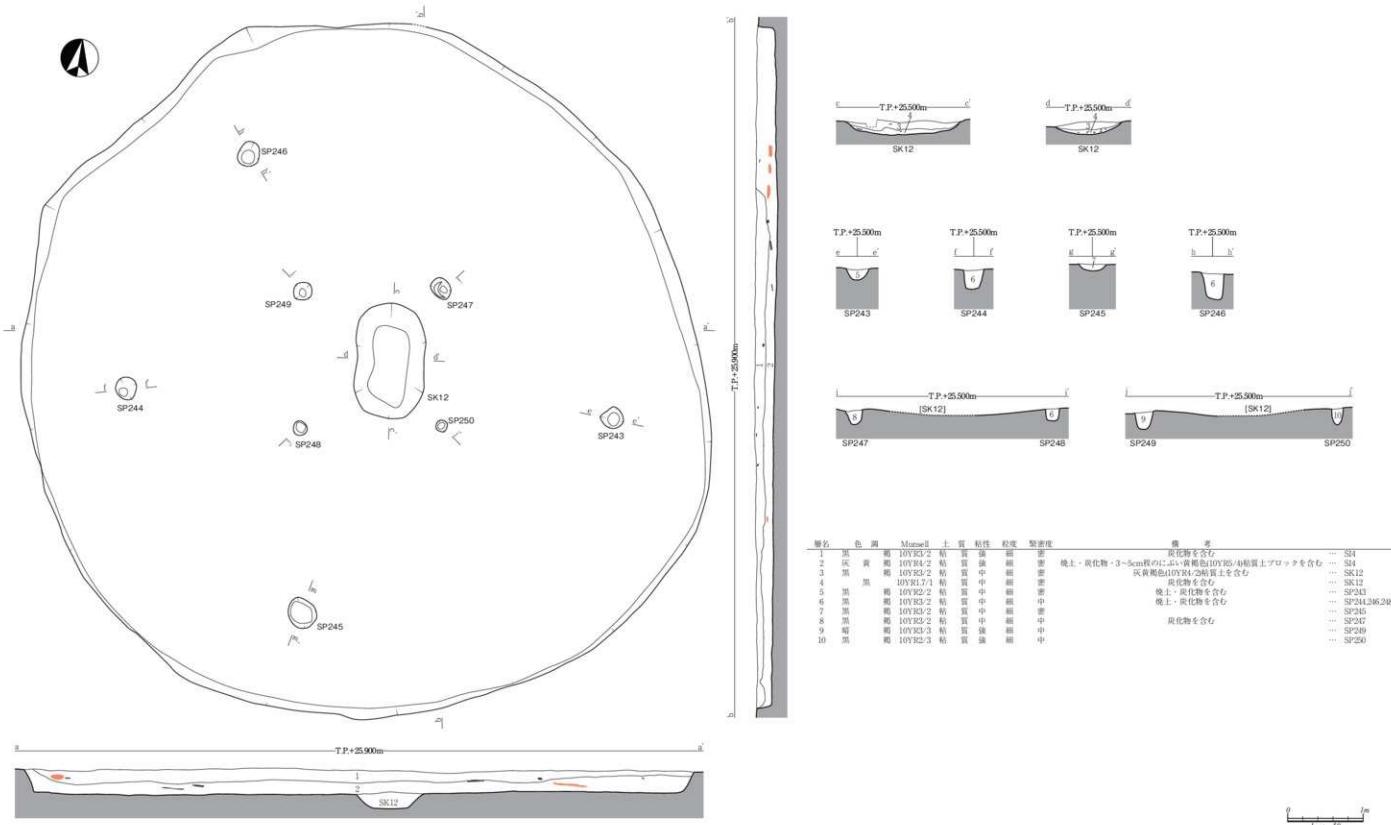


図32 SI3出土遺物



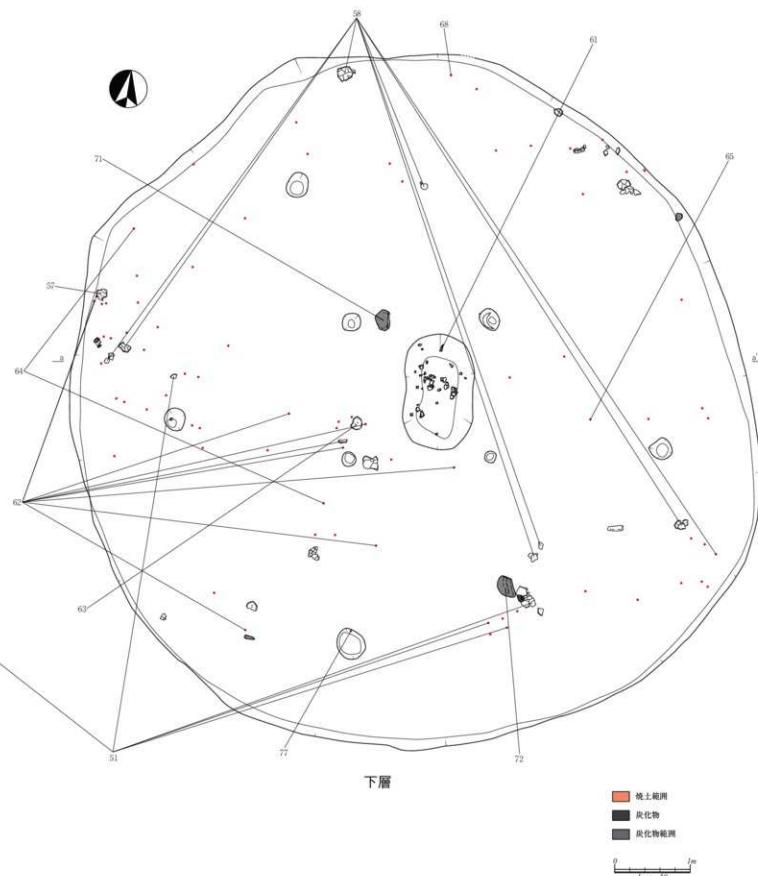
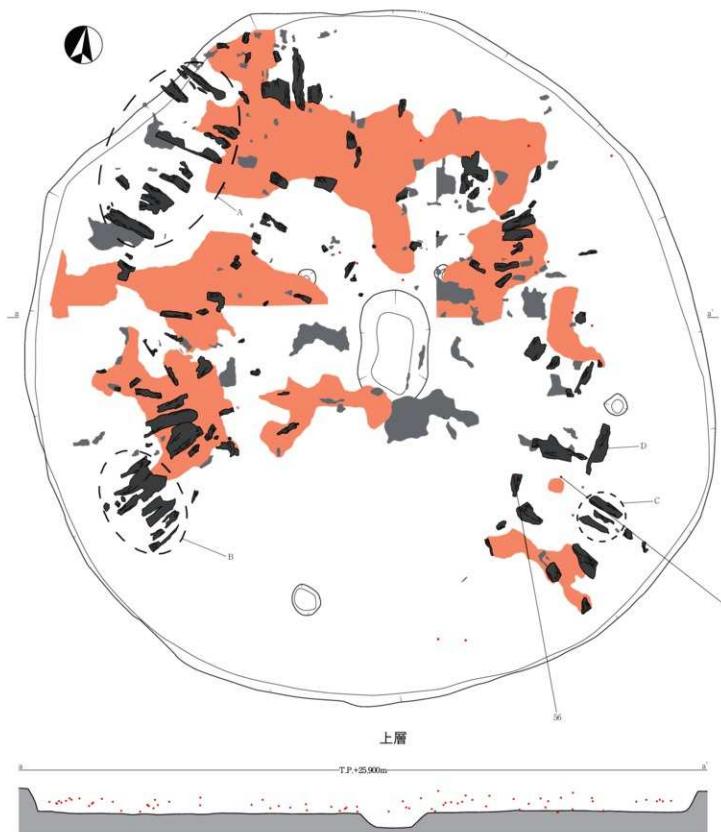


図34 SI4遺物・遺物ドット・焼土・炭化物出土状況(上層・下層)

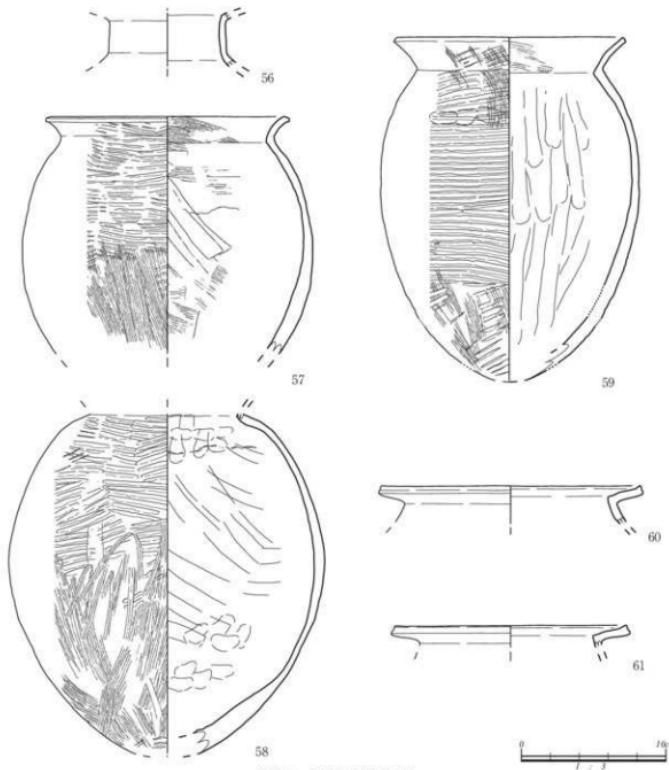


図35 SI4出土遺物(1)

遺物 49・50は壺の胴部である。50は胎土に角閃石を多く含んでいることなどから、讃岐から搬入された香東川下流域産土器と考えられる。51は壺の底部である。52～55は鉢である。52・54ではハケが施され法量差があり、53は外面指オサエ痕の残る浅い椀状、55は小型丸底鉢である。

(4) SI4(図33～38)

遺構 SI4は2区南東側にあり、検出標高は約25.62mである。大型の竪穴建物で平面形は円形、直径約9.56mであった。検出面からの深さは0.32mであった。壁溝は確認できなかった。床面はほぼ平坦である。主柱穴は8穴検出され、建物の柱構造は壁寄りに4穴の柱穴を持つものと捉えられる。土層は黒色粘質土(1層)下位に灰黄褐色粘質土(2層)が堆積しており、焼土および炭化物は2層

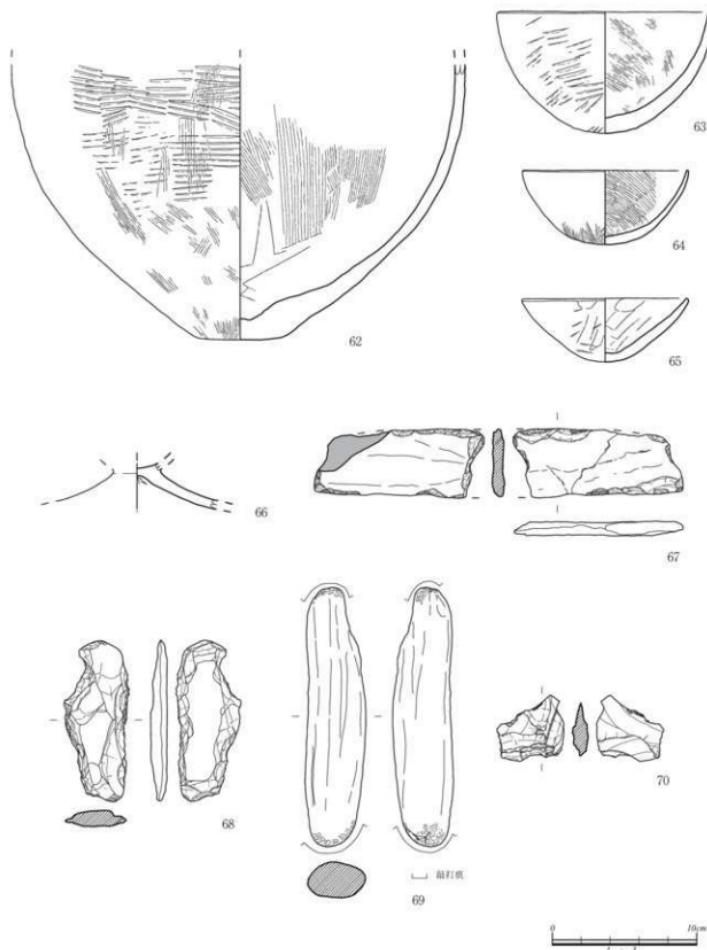
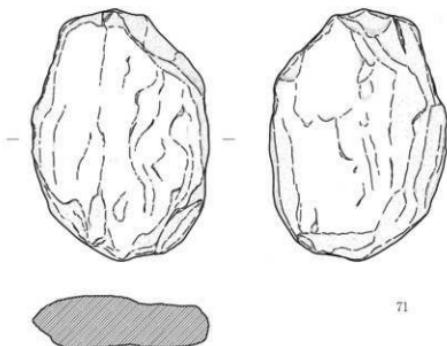
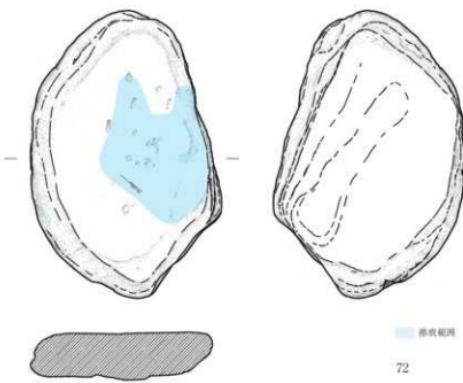


図36 SI4出土遺物(2)



71



72



図37 SI4出土遺物(3)

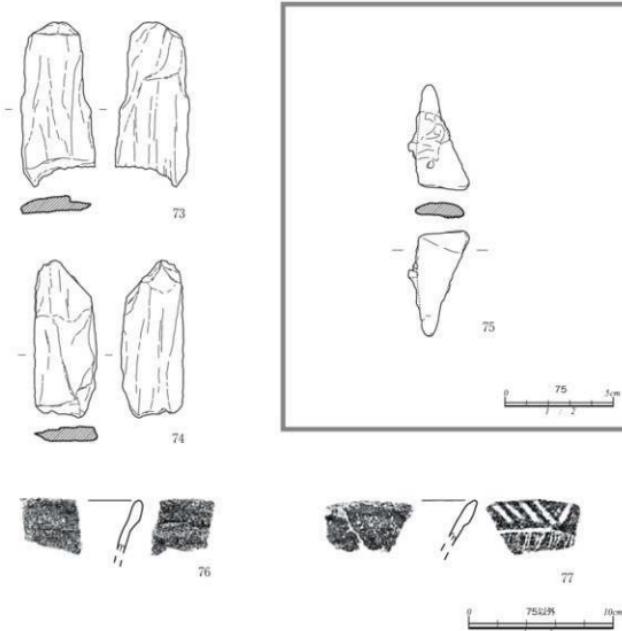


図38 SI4出土遺物(4)

上面を中心にみられた。2層でブロック状の堆積がみられたことから、人為的に埋め戻されたと考えられる。建物中央部で中央土坑(SK12)を検出した。SK12下位の4層には炭化物の堆積がみられた。

建物の下層埋土を中心にも多くの焼土および炭化材が出土した。炭化物は南側を除く建物ほぼ全体より検出され、焼土下より炭化物が出土する場合や両者が混在していることもあった。形状がわかる炭化材は棒状もしくは板状のものが多く、中心から放射状に向く図34-A,B,Cや直行する図34-Dが観察できた。また、図34-Aのように壁際にも炭化材が並ぶような状況が捉えられ、これらは建物の屋根材もしくは壁材を構成していたと考えられる。炭化材については、樹種同定を行った7点全てがクスギ節であった(第6章第6節参照)。遺物は縄文土器・弥生土器・石器・鉄製品が出土している。SI4の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代終末期と考えられる。近接するSI2とは約4mと近距離であり、周堤帯重複の場合もあるが両者は並存しない可能性が考えられる。

遺物 56は讃岐系の壺の頸部である。57~61は甕である。57・59は口縁部、58は胴部でタタキ後

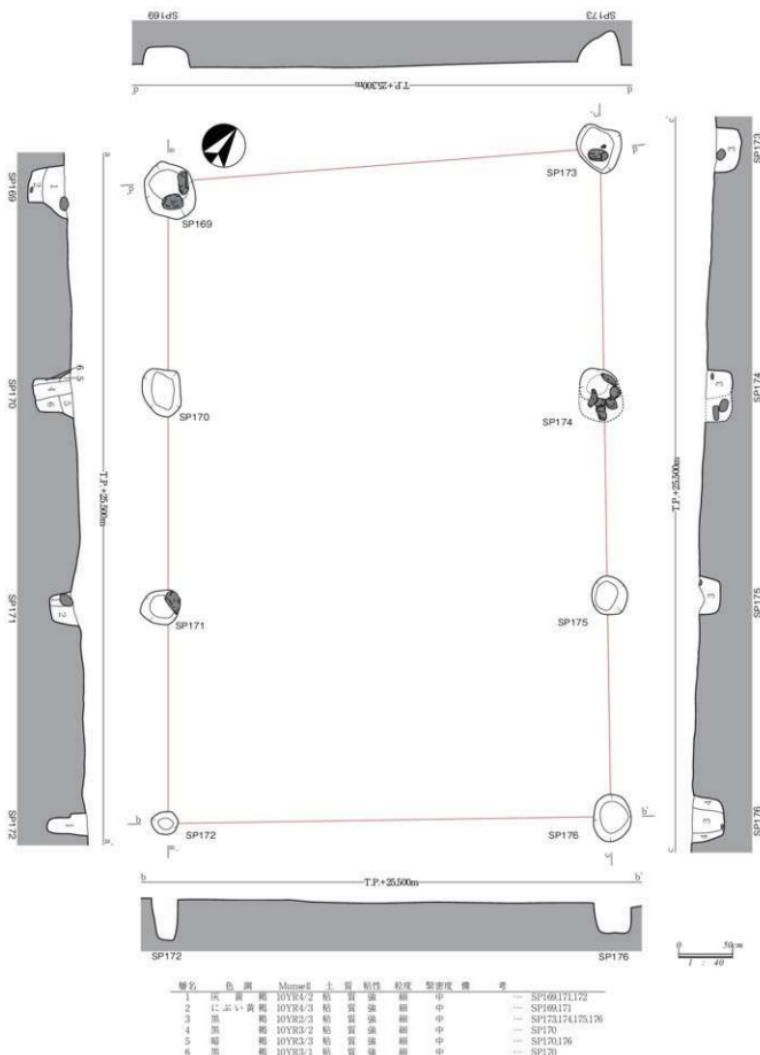


図39 SB1平面図および礎出土状況

にハケ調整されている。61は讃岐系の口縁部である。62は壺または壺の底部である。63~65は鉢である。湾曲タイプや直線的に開くものがある。66は高杯の脚部で、ハの字状に大きく開く。67は緑色片岩製の石庵丁である。68は緑色片岩製のスクレイパーである。69は泥質片岩製の敲石である。両端に敲打痕がみられる。70はサヌカイト製の剥片である。71・72は台石であり、72は磨面が天地逆の状態で出土している。73・74は緑色片岩の石器素材である。75は三角形状の鉄製品である。鉄鐵の可能性も検討したが、用途は不明である。76・77は縄文土器鉢の口縁部で76は縄文、77はキザミを外面に施している。

3 挖立柱建物

(1) SB1(図39)

遺構 SB1は1区南側にあり、検出標高は約25.27mである。1間×3間の個柱建物で、梁行4.08m、桁行5.9mの規模である。長軸方向はN-36.32°-Wを指向する。各柱穴は直径24~55cmの円形もしろくは隅丸方形を呈し、検出面からの深さは22~39cmである。柱間は梁方向が402~408cm、桁方向が187~218cmである。土層は主体となる黒褐色のほか灰黄褐色・にぶい黄褐色粘質土がみられる。半数の柱穴より大型蝶が出土しており、中にはSP174のように根固め石とみられる砾群も

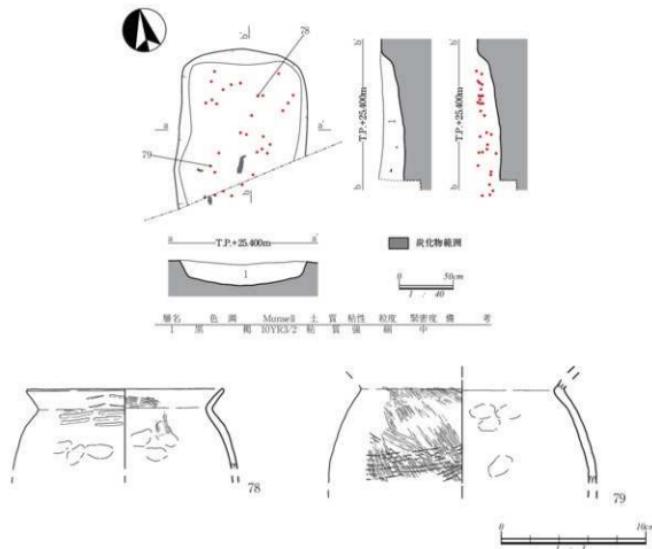


図40 SK9平面面図および遺物ドット・炭化物出土状況および出土遺物

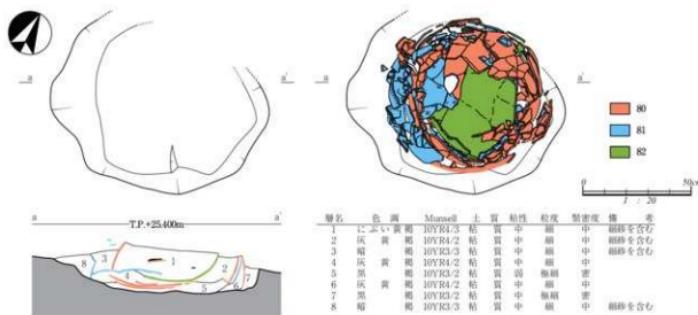


図41 ST1平面図および遺物出土状況

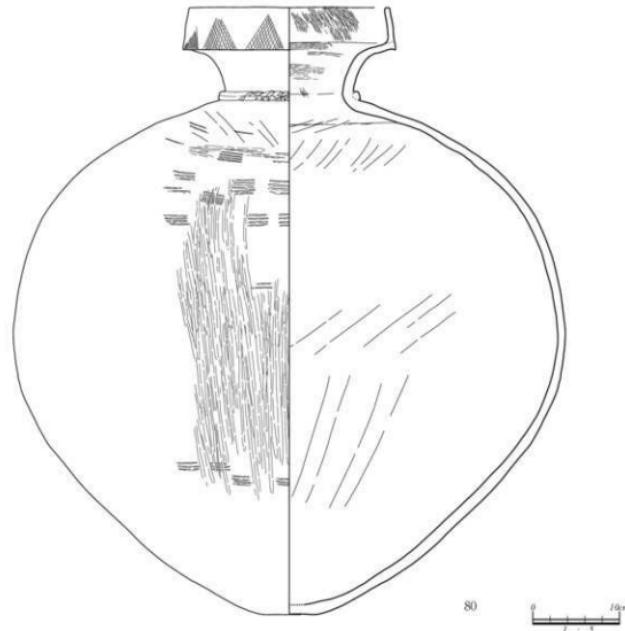


図42 ST1出土遺物(1)

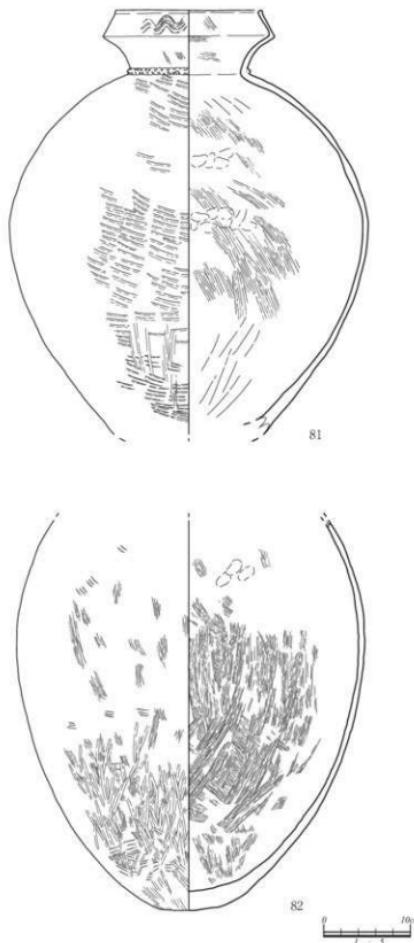


図43 ST1出土遺物(2)

あった。SP170からは図示できないが弥生土器が出土している。SB1の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

4 土坑

(1) SK9(図40)

遺構 SK9は2区中央付近にあり、検出標高は約25.23mである。平面形は隅丸長方形と推定され、長軸150cm・短軸117cm・検出面からの深さは25cmであり、さらに南側へ続く。主軸はおおむねN-13.77°-Eと推定される。土層は黒褐色粘質土である。褐文土器・弥生土器が出土し、埋土中には炭化物が含まれる。SK9の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代終末期と考えられる。SI2に近いが両者の距離は90cmと接近しており、同時並存ではないものと考えられる。

遺物 78・79は壺で、78は口縁部、79は肩曲部である。

5 壺棺墓

(1) ST1(図41~43)

遺構 1区西端で検出した壺棺墓で掘り方は全長1.01mである。棺は上面が多少削平を受けているが、大型壺(80)および底部を欠く壺(81)、体部下半のみの壺(82)の計3個体で構成されている。構造の詳細は復元できなかったが、壺を割ったのちに入れ子状に重ねていたものと推定される。また、壺(80)の口縁部は他の部位から遊離した状態で検出されており、元位置から転落している可能性がある。棺を支え

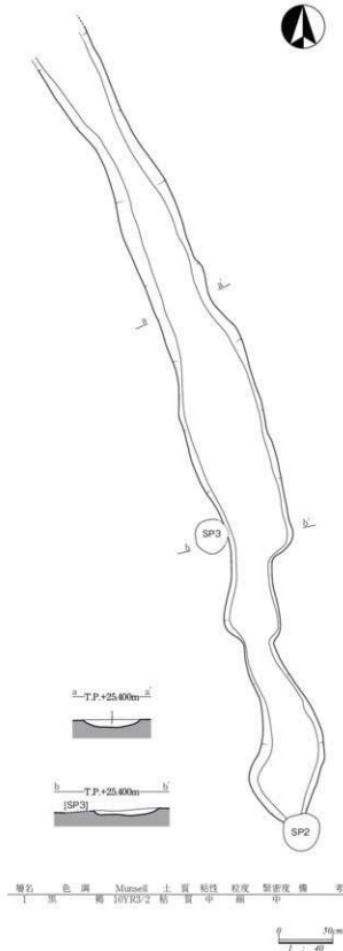


図44 SD1平面図

る石などは認められず、掘り方については基盤層と土質の明確な違いは捉えられなかった。なお、内部の土壤は持ち帰り水洗選別作業を行ったが、骨片などの埋葬を裏付ける資料は得られなかった。ST1の時期は出土遺物より弥生時代終末期と考えられる。

遺物 80は大型の複合口縁壺である。口縁部に鋸歯文を施し文様内に斜線文を充填している。81は複合口縁壺である。口縁部に波状文を施し頸部に貼付突帯文が巡る。82は壺の胴部～底部である。外面はナデやタタキの後にミガキが施され、内面は全面にハケ調整が行われる。

6 溝

(1) SD1(図44)

遺構 SD1は1区中央付近にあり、検出標高は約25.2mである。重複するSP2・3よりもSD1が古い。検出長770cm・最大幅76cm・検出面からの深さは最深部で5cmである。断面形は皿状である。長軸方向はN-17.44°-Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD1の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

(1) SD5(図45)

遺構 SD5は1区北寄りにあり、検出標高は約

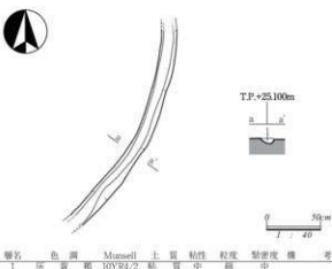


図45 SD5平面図

24.97mである。検出長197cm・最大幅13cm・検出面からの深さは最深部で5cmである。断面形は皿状である。平面形は弧状である。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD5の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

(2) SD10(図46)

遺構 SD10は1区北西側にあり、検出標高は25.28mである。風倒木よりもSD10が新しい。検出長750cm・最大幅100cm・検出面からの深さは最深部で40cmである。断面は不整形な半円形状である。長軸方向はN-83.36°-Eを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD10の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

(3) SD12(図46)

遺構 SD12は1区南端部にあり、検出標高は約25.73mである。本来は1本の溝であったが、削平により深い底部付近のみが複数に分かれて残ったものと考えられる。検出長230cm・最大幅27cm・検出面からの深さは最深部14cmである。断面形は皿状である。長軸方向はN-78.71°-Eを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD12は出土遺物より、弥生時代として報告するが、埋土にオリーブ褐色土を含むことから弥生時代以降の可能性がある。

(4) SD13(図46)

遺構 SD13は調査区南側で1区および2区にまたがり、検出標高は約25.0mである。検出長2,385cm・最大幅57cm・検出面からの深さは最深部で14cmである。断面形は皿状である。長軸方向は1区でN-21.46°-W、2区ではN-84.73°-Eを指向する。遺物は弥生土器が出土している。SD13の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 83は甕である。外面とともにミガキが施される。

7 小穴

(1) SP140(図47)

遺構 SP140は1区北側にあり、検出標高は約24.79mである。直径約20cmの円形を呈し、検出面からの深さは最深部で23cm、断面形はU字形である。土層はにぶい黄褐色粘質土で、図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SP140の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

(2) SP142(図47)

遺構 SP142は1区北側にあり、検出標高は約24.98mである。直径約47cmの円形を呈し、検出面からの深さは最深部で23cmである。断面形はU字形である。土層は黒褐色粘質土で1層が柱痕の可能性がある。底部付近や埋土中より縄文土器・弥生土器・石器が出土している。SP142の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

遺物 84は鉢である。外面にタタキが施される。85は泥質片岩製の石棒の可能性があり、一部が研磨されている可能性がある。

(3) SP236(図47)

遺構 SP236は2区北側にあり、検出標高は24.99mである。直径約27cmの円形を呈し、検出面か



SO10

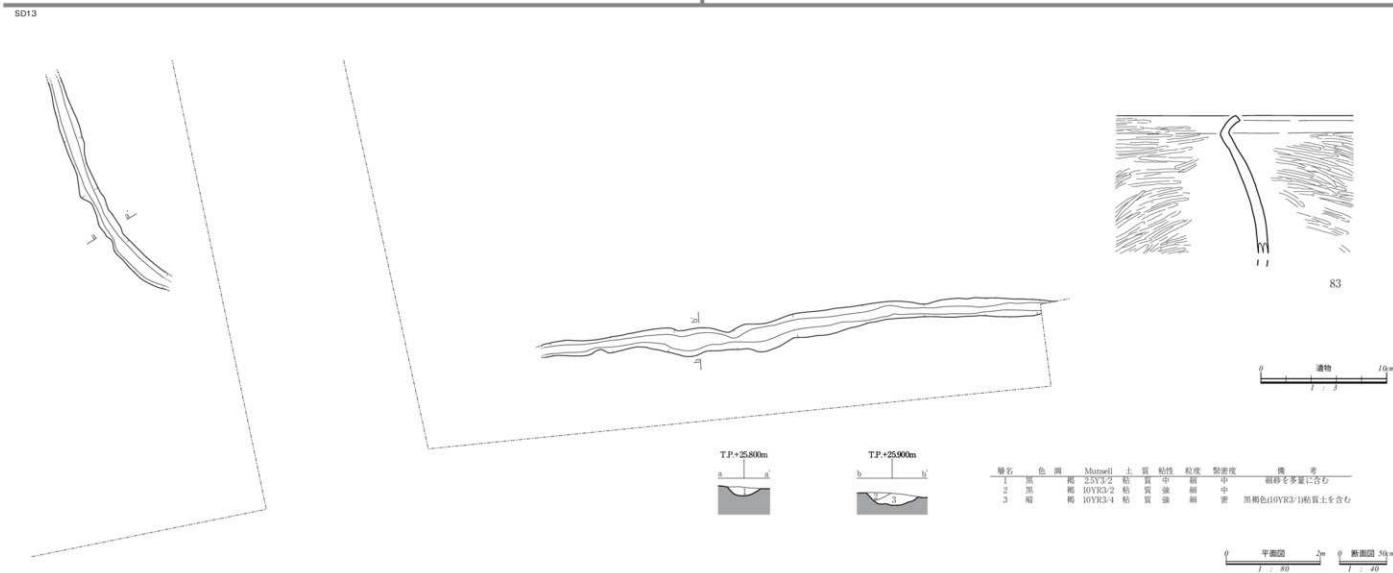
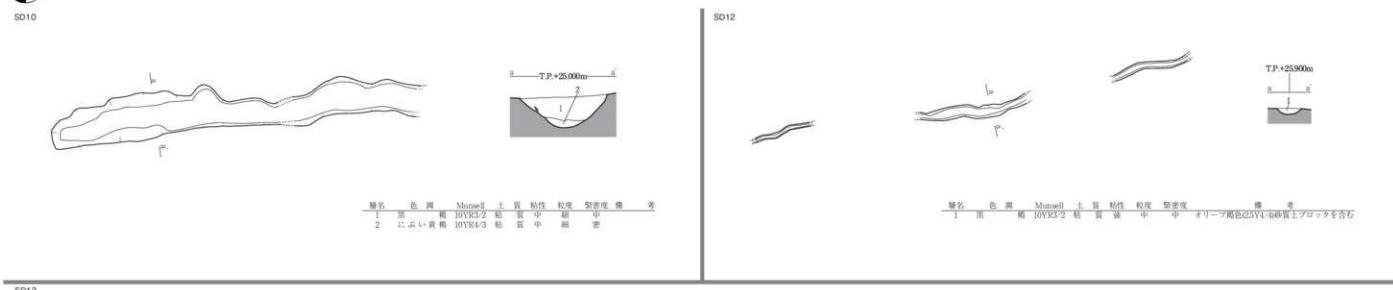


図46 SD10,12,13平面図および出土遺物

らの深さは最深部で39cmの断面形はU字形である。土層は黒褐色粘質土で上下2層に分かれる。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SP236の時期は検出層位と出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

8 遺構外の出土遺物(図48~50)

86~97は1区、98~109は2区より出土した。86は口縁内面に複数の貼付突起文を施している。89は表面が摩耗しているが長い頸部をもつ。90・91は壺の口縁部である。91は口縁部に刻みをもち上端面に文様が刻まれる。92~94は壺の底部である。95は壺または壺の底部である。外面はタタキの後のハケ、内面はハケの後ミガキが施される。96は大型鉢の口縁部、97は鉢の底部である。98・99は壺で、98は口縁部、99は口縁屈曲部とみられる。100~104は壺



SP140

T.P.+24.900m



SP142

T.P.+25.100m

85



84

T.P.+25.100m

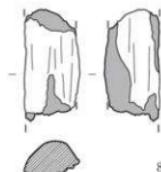


85

層名	色	調	Munsell	土	質	粘性	粒度	堅密度	備	考
1	黒	褐色	25Y3/2	粘	質	弱	細	堅密		
2	黒	褐色	10YR3/2	粘	質	弱	粗	堅密		1cm程のくびい黄褐色10YR5/4粘質土ブロックを含む



84



85

SP236

T.P.+25.100m



85

1~2cm程の暗褐色10YR3/3粘質土ブロックを含む
土器片を含む

0 10cm

0 10cm

図47 SP140,142,236平面面図および遺物出土状況および出土遺物

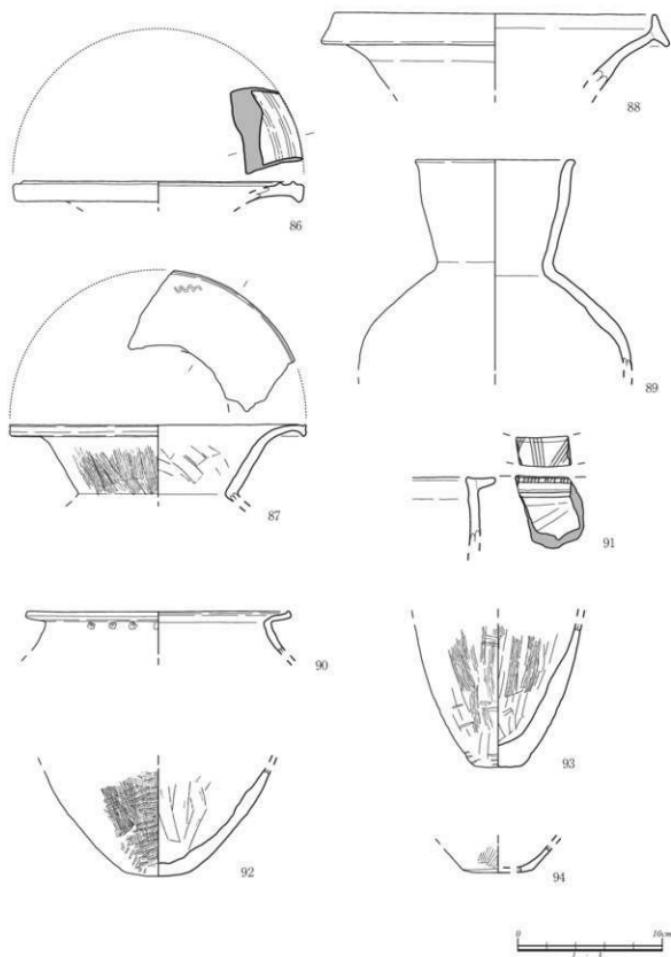


図48 包含層出土遺物(弥生時代) (1)

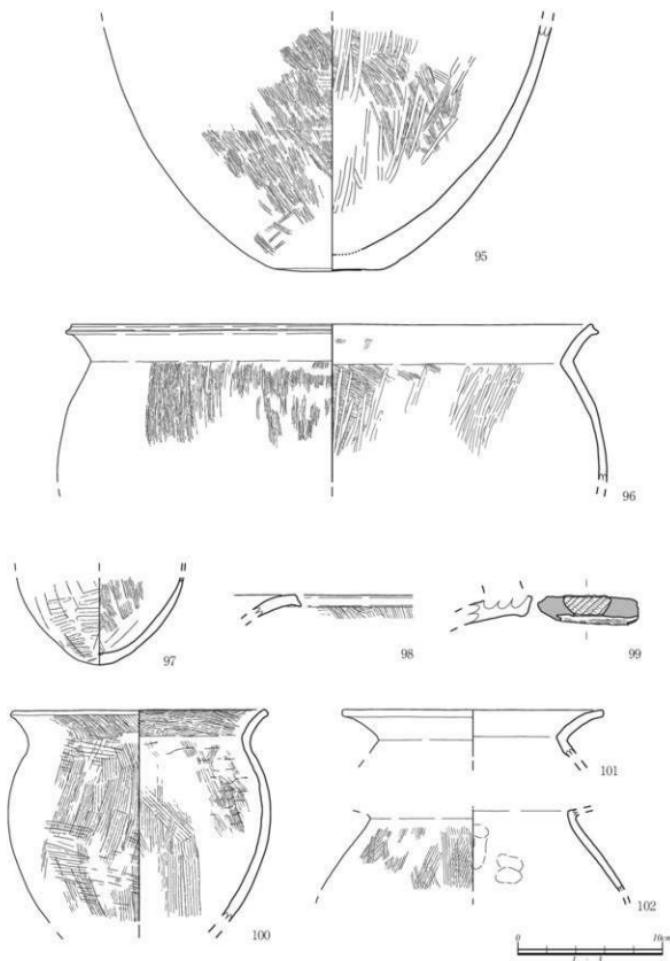


図49 包含層出土遺物(弥生時代) (2)

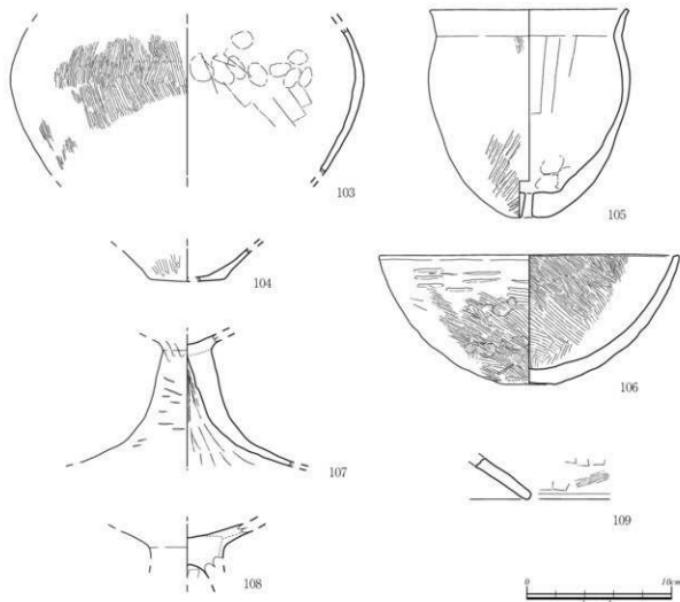


図50 包含層出土遺物(弥生時代) (3)

で、100・101は口縁部である。102~104は讃岐系であり、同一個体のものを含む可能性もある。105・106は鉢で、105は口頭部が屈曲し、底部は焼成前穿孔されている。106は湾曲気味に開く。107~109は高杯の脚部である。107・108は脚部で、109は穿孔がみられる。

第4節 中世の遺構と遺物

1 概要

中世の遺構は掘立柱建物1棟・土坑1基・小穴1穴である。全てIV層上面で検出している。

2 掘立柱建物

(1) SB2(図51)

遺構 SB2は1区南側にあり、検出標高は約25.77mである。1間×2間の側柱建物で、梁行2.365m・桁行3.79mの規模である。長軸方向はN-76.76°-Eを指向する。各柱穴は直径33~49cm

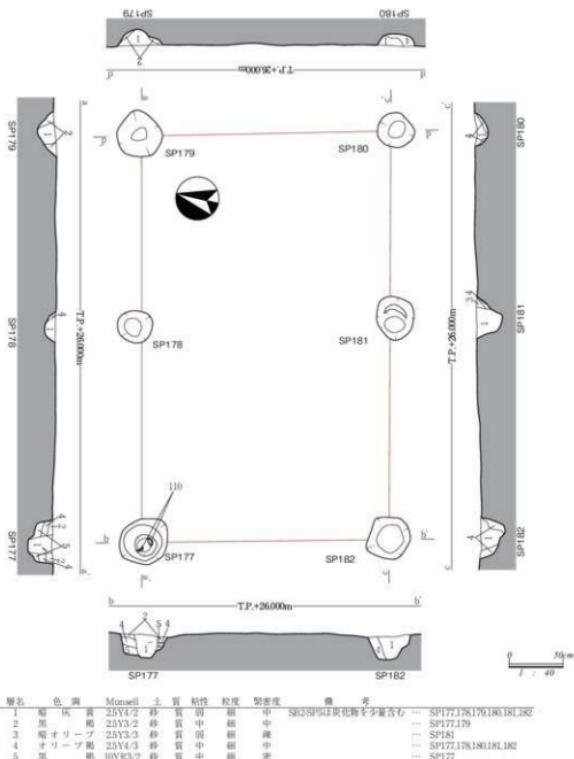


図51 SB2平面図および遺物出土状況および出土遺物

の円形を呈し、検出面からの深さは12~24cmである。柱間は梁方向が230cm、桁方向が172~204cmである。土層は暗灰黄色砂質土(1層)が柱痕と思われる。SP177出土の土師質土器皿(110)は完形の皿を割り、埋め戻し途中に入れた状況がうかがえることから柱穴祭祀関連の可能性がある。遺物は土師質土器皿・亀山焼のほか、図示できなかったがSP178・180で弥生土器、SP179・181より土師質土器が出土している。SB2の時期は検出層位と出土遺物より14世紀頃と考える。遺物 110は土師質土器皿で、底部は回転糸切りである。111は亀山焼壺の胴部片である。

3 土坑

(1) SK5(図52)

遺構 SK5は2区中央付近にあり、検出標高は25.72mである。平面形は不整形であり、長軸102cm・短軸99cm・検出面からの深さは4cmである。軸方向はN 1.08° -Wを指向する。土層は暗灰黄色砂質土である。遺物は図示できなかったが土師質土器が出土している。SK5の時期は検出

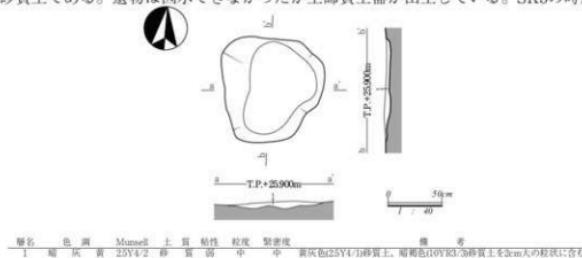


図52 SK5平面面図

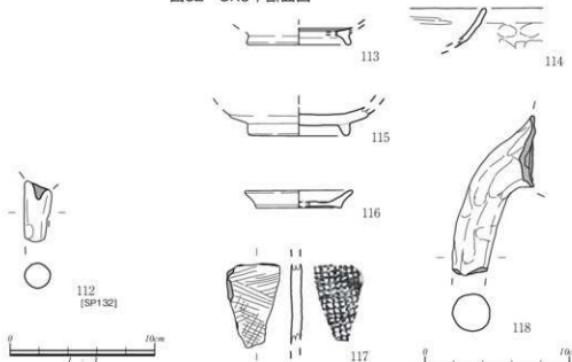


図53 その他SP出土遺物(中世)

図54 包含層出土遺物(古代～中世)

層位と出土遺物より中世と考えられる。

4 小穴の出土遺物(図53)

112はSP132より出土した土師質の小型脚部である。法量より皿に付随するものと思われる。

5 遺構外の出土遺物(図54)

113~117は1区、118は2区より出土した遺物であり、一部に古代以降のものも含む。

113は内面黒色土器碗である。114は和泉型瓦器碗の口縁部で、13世紀頃と考えられる。

115は土師質土器碗の底部である。116は土師質土器皿である。115・116の底部調整は不明瞭である。117は亀山焼甕の胴部片である。外面に格子叩き、内面にハケ調整がみられる。118は土釜の脚部である。

第5節 時期不明の遺構

1 土坑

(1) SK3(図55)

遺構 SK3は1区中央付近にあり、検出標高は約25.03mである。平面形は隅丸方形であり、長軸90cm・短軸68cm・検出面からの深さは7cmである。軸方向はN-65.17°-Wを指向する。土層は黒褐色粘質土である。遺物は出土していない。

2 溝

(1) SD2(図56)

遺構 SD2は1区東寄りにあり、検出標高は約25.31mである。検出長150cm・最大幅23cm・検出面からの深さは最深部で6cmである。断面形は皿状である。軸方向はN-36.41°-Eを指向する。遺物は出土していない。

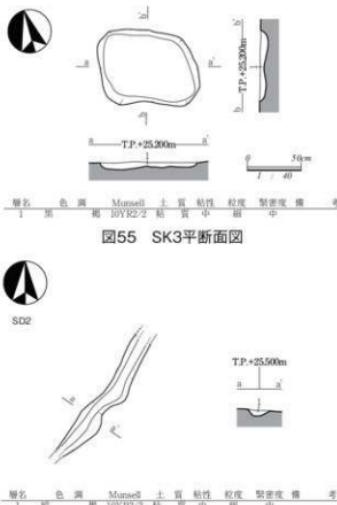


図55 SK3平面面図

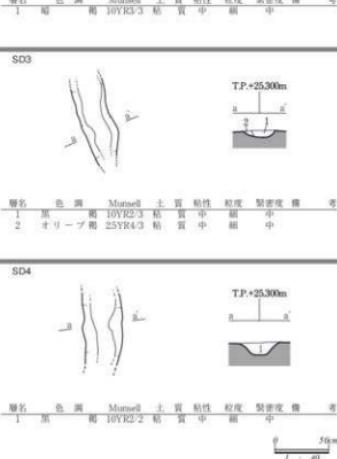


図56 SD2,3,4,平面面図

(2) SD3(図56)

遺構 SD3は1区北東寄りにあり、検出標高は約25.14mである。検出長80cm・最大幅30cm・検出面からの深さは最深部で4cmである。断面形は皿状である。軸方向はN-16.22° -Wを指向する。遺物は出土していない。

(3) SD4(図56)

遺構 SD4は1区北東寄りにあり、検出標高は約25.11mである。検出長60cm・最大幅47cm・検出面からの深さは最深部で13cmである。断面形は逆台形状である。軸方向はほぼ東西方向である。遺物は出土していない。

(4) SD6(図57)

遺構 SD6は1区東端にあり、検出標高は約25.4mである。検出長260cm・最大幅62cm・検出面からの深さは最深部で7cmである。断面形は皿状である。軸方向はN-14.76° -Wを指向する。遺物は出土していない。

(5) SD7(図57)

遺構 SD7は1区中央付近にあり、検出標高は約25.05mである。SD9よりもSD7が新しい。検出長400cm・最大幅18cm・検出面からの深さは最深部で2cmである。断面形は皿状である。平面形は弧状である。遺物は出土していない。

(6) SD8(図57)

遺構 SD8は1区中央付近にあり、検出標高は約25.09mである。検出長240cm・最大幅29cm・検出面からの深さは最深部で3cmである。断面形は皿状である。東側は風倒木と重複している。軸方向はN-80.27° -Wを指向する。遺物は出土していない。

(7) SD9(図57)

遺構 SD9は1区中央付近にあり、検出標高は約25.05mである。SD7・SP77よりもSD9が古い。検出長260cm・最大幅12cm・検出面からの深さは最深部で3cmである。断面形は皿状である。平面形は弧状である。遺物は出土していない。

(8) SD11(図57)

遺構 SD11は1区北西側にあり、検出標高は約24.87mである。検出長240cm・最大幅29cm・検出面からの深さは最深部で30cmである。断面形は皿状である。東側は風倒木と重複している。軸方向はN-78.92° -Eを指向する。遺物は出土していない。

3 小穴(図58)

遺物が出土せず時期が不明な小穴のうち、土層が複数層に分かれる7穴を掲載する。なお、詳細は表3に記載し、ここでは図を掲載するにとどめる。

4 性格不明遺構

(1) SX1(図59)

遺構 SX1は2区北西端にあり、検出標高は約25.14mである。壁際での検出であり南側は風倒木

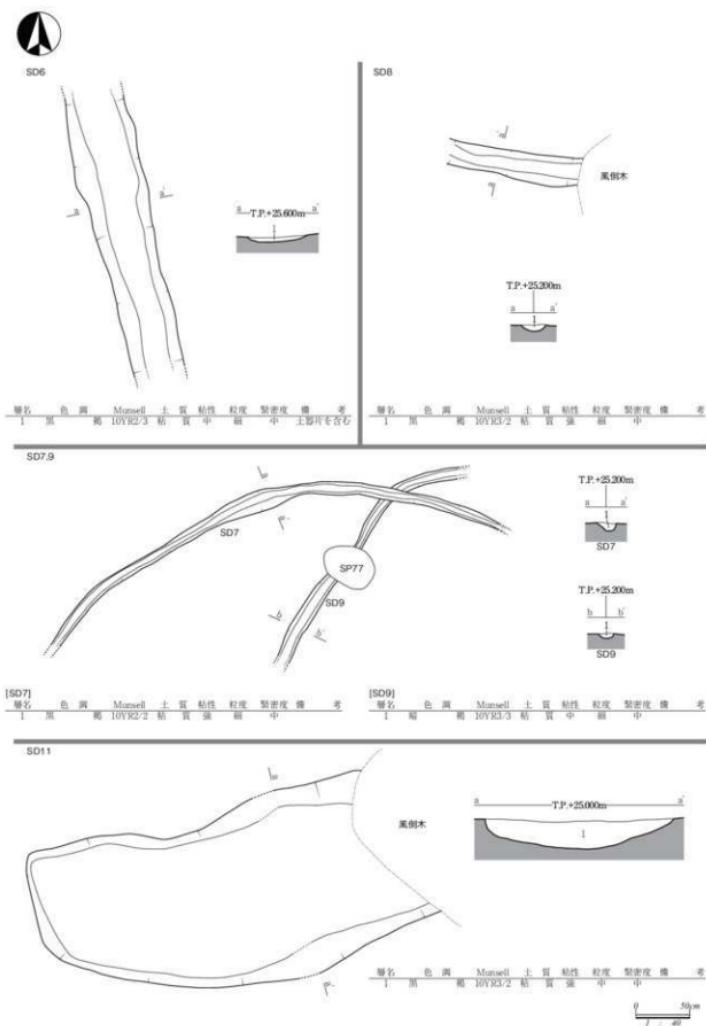


図57 SD6~9,11平面面図

中村田所遺跡の成果

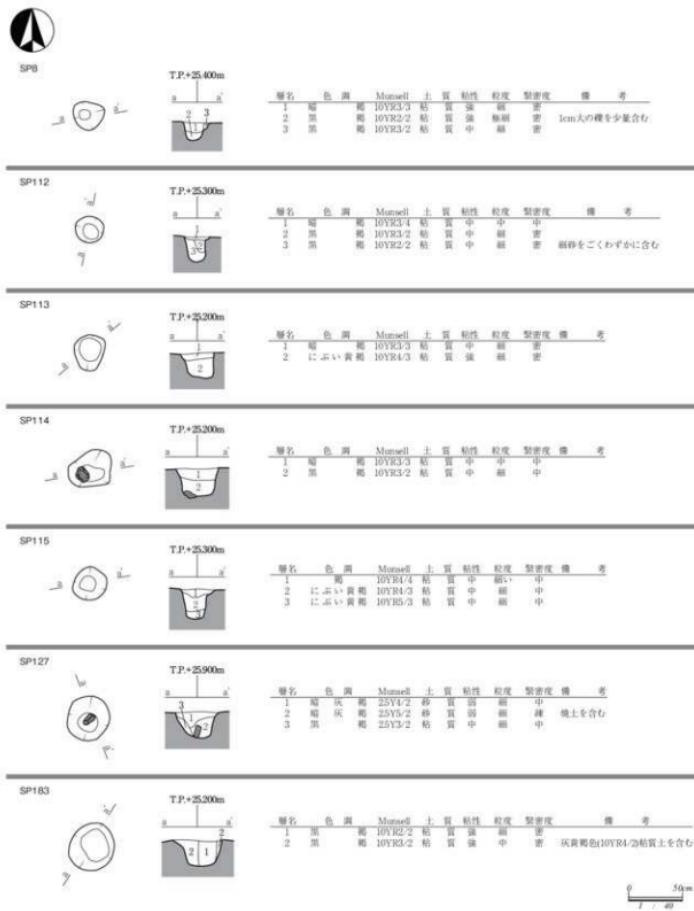


図58 SP8,112~115,127,183平面面図および遺物出土状況

と重複しており形状などは不明である。長軸157cm・短軸146cm・検出面からの深さは最深部で61cmである。断面形は逆台形状である。土層は黒褐色粘質土で遺物は出土していない。

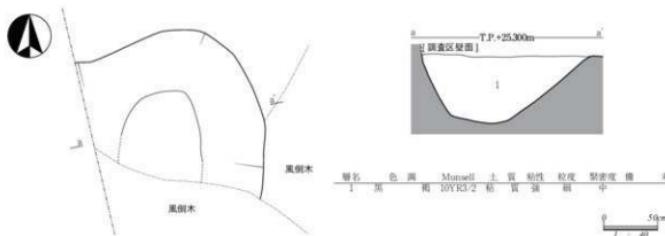


図59 SX1平面面図

第6節 時期不明の遺物(図60)

119～121は1区包含層、122は2区包含層より出土した。119は砾石で、凝灰岩の可能性がある。120・121は緑色片岩の石器素材である。122は緑色片岩製の打欠石錐である。

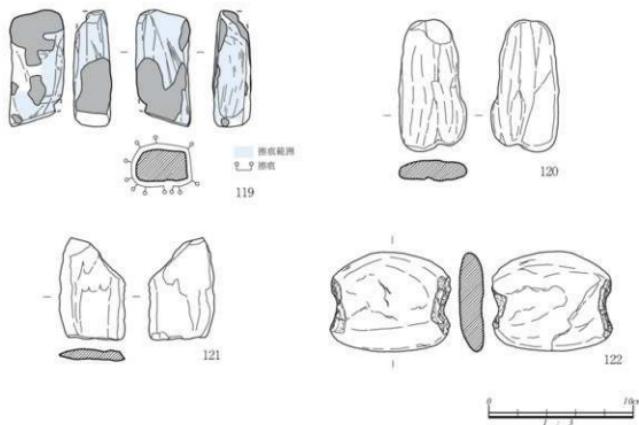


図60 包含層出土遺物(時期不明)

第7節 小結

中村田所遺跡は、縄文時代から中世の遺跡であり中心となる時期は弥生時代である。

縄文時代では土坑や小穴を検出し、縄文土器や石器が出土した。縄文土器はほとんどが細片であり詳細は不明確であるが、肥厚する口縁部付近に直線的な沈線文主体の文様帶が集中し一部に磨消縄文が見られることや、粗製土器が多い中で浅鉢では精製土器の比率が高い状況から、おおむね後期前葉頃を中心とする縁帶文土器と考えられる(山崎2003)。底部は少ないが、高台状が多い。

土坑はいずれも中央付近に土器を含む疊の集積が確認された。弥生時代の堅穴建物にも縄文土器が含まれるが、混入したものと考えられる。後世の削平も考慮する必要があるが、包含層を含めた遺物の出土状況からは調査区北半に偏る傾向がうかがえ、遺構はさらに北方向に続く可能性が高い。

弥生時代では堅穴建物群や土坑・溝・小穴を検出しており、当遺跡は集落域と考えられる。集落の主な時期は弥生時代終末期(伊予東部地域VI-1~2様式)であるとみられる(柴田2000a)。調査区西端部で壺棺墓を検出しており、試掘調査によると図3の通り地形は調査区西方へ落ち込むことから、集落の西端部を捉えている可能性があり、集落は主に北方向へ続くものと思われる。

検出された堅穴建物4棟のうち東側の3棟は埋土に焼土や炭化材を多く含んでいることから焼失建物と考えられる。柱穴内に柱が残置されたような明確な痕跡は認められず、SI2の柱穴には建物の堆積と類似する焼土や炭化物を含む堆積が見られたこと、SI4では地山ブロックを含む堆積が認められたことから、居住時の失火ではなく建物の廃棄に伴い、焼却され埋め戻された可能性が考えられる。

掘立柱建物は1区で1棟確認できたが、深い柱穴を含む1区北方に建物域が展開している可能性が考えられる。

SD13からは弥生時代中期中葉の甕(83)が出土し、1区南側からは中期の壺(86)が見つかっていることから、周辺には終末期以外の弥生時代集落も存在する可能性がある。

中世では14世紀頃と考えられる掘立柱建物が1棟出土し、柱穴祭祀関連とみられる事例が見られた。明確な遺構は確認できなかったものの、遺構外より内面黒色土器碗や瓦器碗が出土しており周辺には13世紀頃の集落が想定される。遺構や遺物の分布より、中世集落は主に南方へ続くものと考えられる。

また、遺跡の形成以前に堆積した火山灰層が2区東壁で検出され、理化学分析からは鬼界アカホヤ火山灰由来のテフラ粒子を多く含むことが指摘されている(第6章第3節参照)。同火山灰は新居浜地域であまり確認されておらず、当地における貴重な事例となる⁷⁾。

表2 主要造構一覧

種別	遺構名	平面形	長さ	幅	深さ	単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る, ←***に切られる	重複関係			複数遺物	図	図版
堅穴建物	SII	円	478.0	458.0	7.0 ~ 19.0					23 ~ 28	23	8
	SI2	方	856.0	812.0	49.0					29 ~ 48	25.26	9 ~ 11
	SI3	方	300.0	298.0	10.0 ~ 14.0					49 ~ 55	31	12
	SI4	円	956.0	908.0	24.0 ~ 32.0	→ SP226				56 ~ 60, 62 ~ 77	33.34	13 ~ 15
掘立柱建物	SB1	長方	590.0	408.0	22.0 ~ 39.0						39	16
	SB2	長方	379.0	236.5	12.0 ~ 24.0					110.111	51	17
土坑	SK1	円	152.0	146.0	52.0					1	17	18
	SK2	欠番										
	SK3	隅丸方	90.0	68.0	7.0						55	20
	SK4	欠番										
	SK5	不整形	102.0	99.0	4.0						52	20
	SK6	稍円	140.0	80.0	17.0					22	23	
	SK7	円	110.0	97.0	17.0					2	18	19
	SK8	不整形	[108.0]	[90.0]	21.0					3 ~ 6	19	19
	SK9	隅丸方	[150.0]	[117.0]	25.0					78.79	40	20
	SK10	稍円	96.0	78.0	42.0						25.26	11
土壤窓	SK11	稍円	73.0	53.0	22.0						31	
	SK12	稍円	156.0	86.0	19.0					61	33.34	15
溝	ST1	円	101.0	78.0	22.0					80 ~ 82	41	21
	SD1	直線	770.0	76.0	5.0	← SP2.3					44	22
	SD2	直線	150.0	14.0 ~ 23.0	6.0						56	22
	SD3	直線	80.0	27.0 ~ 30.0	4.0						56	
	SD4	直線	60.0	47.0	13.0						56	
	SD5	弧状	197.0	14.0 ~ 17.0	3.0						45	22
	SD6	直線	260.0	46.0 ~ 62.0	7.0						57	22
	SD7	弧状	400.0	8.0 ~ 18.0	2.0	→ SD9					57	22
	SD8	直線	240.0	22.0 ~ 29.0	3.0	← 風倒木					57	22.23
	SD9	弧状	260.0	8.0 ~ 12.0	3.0	→ SD7 · SP7.7					57	22
	SD10	直線	750.0	100.0	40.0	→ 風倒木					46	22.23
	SD11	直線	330.0	170.0	30.0	← 風倒木					57	22.23
	SD12	直線	230.0	27.0	14.0						46	22.23
	SD13	弧状	2385.0	26.0 ~ 57.0	14.0					83	46	22.23
	SD14	弧状	450.0	11.0 ~ 27.0	3.0 ~ 16.0						23	
	SD15	方	540.0	9.0 ~ 21.0	3.0						31	
性格不明	SX1	不整形	[184.0]	[126.0]	63.0	← 風倒木					59	24

（主要造構一覧）

表3 柱穴一覧

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	(1/5)		
											(**)復元値	(***)残存値	→***を切る、←**に切られる
SP1	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	強	細	密	36.0	36.0	16.0	→SD1			
SP2	円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	強	細	密	38.0	36.0	16.0	→SD1			
SP3	円	暗オリーブ褐色(25Y3-3)	粘質	弱	中	中	30.0	30.0	12.0	→SD1			
SP4	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	33.0	28.0	14.0	→SP11			
SP5	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	46.0	31.0	10.0				
SP6	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	27.0	22.0	6.0				
SP7	椭円	黒褐色(10YR2-3)	粘質	強	細	中	33.0	25.0	14.0				
SP8	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	強	細	密	28.0	26.0	16.0		1cm大の縦を少 量含む	58	23
SP9	椭円	黒褐色(10YR3-2)	砂質	中	細	中	40.0	23.0	8.0				
SP10	円	にふい 黄褐色(10YR4-3)	砂質	中	細	中	48.0	42.0	5.0				
SP11	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	36.0	20.0	10.0	→SP4			
SP12	円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	密	21.0	16.0	15.0				
SP13	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	27.0	22.0	6.0				
SP14	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	33.0				
SP15	不整	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	密	50.0	30.0	12.0				
SP16	円	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	中	細	中	27.0	25.0	12.0				
SP17	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	極細	中	29.0	26.0	12.0				
SP18	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	9.0				
SP19	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	32.0	25.0	19.0				
SP20	不整	にふい 黄褐色(10YR4-3)	粘質	中	細	中	33.0	27.0	8.0				
SP21	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	極細	中	37.0	37.0	10.0				
SP22	椭円	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	中	細	中	55.0	37.0	7.0				
SP23	椭円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	57.0	43.0	22.0				
SP24	不整	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	30.0	26.0	26.0				
SP25	椭円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	強	細	中	33.0	25.0	21.0				
SP26	不整	にふい 黄褐色(10YR4-3)	粘質	中	細	中	50.0	44.0	10.0				
SP27	椭円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	45.0	37.0	20.0				
SP28	円	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	中	細	中	43.0	39.0	10.0				
SP29	椭円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	強	中	中	70.0	54.0	23.0		土器を含む		
SP30	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	22.0	22.0	17.0				
SP31	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	30.0	28.0	16.0		土器を含む		
SP32	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	42.0	26.0	12.0				
SP33	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	強	細	中	32.0	31.0	19.0				
SP34	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	43.0	30.0	14.0				
SP35	椭円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	強	細	中	35.0	25.0	20.0				
SP36	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	14.0				
SP37	円	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	中	細	中	30.0	26.0	32.0				
SP38	円	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	強	細	中	17.0	17.0	19.0				
SP39	椭円	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	強	細	中	39.0	21.0	50				
SP40	椭円	にふい 黄褐色(10YR4-3)	粘質	中	細	中	42.0	25.0	13.0				
SP41	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	29.0	26.0	17.0				
SP42	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	20.0	16.0	16.0				
SP43	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	極細	中	31.0	27.0	14.0				
SP44	不整	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	69.0	40.0	26.0		根攢乱?		
SP45	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	31.0	28.0	4.0				
SP46	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	24.0	23.0	19.0				
SP47	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	40.0	28.0	6.0				
SP48	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	33.0	25.0	17.0				
SP49	円	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	強	細	中	28.0	27.0	17.0				
SP50	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	42.0	34.0	8.0				
SP51	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	31.0	25.0	12.0				
SP52	方	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	強	細	中	42.0	40.0	5.0				
SP53	椭円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	強	細	中	57.0	33.0	8.0				
SP54	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	31.0	26.0	10.0				
SP55	円?	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	68.0	[36.0]	10.0	→SP100			
SP56	不整	黒褐色(10YR3-1)	粘質	中	細	中	33.0	24.0	9.0				
SP57	椭円	黒褐色(10YR3-1)	粘質	中	細	中	25.0	18.0	12.0				
SP58	椭円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	強	細	中	33.0	23.0	10.0				
SP59	円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	中	26.0	27.0	10.0				
SP60	椭円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	中	34.0	25.0	12.0				
SP61	椭円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	[24.0]	25.0	6.0				
SP62	不整	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	35.0	21.0	14.0		根攢乱?		

(柱穴一覧)

測定名	平面形	検出面埋土色調	土質		粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	(2/5)		
			粘質	強									
SP63	椭円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	74.0	62.0	11.0				
SP64	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	21.0	20.0	25.0				
SP65	方	黒褐色10YR2/2)	粘質	強	細	中	77.0	69.0	7.0				
SP66	円	黒褐色10YR2/2)	粘質	強	細	中	18.0	16.0	10.0				
SP67	円	にぶい 黒褐色10YR4/3)	粘質	強	細	中	22.0	18.0	8.0				
SP68	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	19.0	9.0				
SP69	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	21.0	20.0	25.0				
SP70	円	暗褐色10YR3/3)	粘質	強	細	中	19.0	18.0	17.0				
SP71	椭円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	53.0	39.0	13.0				
SP72	円	暗褐色10YR3/3)	粘質	中	細	中	46.0	41.0	13.0				
SP73	椭円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	52.0	35.0	18.0				
SP74	方	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	18.0	13.0				
SP75	円	暗褐色10YR3/3)	粘質	強	細	中	38.0	38.0	14.0				
SP76	円	黒褐色10YR2/2)	粘質	強	細	中	33.0	33.0	20.0				
SP77	椭円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	50.0	37.0	9.0	→SD9			
SP78	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	20.0	17.0	12.0				
SP79	円	灰黒褐色10YR4/2)	粘質	強	細	中	24.0	21.0	26.0				
SP80	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	中	細	密	25.0	22.0	14.0				
SP81	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	32.0	9.0				
SP82	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	26.0	11.0				
SP83	円	黒褐色10YR2/3)	粘質	強	細	中	21.0	21.0	11.0				
SP84	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	26.0	12.0				
SP85	円	黒褐色10YR2/3)	粘質	強	細	中	31.0	29.0	13.0				
SP86	円	黒褐色10YR2/2)	粘質	強	細	中	27.0	25.0	7.0				
SP87	方	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	41.0	38.0	16.0				
SP88	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	16.0	16.0				
SP89	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	中	細	中	78.0	72.0	18.0				
SP90	椭円	黒褐色10YR2/2)	粘質	中	細	中	41.0	30.0	8.0				
SP91	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	20.0	20.0	12.0				
SP92	円	黒褐色10YR2/2)	粘質	強	細	中	24.0	20.0	13.0	→風倒木			
SP93	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	23.0	11.0				
SP94	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	32.0	25.0				
SP95	椭円?	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	63.0	[50.0]	22.0				
SP96	椭円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	25.0	24.0				
SP97	椭円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	27.0	20.0	10.0				
SP98	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	27.0	21.0	24.0				
SP99	円	黒褐色10YR3/1)	粘質	強	細	中	40.0	37.0	9.0				
SP100	椭円?	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	40.0	40.0	8.0	←SP55			
SP101	方	黒褐色10YR3/2)	粘質	中	細	中	53.0	42.0	12.0				
SP102	方?	黒褐色10YR3/2)	粘質	中	細	中	[30.0]	[11.0]	12.0				
SP103	円	黒褐色10YR3/2)	紗質	強	細	密	41.0	36.0	8.0				
SP104	椭円	暗褐色10YR3/3)	粘質	中	細	密	34.0	25.0	16.0				
SP105	円	暗褐色10YR3/3)	粘質	強	細	密	34.0	29.0	12.0				
SP106	椭円	黒褐色10YR3/2)	粘質	強	細	中	47.0	33.0	10.0				
SP107	円	黒褐色10YR2/3)	粘質	強	細	密	35.0	30.0	27.0				
SP108	椭円	暗褐色10YR3/3)	粘質	中	細	中	45.0	28.0	7.0				
SP109	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	35.0	10.0				
SP110	円	黒褐色10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	22.0	8.0				
SP111	椭円	黒褐色10YR2/2)	粘質	中	細	中	57.0	35.0	10.0				
SP112	円	暗褐色10YR3/4)	粘質	中	中	中	26.0	25.0	23.0	紗質をこくわす かに含む	58	23	
SP113	円	暗褐色10YR3/3)	粘質	中	細	密	34.0	27.0	30.0		58	24	
SP114	椭円	暗褐色10YR3/3)	粘質	中	中	中	42.0	35.0	18.0		58		
SP115	円	褐(10YR4/4)	粘質	中	細	中	33.0	30.0	28.0		58		
SP116	椭円	暗褐色10YR3/3)	粘質	強	細	中	50.0	40.0	19.0				
SP117	椭円	黒褐色10YR3/2)	紗質	強	細	中	66.0	55.0	19.0	→風倒木			
SP118	円	黒褐色2.5Y3'2)	粘質	中	中	中	32.0	30.0	12.0	炭化物をわすか に含む			
SP119	円	暗褐色10YR3/3)	粘質	弱	細	中	35.0	30.0	10.0	土器を含む			
SP120	円	暗灰黒(2.5Y4/2)	紗質	弱	細	中	29.0	27.0	22.0				

〈柱穴一覧〉

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	(3/5)		
											単位:cm	復元値	残存値
SP121	楕円	黄灰(2SY4/1)	粘質	中	細	中	26.0	19.0	10.0				土器、細砂を少量含む
SP122	円	黄灰(2SY4/1)	砂質	弱	細	中	24.0	20.0	8.0				
SP123	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	中	84.0	61.0	19.0					黄褐色(2SY5/4) 砂質土をわずかに含む
SP124	楕円	暗灰黄(2SY4/2)	砂質	弱	細	中	22.0	16.0	9.0				
SP125	円	暗灰黄(2SY4/2)	砂質	弱	細	中	28.0	25.0	15.0				
SP126	円	暗灰黄(2SY4/2)	砂質	弱	細	中	31.0	28.0	10.0				
SP127	円	暗灰黄2SY4/2	砂質	弱	細	中	40.0	38.0	23.0				土器、焼土を含む 58
SP128	円	オリーブ褐色(2SY4/3)	粘質	弱	細	中	26.0	20.0	20.0				土器を含む。炭化物をわずかに含む
SP129	円	暗灰黄(2SY4/2)	砂質	弱	細	中	28.0	28.0	17.0				
SP130	円	暗灰黄(2SY4/2)	砂質	弱	細	中	20.0	19.0	11.0				焼土をわずかに含む
SP131	円	暗灰黄(2SY4/2)	砂質	弱	細	中	31.0	29.0	8.0				土器を含む
SP132	楕円	暗灰黄(2SY4/2)	砂質	弱	細	中	31.0	23.0	14.0				黄灰色(2SY4/1) 細砂を少含む
SP133	円	黒褐色(2SY3/2)	砂質	強	細	密	24.0	20.0	11.0				
SP134	円	黒褐色(2SY3/2)	粘質	強	細	密	35.0	31.0	18.0				
SP135	不整	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	41.0	29.0	7.0				
SP136	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	24.0	19.0	14.0				
SP137	円	灰黃褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	23.0	20.0	9.0				
SP138	不整	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	30.0	24.0	7.0				
SP139	円?	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	56.0	[24.0]	7.0				
SP140	円	灰黃褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	20.0	20.0	23.0				土器を含む 47 24
SP141	楕円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	33.0	23.0	40.0				
SP142	円	黑褐色(2SY3/2)	粘質	強	極細	密	47.0	46.0	23.0			84.85	47 24
SP143	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	30.0	29.0	35.0				
SP144	円	黑褐色(2SY3/2)	粘質	弱	シルト	細密	25.0	[10.0]	37.0				13 24
SP145	円	灰黃褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	32.0	28.0	8.0	→SP147			
SP146	不整	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	27.0	22.0	17.0				
SP147	-	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	[23.0]	20.0	9.0	→SP145			
SP148	円	黑褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	27.0	22.0	6.0				
SP149	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	20.0	18.0	28.0				黄褐色 (10YR4/3)粘質 土ブロックを含む
SP150	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	27.0	23.0	8.0				
SP151	不整	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	強	細	密	43.0	23.0	8.0				
SP152	楕円	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	強	細	密	32.0	28.0	13.0				
SP153	楕円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	密	19.0	17.0	22.0				
SP154	楕円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	密	44.0	35.0	24.0				
SP155	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	31.0	27.0	10.0				
SP156	不整	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	35.0	27.0	17.0				
SP157	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	27.0	23.0	33.0				
SP158	隅丸方形	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	59.0	30.0	12.0				
SP159	不整	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	44.0	43.0	12.0				
SP160	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	20.0	20.0				
SP161	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	密	18.0	17.0	13.0				
SP162	楕円	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	強	細	密	27.0	22.0	15.0				
SP163	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	26.0	24.0	14.0				
SP164	楕円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	密	23.0	19.0	12.0				
SP165	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	30.0	24.0	30.0				
SP166	楕円	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	強	細	密	28.0	20.0	8.0				
SP167	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	22.0	12.0		SII		23
SP168	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	25.0	13.0		SII		23
SP169	円	灰黃褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	55.0	46.0	22.0		SB1		39 16
SP170	隅丸方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	46.0	36.0	35.0		SB1		39
SP171	円	灰黃褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	35.0	31.0	28.0		SB1		39 16
SP172	円	灰黃褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	24.0	21.0	39.0		SB1		39

(柱穴一覧)

(4/5) 単位:cm (*)復元値 [*] 残存値 →“”を切る、←“”に切られる

測査名	平面形	稼出面埋土色調	土質	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複間隔	備考	回	固
SP173	隅丸方	黒褐色10YR2/3	粘質	強	細	中	48.0	41.0	24.0	SB1	39	
SP174	隅丸方	黒褐色10YR2/3	粘質	強	細	中	(49.0)	35.0	25.0	SB1	39	16
SP175	円	黒褐色10YR2/3	粘質	強	細	中	35.0	34.0	22.0	SB1	39	
SP176	円	黒褐色10YR2/3	粘質	強	細	中	42.0	35.0	23.0	SB1	39	
SP177	円	暗灰黄(25Y4/2)	砂質	弱	細	中	49.0	42.0	22.0	SB2	51	17
SP178	円	暗灰黄(25Y4/2)	砂質	弱	細	中	33.0	30.0	12.0	SB2	51	
SP179	円	暗灰黄(25Y4/2)	砂質	弱	細	中	44.0	42.0	19.0	SB2	51	
SP180	円	暗灰黄(25Y4/2)	砂質	弱	細	中	35.0	32.0	15.0	SB2	51	
SP181	円	暗灰黄(25Y4/2)	砂質	弱	細	中	41.0	34.0	24.0	SB2	51	17
SP182	円	暗灰黄(25Y4/2)	砂質	弱	細	中	41.0	39.0	21.0	SB2 / 腐化物を少量含む	51	17
SP183	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	密	45.0	41.0	23.0		58	24
SP184	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	密	29.0	28.0	46.0	腐化物を含む		
SP185	椭円	暗褐10YR3/3	砂質	中	細	密	32.0	25.0	14.0			
SP186	円	灰黃褐色10YR4/2	砂質	中	シルト	中	25.0	24.0	32.0			
SP187	円	灰黃褐色10YR4/2	粘質	中	細	中	28.0	24.0	18.0			
SP188	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	22.0	19.0	20.0			
SP189	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	25.0	22.0	8.0			
SP190	椭円	黒褐色10YR3/2	砂質	強	細	中	60.0	24.0	17.0			
SP191	円	灰黃褐色10YR4/2	粘質	強	シルト	中	28.0	24.0	14.0	7	20	27
SP192	円	黒褐色2Y3/2	粘質	中	中	中	32.0	27.0	9.0			
SP193	椭円	黒褐色2Y3/2	粘質	中	細	密	31.0	21.0	40.0			
SP194	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	密	30.0	29.0	14.0			
SP195	椭円	灰黃褐色10YR4/2	粘質	中	細	中	25.0	19.0	17.0			
SP196	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	シルト	密	16.0	13.0	7.0			
SP197	円	暗褐10YR3/3	粘質	中	中	中	26.0	21.0	20.0			
SP198	円	にぶい灰褐色10YR4/2	粘質	中	細	中	22.0	18.0	25.0			
SP199	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	密	18.0	15.0	10.0			
SP200	不整	黒褐色10YR2/2	粘質	中	中	中	31.0	19.0	9.0			
SP201	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	21.0	21.0	21.0			
SP202	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	23.0	20.0	10.0			
SP203	方	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	25.0	20.0	11.0			
SP204	円	暗褐10YR3/3	粘質	中	細	中	30.0	23.0	17.0			
SP205	円	暗褐10YR3/3	粘質	強	細	中	41.0	33.0	20.0			
SP206	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	33.0	31.0	15.0			
SP207	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	26.0	23.0	13.0			
SP208	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	28.0	23.0	18.0			
SP209	円?	黒褐色10YR2/2	砂質	強	細	中	59.0	31.0	11.0			
SP210	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	43.0	35.0	23.0			
SP211	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	30.0	30.0	15.0			
SP212	円	灰オーラー(75Y4/2)	粘質	中	細	中	33.0	29.0	24.0			
SP213	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	27.0	25.0	17.0			
SP214	椭円	黒褐色10YR3/1	粘質	強	細	中	55.0	41.0	21.0			
SP215	円	黒褐色10YR3/1	粘質	強	細	中	26.0	24.0	22.0			
SP216	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	28.0	24.0	20.0			
SP217	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	中	中	41.0	35.0	15.0			
SP218	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	34.0	32.0	16.0			
SP219	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	27.0	25.0	15.0			
SP220	椭円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	48.0	37.0	25.0	暗褐色(10YR3/4)粘質土を含む		
SP221	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	密	32.0	27.0	14.0			
SP222	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	密	24.0	21.0	7.0			
SP223	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	43.0	34.0	30.0			
SP224	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	25.0	24.0	12.0			
SP225	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	24.0	22.0	13.0			
SP226	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	密	112.0	86.0	54.0	←Si4		
SP227	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	34.0	30.0	10.0			
SP228	不整	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	88.0	47.0	28.0	暗灰黄色(25Y4/2)粘質土を含む		
SP229	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	33.0	22.0	9.0			
SP230	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	26.0	16.0	11.0			

《柱穴一覧》

中村田所遺跡の成果

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	(5/5)	
											→***を切る、←***に切られる	備考
SP231	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	17.0	8.0			
SP232	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	37.0	30.0	9.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む	
SP233	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	32.0	25.0	13.0			
SP234	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	18.0	18.0	7.0			
SP235	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	22.0	19.0			
SP236	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	密	27.0	23.0	39.0	1~2cm程度の暗褐色(10YR3/3)粘質土ブロックを含む	47	24
SP237	円	灰(5YR4/1)	粘土	強	極細	極密	54.0	46.0	48.0	SI2 / 焼土塊・炭化物を含む	25,	26
SP238	円	黒褐色(7.5YR2/2)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	29.0	SI2	25,	26
SP239	方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	密	42.0	38.0	24.0	SI2	25,	11
SP240	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	密	56.0	50.0	47.0	SI2 / 多量の焼土・少量の炭化物を含む	25,	26
SP241	円	黒褐色(10YR3/1)	粘質	強	細	中	24.0	23.0	15.0	SI3	31	
SP242	円	灰黒褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	22.0	21.0	14.0	SI3	31	
SP243	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	密	32.0	30.0	31.0	SI4 / 焼土・炭化物を含む	33,	34
SP244	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	28.0	31.0	SI4 / 焼土・炭化物を含む	33,	15
SP245	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	38.0	33.0	9.0	SI4	33,	
SP246	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	28.0	36.0	SI4 / 焼土・炭化物を含む	33,	15
SP247	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	24.0	22.0	SI4 / 炭化物を含む	33,	
SP248	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	18.0	19.0	SI4 / 焼土・炭化物を含む	33,	
SP249	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	27.0	26.0	25.0	SI4	33,	
SP250	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	強	細	中	16.0	16.0	30.0	SI4	33,	

〈柱穴一覧〉

表4 掘載遺物一覧

(1/3)

番号	種別	器種	出土情報	法重	外側色調 内側色調	調整	備考	回 層
1	陶土器	鉢	SK1 H3.8	2.5V4.2 7.5V4.2	小焼窯 ミサキ			17 27
2	陶土器	鉢	SK7 H0.9	10Y8.6-2 10Y8.6-2	α貝殻条痕 ベイコウ			18 27
3	陶土器	鉢	SK8 H3.7	7.5V8.6-4 10Y8.2-1	α焼窯 アカヒヤク			19 27
4	陶土器	鉢	SK8 H4.3	10Y8.6-2 10Y8.5-2	α貝殻 ベイコウ			19 27
5	陶土器	鉢	SK8 H4.11	2.5V4.2 2.5V3.1	α貝殻条痕 ベイコウ	口縁部外側削目		19 27
6	石器	石錐	L128 W7.2 T1.7			褐色片岩		19 27
7	陶土器	鉢	SP191 H3.1	7.5V8.4-3 2.5V3.3	α焼窯 アカヒヤク			20 27
8	陶土器	鉢	包含物H区 H6.11	3.5V8.6-6 SY8.6-4	α焼窯 アカヒヤク			21 27
9	陶土器	鉢	包含物H区 H4.3	7.5V8.4-3 7.5V8.5-4	α焼窯 アカヒヤク			21 27
10	陶土器	鉢	包含物H区 H4.3	7.5V8.4-3 7.5V8.5-6	α貝殻条痕 ベイコウ			21 27
11	陶土器	鉢	包含物H区 H3.3	2.5V3.2 2.5V3.2	α貝殻条痕			21 27
12	陶土器	鉢	包含物H区 H3.8	2.5V3.1 2.5V3.1	α貝殻条痕			21 27
13	陶土器	鉢	包含物H区 L0.15.8 H1.7	10Y8.8-3 10Y8.9-1	α贝 ベイコウ	口縁部沈痕、削目		21 27
14	陶土器	鉢	包含物H区 H6.01	SY8.4-4 7.5V8.4-4	α焼窯 アカヒヤク			21 27
15	陶土器	鉢	包含物H区 H4.3	10Y8.5-3 10Y8.5-2	α焼窯 アカヒヤク			21 27
16	陶土器	鉢	包含物H区 H2.21	10Y8.5-4 10Y8.6-2	α焼窯 アカヒヤク			21 28
17	陶土器	鉢	包含物H区 H2.21	10Y8.6-2 10Y8.6-4	α焼窯 アカヒヤク			21 28
18	陶土器	鉢	包含物H区 H3.21	2.5V3.3 2.5V3.2	α燒 ベイヒヤク			21 28
19	陶土器	鉢	包含物H区 H3.8	2.5V8.5-3 2.5V8.5-2	α貝殻条痕 ベイコウ			21 28
20	陶土器	鉢	包含物H区 H2.21	10Y8.4-2 10Y8.1-1	焼窯により不明 焼成により不明			21 28
21	陶土器	鉢	H6.21	10Y8.5-3 10Y8.4-1	α焼窯 アカヒヤク			22 28
22	陶土器	甕	S806S1b TR03.6 H15.06	7.5V8.6-6 10Y8.4-4	αタテキ・ハケ・ナデ タテキ・ハケ			24 28
23	陶土器	甕	S11 TR5.4 H14.08	10Y8.8-4 10Y8.9-4	αタテキ・ナデ ナデ			24 28
24	陶土器	甕	S11 TR9.7 L10.30 H15.7	7.5V7.6-6 7.5V7.6-6	αナデ ナデ・板子			24 28
25	陶土器	甕又は鉢	S11 LR5.0 H17.11	10Y8.8-6 2.5V8.9-4	αタテキ			24 28
26	工具等材	不明	S11 L10.5 W5.6 T0.9			褐色片岩		24 28
27	工具等材	刷毛	S11 U4.2 W2.5 T0.5					24 28
28	陶土器	鉢	S11 LR10.9 H9.01	7.5V7.4-4 7.5V7.4	αナデ ナデ			24 28
29	陶土器	甕又は鉢	S2 TR22.9 LR8.0 H0.05	10Y8.4-1 10Y3.2-1	αタテ・タタキ・ハケ 板子・ハケ			27 29
30	陶土器	甕	S2 TR33.9 LR2.27 H0.1	2.5V8.5-6 2.5V8.5-2	αタテキ・ハケ 板子・ハケ			27 28
31	陶土器	甕	S2 TR14.2 LR3.4 H2.17	2.5V8.5-4 2.5V8.5-4	αタテキ・ハケ 板子・ハケ			27 29
32	陶土器	甕	S2 TR32 LR2.30 H1.54	10Y8.7-4 10Y8.7-3	αタテ・タタキ・ハケ 板子・ナデ・ハケ			28 29
33	陶土器	甕	S2 LR2.3 H1.33	7.5V8.6-6 7.5V8.6-4	αタテ・タタキ・ハケ 板子・ハケ			28 28
34	陶土器	鉢	S2 TR07.9 H11.2	7.5V6-3 7.5V8.5-1	αタテ・タタキ・ハケ・ミガキ ナデ・ハケ・ミガキ			28 28
35	陶土器	鉢	S2 TR09.8 H6.21	2.5V7.2-1 2.5V4.1-1	αナデ・サエ ナデ・ハケ			28 28
36	陶土器	鉢	S2 TR23.2 H6.6	2.5V8.6-6 2.5V8.6-6	αナデ・ハケ ナデ・ハケ・ミガキ			28 29
37	陶土器	鉢	S2 TR18.9 LR1.5 H1.13	5Y 87-6 5Y 87-6	αナデ・タタキ ナデ・ハケ			28 29
38	陶土器	鉢	S2 TR15.2 LR2.3 H2.1	5Y 86-4 7.5V87.3	αナデ・板子 ナデ・ハケ			28 29
39	陶土器	鉢	S2 TR11.8 LR0.0 H5.5	10Y8.5-3 10Y8.5-2	αタテ・タタキ ナデ・ハケ			28 29
40	陶土器	鉢	S2 TR12.5 LR0.0 H4.5	2.5V8.4-4 2.5V8.4	αナデ・サエ・ナデ ナデ			28 29
41	陶土器	不明	S2 LR4.4 H2.01	10Y8.5-2 10Y8.5-2	αナデ・サエ・ナデ 板子			28 29
42	陶土器	高杯	TR08.9 H1.71	10Y87.4 2.5V8.3	αナデ ナデ	口縁部斜点		29 29
43	石器	石棒	S2 U4.6 W5.8 T0.5			褐色片岩		29 29

<掲載遺物一覧>

中村田所遺跡の成果

(2/3)

番号	種別	器種	出土標本	遺 量	外側色調 内側色調	調 整	備 考	固 度	固 度
44	G型	扁平	SII	L85.9 W15.0 H16.0	7.5YR6-4	α調文	成段G	20	20
45	G型	扁平	SII	L.017 W10.0 H7.0	7.5YR6-3	α+テキ・ハケ	砂質	20	20
46	G型	石瓶又は台石	SII	L.427 W33.3 H7.0	7.5YR6-3	α+テキ・ハケ	緑色片岩	30	30
47	ガラス製品	ガラス玉	SII	L.55.8 H10.0 H10.0	7.5YR6-4	α+テキ・ハケ	外面・水色	30	29
48	礪文土器	鉢	SII	H1.8	7.5YR6-4	α調文		30	29
49	陶生土器	甕	SII	TR013.0 H45.7	10YR6-3	α+テキ・ハケ		32	29
50	陶生土器	甕	SII	H8.9	7.5YR6-4	α+テキ・ハケ	調蛭系	32	29
51	陶生土器	甕又は壺	SII	L.87.0 H12.4 H63.0	8YR4-4	α+テキ・ハケ		32	30
52	陶生土器	鉢	SII	TR13.8 H7.1	7.5YR5-4	α+ハケ		32	30
53	陶生土器	鉢	SII	L.85.4 H9.0	7.5YR6-4	α+テキ・ハケ		32	30
54	陶生土器	鉢	SII	TR06.0 L.01.2 H3.0	10YR6-4	α+テキ・板ナデ	ミニチュア?	32	30
55	陶生土器	鉢	SII	H4.5	10YR6-3	α+テキ		32	30
56	陶生土器	甕	SII	NIR0.2 H3.7	7.5YR4-3	α+ハケ	調蛭系	35	30
57	陶生土器	甕	SII	TR16.0 H416.0	8YR6-6	α+テキ・ハケ		35	30
58	陶生土器	甕	SII	H10.4	10YR5-2	α+テキ・ハケ		35	31
59	陶生土器	甕	SII	TR15.2 H23.0	7.5YR5-2	α+テキ・ハケ		35	31
60	陶生土器	甕	SII	TR17.9 H22.7	7.5YR5-4	α+ハ		35	31
61	陶生土器	甕	SII	TR15.8 H11.5	7.5YR4-3	α+テ	調蛭系	35	31
62	陶生土器	甕又は壺	SII	L.85.6 H19.0	10YR7-7	α+テキ・ハケ		36	30
63	陶生土器	鉢	SII	TR14.6 H8.2	10YR8-3	α+テキ・タタキ		36	31
64	陶生土器	鉢	SII	TR11.2 H5.1	7.5YR4-6	α+テキ		36	31
65	陶生土器	鉢	SII	TR01.2 H4.4	7.5YR6-4	α+テキ・サリ・板ナデ・タタキ		36	31
66	陶生土器	高杯	SII	H32.0	8YR2/6	α+テ		36	31
67	石器	G端丁	SII	L.48 W107 T09	7.5YR6-4	α調文	緑色片岩	36	31
68	石器	スクレーパー	SII	L.11.1 W4.4 T1.1	10YR3-1	α+テキ	緑色片岩	36	31
69	石器	磨石・磨石頭	SII	L.17.2 W1.2 H2.6	10YR4-6	α+テキ	緑色片岩	36	31
70	石器	磨石	SII	L.4.6 W4.6 H1.1	10YR4-6	α+テキ	モルタル	36	31
71	石器	台石	SII	L.26.0 W30.4 H7.8	10YR4-6	α+テキ	緑色片岩	37	32
72	石器	台石	SII	L.31.1 W22.0 H7.5	10YR4-6	α+テキ	緑色片岩	37	32
73	石器	不明	SII	L.9.1 W4.7 H1.4	10YR6-3	α+テキ	緑色片岩	38	31
74	石器	不明	SII	L.10.8 W4.3 H1.0	10YR6-3	α+テキ	緑色片岩	38	31
75	鳥類骨	不明	SII	L.48 W25 T06	10YR6-3	α+テキ	緑色片岩	38	31
76	礪文土器	鉢	SII	H4.2	7.5YR5-4	α調文		38	31
77	礪文土器	鉢	SII	H3.1	10YR3-1	α+テキ		38	32
78	陶生土器	甕	SII	TR13.6 H15.0	5YR2/6	α+テキ・サリ・ナデ・タタキ		40	31
79	陶生土器	甕	SII	H7.7	7.5YR8-4	α+テキ・タタキ・ハケ		40	32
80	陶生土器	甕	STI	TR02.9 HNR14.8 H18.0	7.5YR7-6	α+テキ・板ナデ・ハ	口縁部外側・山形文 内側外縁付突起部	42	33
81	陶生土器	甕	STI	TR16.7 HNR13.9 H14.8	10YR7-4	α+テキ・タタキ・ハケ・ミガキ	口縁部外側・山形文 内側外縁付突起部	43	33
82	陶生土器	甕	STI	L.86.5 H14.9	7.5YR7-6	α+テキ・タタキ・ハケ・ミガキ	口縁部外側・山形文 内側外縁付突起部	43	33
83	陶生土器	甕	SD13	H10.9	5YR6-4	α+テキ・ミガキ		46	32
84	陶生土器	鉢	SP142	TR16.8 H16.5	5YR6-6	α+テキ		47	32
85	石器	不明	SP142	L.7.1 W3.8 T2.4	5YR6-6	α+テキ	泥質片岩・石棒の 可能性	47	32
86	陶生土器	甕	包含層(II)	TR010 H15.0	10YR8-3	α+テキ	口縫内面貼付突起	48	32
87	陶生土器	甕	包含層(II)	TR010.0 H15.0	7.5YR6-6	α+テキ・ハケ		48	32
88	陶生土器	甕	包含層(II)	TR22.0 H15.0	9YR6-6	α+テキ・板ナデ		48	32
89	陶生土器	甕	包含層(II)	TR10.8 H14.9	7.5YR6-6	α+テキにより不明		48	32
					7.5YR6-6	α+テキにより不明			

〈掲載遺物一覧〉

(3/3)

番号	種別	器種	出土情報	法重	外見色調 内見色調	調整	備考	回	回数
90	陶土器	壺	包含物1区	TR017.8 HI271	7.5V94.1 7.5V94.4	αナデ +ナデ		48	32
91	陶土器	壺	包含物1区	HI47	7.5V95.4	αナデ +ナデ	丁縫縫底剥目	48	32
92	陶土器	壺	包含物1区	LB02.2 HI72	7.5V94.2 7.5V95.6	αナデ・タタキ・ハケ +ナデ		48	34
93	陶土器	壺	包含物1区	LB02.3 HI94	10V95.3 10V96.2	αナデ・タタキ・ハケ +ナデ		48	34
94	陶土器	壺	包含物1区	LB03.9 HI25	10V93.1 10V94.2	αナデ +ナデ		48	32
95	陶土器	壺又は壺	包含物1区	LB2.5 HI168	7.5V94.1 7.5V97.4	αナデ・タタキ・ハケ +ナデ・+ナデ・+ゼキ		49	34
96	陶土器	鉢	包含物1区	TR05.8 HI10.2	7.5V95.4 7.5V97.4	αナデ・ハケ +ナデ・ハケ・+ゼキ		49	34
97	陶土器	鉢	包含物1区	HI60	5V96.4 5V98.4	αナデ・板ナデ +ナデ・板ナデ		49	34
98	陶土器	豆	包含物2区	HI1.6	10V95.2 10V96.1	αナデ・ハケ +ナデ		49	34
99	陶土器	豆	包含物2区	HI2.9	10V97.4 10V97.4	αナデ +ナデ	洞部上より不明	49	34
100	陶土器	壺	包含物2区	TR017.2 HI146	7.5V96.3 7.5V96.4	αナデ・ササ・ナナ・タタキ・ハケ +ナデ		49	34
101	陶土器	壺	包含物2区	TR017.9 HI32	7.5V97.6 7.5V97.6	αナデにより不明 +ナデにより不明		49	34
102	陶土器	壺	包含物2区	TR014.9 HI6.6	7.5V95.4 7.5V95.4	αナデ +ナデ・ナナ	調査系	49	34
103	陶土器	壺	包含物2区	HI6.2	7.5V95.4 7.5V95.4	αナデ +ナデ・ナナ	調査系	50	34
104	陶土器	壺	包含物2区	LB02.7 HI23	7.5V95.4 7.5V95.4	αナデ +ナデ	調査系	50	34
105	陶土器	鉢	包含物2区	TR02.5 TR013.0 HI4.3	7.5V96.6 7.5V97.6	αナデ・ハケ +ナデ	底部焼成前穿孔	50	34
106	陶土器	鉢	包含物2区	TR03.6 TR020.6 HI6.0	10V95.2 10V96.4	αナデ・ハケ +ナデ		50	35
107	陶土器	高杯	包含物2区	HI9.1	5V97.4 2.5V96.6	αナデ・板ナデ・タタキ +板ナデ・シザリ痕		50	34
108	陶土器	高杯	包含物2区	HI1.9	5V97.4 5V98.4	αナデ +ナデ・板ナデ		50	34
109	陶土器	高杯	包含物2区	HI2.9	7.5V96.4 7.5V96.4	αナデ・板ナデ・ハケ +ナデ	穿孔あり	50	34
110	土師質土器	瓶	SP17.6S2	TR2.7 LB06.8 HI1.7	2.5V98.2 2.5V98.2	α斜面ナデ +斜面ナデ	底部斜面削刃	51	34
111	瓦質土器	龜山燒窯	SP17.6S2	HI3.3	10V99.6	αナデ・凹字		51	34
112	土師質土器	瓶	SP13.2	HI3.1	2.5V99.4	αナデ・ササ・ナナ		51	34
113	土師質(古代)	内面黒色焼	包含物1区	LB07.0 HI1.2	2.5V7.3 2.5V7.3	αナデ +ナデ		54	34
114	瓦器	焼	包含物1区	TR015.8 NSB12.1 HI5.9	5V4.1 5V4.1	αナデ・ササ・ナナ +ナデ		54	35
115	土師質土器	瓶	包含物1区	LB06.9 HI3.0	10V98.2 10V98.2	α斜面ナデ +斜面ナデ		54	35
116	土師質土器	瓶	包含物1区	TR02.2 LB05.8 HI1.2	7.5V98.3 7.5V98.3	α斜面ナデ +斜面ナデ		54	35
117	瓦質土器	龜山燒窯	包含物1区	HI5.8	10V97.4 10V97.4	α斜面叩き +ナデ		54	35
118	土師質土器	土釜	包含物2区	HI1.0	10V97.4	αナデ		54	35
119	石器	砾石	包含物1区	LG.0 W3.8 T26			砾状部分?	60	35
120	石質素材	不明	包含物1区	LG.1 W3.7 T1.4			绿色片岩	60	35
121	石質素材	不明	包含物1区	LG.4 W4.4 T0.8			绿色片岩	60	35
122	石器	石錐	包含物2区	LG.9 W8.3 T1.7			绿色片岩	60	35

〈掲載遺物一覧〉

表5 出土遺物一覧

(1/4)

時期	出土情報	種 別	部位	器 種	区分	点数	規 範	備 号
縄文 以前	区・東屋 火山区	不明	不明	B	1			
縄文 時代	SK1	縄文土器	胴部	鉢	A	1	1	
					B	12		
			石器	不明	調片	B	6	
				鉢	A	1	2	
					B	13		
	SK2	縄文土器	胴部	鉢	B	25		
	SK8	縄文土器	口縁部	鉢	A	3	3~5	
			胴部	鉢	B	1		
			石器	安存	石頭	A	1	6
	SP7	自然遺物	不明	不明	B	2		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	胴部	鉢	B	3		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	胴部	鉢	B	29		
II区・金合寧	II区・金合寧	縄文土器	口縁部	鉢	A	5	8~12	
					B	1		
			胴部	鉢	A	2	14.15	
					B	13		
			底部	鉢	A	1	13	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	胴部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	胴部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	29		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	A	4	16~19	
II区・上層層	II区・上層層	縄文土器	口縁部	鉢	A	1	20	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	74		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	A	1	21	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	28	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	A	1	48	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	19		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	A	2	76.77	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	B	75		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	6		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	7	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	11		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	22	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	12		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	23	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	25	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	27	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	4		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	28	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	29	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	31	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	32	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	3	36.37.40	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	32	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	2	38.39	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	46		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	2	49	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	9		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	42	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	18		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	2		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	2	34.35	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	1		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	32	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	8		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	2	31	
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	口縁部	鉢	B	20.48		
II区・褐色	II区・褐色	縄文土器	底部	鉢	A	1	33	

〈出土遺物一覧〉

(3/4)

时期	地名	種別	部位	若 樹	区分	高さ	範囲	番 号
S4/S5/245	赤土上部	側屈部		葉	B	1		
S4/S5/246	赤土上部	側屈部		葉	B	1		
S5/S6/166	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	1		
SK9	赤土上部	口頭部		葉	B	2		
		口頭部		葉	B	1		
		口頭部	又は葉又は 茎	葉	B	1		
		口頭部		葉	A	1-78		
		側屈部		葉	A	1-79		
		側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	5		
		側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	66		
		側屈部		葉	B	1		
		側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	1		
		側屈部		葉	A	2-8084		
ST1	赤土上部	安存		葉	A	2		
		側屈部		葉	B	31		
SD1	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	A	1-82		
		側屈部	又は葉	葉	B	5		
SD5	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	3		
		側屈部	又は葉	葉	B	3		
SD10	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	4		
		側屈部	又は葉	葉	B	4		
SD12	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	4		
		側屈部	又は葉	葉	B	4		
SD13	赤土上部	口頭部		葉	A	1-83		
		口頭部		葉	B	1		
		口頭部		葉	B	3		
		口頭部		葉	B	3		
		口頭部		葉	B	3		
		口頭部	又は葉	葉	B	2		
		口頭部	又は葉	葉	B	2		
		口頭部	又は葉	葉	B	1		
		口頭部	又は葉	葉	B	2		
		口頭部	又は葉	葉	B	1		
SP15	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	1		
		側屈部	又は葉	葉	B	1		
SP19	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	1		
		側屈部	又は葉	葉	B	1		
SP24	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	2		
		側屈部	又は葉	葉	B	2		
SP141	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	2		
		側屈部	又は葉	葉	B	2		
SP142	赤土上部	口頭部		葉	B	1		
		口頭部		葉	A	1-84		
SP143	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	3		
		側屈部	又は葉	葉	B	3		
SP149	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	1		
		側屈部	又は葉	葉	B	1		
SP185	赤土上部	側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	1		
		側屈部	又は葉	葉	B	1		
SP191	赤土上部	側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	4		
		側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	1		
SP194	赤土上部	側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	1		
		側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	3		
SP198	赤土上部	側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	3		
		側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	11		
SP226	赤土上部	側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	24		
		側屈部	又は葉又は 茎	葉	B	14		
IKC 混合 樹木	赤土上部	側屈部		葉	A	3-86-88		
		側屈部		葉	A	1-90		
		側屈部		葉	B	46		
		側屈部		葉	B	1		
		側屈部		葉	B	2		
		口頭部		葉	B	112		
		口頭部		葉	B	1		
		口頭部		葉	B	34		
		口頭部		葉	A	1-89		
		口頭部		葉	A	1-96		
IKC 混合	赤土上部	側屈部		葉	B	1		
		側屈部		葉	B	1		
IKC 混合	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	79		
		側屈部	又は葉	葉	A	2-9293		
IKC 混合	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	A	1-97		
		側屈部	又は葉	葉	A	1-96		
IKC 混合	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	A	1-94		
		側屈部	又は葉	葉	A	1-96		
IKC 混合	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	1		
		側屈部	又は葉	葉	B	1		
IKC 混合	赤土上部	側屈部	又は葉	葉	B	17		

《出土遺物一覽》

(4/4)

時期	出土情報	種 別	部位	種 別	区 分	点 数	規 準	番 号
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	銅部	豆又は要又 は鉢	B	7		
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	口銚部	豆又は要又 は鉢	B	4		
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	銅部	豆	B	1		
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	口銚部	豆又は要又 は鉢	B	9		
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	手平	豆	A	2	105.106	
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	口銚部	豆	A	1	98	
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	口銚部	要	A	1	101	
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	口銚部	豆	A	1	99	
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	銅部	要	A	1	102	
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	銅部	要	A	1	103	
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	手平	豆又は要又 は鉢	B	15		
	豆形、 トレンチ 2E~1-柄	陶土器	手平	豆又は要又 は鉢	B	2078		
弥生	SG2-SP178	陶土器	口銚部	豆	B	1		
時代	SG2-SP180	陶土器	銅部	豆又は要	B	2		
~	SG2-SP177	陶土器	銅部	豆又は要	B	1		
古氏	SP127	陶土器	銅部	不明	B	2		
	SP127	陶土器	銅部	不明	B	1		
	SP127	陶土器	銅部	不明	B	1		
	1E~1-柄	陶土器	銅部	不明	B	1		
	1E~1-柄	陶土器	銅部	不明	B	1		
	1E~1-柄	陶土器	銅部	不明	B	1		
	1E~1-柄	陶土器	銅部	不明	B	4		
	1E~1-柄	陶土器	銅部	不明	B	17		
中世	SG2-SP177	土器類	安芯	重	A	1	110	
	SG2-SP179	角鉢	銅部	要	A	1	111	
	SG2-SP179	角鉢	口銚部	重	B	1		
	SG2-SP181	土器類	口銚部	不明	B	3		
	SG2-SP182	土器類	銅部	不明	B	2		
	SK5	土器類	口銚部	任	B	2		
	SK5	土器類	口銚部	不明	B	1		
	SP132	土器類	銅部	重	A	1	112	
	1E~1-柄	土器類	口銚部	重	A	1	116	
	1E~1-柄	土器類	口銚部	重	A	1	115	
	瓦器	口銚部	掩	A	1	114		
	瓦器	銅部	要	A	1	117		
	瓦器	銅部	要	B	2			
	2E~1- 上笠層	土器類	銅部	土器	A	1	118	
時期 不明	SP226	石器	不明	洞片	B	1		
	SP226	自然遺物	不明	不明	B	1		
	1E~1- 捨棄	自然遺物	不明	不明	B	2		
	1E~1- 捨棄	石器	安芯	砾石	B	1	119	
	1E~1- 捨棄	自然遺物	不明	洞片	B	12		
	1E~1- 捨棄	自然遺物	不明	不明	A	2	120(12)	
	2E~1- 上笠層	金属製品	不明	不明	B	5		
	2E~1- 上笠層	石器	安芯	石錐	A	1	122	
	2E~1- 上笠層	石器	不明	洞片	B	2		
	2E~1- 上笠層	自然遺物	不明	不明	B	1		
	2E~1- 上笠層	自然遺物	不明	不明	B	1		
	2E~1- 上笠層	自然遺物	不明	不明	B	1		

255 255 255 255 255 255 255 255 255 255 255 255 255 255 255 255

第4章 中村田所東遺跡の成果

第1節 中村田所東遺跡の概要

1 地形と調査区(図9・63)

中村田所東遺跡は国領川扇状地性氾濫原内で、尻無川左岸約60mに位置する。行政上は愛媛県新居浜市中村松木二丁目および土橋一丁目で、調査区の絶対位置は北緯 $33^{\circ} 56' 17''$ ・東経 $133^{\circ} 17' 33''$ の交差する付近である。現地面の標高は約27.6～28.3mであり、調査区は南西側から北東方向へ緩やかに傾斜する地形である。調査前は1区東側が畠地、ほかは耕地を造成した宅地や市道であった。

調査区は東側を1区、西側を2区とした。1区は東西約47.5m・南北約25.7mの長方形である。2区は調査区を分割し、北から東西約10m・南北約30mの長方形を2a区、東西約11m・南北約2.8mの長方形を2b区、東西約24.6m・南北約4～6.8mの台形を2c区と呼称した。調査対象面積は2,004m²である。

2 基本層序(図64～69)

基本層序は近現代の客土を除き、大きく3層に分かれる。

I層は耕作土および盛土で41層に細分した。最下層のI38層は砂層であり、堆積が安定しないものの調査区の大部分でみられる事から、調査範囲内では過去に流水があったと想定される。

II層は包含層で8層に細分できる。遺物量は少ないが、弥生時代を中心とし、中世の遺物も若干含まれる。III層は褐色粘質土で、上面が遺構検出面となる。

3 遺構と遺物の概要(図70)

検出した遺構は竪穴建物1棟・掘立柱建物2棟・土坑4基・溝3条・小穴435穴・自然流路2条・性格不明遺構1基である。これらの遺構は弥生時代から中世にかけてのもので、III層上面で検出された。出土遺物は弥生土器・土師器・土師質土器・瓦器・中世陶器・石器である。



図61 中村田所東遺跡 現場作業 1



図62 中村田所東遺跡 現場作業 2



図63 中村田所東遺跡(1・2区) 調査区位置図

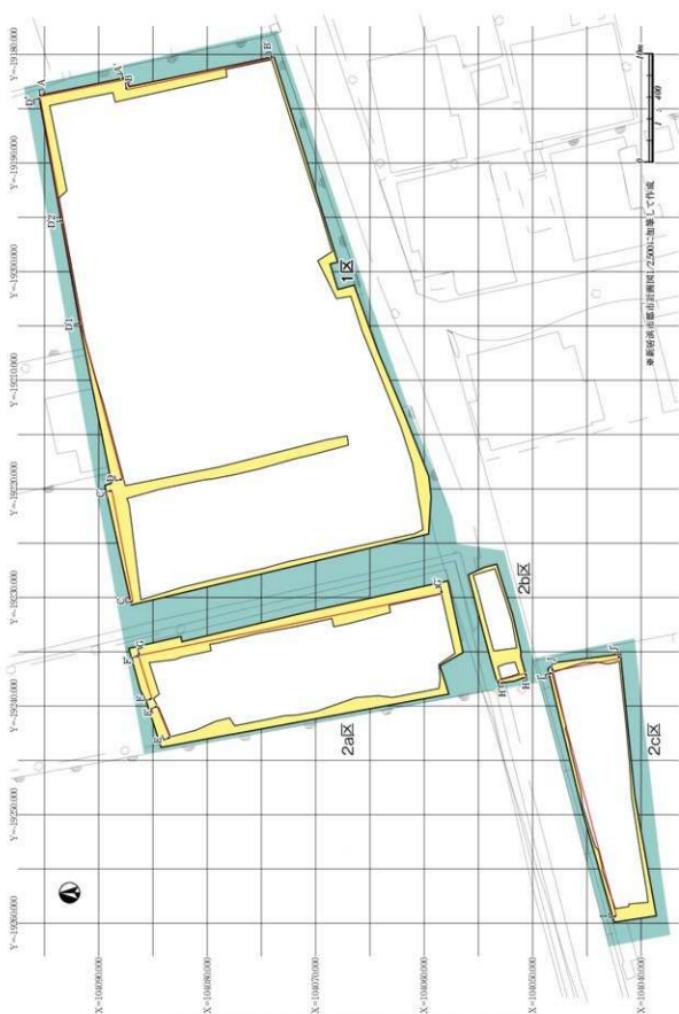


図64 中村田所東遺跡 調査区基本層序測量位置図

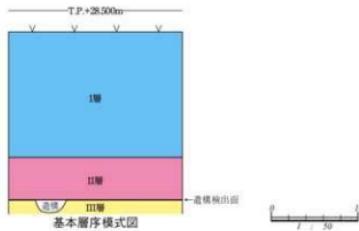


図65 由村田所遺跡 基本層序模式図および土層説明

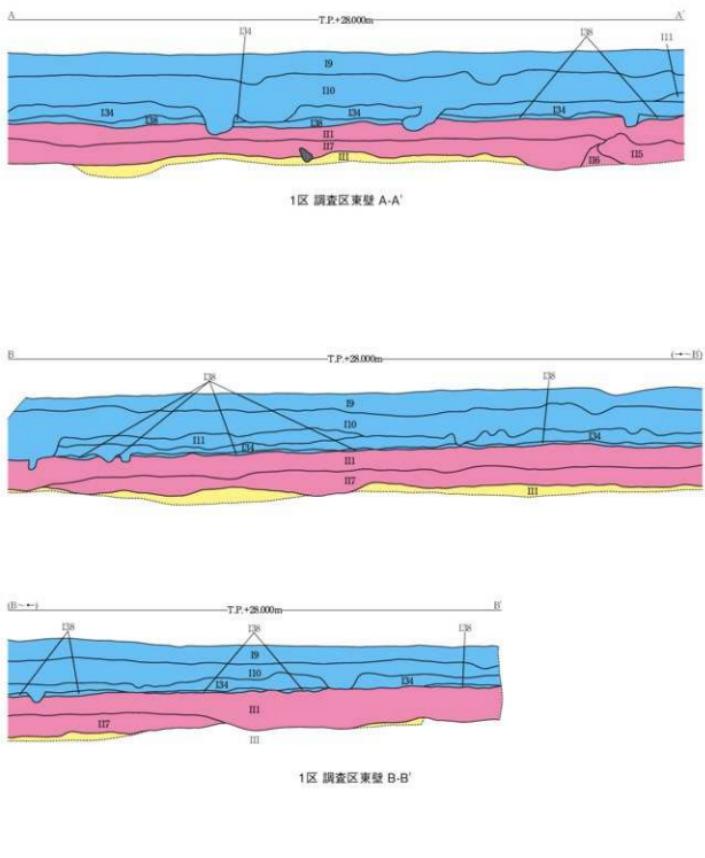


図66 1区 基本層序(A-A',B-B')

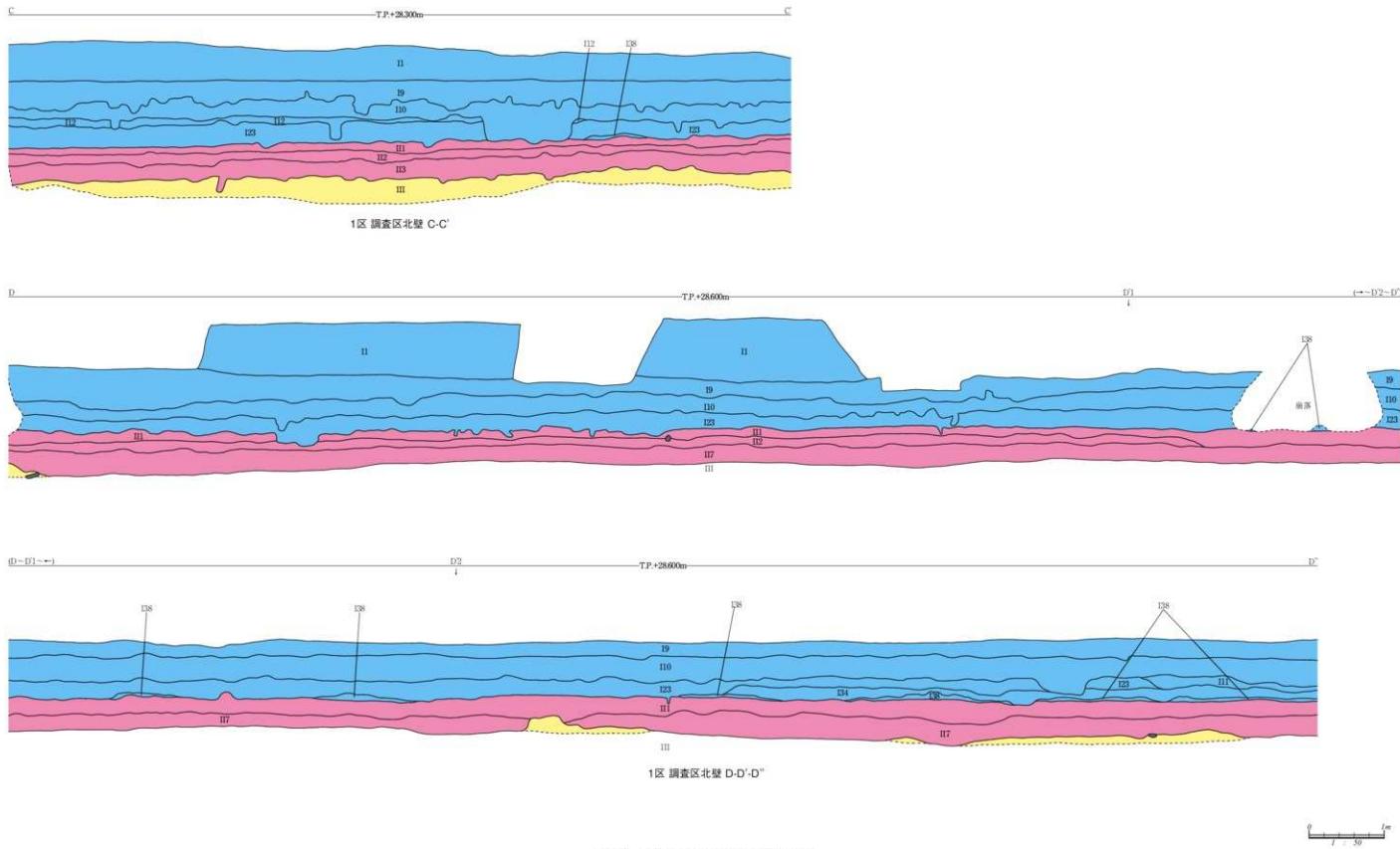


図67 1区 基本層序(C-C',D-D'-D'')

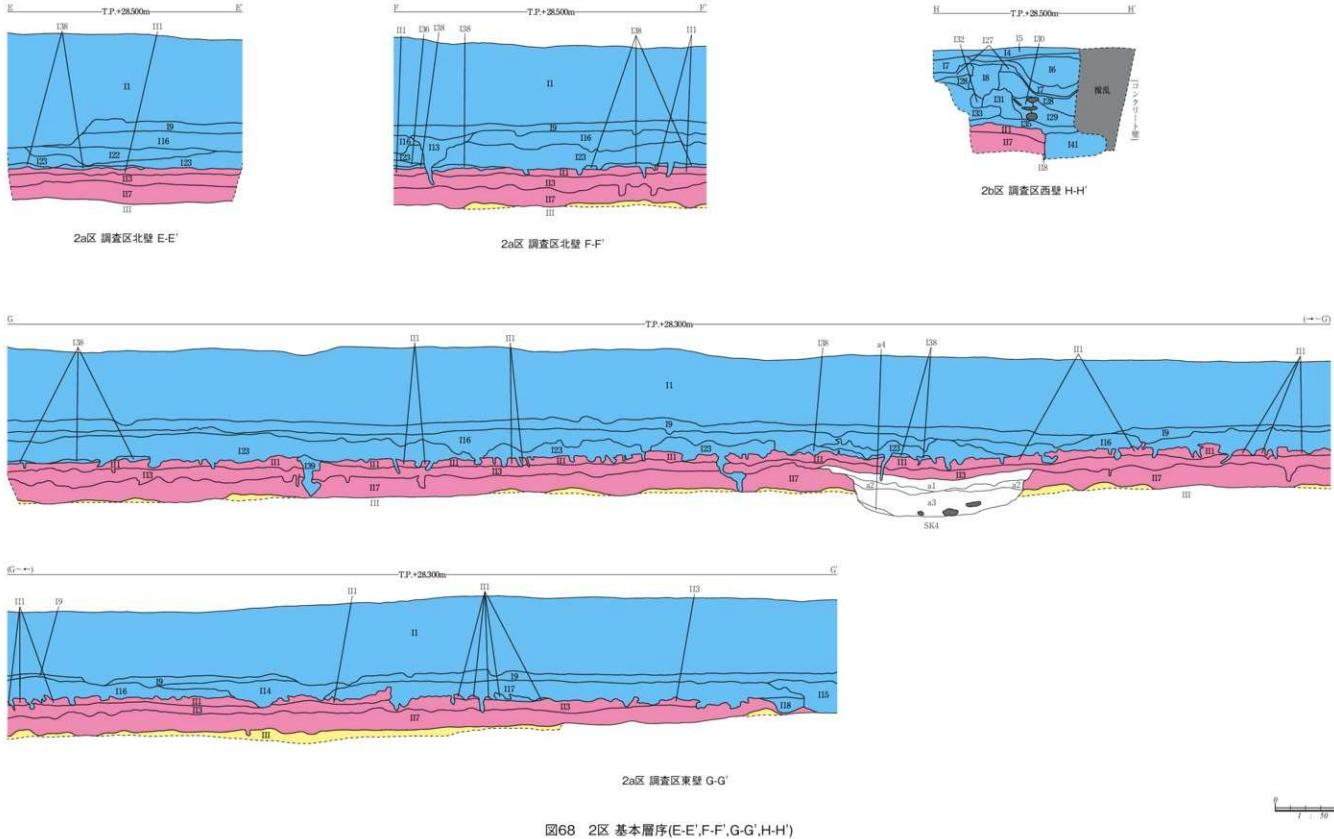
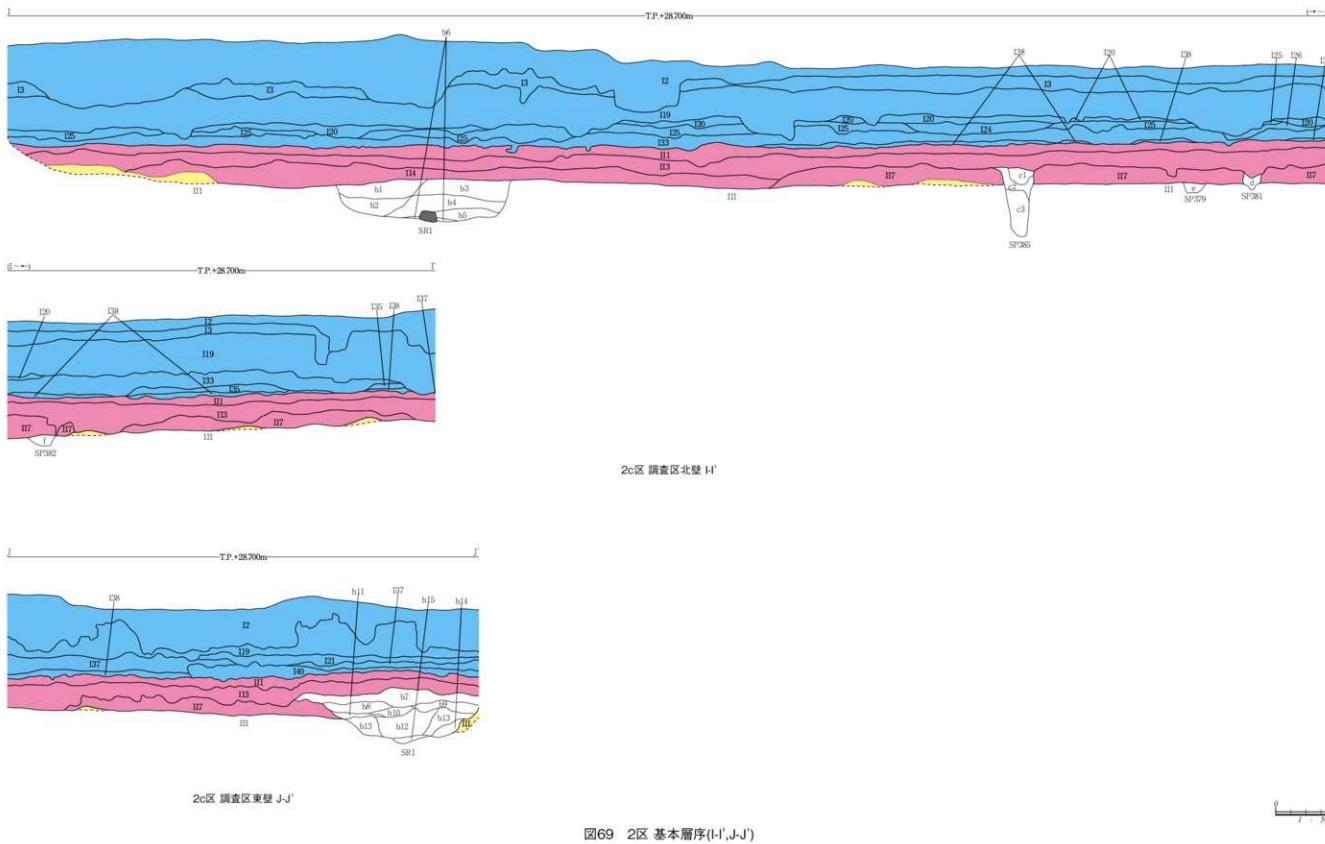


図68 2区 基本層序(E-E',F-F',G-G',H-H')



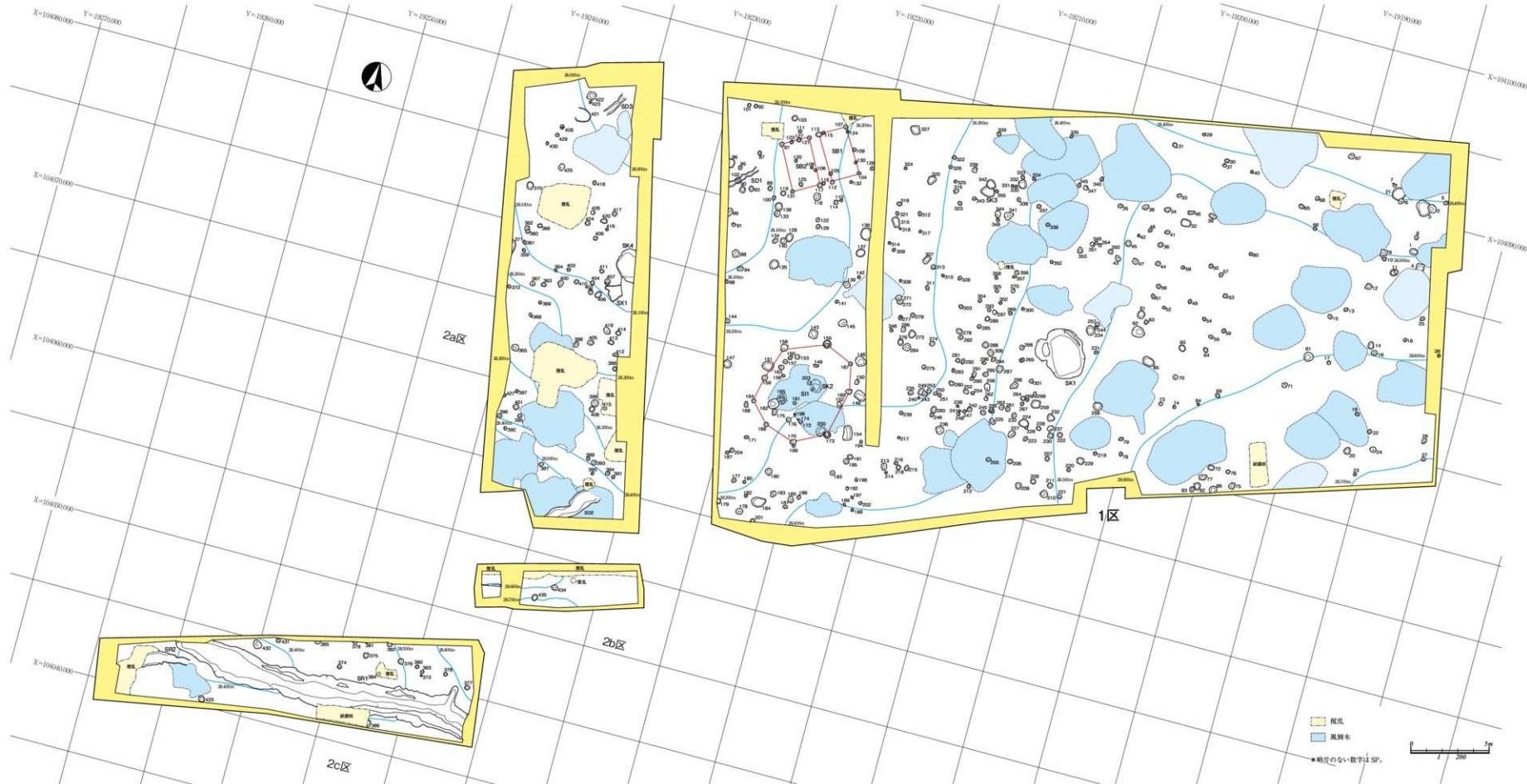


図70 1・2区 遺構配置図

第2節 弥生時代の遺構と遺物

1 概要

弥生時代の遺構は、堅穴建物1棟・掘立柱建物2棟・土坑3基・溝1条・小穴22穴・自然流路2条・性格不明遺構1基である。全てIII層上面で検出しており、これらの遺構は弥生時代前期末～中期前葉と考えられる。出土遺物には弥生土器壺・甕・鉢・蓋・石器がある。

2 堅穴建物

(1) SI1(図71・72)

遺構 SI1は1区西側にある堅穴建物である。調査では壁面の明確な立ち上がり等は捉えられなかつたが、周辺の小穴に比べ明確に深い掘り方を持つ柱穴が環状に分布することから堅穴建物と認定した。主柱穴の配置より平面形は円形と推定され、規模等は不明であるが主柱穴の配置状況を勘案すると直径6mを超える可能性も考えられる。梢円状に配される主柱穴は9穴検出され、建物の柱構造は9本柱構造とみられる。主柱穴分布範囲の中央付近で中央土坑(SK2)を検出している。SK2は風倒木と重複しており、風倒木下位の皿状の窪みを中央土坑の残存として捉えたが、平面形や深さ等は不明である。また、SK2内および周辺でみられた焼土や炭化物は、風倒木の影響により元位置から若干移動しているものと想定される。土層はSK2が褐色または暗褐色粘質土で、柱穴は全て黒褐色粘質土である。SK2からは石錠(121)が、土壤の洗浄を行ったところ総重量35.15gのサヌカイト製の剥片がまとまって出土している。確認面(II層)直上の包含層(II層)で弥生土器(169)が出土した。SI1の時期は検出層位と出土遺物より弥生時代前期末と考えられる。

遺物 123はサヌカイト製の石錠である。

3 掘立柱建物

(1) SB1(図73)

遺構 SB1は1区北西端にあり、検出標高は約26.19mである。1間×1間の側柱建物で、梁行1.78～1.8m・桁行3.12mである。長軸はN-30.7°・Wを指向し、SB2に近接する。各柱穴は直径26～30cmの円形もしくは不整形を呈し、検出面からの深さは13～27cmである。柱間は梁方向が178～180cm・桁方向が312cmである。柱穴の土層は黒褐色粘質土で、遺物は出土していない。SB1の時期は検出層位および周辺の状況より、弥生時代前期末～中期初頭の可能性がある。後述のSB2とは近接しており、規模・主軸ともに類似するが、屋根の重複関係を考えると両建物は同時並存していないものと考えられる。なお、柱穴が重複していないため両建物の前後関係は不明である。

(2) SB2(図74)

遺構 SB2は1区北西端にあり、検出標高は約26.12mである。1間×1間の側柱建物で、梁行1.8m・桁行3.11～3.13mの規模である。長軸はN-27.92°・Wを指向し、SB1に近接する。各柱穴は

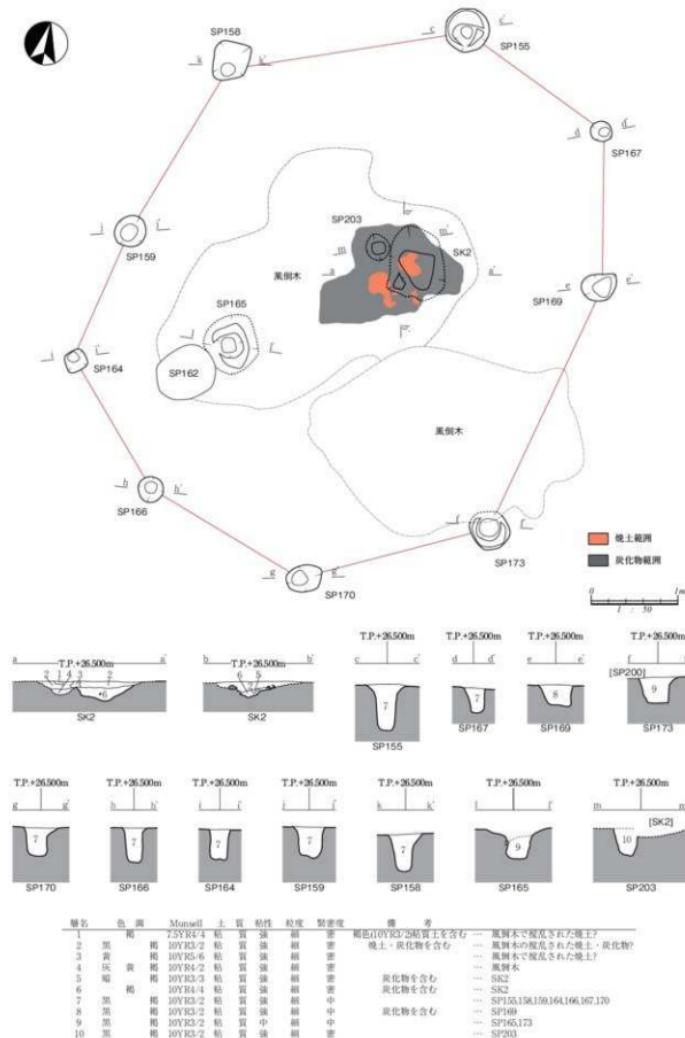


図71 S11平面図および焼土・炭化物出土状況

直径26~32cmの円形を呈し、検出面からの深さは13~20cmである。柱間は梁方向が179~180cm・桁方向が312cmである。柱穴の土層は黒褐色粘質土である。遺物は図示できるものは無いが、SP121より弥生土器の細片が2点出土している。SB2の時期は出土遺物や周辺の状況より、弥生時代前期末～中期初頭の可能性がある。

4 土坑

(1) SK1(図75~77)

遺構 SK1は1区中央付近にあり、検出標高は約26.53mである。長軸327cm・短軸304cm・検出面からの深さは30cmである。平面形は不整形な楕円形状を呈し、西側に半円形の浅い張り出しが付随する。張り出し部について別遺構の可能性も考えられたため精査を行なったが、重複関係は捉えられず遺物の分布状況や時期に明確な違いも認められなかった。長軸方向はN61.06°-Wを指向する。土層は黒褐色ないしは暗褐色粘質土で炭化物を含む。弥生土器とともに石器や礫が出土している。SK1の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

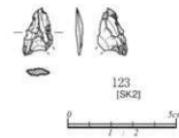


図72 S11出土遺物

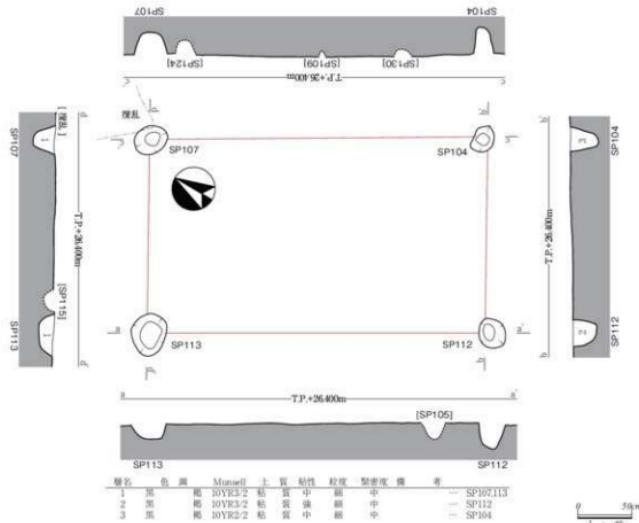


図73 SB1平面図

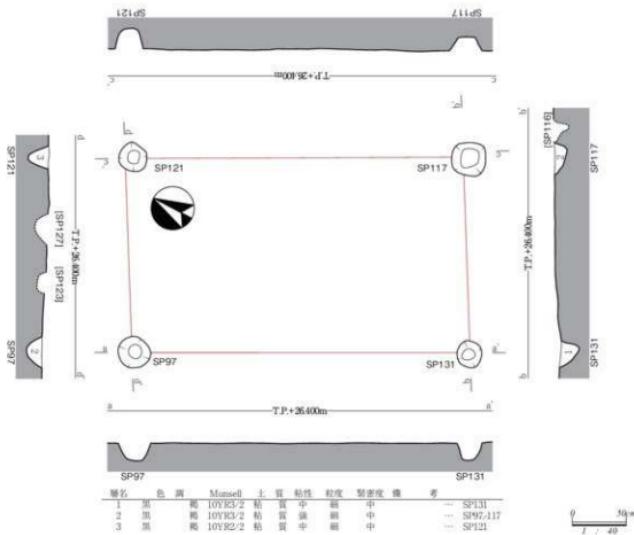


図74 SB2平断面図

遺物 124～127は壺であり、口縁部内面に1～数条の貼付突帯文を巡らせる。124は頸部外面にも貼付突帯文が、口縁内外面には山形文が描かれる。127は壺の口頭部であり、頸部に3条の沈線が刻まれる。128～130は壺の口縁部で、いずれも貼付口縁である。130は上端面に山形文が描かれている。131は壺の底部である。外面には縱方向のミガキ、内面にナデが施される。132はサスカイト製の石鍬である。133はサスカイト製のスクレイパーである。134は緑色片岩製の敲石である。135はサスカイト製の石錐の可能性がある。136～139は緑色片岩の石器素材である。

(2) SK4(図78)

遺構 SK4は2a区東壁際で検出され、一部は調査区外の東側へ続く。検出標高は約26.04mである。長軸200cm・短軸145cm、検出面からの深さは35cmある。平面形は不整形な楕円形と推定される。土層は黒褐色粘質土で炭化物を含む。弥生土器とともに礫が出土している。SK4の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前末期～中期初頭と考えられる。

遺物 140～143は甕である。140は口縁部で端部に刻みが施される。141は胴部に横方向の沈線文や波状文がみられ、外面は継、内面は横方向のミガキが施される。142・143は底部で、142は上げ底気味である。

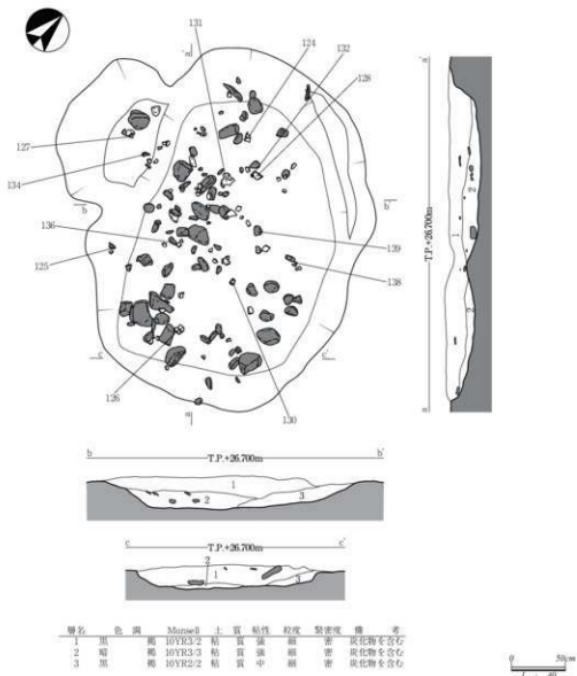


図75 SK1平面面図および遺物・礫出土状況

5 溝

(1) SD2(図79)

遺構 SD2は2a区南端部にあり、一部は調査区外の南側へ続く。検出標高は約26.45mである。風倒木よりもSD2が新しい。検出長130cm・最大幅40cm・検出面からの深さは最深部で8cmである。断面形は皿状で、長軸方向はN-45.88°-Eを指向する。遺物は弥生土器が出土している。SD2の時期は、検出層位と遺構の重複・出土遺物より弥生時代前末期～中期初頭と考えられる。

遺物 144は壺の底部である。

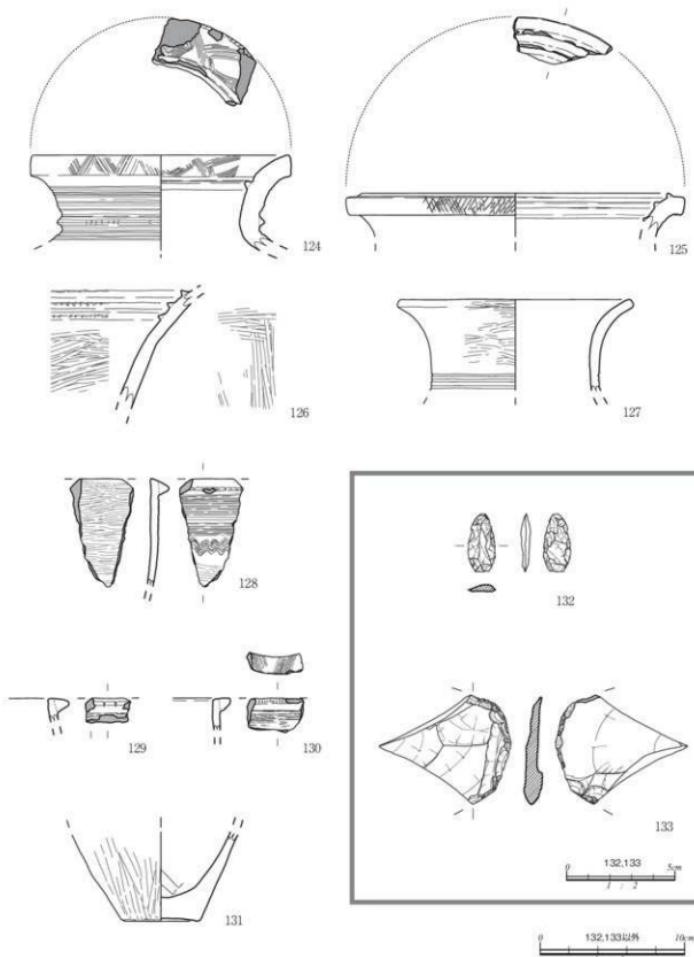


図76 SK1出土遺物(1)

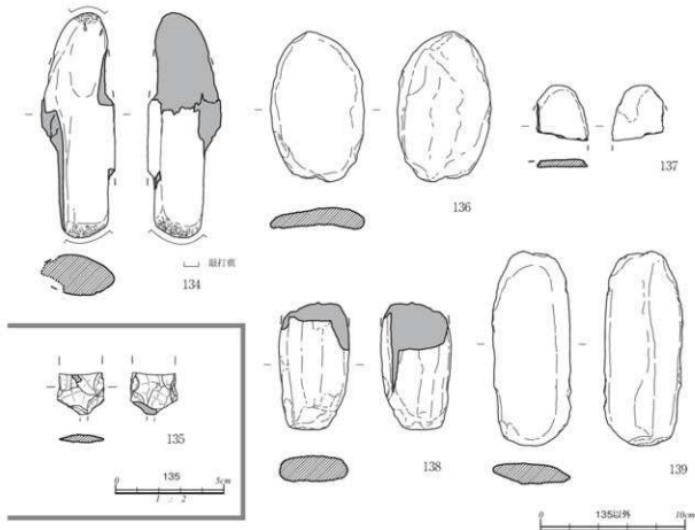


図77 SK1出土遺物(2)

6 小穴

(1) SP72(図80)

遺構 SP72は1区南東側にあり、検出標高は約26.62mである。直径約37cmの円形を呈し、検出面からの深さは最深部で10cm、断面形は皿状である。土層は黒褐色粘質土で、図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SP72の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

遺物 145は壺の口縁部である。端部を刻み、胴部には沈線文がみられる。146は蓋の天井部である。内面下位に煤が付着している。

小穴の出土遺物(図81)

147はSP136より出土した壺の胴部である。貼付突帯圧痕文の上下に沈線文が巡る。148はSP162より出土したサスカイト製の石核である。

中村田所東遺跡の成果

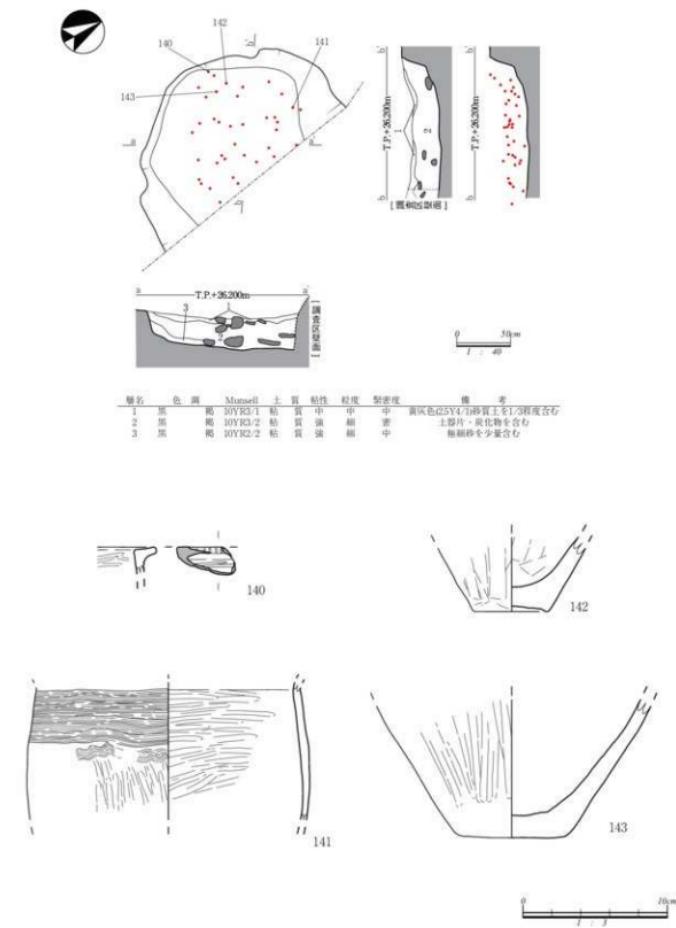


図78 SK4平面面図および遺物ドットおよび出土遺物

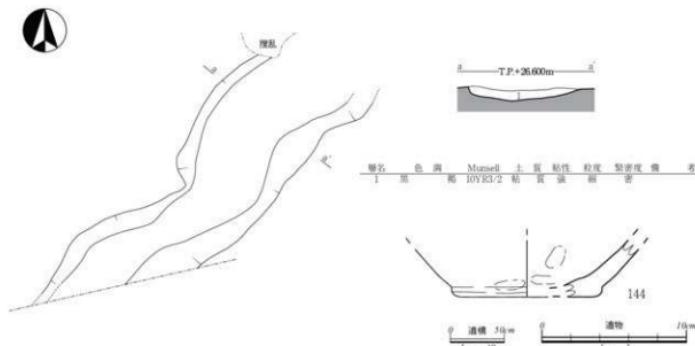


図79 SD2平面面図および出土遺物

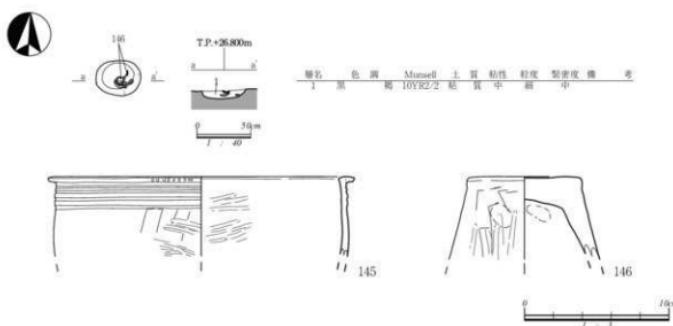


図80 SP72平面面図および遺物出土状況および出土遺物

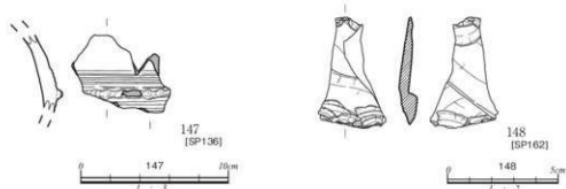


図81 その他SP出土遺物(弥生時代)

7 自然流路

(1) SR1(図82~84)

遺構 SR1は2c区で検出された小規模流路であり、検出標高は約26.4mである。検出長1,930cm・最大幅22cm・検出面からの深さは最深部で49cmである。断面形は皿状もしくは逆台形状であり、底面は流水による削平がみられるが、当初は平坦面を形成していた可能性がある。長軸方向はほぼ東西方向を指向し、若干北西および南東方向へ屈曲するものの、おむね直線的である。礫を含む砂層が安定的に堆積しており、複数回の流水があったものとみられる。弥生土器が出土し、調査区中程に若干集中していた。SR1の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

遺物 149~151は大型壺である。149・150は口縁部である。頭部外面に3条の沈線文、口縁部内面には貼付突帯が巡る。外面は横方向のミガキもしくは指オサエ、内面では指オサエや横方向のミガキがみられる。151は胴部であり3条の沈線文が施される。149・150のいずれかと同一個体の可能性がある。152~154は壺である。152は口縁部で頭部に複数の沈線文が巡る。153・154は底部である。155~157は甕である。いずれも折り曲げ口縁である。155・157は口縁端部を刻んでいる。158は蓋でつまみ部に粘土紐を貼り付けており凹む。159は壺または鉢の口縁部である。

(2) SR2(図82・85)

遺構 SR2は2c区西側で検出された東西方向の小規模流路であり、検出標高は約26.41mである。検出長290cm・最大幅82cm・検出面からの深さは最深部で9cmである。断面形は不整形である。長軸方向はN-79.7°-Eを指向する。土層は粘質土であるが形状より流水があったものと考えられる。遺物は弥生土器が出土している。SR2の時期は検出層位と出土遺物より、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

遺物 160は壺の口縁部である。外面に山形文が描かれる。161は甕の底部である。胴部に横方向の直線文や列点文が施される。

8 遺構外の出土遺物(図86~88)

162~170は1区より、171~178は2区より出土した。このうち平成29年度の試掘調査で、T10(1区相当)より167が、T8(2区相当)より171・177が出土している。162~165は壺である。162は口縁部であり、内面に渦状もしくは複数の直線状の貼付突帯文が施される。また、頭部には穿孔が2箇所みられる。163は頭部で複数の貼付突帯文の上下には複数の沈線文が刻まれる。165は大型品の口縁部で、内面に貼付突帯文が巡る。頭部外面には4条の沈線文が刻まれる。166~168は甕の口縁部で、168は貼付口縁で端部を刻んでおり、それ以外は折り曲げ口縁で上端面に山形文が描かれている。169は甕の胴部で指オサエの後、外面は縦方向、内面は斜め方向のミガキが施される。SII検出面直上で出土している。170は蓋の口縁部である。171~175は壺である。171は口縁部で頭部外面には5条の沈線が巡り、口縁内面の貼付突帯文は注口部を形成するものとみられる。172は頭部で、刻目をもつ2条の貼付突帯文が施される。174は頭部に5条の沈線文が巡る。175は底部で上げ底気味である。176は甕の口縁部で胴部に3条の沈線が巡る。177は鉢の口縁部と

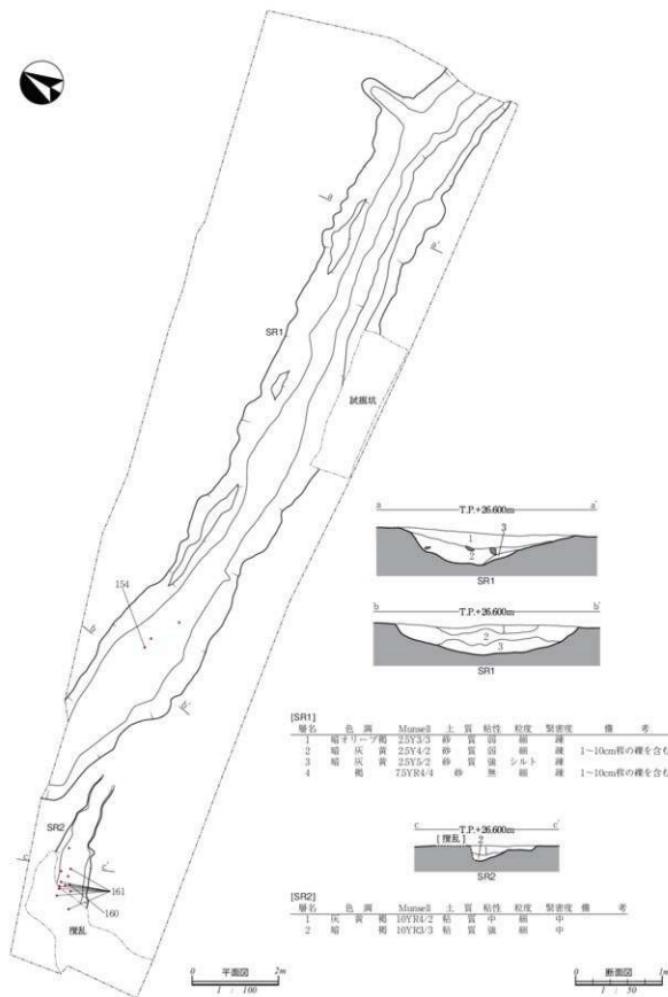


図82 SR1,2平断面図および遺物ドット

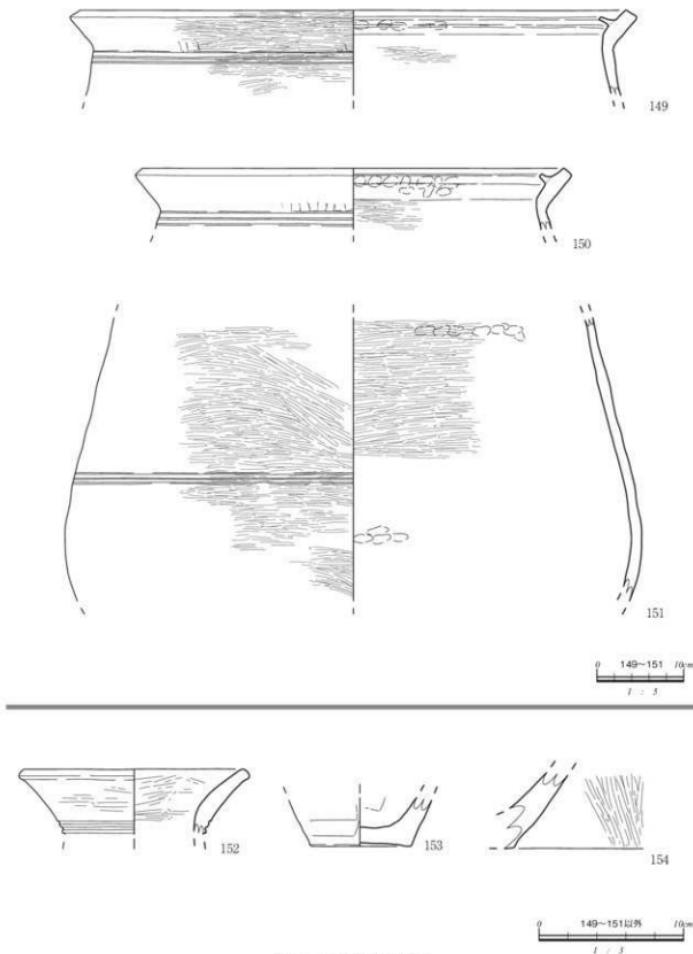


図83 SR1出土遺物(1)

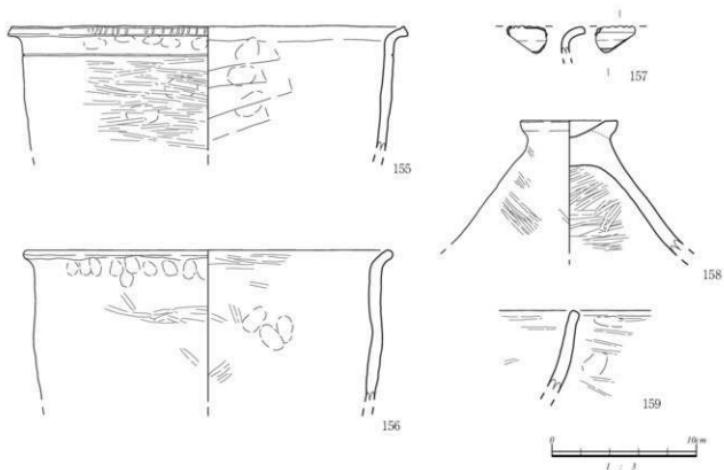


図84 SR1出土遺物(2)

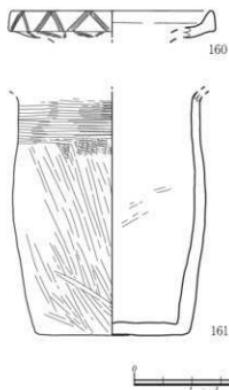


図85 SR2出土遺物

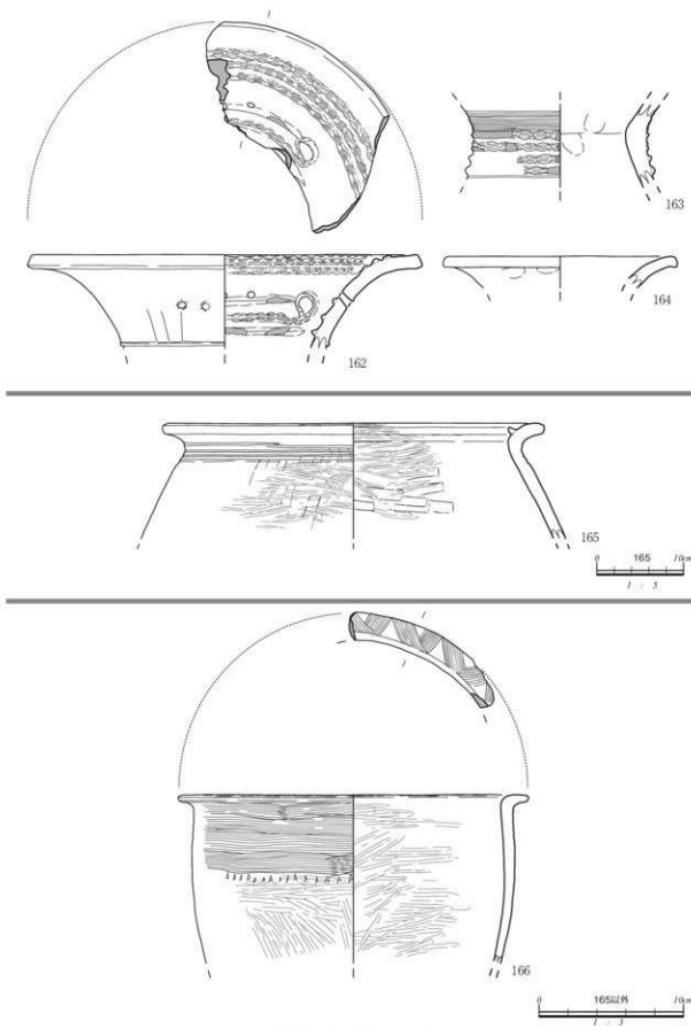


図86 包含層出土遺物(弥生時代) (1)

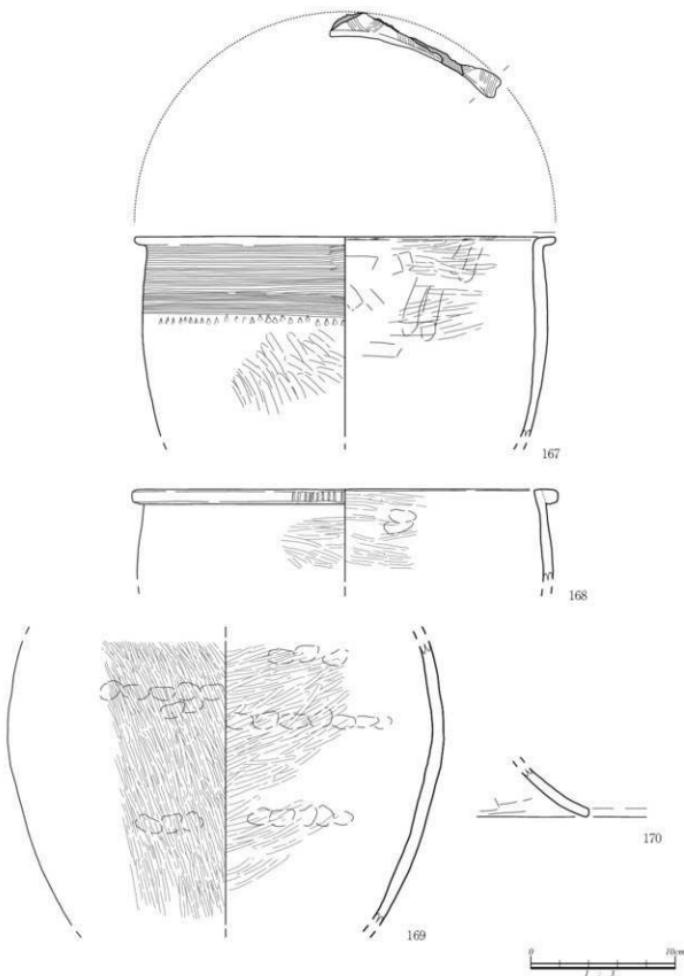


図87 包含層出土遺物(弥生時代) (2)

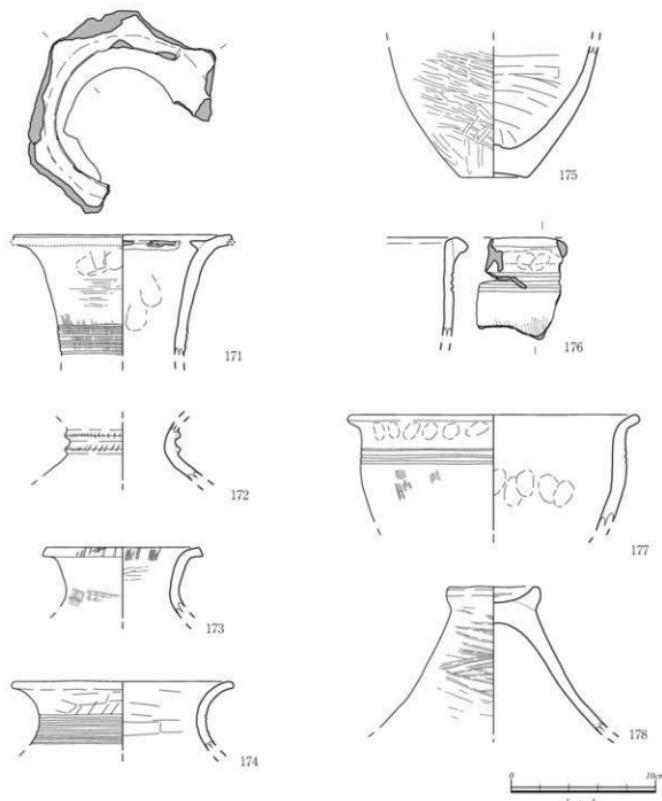


図88 包含層出土遺物(弥生時代) (3)

考えられ、折り曲げ口縁で胴部に3条の沈線を刻む。178は蓋である。天井部には粘土紐を貼り付けており凹む。

第3節 中世の遺物

1 遺構外の出土遺物(図89・90)

179～182は1区、183～184は2区、185は排土より出土した。179～182は土器質土器で、179は杯の口縁部である。180は皿の底部で回転糸切りである。181は15世紀頃の土釜の口縁部で、182は土釜の脚部である。183・184は瓦器椀の底部である。185は瀬戸美濃卸皿の底部と考えられる。見込み部には格子状に鉢目が刻まれ、顯著な使用痕は認められない。

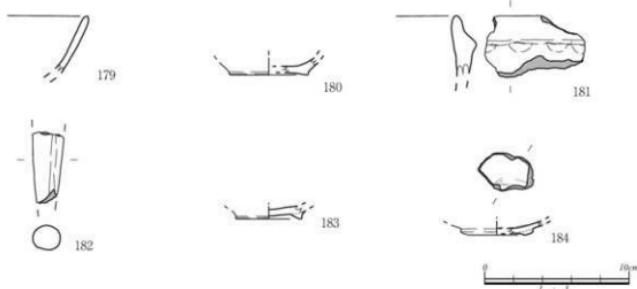


図89 包含層出土遺物(中世)

第4節 時期不明の遺構

1 土坑

(1) SK3(図91)

遺構 SK3は1区北東側で検出され、検出標高は約26.32mである。長軸90cm・短軸72cm・検出面からの深さは14cmであり、平面形は不整形を呈する。土層は黒褐色粘質土(1層)で一部に暗褐色粘質土(2層)を含む。遺物は出土していない。調査当初は当遺構を中央土坑とし、周辺のSP332等の小穴とともに埋土が遺存していない堅穴建物を想定していたが、根拠となる状況に欠け遺物もあまり出土しなかったため本報告では堅穴建物と認定していない。

2 溝

(1) SD1(図92)

遺構 SD1は1区西北端にあり、一部は調査区外の南西側へ続く。検出標高は約26.0mである。

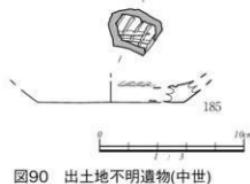


図90 出土地不明遺物(中世)

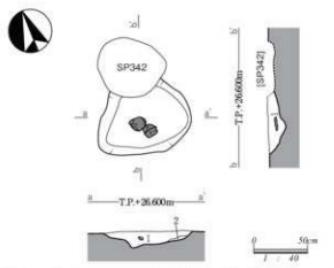


図91 SK3断面図および発土遺物

SP102よりもSD1が新しい。検出長200cm・最大幅37cm・検出面からの深さは最深部で5cmである。断面形は皿状であり、長軸方向はN-44.13°-Wを指向する。遺物は出土していない。

(2)SD3(図92)

遺構 SD3は2a区北東隅にあり、検出標高は約25.98mである。検出長147cm・最大幅41cm・検出面からの深さは最深部で7cmである。断面形は皿状である。長軸方向はN-33.84°-Eを指向する。遺物は出土していない。

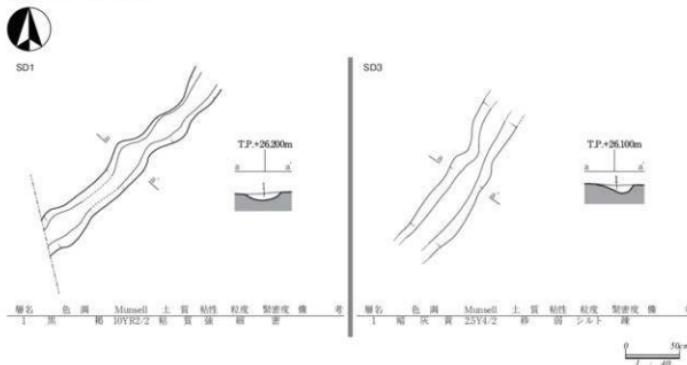


図92 SD1,3平面図

3 小穴(図93)

遺構 時期を決定できる遺物がなく時期が不明な小穴のうち、土層が複数層に分かれる4穴を掲載する。ここでは図を掲載するにとどめ、出土遺物以外の詳細は表7に記載する。

遺物 186はSP332より出土した砂岩製の砥石である。

4 性格不明遺構

(1) SX1(図94)

遺構 SX1は2a区東側にあり、検出標高は約25.92mである。東側はトレンチと重複しており、平面形は不整形である。長軸105cm・短軸100cm・検出面からの深さは最深部で12cmである。断面形は皿状である。土層は灰黄褐色粘質土であり遺物は出土していない。

第5節 時期不明の遺物(図95)

187は2区より出土した緑色片岩の石器素材である。

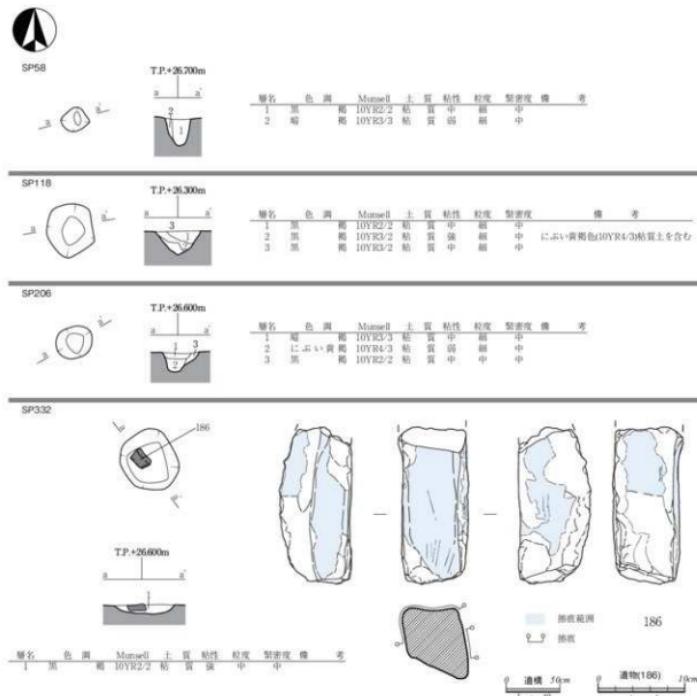


図93 SP58.118.206.332断面図および遺物出土状況および出土遺物

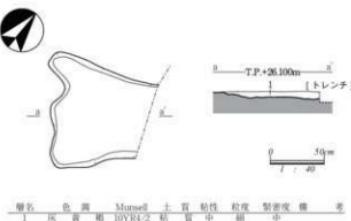


図94 SX1平断面図

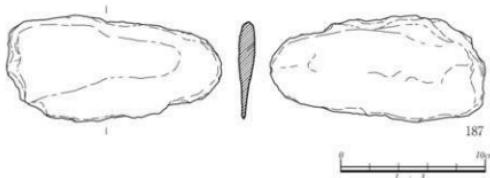


図95 包含層出土遺物(時期不明)

第6節 小結

中村田所東遺跡は弥生時代前期末～中期前葉(伊予東部地域II-1～3様式)の集落が中心となる(柴田2000a)。調査区東側では遺構・遺物が少なくなる傾向があり、同じく東側に位置する尻無川との影響が想定できることから、当集落は河川沿いの安定地形とは言い難く弥生時代における人の活動は広範囲には広がらないものと考えられる。また南側では小規模流路が検出されたのみであり、西側でも遺物量が少ない。よって当遺跡は尻無川左岸に近接する集落と位置付けられ、集落域は主に北方向へ展開している可能性がある。

堅穴建物SI1は明確な掘り方が捉えられなかった。当遺跡東側約1.5kmに所在する星原市東遺跡A区においても、やはり掘り方が不明瞭なSI-002があり、弥生時代前期末頃では構築当初から掘り方が不明瞭な構造も存在した可能性があると考えられる。

また、近接する掘立柱建物SB1・2については、方位や平面形が類似しており建て替えの可能性も想定できるが、柱穴の重複もなく時期決定の遺物も少ないことから、あくまで推定にとどまる。2区より出土した自然流路SR1はほぼ直線的であり、堅穴建物の約20m南側に位置している。

中世では、遺構は検出されなかったが包含層より遺物が出土した。中世前期の土師質土器・瓦器碗などが中心であり、細片であるが瀬戸美濃鉢皿がみられた。



図96 中村田所東遺跡 現場作業 3



図97 中村田所東遺跡 現場作業 4

表6 主要構造一覧

種別	構造名	平面形	長さ	幅	深さ	重複関係	掲載遺物	図	
								[m]	復元値
堅穴建物	SI1	不明	-	-	-	→SP200	→SP162・風倒木	71	40
	SB1	長方	315.0	178.0	-			73	41
	SB2	長方	309.0	179.0	-			74	41
土坑	SK1	楕円	327.0	304.0	30.0			124~139	75 42
	SK2	楕円	80.0	62.0	21.0	→風倒木		123	71 40
	SK3	不整	90.0	(72.0)	14.0	→1区 SP342		91	43
	SK4	不整	(200.0)	(145.0)	35.0			140~143	78 41
溝	SD1	直線	200.0	37.0	5.0	→1区 SP102		92	43
	SD2	直線	130.0	26.0~40.0	5.0~8.0	→風倒木		79	43
	SD3	直線	147.0	41.0	2.0~7.0			92	43
自然道路	SR1	直線	1930.0	130~220	49.0			149~159	82 44
	SR2	直線	290.0	31.0~82.0	3.0~9.0	→風倒木		160.161	82 44
不明構造	SX1	不整	(100.0)	105.0	12.0			94	43

（主要構造一覧）

表7 柱穴一覧

遺構名	平面形	検出面埋土色調	単位:cm		(*)復元値	(**)残存値	→***を切る、←***に切られる	(1/8)			
			土質	粘性				長径	短径	深さ	重複関係
SP1	椭円	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	53.0	41.0	7.0	→	風削木
SP2	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	56.0	47.0	9.0	→	SP3
SP3	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	104.0	86.0	10.0	←	SP2
SP4	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	51.0	[46.0]	9.0	←	風削木 土器を含む
SP5	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	31.0	23.0	18.0		
SP6	方	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	36.0	26.0	25.0	→	SP21
SP7	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	21.0	13.0		
SP8	円	黒(10YR2/1)	粘質	強	細	中	29.0	26.0	27.0		
SP9	不整	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	59.0	47.0	8.0	→	風削木
SP10	不整	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	29.0	25.0	10.0		
SP11	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	52.0	42.0	23.0		
SP12	不整	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	49.0	38.0	9.0		
SP13	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	21.0	13.0		
SP14	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	47.0	38.0	8.0		
SP15	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	32.0	27.0	21.0		
SP16	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	39.0	33.0	11.0		
SP17	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	26.0	24.0	13.0		
SP18	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	20.0	13.0		
SP19	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	29.0	23.0	13.0	→	風削木
SP20	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	47.0	43.0	11.0		
SP21	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[80.0]	80.0	12.0	←	SP6・風削木
SP22	方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	27.0	26.0	16.0	→	風削木
SP23	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	23.0	22.0	13.0		
SP24	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	40.0	35.0	20.0		
SP25	円	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	34.0	25.0	14.0		
SP26	方	黒(10YR2/1)	粘質	中	細	中	18.0	17.0	19.0		
SP27	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	28.0	19.0		
SP28	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	39.0	26.0	16.0		
SP29	隅丸方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	23.0	19.0	16.0		
SP30	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	31.0	23.0	11.0		
SP31	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	28.0	10.0		
SP32	椭円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	64.0	48.0	17.0		
SP33	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	23.0	27.0		
SP34	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	42.0	31.0	23.0		
SP35	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	32.0	27.0	22.0		
SP36	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	36.0	29.0	22.0		
SP37	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	25.0	25.0	19.0		
SP38	長方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	43.0	30.0	27.0		
SP39	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	51.0	30.0	24.0		
SP40	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	23.0	21.0	15.0		
SP41	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	45.0	26.0	21.0		
SP42	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	17.0	16.0	13.0		
SP43	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	41.0	30.0	27.0		
SP44	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	34.0	29.0	33.0		
SP45	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	41.0	39.0	10.0		
SP46	長方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	45.0	25.0	19.0		
SP47	方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	37.0	34.0	24.0		
SP48	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	29.0	21.0	14.0		
SP49	椭円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	29.0	22.0	14.0		
SP50	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	29.0	25.0	14.0		
SP51	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	34.0	23.0	16.0		
SP52	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	12.0		
SP53	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	27.0	8.0		
SP54	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	23.0	20.0		にぶい黄褐色 (10YR4/3)粘質土 を含む
SP55	椭円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	32.0	22.0	19.0		
SP56	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	密	31.0	29.0	23.0		

〈柱穴一覧〉

(2/8) 単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る、←***に切られる

測構名	平面形	稼出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	回	固
SP57	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	11.0				
SP58	方	黒褐色(10YR2/2)	粘質				22.0	19.0	23.0			93	
SP59	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	22.0	13.0				
SP60	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	44.0	37.0	13.0				
SP61	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	54.0	45.0	10.0				
SP62	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	密	82.0	66.0	13.0				
SP63	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	26.0	10.0				
SP64	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	27.0	18.0				
SP65	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	27.0	7.0				
SP66	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	25.0	21.0	25.0				
SP67	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	42.0	37.0	25.0				
SP68	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	30.0	23.0	20.0				
SP69	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	34.0	27.0	15.0				
SP70	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	29.0	28.0				
SP71	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	36.0	31.0	19.0				
SP72	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	37.0	32.0	10.0			80	44
SP73	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	25.0	31.0				
SP74	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	23.0	21.0	10.0				
SP75	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	43.0	38.0	28.0				
SP76	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	27.0	27.0	8.0				
SP77	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	51.0	34.0	16.0				
SP78	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	28.0	22.0	11.0				
SP79	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	21.0	14.0				
SP80	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	21.0	27.0				
SP81	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	61.0	59.0	16.0				
SP82	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	47.0	41.0	15.0				
SP83	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	34.0	29.0	14.0				
SP84	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	17.0	17.0	22.0				
SP85	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	82.0	54.0	17.0				
SP86	円?	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	49.0	[40.0]	13.0				
SP87	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	28.0	23.0	15.0				
SP88	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	50.0	47.0	10.0				
SP89	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	35.0	30.0	11.0				
SP90	方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	41.0	37.0	8.0				
SP91	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	26.0	22.0	10.0				
SP92	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	31.0	26.0	8.0				
SP93	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	31.0	8.0				
SP94	不整	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	40.0	32.0	12.0				
SP95	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	26.0	25.0	23.0				
SP96	円?	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	59.0	[41.0]	8.0				
SP97	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	28.0	15.0				
SP98	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	27.0	20.0	11.0				
SP99	椭円?	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	[53.0]	[41.0]	20.0				
SP100	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	31.0	23.0	19.0				
SP101	円	黄褐色(10YR4/2)	粘質	中	細	中	23.0	23.0	10.0				
SP102	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	37.0	17.0	- SD1			
SP103	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	37.0	34.0	8.0				
SP104	不整	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	26.0	19.0	27.0				
SP105	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	24.0	24.0	16.0				
SP106	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	20.0	20.0	10.0				
SP107	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	33.0	26.0	20.0				
SP108	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	17.0	15.0				
SP109	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	22.0	13.0				
SP110	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	19.0	11.0				
SP111	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	23.0	22.0	9.0				
SP112	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	25.0	24.0				
SP113	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	39.0	34.0	13.0				

《柱穴一覧》

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	(3/8)	
											[]残存値	-→***を切られる
寸法(cm)	復元値											
SP114	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	28.0	28.0	12.0			
SP115	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	22.0	9.0			
SP116	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	22.0	9.0			
SP117	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	31.0	13.0	SB2		
SP118	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	50.0	44.0	20.0			93
SP119	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	34.0	32.0	10.0			
SP120	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	15.0			
SP121	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	27.0	27.0	20.0	SB2 / 土器を含む		
SP122	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	24.0	19.0			
SP123	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	21.0	8.0			
SP124	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	18.0	14.0			
SP125	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	24.0	9.0			
SP126	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	26.0	21.0			
SP127	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	28.0	12.0			
SP128	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	56.0	44.0	13.0	→SP140		
SP129	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	33.0	26.0	16.0			
SP130	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	9.0			
SP131	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	24.0	16.0	SB2 / 炭化物を含む		
SP132	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	21.0	20.0	6.0			
SP133	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	37.0	11.0			
SP134	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	40.0	26.0	13.0			
SP135	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	64.0	59.0	35.0	土器を含む		
SP136	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	78.0	[60.0]	11.0	土器・炭化物を含む		
SP137	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	50.0	8.0			
SP138	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	50.0	50.0	18.0			
SP139	方	黒褐色(10YR2/3)	粘質	強	細	中	43.0	40.0	12.0			
SP140	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	41.0	40.0	9.0	←SP128		
SP141	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	19.0	14.0			
SP142	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	21.0	19.0	11.0			
SP143	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	56.0	56.0	10.0	土器を含む		
SP144	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	[33.0]	30.0	21.0			
SP145	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	55.0	47.0	11.0			
SP146	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	64.0	63.0	7.0	炭化物を含む		
SP147	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	55.0	52.0	7.0			
SP148	長方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	76.0	55.0	12.0			
SP149	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	17.0	12.0			
SP150	長方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	24.0	15.0			
SP151	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	75.0	61.0	12.0			
SP152	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	44.0	29.0	17.0	←風削木		
SP153	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	31.0	17.0			
SP154	長方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	94.0	63.0	14.0			
SP155	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	52.0	50.0	50.0	SI1 / 土器を含む	71	
SP156	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	20.0	16.0			
SP157	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	31.0	29.0	19.0			
SP158	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	47.0	43.0	40.0	SI1 / 土器を含む	71	
SP159	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	38.0	35.0	37.0	SI1 / 土器を含む	71	
SP160	長方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	30.0	22.0	10.0			
SP161	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	25.0	24.0	8.0	←風削木 →SP165 (SI1)・風削木		
SP162	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	70.0	60.0	9.0	土器・炭化物を含む		
SP163	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	28.0	18.0			
SP164	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	25.0	40.0	SI1	71	
SP165	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	66.0	61.0	35.0	←SP162・ 風削木	SI1	71
SP166	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	30.0	41.0	SI1 / 土器を含む	71	
SP167	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	25.0	25.0	29.0	SI1	71	
SP168	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	38.0	25.0	17.0	土器を含む		

〈柱穴一覧〉

(4/8) 単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る、←***に切られる

遺構名	平面形	稼出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	回	固版
SP169	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	42.0	33.0	24.0		SII / 炭化物を含む	71	
SP170	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	43.0	32.0	33.0		SII / 土器を含む	71	40
SP171	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	30.0	21.0	16.0				
SP172	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	26.0	21.0	17.0	→風削木	土器を含む		
SP173	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	49.0	46.0	31.0	→SP200 ←風削木	SII	71	
SP174	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	18.0	13.0	9.0	←風削木			
SP175	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	41.0	34.0	11.0				
SP176	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	34.0	30.0	13.0				
SP177	円	灰黄褐色10YR4/2	粘質	中	細	中	33.0	27.0	9.0				
SP178	椭円	黒褐色10YR3/1	粘質	中	細	中	45.0	38.0	16.0				
SP179	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	36.0	[22.0]	12.0				
SP180	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	密	21.0	21.0	25.0				
SP181	長方	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	31.0	21.0	9.0				
SP182	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	22.0	20.0	12.0				
SP183	不整	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	42.0	36.0	9.0		土器を含む		
SP184	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	93.0	64.0	9.0				
SP185	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	44.0	35.0	14.0				
SP186	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	33.0	26.0	20.0		炭化物を含む		
SP187	方	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	26.0	19.0	17.0		土器を含む		
SP188	方	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	21.0	17.0	19.0				
SP189	椭円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	24.0	14.0	15.0				
SP190	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	密	49.0	44.0	17.0				
SP191	方	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	34.0	34.0	9.0				
SP192	方	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	22.0	18.0	16.0				
SP193	円	灰黄褐色10YR4/2	粘質	中	細	中	33.0	30.0	28.0		土器を含む		
SP194	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	21.0	19.0	15.0				
SP195	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	35.0	32.0	8.0				
SP196	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	18.0	15.0	10.0	→風削木			
SP197	方	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	19.0	18.0	11.0				
SP198	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	23.0	19.0	16.0				
SP199	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	21.0	20.0	10.0				
SP200	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	58.0	[50.0]	14.0	→SP173 (SII)・風削木			
SP201	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	30.0	[22.0]	13.0				
SP202	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	25.0	23.0	11.0		褐色10YR4/4粘質土を含む		
SP203	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	密	32.0	28.0	24.0	→風削木	SII		
SP204	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	31.0	26.0	10.0				
SP205	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	中	中	34.0	26.0	18.0	→風削木			
SP206	円	暗褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	36.0	30.0	18.0			93	
SP207	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	34.0	29.0	10.0				
SP208	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	34.0	33.0	15.0				
SP209	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	43.0	38.0	10.0				
SP210	円	黒褐色10YR2/2	粘質	弱	細	中	48.0	46.0	9.0				
SP211	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	36.0	34.0	13.0				
SP212	椭円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	30.0	23.0	10.0				
SP213	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	弱	細	中	47.0	36.0	12.0				
SP214	円	黒褐色10YR3/2	粘質	弱	細	中	20.0	16.0	15.0				
SP215	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	弱	細	中	39.0	29.0	12.0				
SP216	不整	黒褐色10YR3/2	粘質	弱	細	中	27.0	21.0	9.0				
SP217	円	暗褐色10YR3/2	粘質	弱	細	中	18.0	18.0	23.0				
SP218	円	黒褐色10YR3/2	粘質	弱	細	中	30.0	28.0	15.0				
SP219	方	黒褐色10YR3/2	粘質	弱	細	中	25.0	25.0	14.0				
SP220	方	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	25.0	24.0	12.0				
SP221	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	32.0	27.0	15.0				
SP222	円	にぶい黒褐色10YR4/3	粘質	弱	細	中	35.0	34.0	9.0				
SP223	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	35.0	25.0	16.0				
SP224	椭円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	67.0	50.0	7.0	→SP226			

《柱穴一覧》

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	(5/8)	
											[] 残存値	-***を切る、-***に切られる
SP225	不整	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	中	中	44.0	31.0	19.0			
SP226	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	22.0	17.0	8.0	→SP224		
SP227	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	53.0	39.0	21.0			
SP228	椭円	にふい黄褐色(10YR4/3b)	粘質	弱	細	中	32.0	25.0	8.0			
SP229	不整	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	52.0	44.0	9.0			
SP230	方	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	34.0	34.0	14.0		褐色(10YR4/4)粘質土ブロックを含む	
SP231	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	26.0	21.0	12.0			
SP232	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	49.0	47.0	13.0			
SP233	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	35.0	31.0	29.0			
SP234	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	60.0	53.0	14.0			
SP235	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	34.0	29.0	11.0			
SP236	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	54.0	51.0	14.0			
SP237	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	43.0	30.0	16.0			
SP238	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	21.0	17.0	11.0			
SP239	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	中	中	25.0	25.0	27.0		土器を含む	
SP240	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	18.0	15.0	11.0			
SP241	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	20.0	18.0	8.0			
SP242	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	31.0	10.0			
SP243	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	36.0	30.0	19.0	→SP249		
SP244	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	密	23.0	20.0	30.0			
SP245	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	密	36.0	32.0	19.0			
SP246	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	31.0	25.0	14.0	→SP260		
SP247	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	21.0	9.0			
SP248	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	23.0	21.0	19.0			
SP249	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	48.0	[35.0]	12.0	→SP243	褐色(10YR4/4)粘質土ブロックを含む	
SP250	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	29.0	19.0	16.0			
SP251	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	14.0			
SP252	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	29.0	16.0			
SP253	椭円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	34.0	27.0	16.0			
SP254	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	25.0	23.0	9.0			
SP255	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	34.0	20.0			
SP256	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	52.0	35.0	18.0			
SP257	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	密	31.0	26.0	23.0			
SP258	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	59.0	54.0	8.0	→風削木		
SP259	方	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	60.0	51.0	7.0			
SP260	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	46.0	35.0	16.0	→SP246		
SP261	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	30.0	15.0			
SP262	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	26.0	26.0	21.0			
SP263	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	34.0	30.0	21.0			
SP264	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	33.0	27.0	12.0			
SP265	長方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	34.0	25.0	18.0			
SP266	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	31.0	14.0			
SP267	不整	にふい黄褐色(10YR4/3b)	粘質	弱	細	中	26.0	23.0	8.0			
SP268	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	20.0	20.0	11.0			
SP269	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	18.0			
SP270	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	24.0	14.0			
SP271	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	43.0	32.0	15.0	→SP271	風削木	
SP272	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	43.0	32.0	8.0	→SP271		
SP273	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	51.0	45.0	7.0			
SP274	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	30.0	20.0			
SP275	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	密	29.0	27.0	25.0			
SP276	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	36.0	13.0			
SP277	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	25.0	22.0			
SP278	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	45.0	38.0	11.0			
SP279	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	31.0	28.0	14.0			
SP280	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	38.0	29.0	14.0			

(柱穴一覧)

単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る、←***に切られる (6/8)

測構名	平面形	稼出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	回	固版
SP281	円	暗褐色10YR3/3	粘質	中	細	中	30.0	26.0	17.0				
SP282	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	32.0	29.0	16.0				
SP283	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	25.0	20.0	9.0				
SP284	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	52.0	48.0	17.0				
SP285	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	27.0	25.0	17.0				
SP286	方	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	密	31.0	31.0	17.0				
SP287	不整	暗褐色10YR2/3	粘質	弱	細	中	49.0	44.0	13.0				
SP288	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	41.0	39.0	12.0				
SP289	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	35.0	29.0	17.0				
SP290	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	25.0	23.0	13.0				
SP291	椭円	暗褐色10YR3/3	粘質	弱	細	中	36.0	26.0	23.0				
SP292	椭円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	38.0	21.0	12.0				
SP293	円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	24.0	23.0	21.0				
SP294	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	35.0	30.0	10.0				
SP295	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	36.0	29.0	10.0				
SP296	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	30.0	20.0	18.0				
SP297	方	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	32.0	25.0	11.0				
SP298	不整	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	密	56.0	40.0	23.0				
SP299	長方形	暗褐色10YR2/3	粘質	中	細	中	35.0	21.0	14.0				
SP300	円	暗褐色10YR3/3	粘質	弱	細	中	21.0	20.0	15.0				
SP301	不整	暗褐色10YR3/3	粘質	弱	細	中	29.0	29.0	25.0	炭化物をわずかに含む			
SP302	方	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	20.0	19.0	18.0				
SP303	不整	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	26.0	25.0	12.0				
SP304	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	26.0	23.0	13.0	褐色(10YR4/4)粘質が少量混じる			
SP305	方	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	25.0	23.0	26.0				
SP306	方	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	45.0	37.0	15.0				
SP307	椭円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	56.0	38.0	10.0				
SP308	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	20.0	16.0	20.0				
SP309	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	24.0	19.0	12.0				
SP310	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	21.0	18.0	21.0				
SP311	椭円	暗褐色10YR3/3	粘質	中	細	中	32.0	23.0	11.0				
SP312	椭円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	31.0	23.0	11.0				
SP313	円	暗褐色10YR3/3	粘質	弱	細	中	29.0	28.0	13.0				
SP314	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	20.0	17.0	10.0				
SP315	長方形	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	68.0	45.0	10.0				
SP316	長方形	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	35.0	24.0	14.0				
SP317	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	21.0	18.0	15.0				
SP318	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	16.0	14.0	9.0				
SP319	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	35.0	26.0	12.0				
SP320	不整	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	61.0	48.0	17.0	炭化物を含む			
SP321	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	25.0	21.0	8.0				
SP322	方	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	27.0	24.0	13.0				
SP323	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	28.0	25.0	43.0				
SP324	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	19.0	19.0	16.0				
SP325	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	21.0	19.0	24.0				
SP326	円	黒褐色10YR2/2	粘質	中	細	中	25.0	22.0	19.0				
SP327	方	暗褐色10YR3/3	粘質	強	細	中	59.0	58.0	11.0				
SP328	円	暗褐色10YR3/2	粘質	弱	細	中	30.0	24.0	17.0				
SP329	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	28.0	26.0	11.0				
SP330	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	19.0	19.0	29.0				
SP331	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	細	中	22.0	18.0	12.0				
SP332	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	中	中	57.0	50.0	7.0	石器を含む(186)	93	44	
SP333	椭円	黒褐色10YR3/2	粘質	強	細	中	30.0	22.0	12.0				
SP334	円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	中	中	22.0	20.0	14.0	→風削木			
SP335	椭円	黒褐色10YR2/2	粘質	強	中	中	26.0	18.0	25.0	→風削木			
SP336	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	26.0	24.0	31.0	→風削木			
SP337	円	黒褐色10YR3/2	粘質	中	細	中	28.0	26.0	7.0				

《柱穴一覧》

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	(7/8)	
											現存値	→***を切る。←***に切られる
SP338	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	28.0	23.0	33.0			暗褐色(10YR3-4) 粘質土を含む
SP339	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	37.0	33.0	40.0			
SP340	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	密	31.0	20.0	11.0			炭化物を含む にぶい黄褐色 (10YR5-3)粘質土 を含む
SP341	不整	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	中	中	60.0	50.0	28.0			炭化物を含む
SP342	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	61.0	54.0	7.0	→SK3SE2		
SP343	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	28.0	22.0	11.0			
SP344	椭円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	強	細	中	49.0	36.0	41.0			
SP345	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	密	29.0	23.0	10.0			
SP346	不整	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	密	25.0	21.0	8.0			
SP347	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	密	32.0	31.0	18.0			土器を含む
SP348	方	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	密	20.0	20.0	14.0			
SP349	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	強	細	密	25.0	23.0	10.0			
SP350	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	34.0	31.0	15.0			
SP351	長方	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	密	32.0	24.0	12.0			
SP352	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	23.0	20.0	12.0			
SP353	不整	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	密	39.0	36.0	29.0			
SP354	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	密	23.0	20.0	14.0			
SP355	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	25.0	18.0	14.0			
SP356	不整	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	25.0	22.0	13.0			
SP357	不整	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	密	26.0	19.0	6.0			
SP358	長方	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	中	26.0	19.0	13.0			
SP359	椭円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	強	細	中	27.0	21.0	12.0			
SP360	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	28.0	24.0	14.0	→SP362		
SP361	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	26.0	21.0	12.0			
SP362	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	36.0	31.0	18.0	→SP360		
SP363	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	32.0	25.0	17.0			
SP364	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	19.0	16.0	5.0			
SP365	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	49.0	42.0	37.0			炭化物を含む
SP366	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	32.0	26.0	9.0			
SP367	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	32.0	30.0	15.0			
SP368	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	31.0	19.0	13.0			
SP369	円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	強	細	中	22.0	21.0	13.0			
SP370	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	60.0	42.0	26.0			
SP371	椭円?	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	56.0	[20.0]	29.0			
SP372	円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	中	26.0	23.0	13.0			
SP373	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	16.0	14.0	8.0			
SP374	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	30.0	27.0	12.0			
SP375	不整	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	36.0	35.0	8.0			
SP376	円	にぶい黄褐色(10YR4-3)	粘質	中	細	中	38.0	36.0	15.0			
SP377	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	36.0	31.0	11.0			
SP378	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	26.0	25.0	14.0			
SP379	円?	黒褐色(10YR2-2)	粘質	強	細	中	34.0	[15.0]	13.0			
SP380	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	15.0			
SP381	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	14.0	[7.0]	6.0			
SP382	円	にぶい黄褐色(10YR4-3)	粘質	強	細	中	36.0	[24.0]	14.0			
SP383	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	24.0	21.0	11.0			
SP384	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	26.0	23.0	13.0			
SP385	円	灰黄褐色(10YR4-2)	粘質	強	細	密	46.0	[19.0]	68.0			細胞を少量含む。 にぶい黄褐色 (10YR4-3)粘質 土をわずかに 含む
SP386	方?	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	中	46.0	[21.0]	10.0			
SP387	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	35.0	26.0	28.0			
SP388	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	29.0	26.0	6.0			
SP389	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	12.0			
SP390	方	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	20.0	18.0	11.0			
SP391	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	24.0	23.0	19.0			

(8/8) 単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る、←***に切られる

調査名	平面形	稼出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	回	固版
SP392	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	24.0	20.0	12.0				
SP393	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	34.0	31.0	20.0				
SP394	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	15.0				
SP395	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	27.0	26.0		炭化物を含む		
SP396	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	28.0	18.0				
SP397	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	21.0	20.0	10.0		炭化物を含む		
SP398	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	39.0	32.0	21.0				
SP399	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	47.0	46.0	39.0		炭化物を含む		
SP400	円	黒褐色(10YR3/2)	?	?	?	?	46.0	36.0	23.0				
SP401	方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	33.0	32.0				
SP402	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	36.0	31.0	29.0				
SP403	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	26.0	21.0	11.0		褐色(10YR4/4) 粘質土を多く含む。暗灰黄色 (2.5Y4/2)砂質土を含む		
SP404	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	28.0	27.0	10.0		褐色(10YR4/4) 粘質土を多く含む。暗灰黄色 (2.5Y4/2)砂質土を含む		
SP405	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	43.0	33.0	23.0		炭化物を含む		
SP406	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	49.0	35.0	10.0				
SP407	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	45.0	37.0	16.0				
SP408	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	39.0	39.0	33.0				
SP409	方	褐色(10YR4/1)	粘質	強	細	密	27.0	26.0	13.0				
SP410	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	31.0	27.0	11.0				
SP411	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	26.0	9.0				
SP412	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	39.0	22.0	14.0				
SP413	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	28.0	27.0				
SP414	円	灰褐色(10YR4/2)	粘質	中	細	密	34.0	29.0	17.0				
SP415	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	24.0	17.0				
SP416	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	19.0	4.0				
SP417	円	黒褐色(10YR3/1)	粘質	中	細	中	31.0	30.0	9.0				
SP418	円	にぶい黃褐色(10YR4/3)	粘質	強	細	密	26.0	26.0	16.0				
SP419	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	50.0	37.0	14.0				
SP420	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	43.0	33.0	14.0				
SP421	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	93.0	88.0	9.0				
SP422	方	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	54.0	51.0	14.0				
SP423	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	16.0	10.0				
SP424	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	密	33.0	30.0	15.0				
SP425	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	46.0	34.0	17.0				
SP426	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	密	29.0	27.0	26.0				
SP427	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[24.0]	[21.0]	16.0				
SP428	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	密	29.0	27.0	16.0				
SP429	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	26.0	23.0	10.0				
SP430	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	19.0				
SP431	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	30.0	27.0	16.0				
SP432	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	69.0	49.0	22.0				
SP433	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	41.0	38.0	12.0				
SP434	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	32.5	16.0				
SP435	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	41.0	33.5	14.0				

〈柱穴一覧〉

表8 掘載遺物一覧

(1/2)

番号	種別	器種	出土情報	通量	外側色 内側色	調整	備考	図 面	備 考
123	石器	G鉢	SK265U L2.1 W1.0 T0.3	72YRS/4 72YRS/4	オナデ・カシガキ直線文 1ナデ	口縁部外側面直線文 口縁部内側面斜付突唇 底部外側面直線文	マスクレート	72 47	
124	陶土器	壺	SK1 TR017.7 NR0136 H06.6	72YRS/4 72YRS/4	オナデ・カシガキ直線文 1ナデ	口縁部外側面直線文 口縁部内側面斜付突唇 底部外側面直線文	マスクレート	76 47	
125	陶土器	壺	SK1 TR022.2 NR30.1	72YR6/4 72YR7/4	オナデ 1ナデ	口縁部外側面斜付子口 口縁部内側面斜付子口	マスクレート	76 47	
126	陶土器	壺	SK1 H27.9	10YR6/4 10YR5/4	オナデ 1ナデ	口縁部外側面斜付子口 口縁部内側面斜付子口	マスクレート	76 47	
127	陶土器	壺	SK1 TR015.6 H06.4	72YR4/3 72YR6/4	オナデ 1ナデ	口縁部外側面斜付 底部外側面直線文	マスクレート	76 47	
128	陶土器	壺	SK1 H27.4	10YR4/2 10YR5/2	オナデ 1ナデ	口縁部外側面斜付平行 平行底溝・5条の波状文	マスクレート	76 47	
129	陶土器	壺	SK1 H21.8	72YR6/6 72YR6/6	オナデ	口縁部外側面斜付平行 平行底溝	マスクレート	76 47	
130	陶土器	壺	SK1 H22.2	SYR5/6 72YR4/2	オナデ 1ナデ	口縁部外側面斜付 口縁部外側面斜付 底部外側面平行底溝	マスクレート	76 47	
131	陶土器	壺	SK1 LR05.0 H06.1	10YR7/3 10YR3/3	オナデ 1ナデ	口縁部外側面斜付 底部外側面斜付	マスクレート	76 47	
132	石器	石器	SK1 L2.7 W1.2 T0.3	72YR5/3	オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	76 47	
133	石器	スクレイパー	SK1 LR09. W06.0 T0.9	72YR5/3	オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	76 47	
134	石器	磨石	SK1 L15.5 W5.1 T2.7	72YR5/3	オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	77 47	
135	石器	不明	SK1 L1.9 W2.1 T0.36	72YR5/3	オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	77 47	
136	石器	不明	SK1 L1.0 W5.5 R1.5	72YR5/3	オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	77 47	
137	石器	不明	SK1 L4.0 W1.9 H0.9 T0.39	72YR5/3	オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	77 47	
138	石器	不明	SK1 L4.0 W4.5 T1.4	72YR5/3	オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	77 47	
139	石器	不明	SK1 L1.4 W5.0 T1.4	72YR5/3	オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	77 47	
140	陶土器	壺	SK4 H1.9	72YR5/3 72YR5/3	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付	マスクレート	78 48	
141	陶土器	壺	SK4 H20.5	72YR3/3 DYR3/3	オナデ オナデ	底部外側面平行底溝・4条 の波状文	マスクレート	78 48	
142	陶土器	壺	SK4 LR05.0 H05.1	72YR6/6 10YR6/6	オナデ オナデ	底部外側面平行底溝	マスクレート	78 48	
143	陶土器	壺	SK4 LR07.2 H05.1	10YR4/3 10YR4/2	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付 底部外側面斜付	マスクレート	78 48	
144	陶土器	壺	SD2 LR09.6 H03.9	72YR2/3 72YR2/4	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付 底部外側面斜付	マスクレート	79 48	
145	陶土器	壺	SP72 TR019.6 H05.6	10YR4/3 10YR6/3	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付 底部外側面斜付	マスクレート	80 48	
146	陶土器	壺	SP72 LR07.9 H05.7	25YR4/3 25YR3/2	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付 底部外側面斜付	マスクレート	80 48	
147	陶土器	壺	SP136 H5.2	SYR6/6 72YR7/4	オナデ オナデ	底部外側面直線付突唇 型・4条および4条以上の 波状文	マスクレート	81 48	
148	石核	石核	SP162 L5.0 W10.0 T0.8	72YR5/6 72YR5/6	オナデ オナデ	大型底 口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	81 48	
149	陶土器	壺	SR1 TR062.8 NR04.9 H09.8	72YR5/6 72YR5/6	オナデ オナデ	底部外側面斜付突唇 型	マスクレート	83 48	
150	陶土器	壺	SR1 TR046.6 NR04.6 H07.7	72YR5/6 72YR5/6	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	83 48	
151	陶土器	壺	SR1 TR066.5 H03.2 T2.7	72YR5/6 72YR5/6	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	83 48	
152	陶土器	壺	SR1 TR051.1 H04.2 T2.7	10YR5/4 10YR5/4	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	83 48	
153	陶土器	壺	SR1 LR07.0 H03.4	25YR3/1 25YR3/1	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	83 48	
154	陶土器	壺	SR1 H05.3	10YR5/1 10YR5/1	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	83 48	
155	陶土器	壺	SR1 TR027.0 H06.6	10YR8/4 10YR8/4	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	84 48	
156	陶土器	壺	SR1 TR025.0 H04.0 T0.45	10YR5/3 10YR5/3	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	84 48	
157	陶土器	壺	SR1 H22.2	72YR5/3 72YR6/4	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	84 48	
158	陶土器	壺	SR1 L09.6 H09.3	72YR6/6 72YR6/6	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	84 48	
159	陶土器	壺又は鉢	SR1 H05.7	10YR5/3 10YR5/3	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	84 48	
160	陶土器	壺	SR2 TR032.9 H1.8	10YR5/4 10YR5/4	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	85 48	
161	陶土器	壺	SR2 LR016. H016.8	10YR4/2 72YR6/6	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	85 49	
162	陶土器	壺	混合焼(1)H TR026.9 H06.5	10YR6/3 10YR7/4	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型・4条の波状文	マスクレート	86 49	
163	陶土器	壺	混合焼(1)H H05.8	10YR8/4 10YR8/4	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	86 49	
164	陶土器	壺	混合焼(1)H TR015.2 H2.2	72YR6/6 72YR6/6	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	86 49	
165	陶土器	壺	混合焼(1)H TR041.6 H03.2	72YR6/4 72YR6/4	オナデ オナデ	口縁部外側面斜付突唇 型	マスクレート	86 49	

<掘載遺物一覧>

(2/2)

番号	種別	器種	出土情報	法 則	外表面 内面裏面	調整	備考	回 数	回 数
166	陶生土器	甕	笠合輪G区	TR0220H H10.7	5YRS-6 7SYE-2	内:ミガキ 外:ミガキ	外表面平行な縦溝、横溝 内:口縁部に山形文	86	49
167	陶生土器	甕	笠合輪G区	TR0269H H13.8	SYRS-6 7SYE-4	内:ミガキ 外:ミガキ	口縫上部山形文 体部外 面平行な縦溝、横溝 ※試掘調査T10出土遺物	87	49
168	陶生土器	甕	笠合輪G区	TR0270H H6.4	7SYE-1 7SYE-2	内:ミガキ 外:ミガキ・ナデ・ミガキ	口縫端部削り	87	49
169	陶生土器	甕	笠合輪G区	H19.7	7SYE-4 7SYE-2	内:ミガキ・ナデ 外:ミガキ・ナデ		87	49
170	陶生土器	釜	笠合輪G区	H3.39	7SYE-4 7SYE-4	内:ナデ 外:ナデ		87	49
171	陶生土器	甕	笠合輪G区	TR0148H H8.4	SYRS-6 10YR7/4	内:指サエ・板ナデ・ハケ 外:指サエ・ナデ	口縫部、疣状 口縫内側弯曲部(口あり) 底部外側5条の沈溝 ※試掘調査T80出土遺物	88	50
172	陶生土器	甕	笠合輪G区	NR080H H4.0	7SYE-4 7SYE-6	内:ヨコナデ・板ナデ 外:ナデ	底部外側2条の疣状 底部外側全縁の削り	88	49
173	陶生土器	甕	笠合輪G区	TR0104H H4.9	7SYE-4 7SYE-4	内:ナデ・ミガキ 外:ナデ・ミガキ	口縫部、疣状 口縫内側弯曲部(口あり) 底部外側4条の疣状 底部外側全縁の削り	88	49
174	陶生土器	甕	笠合輪G区	TR0146H H4.6	7SYE-4 7SYE-4	内:ナデ・板ナデ 外:ナデ	底部外側2条の疣状	88	49
175	陶生土器	甕	笠合輪G区	LR05.5 H19.0	7SYE-4 7SYE-4	内:ナデ 外:ナデ		88	49
176	陶生土器	甕	笠合輪G区	HR6.8	10YR8-2 10YR4.1	内:指サエ・ナデ・ハケ 外:ナデ	体部外側3条の沈溝	88	49
177	陶生土器	鉢	笠合輪G区	TR0196H H4.0	10YR8-3 25Y7.2	内:指サエ・ナデ・ヨコナデ・ハケ 外:指サエ・ナデ・ヨコナデ	体部外側3条の沈溝 ※試掘調査T80出土遺物	88	50
178	陶生土器	釜	笠合輪G区	LR06.1 H10.2	10YR8-3 20YR8-2	内:ミガキ 外:ミガキ		88	50
179	土師器	杯	笠合輪G区	HE3.9	10YR8-2 10YR8-2	内:指サエ 外:ナデ		89	50
180	土師器	皿	笠合輪G区	LR05.3 H1.2	10YR8-2 10YR8-2	内:指サエ 外:ナデ	底部回転差切り	89	50
181	土師質土器	土釜	笠合輪G区	HR4.2	SYRS-6 20YR-8	内:指サエ・ナデ 外:ナデ		89	50
182	土師質土器	土釜	笠合輪G区	HE4.9	10YR8-4	内:ナデ		89	50
183	瓦器	椀	笠合輪G区	LR04.6 H9.0	25Y5-3 25Y6-4	内:摩剥により不明 外:摩剥により不明		89	50
184	瓦器	椀	笠合輪G区	LR03.8 H1.0	10YR5-3 10YR4-2	内:摩剥により不明 外:ナデ		89	50
185	陶器(底面)	陶器(底面)	拂土	LR0109H H1.0	SYT-1 SYT-1	内:指サエ 外:ナデ	底部回転差切り	90	50
186	石器	砾石	SP332	LJ18.05 W7.69 T8.2			砂岩	93	50
187	石器素材	不明	笠合輪G区	LJ14.8 W7.4 T1.1			緑色片岩	95	50

〈掲載遺物一覧〉

表9 出土遺物一覽

時代	出土情報	種別	部位	種	区分	点数	總 約 号	時期	出土情報		種別	部位	種	区分	点数	總 約 号
									地	層						
新石器時代	S1	出土上器	口縫部	縫	地	1		後	陶	A	1	160				
			側部	縫又は要	層	1	4		陶	B	1	14				
			口縫部	不明	陶片	2	92		陶	後	1	161				
	S1-SK2	出土上器	側部	縫又は要	縫	5			陶	後	1	161				
			口縫部	完存	石縫	1	123		陶	後	2	162,164				
	S1-SP155	出土上器	側部	縫又は要	縫	1			陶	後	4					
			底部	縫	縫	1			縫	後	8					
	S1-SP156	出土上器	側部	縫又は要	縫	1			縫	後	120					
	S1-SP159	出土上器	側部	縫又は要	縫	1			縫	後	136					
	S1-SP166	出土上器	側部	縫又は要	縫	3			縫	後	7					
	S1-SP170	出土上器	側部	縫又は要	縫	1			縫	後	165~168					
	S42-SP121	出土上器	側部	縫又は要	縫	2			縫	後	169					
	SK1	出土上器	口縫部	縫	地	3	124,125,127		縫	後	12					
			側部	縫	縫	1			縫	後	8					
			口縫部	縫	縫	3	128,129,130		縫	後	1	170				
			側部	縫	縫	2	136		縫	後	1	163				
			底部	縫	縫	1	154		縫	後	7					
			口縫部	縫	縫	1	131		縫	後	1	171				
			側部	縫	縫	2	132		縫	後	4	175				
			底部	縫	縫	1	131		縫	後	1	176				
			口縫部	縫	縫	2	132		縫	後	4	177				
			側部	縫	縫	1	130		縫	後	1	178				
			底部	縫	縫	1	131		縫	後	4	179				
			口縫部	縫	縫	2	132		縫	後	1	180				
			側部	縫	縫	1	133		縫	後	4	181				
			底部	縫	縫	1	134		縫	後	1	182				
			口縫部	縫	縫	2	135		縫	後	4	183				
			側部	縫	縫	1	136		縫	後	1	184				
			底部	縫	縫	1	137		縫	後	4	185				
			口縫部	縫	縫	2	138,139		縫	後	1	186				
			側部	縫	縫	1	139		縫	後	4	187				
			底部	縫	縫	1	140		縫	後	1	188				
			口縫部	縫	縫	2	141		縫	後	4	189				
			側部	縫	縫	1	142		縫	後	1	190				
			底部	縫	縫	1	143		縫	後	4	191				
			口縫部	縫	縫	2	144		縫	後	1	192				
			側部	縫	縫	1	145		縫	後	4	193				
			底部	縫	縫	1	146		縫	後	1	194				
	SK4	出土上器	側部	縫又は要	縫	7			縫	後	1	195				
			口縫部	縫	縫	1			縫	後	4	196				
			側部	縫	縫	1	147		縫	後	1	197				
			底部	縫	縫	1	148		縫	後	4	198				
			口縫部	縫	縫	2	149		縫	後	1	199				
			側部	縫	縫	1	150		縫	後	4	200				
			底部	縫	縫	1	151		縫	後	1	201				
			口縫部	縫	縫	2	152		縫	後	1	202				
			側部	縫	縫	1	153		縫	後	4	203				
			底部	縫	縫	1	154		縫	後	1	204				
			口縫部	縫	縫	2	155		縫	後	1	205				
			側部	縫	縫	1	156		縫	後	4	206				
			底部	縫	縫	1	157		縫	後	1	207				
			口縫部	縫	縫	2	158		縫	後	1	208				
			側部	縫	縫	1	159		縫	後	4	209				
			底部	縫	縫	1	160		縫	後	1	210				
			口縫部	縫	縫	2	161		縫	後	1	211				
			側部	縫	縫	1	162		縫	後	4	212				
			底部	縫	縫	1	163		縫	後	1	213				
			口縫部	縫	縫	2	164		縫	後	1	214				
			側部	縫	縫	1	165		縫	後	4	215				
			底部	縫	縫	1	166		縫	後	1	216				
			口縫部	縫	縫	2	167		縫	後	1	217				
			側部	縫	縫	1	168		縫	後	4	218				
			底部	縫	縫	1	169		縫	後	1	219				
			口縫部	縫	縫	2	170		縫	後	1	220				
			側部	縫	縫	1	171		縫	後	4	221				
			底部	縫	縫	1	172		縫	後	1	222				
			口縫部	縫	縫	2	173		縫	後	1	223				
			側部	縫	縫	1	174		縫	後	4	224				
			底部	縫	縫	1	175		縫	後	1	225				
			口縫部	縫	縫	2	176		縫	後	1	226				
			側部	縫	縫	1	177		縫	後	4	227				
			底部	縫	縫	1	178		縫	後	1	228				
			口縫部	縫	縫	2	179		縫	後	1	229				
			側部	縫	縫	1	180		縫	後	4	230				
			底部	縫	縫	1	181		縫	後	1	231				
			口縫部	縫	縫	2	182		縫	後	1	232				
			側部	縫	縫	1	183		縫	後	4	233				
			底部	縫	縫	1	184		縫	後	1	234				
			口縫部	縫	縫	2	185		縫	後	1	235				
			側部	縫	縫	1	186		縫	後	4	236				
			底部	縫	縫	1	187		縫	後	1	237				
			口縫部	縫	縫	2	188		縫	後	1	238				
			側部	縫	縫	1	189		縫	後	4	239				
			底部	縫	縫	1	190		縫	後	1	240				
			口縫部	縫	縫	2	191		縫	後	1	241				
			側部	縫	縫	1	192		縫	後	4	242				
			底部	縫	縫	1	193		縫	後	1	243				
			口縫部	縫	縫	2	194		縫	後	1	244				
			側部	縫	縫	1	195		縫	後	4	245				
			底部	縫	縫	1	196		縫	後	1	246				
			口縫部	縫	縫	2	197		縫	後	1	247				
			側部	縫	縫	1	198		縫	後	4	248				
			底部	縫	縫	1	199		縫	後	1	249				
			口縫部	縫	縫	2	200		縫	後	1	250				
			側部	縫	縫	1	201		縫	後	4	251				
			底部	縫	縫	1	202		縫	後	1	252				
			口縫部	縫	縫	2	203		縫	後	1	253				
			側部	縫	縫	1	204		縫	後	4	254				
			底部	縫	縫	1	205		縫	後	1	255				
			口縫部	縫	縫	2	206		縫	後	1	256				
			側部	縫	縫	1	207		縫	後	4	257				
			底部	縫	縫	1	208		縫	後	1	258				
			口縫部	縫	縫	2	209		縫	後	1	259				
			側部	縫	縫	1	210		縫	後	4	260				
			底部	縫	縫	1	211		縫	後	1	261				
			口縫部	縫	縫	2	212		縫	後	1	262				
			側部	縫	縫	1	213		縫	後	4	263				
			底部	縫	縫	1	214		縫	後	1	264				
			口縫部	縫	縫	2	215		縫	後	1	265				
			側部	縫	縫	1	216		縫	後	4	266				
			底部	縫	縫	1	217		縫	後	1	267				
			口縫部	縫	縫	2	218		縫	後	1	268				
			側部	縫	縫	1	219		縫	後	4	269				
			底部	縫	縫	1	220		縫	後	1	270				
			口縫部	縫	縫	2	221		縫	後	1	271				
			側部	縫	縫	1	222		縫	後	4	272				
			底部	縫	縫</td											

《出土遺物一覽》

第5章 西喜光地遺跡の成果

第1節 西喜光地遺跡の概要

1 地形と調査区(図9・105)

西喜光地遺跡は国領川扇状地性氾濫原内で、尻無川右岸に隣接する。行政上は愛媛県新居浜市西喜光地町で、調査区の絶対位置は北緯 $33^{\circ} 56' 18''$ ・東経 $133^{\circ} 17' 36''$ の交差する付近である。現地面の標高は南側約28.9m・北側約27.85mである。南側に微高地が形成されており、北方に向へ緩やかに傾斜するとともに北東方向では明確な傾斜が見られる。調査前は耕作地または市道であった。

調査区は東西に分割した。西側の1区は東西約8.5m・南北約50.8mの長方形を中心として、南北両側に袖状に延び合計118mにおよぶ調査区である。2区は南側の東西約43.6m・南北約44mの長方形を2a区、北西側の東西約0.5m・南北約7.6mの長方形を2b区とした。調査対象面積は3,122m²である。

2 基本層序(図106~109)

基本層序は、隣接する河川に影響を受けている1区と微高地状地形の2区で異なるため、調査区ごとに記述することとする。

1区は大きく4層に分かれる。I層は耕作土で49層に細分した。II層は耕作盛土で15層に細分できる。盛土は西壁の一部で捉えられるほか、東壁では南端部を中心に洪水砂礫層が顕著にみられ、洪水ごとに耕作面のかさ上げを幾度も繰り返しているものと考えられる。加えて、南端部分では転圧の痕跡がみられた。III層は南側を中心に分布する包含層で35層に細分され、そのうちIII11~24・29~32層は漸移層である。遺物量は少ないが、弥生時代を中心とし近世までの遺物が出土する。IV層は明黄褐色砂質土で、上面が遺構検出面となる。

2区では大きく5層に分かれる。I層は耕作土である。II層は耕作盛土で16層に細分できる。一部深掘りされており、後述する天地返しの影響が考えられる。III層は包含層で7層に細分されるが残存状態は一定せず、特に微高地の南側



図98 黒褐色疊層の隆起



図99 西喜光地遺跡 現場作業 1



図100 西喜光地遺跡 現場作業 2



図101 西喜光地遺跡 現場作業 3



図102 西喜光地遺跡 現場作業 4



図103 西喜光地遺跡 現場作業 5

では不安定であるため削平がおよんでいるものと考えられる。遺物量は少ないが、弥生時代を中心とし近世までの遺物が出土する。IV層は明褐色シルトで、上面が遺構検出面となる。

V層は褐色細砂混じり疊層でこぶし大の礫を含み、国領川扇状地性氾濫原および段丘堆積物と考えられる。

図110に示した通り2a区東寄りで南北方向の直線状の疊層露出範囲がみられ、断面観察からは図98のように基盤層であるIV層に対し割り込む形で黒褐色疊層(VI層)の隆起が捉えられた。旧地形では、疊層(VI層)同様にIV層も高まりを形成し南北方向に伸びる微高地を成していくものと復元できる。2a区南西側で頻繁にみられた搅乱と同様、2区全体でも後世において広範囲に削平を受けているものと想定される。また、2a区西側でも段差状の落ち込みがあることから尻無川の氾濫や流水による削平・地形改変などの影響が考えられる。

3 遺構と遺物の概要(図110)

検出した遺構は掘立柱建物10棟・土坑8基・溝19条・小穴397穴である。これらは弥生時代から中世にかけての遺構で、IV層上面で検出された。

出土遺物は弥生土器・土師器・土師質土器・須恵器・瓦器・陶磁器・石器・瓦である。

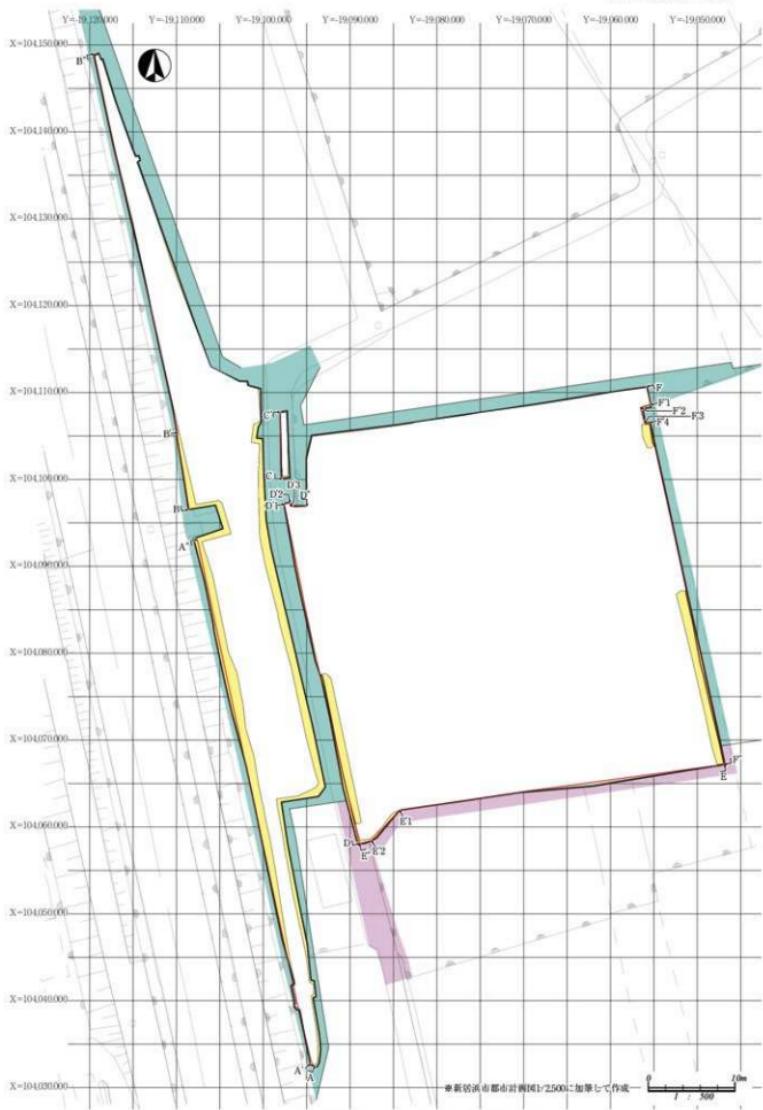


図104 西喜光地遺跡 現場作業 6



図105 西喜光地遺跡(1・2区) 調査区位置図

西喜光地遺跡の概要



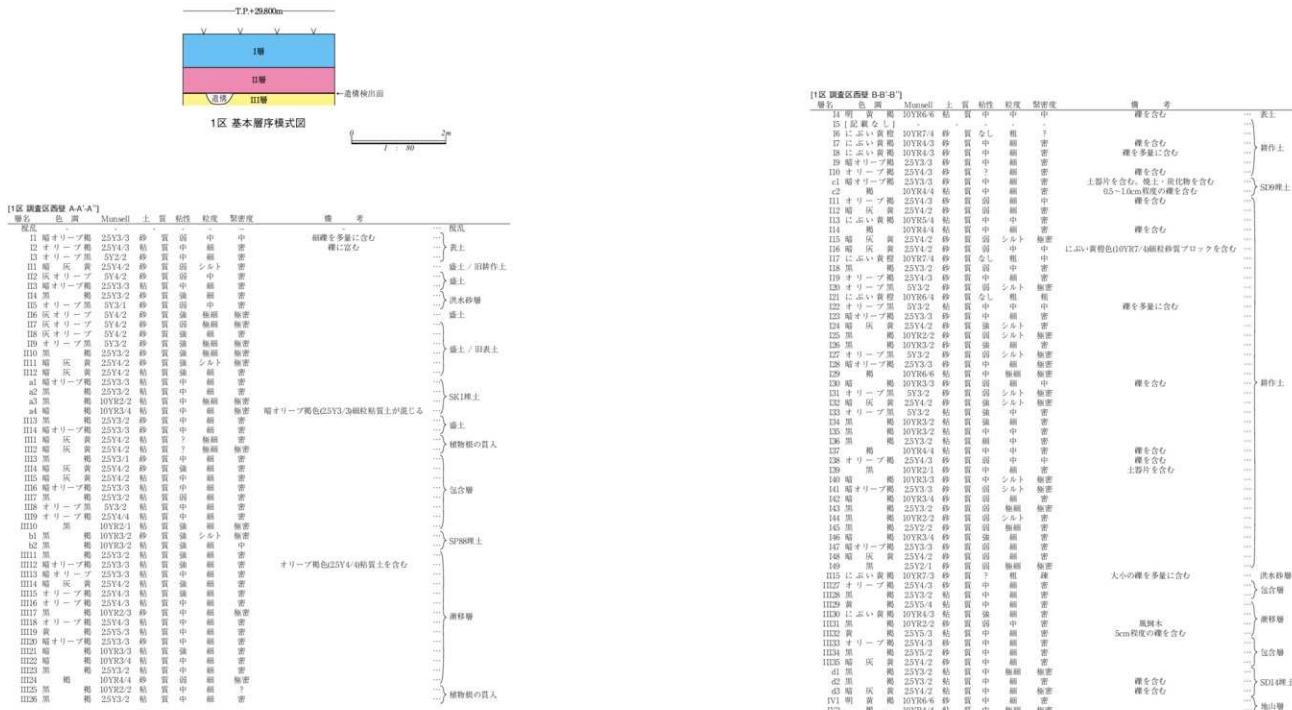


図107 1区 基本層序模式図および土層説明(A-A'-A'',B-B'-B'')

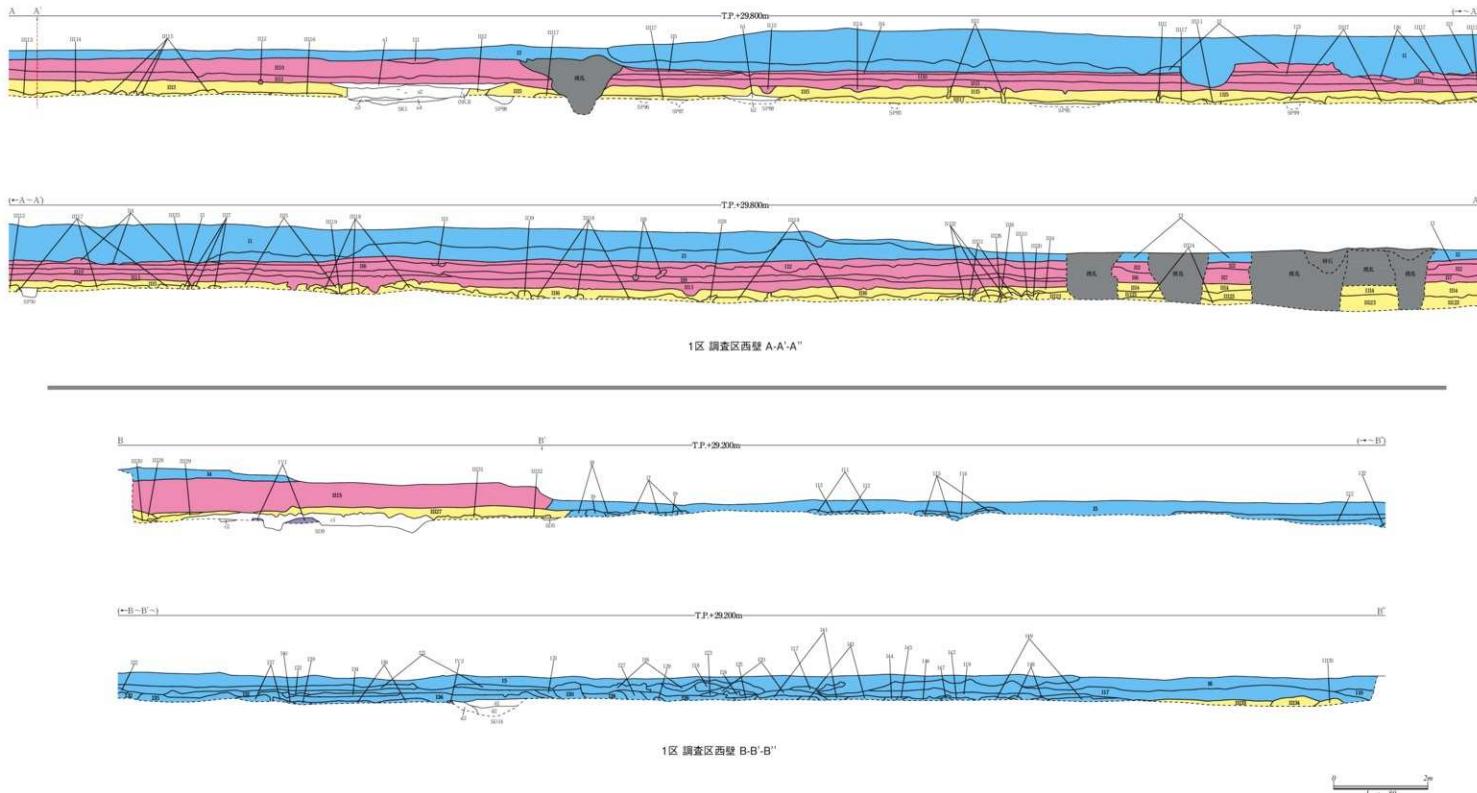


図108 1区 基本層序(A-A'-A'',B-B'-B'')

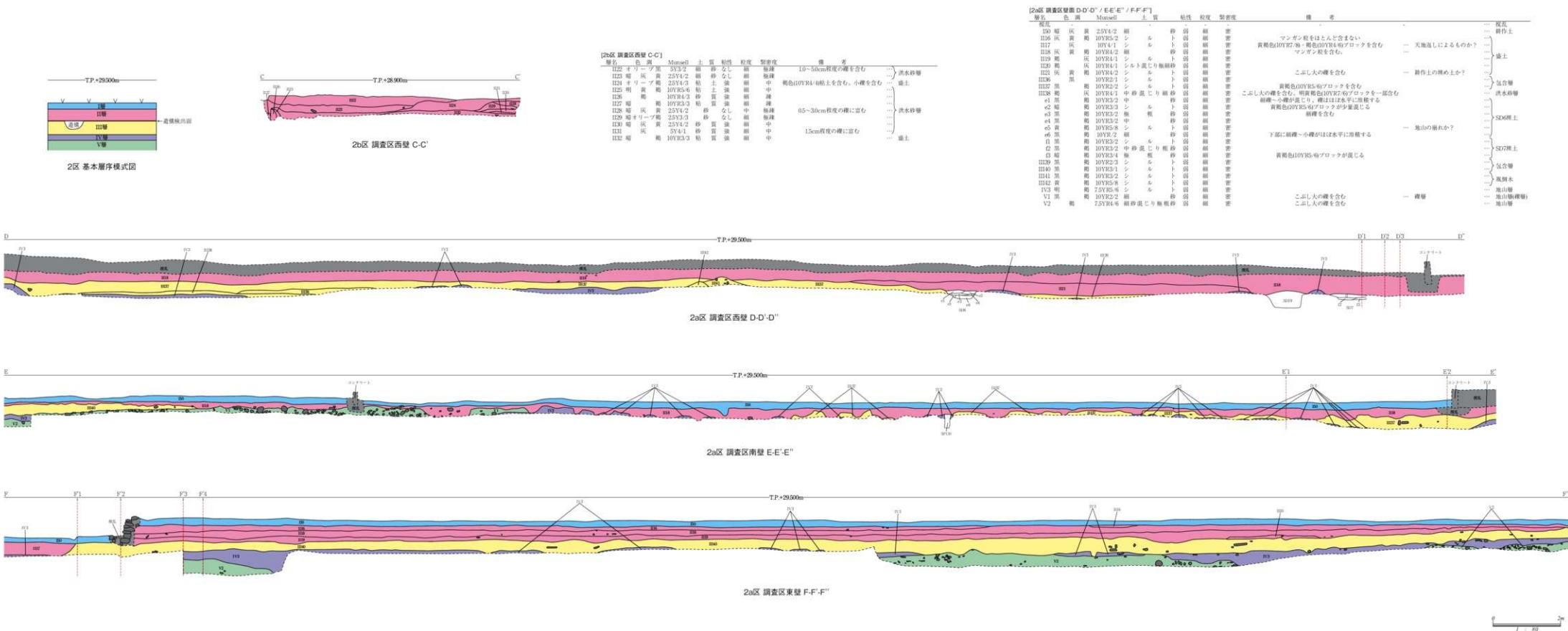


図109 2区 基本層序模式図および基本層序(C-C',D-D'-D'',E-E'-E'',F-F'-F'')

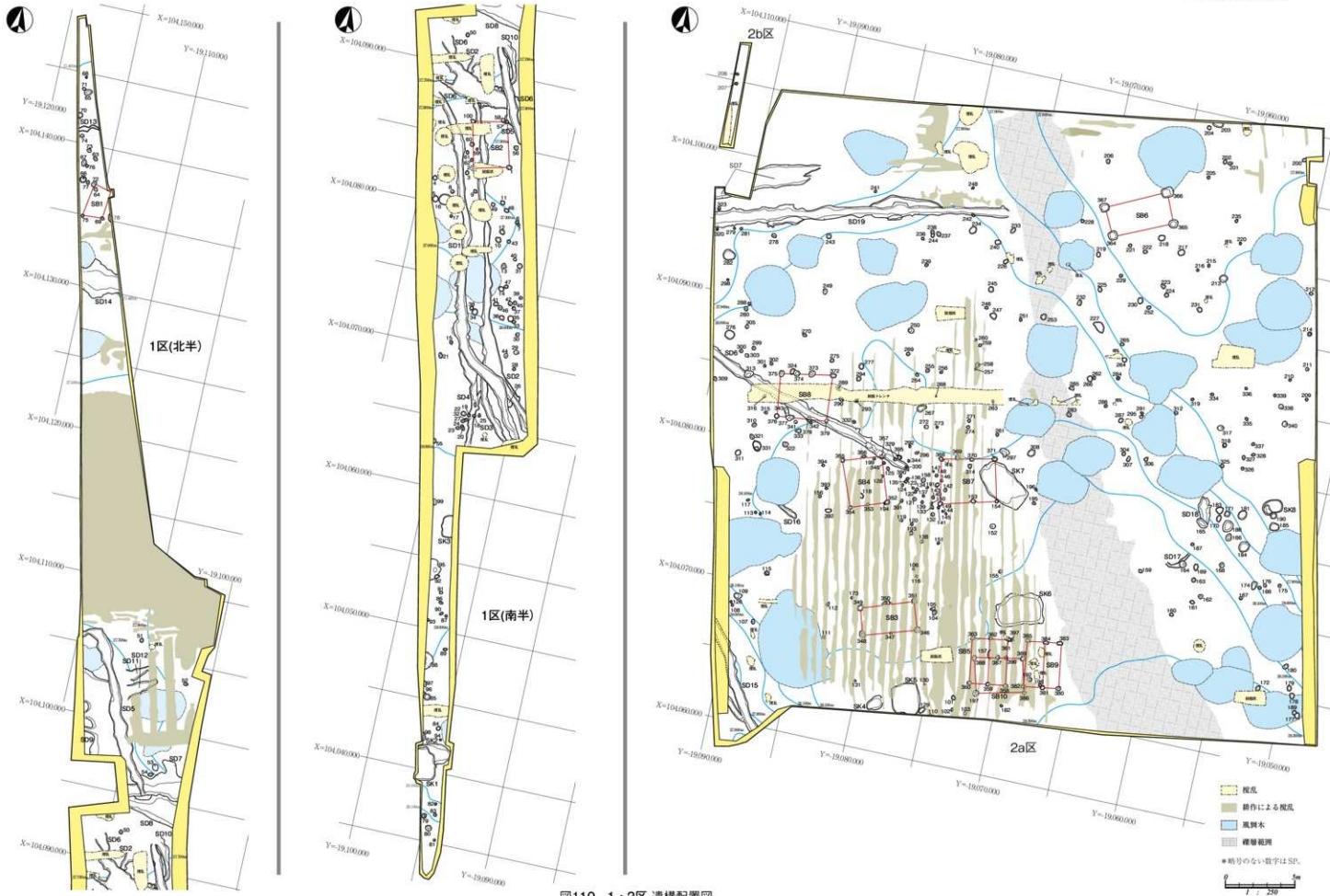


図110 1・2区 遺構配置図

第2節 弥生時代の遺構と遺物

1 概要

弥生時代の遺構は、掘立柱建物9棟・土坑6基・小穴11穴である。全てIV層上面で検出しており、遺構は弥生時代中期前葉～中葉と考えられる。出土遺物は弥生土器壺・甕、石器である。

2 掘立柱建物

(1) SB2(図111・112)

遺構 SB2は1区中央部にあり、検出標高は約27.92mである。SD5よりもSB2が古い。1間×1間の側柱建物で、梁行2.49m・桁行3.36mの規模である。長軸方向はN-13.28°-Wを指向する。各柱穴は直径27～42cmの円形もしくは不整形を呈し、検出面からの深さは32～41cmである。柱間は梁方向が250～256cm、桁方向が326～335cmである。土層は柱抜き取り痕の可能性がある暗オリーブ褐色砂質土(2層)、黒褐色砂質土(4・6層)と掘り方の黒褐色砂質土(3層)、暗褐色砂質土(5・7層)に分かれる。遺物はSP1・2・57より弥生土器・石器が出土した。SP1では環とともに両刃石斧(191)が出土し、SP2では弥生土器(188～190)が折り重なるようにして出土した。SB2の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 188～190は壺の口縁部である。188は端部に斜格子文が描かれ、頸部には貼付突帯文が巡る。190は口縁部である。表面が摩耗している。191は緑色岩製の両刃石斧である。両端が欠損している。

(2) SB3(図113)

遺構 SB3は2a区南西側にあり、検出標高は約28.18mである。1間×2間の側柱建物で、梁行1.96m・桁行3.88mの規模である。長軸方向はN-70.62°-Eを指向する。SP347・350が直径22～24cm、SP346・348・349・351が直径35～50cmの円形もしくは不整形を呈しており、検出面からの深さは11～67cmで、四隅の柱穴が大きく深い。柱間は梁方向が197～207cm、桁方向が185～207cmである。土層は四隅のSP346・348・349・351は黒褐色シルトと黒色シルトに分かれ、SP347・350は黒褐色シルトである。図示できる遺物は無いものの、SP346・348・349・350より弥生土器が出土している。SB3の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

(3) SB4(図114)

遺構 SB4は2a区西側にあり、検出標高は約28.14mである。SB4はSD6よりも古くSP194より新しい。1間×3間の側柱建物で、梁行2.85m・桁行3.47mの規模である。長軸方向はN-71.59°-Eを指向する。各柱穴は直径25～35cmの円形もしくは梢円形を呈し、検出面からの深さは20～39cmである。柱間は梁方向が335～340cm、桁方向が124～145cmである。土層は柱抜き取り痕の可能性がある埋土は黒色シルト(1層)または黒褐色シルト(2層)で、掘り方には黒褐色(2層)・明黄褐色(3層)・黒色シルト(4層)である。図示できる遺物は無いが、SP354より弥生土器の細片が出土している。

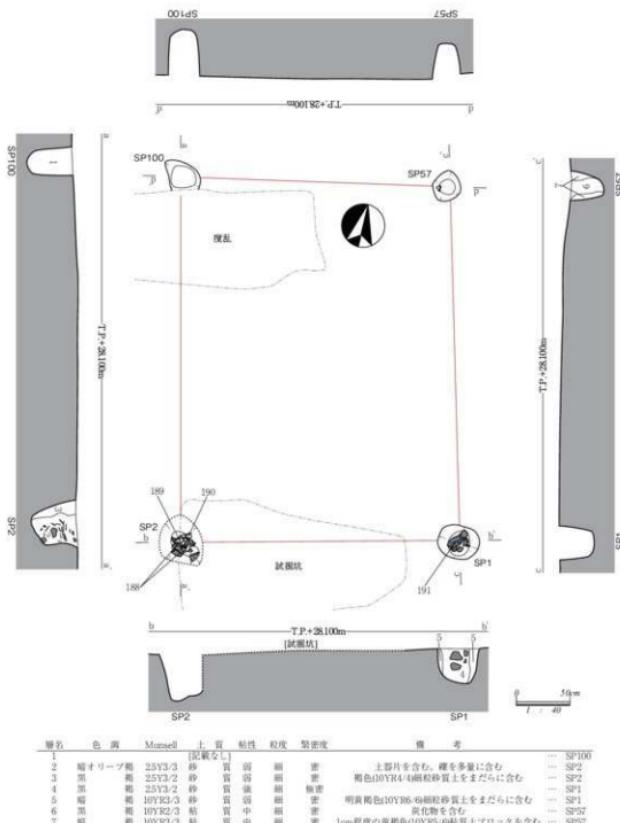


図111 SB2平面面図および遺物出土状況

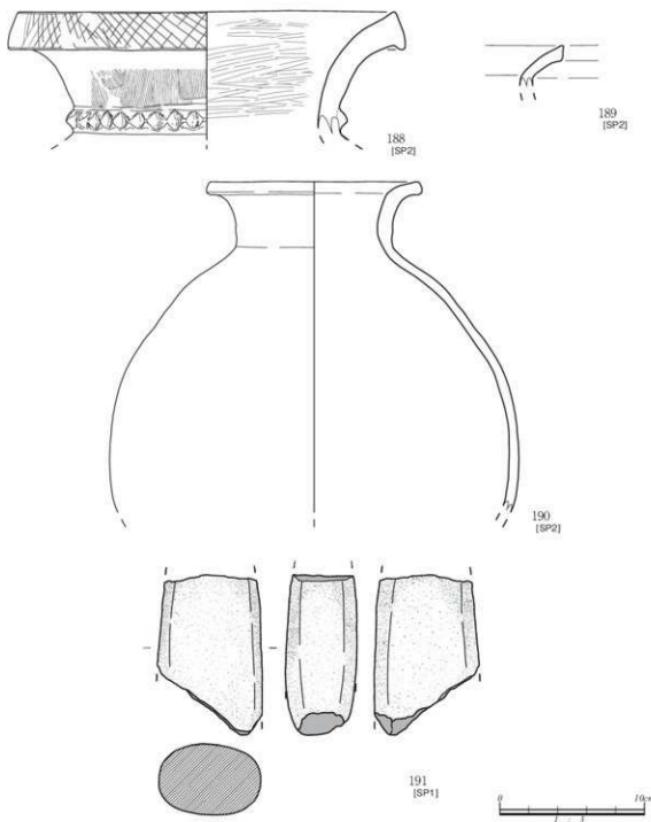


図112 SB2出土遺物

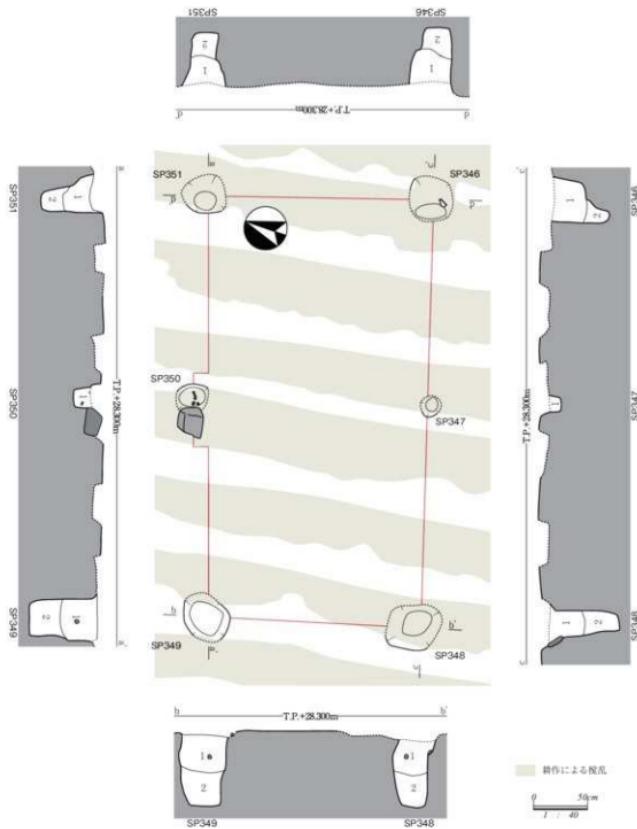


図113 SB3断面図および遺物出土状況

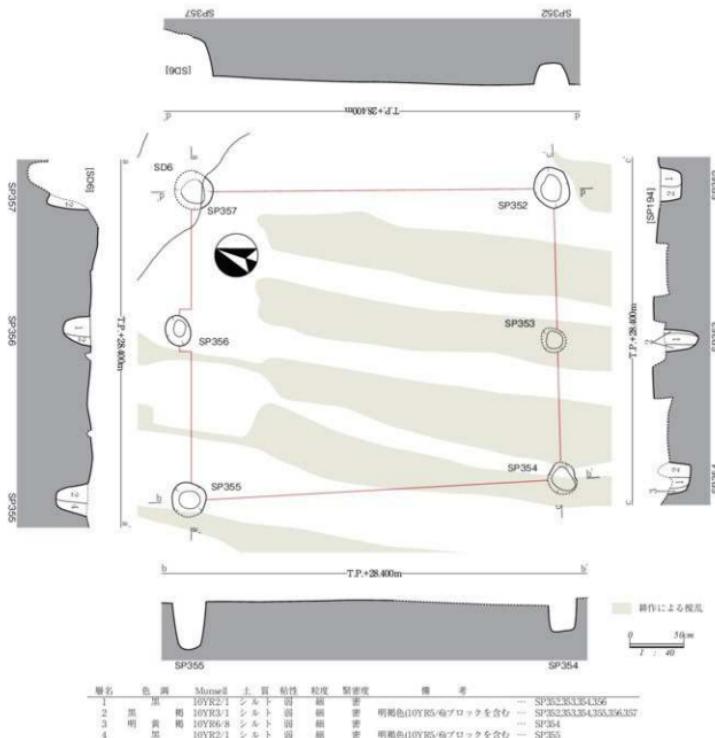


図114 SB4平面面図

SB4の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

(4) SB5(図115)

遺構 SB5は2a区南側にあり、検出標高は約28.24mである。1間×2間の側柱建物で、梁行3.26m・桁行2.61mの規模である。長軸方向はN-81.05°-Eを指向する。各柱穴は直径29~35cmの楕円形もしくは円形を呈し、検出面からの深さは15~33cmである。柱間は梁方向が327cm、桁方向が121~129cmである。柱痕の可能性がある土層は黒色シルト(1層)で、掘り方は暗褐色シルト(2層)・黄褐色シルト(3層)である。遺物は出土していない。SB5の時期は、検出層位と周辺の状況より弥生時代中期中葉の可能性がある。

(5) SB6(図116)

遺構 SB6は2a区北東側にあり、検出標高は約27.72mである。1間×1間の側柱建物で、梁行2.13m・桁行4.62mの規模である。長軸方向はN-63.9°-Eを指向する。各柱穴はほかの掘立柱建物に比して大型で直径60~86cmの円形もしくは隅丸方形を呈し、検出面からの深さは51~72cmである。柱間は梁方向が219~230cm、桁方向が448~455cmである。掘り方がSP1以外では黒褐色粘質土(6層)または暗褐色粘質土(7層)である。図示できる遺物は無いが、SP365・366・367より弥生土器の細片が出土している。SB6の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

(6) SB7(図117・118)

遺構 SB7は2a区中央西寄りにあり、検出標高は約28.1mである。1間×3間の側柱建物で、梁行3.23m・桁行3.87mの規模である。長軸方向はN-77.49°-Eを指向する。各柱穴は直径22~37cmの円形もしくは楕円形を呈し、検出面からの深さは10~38cmである。柱間は梁方向が308~323cm、桁方向が南側のみ2間となり103~237cmである。柱痕の可能性がある土層は黒褐色シルト(3層)で、柱抜き取り痕の可能性がある黒褐色シルト(1・7・13層)がみられる。遺物は弥生土器が出土している。SB7の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 192は壺である。内外面にミガキ、内面体部下半にはケズリが見られる。底部は焼成前穿孔されている。

(7) SB8(図119・120)

遺構 SB8は2a区中央西寄りにあり、検出標高は約28.08mである。1間×3間の側柱建物で、梁行3.14m・桁行3.82mの規模である。SB2はSD6よりも古くSP324・343より新しい。長軸方向はN-79.64°-Eを指向する。各柱穴は直径30~60cmの円形もしくは楕円形を呈し、検出面からの深さは33~66cmである。柱間は梁方向が310~333cm、桁方向が98~149cmである。土層はおむね3~4層に分かれ、柱抜き取り痕の可能性があるものを含む黒褐色粘質土(2~6・8・10層)のほか、にぶい黄褐色粘質土(7層)・暗褐色粘質土(9層)がみられる。遺物は弥生土器が出土している。SB8の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 193は壺である。外面には斜め方向、内面には縦方向のミガキが見られる。194~196は壺である。194・195は口縁部、196は底部である。いずれも外面に縦方向のミガキ、194・196の内面には横方向のミガキ、195の内面に横方向の後、縦方向のミガキを施している。

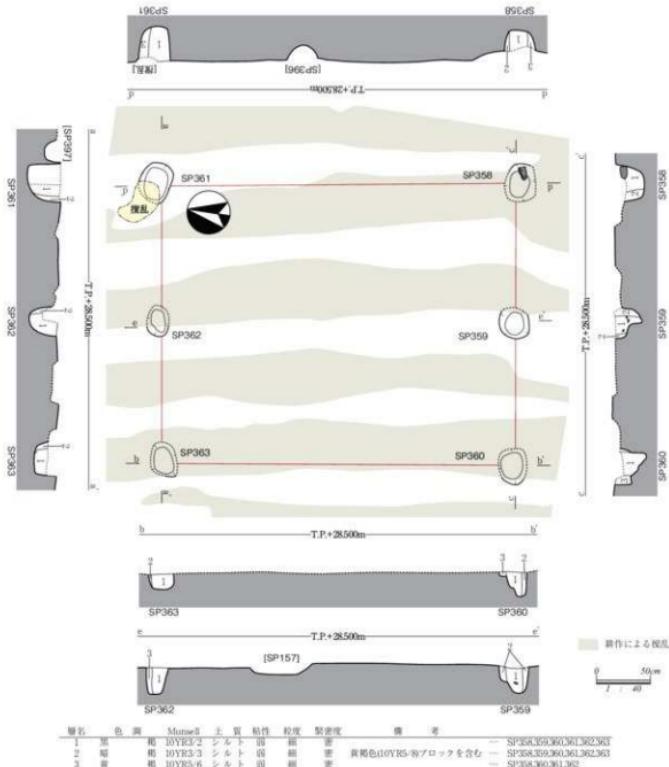


図115 SB5平断面図および磚出土状況

西喜光地道路の成果

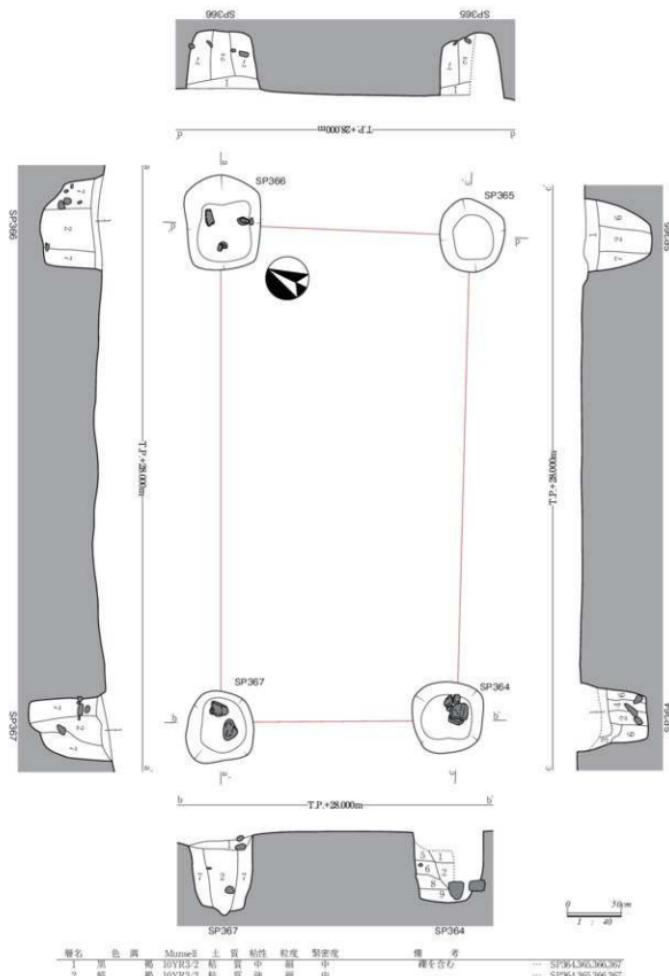
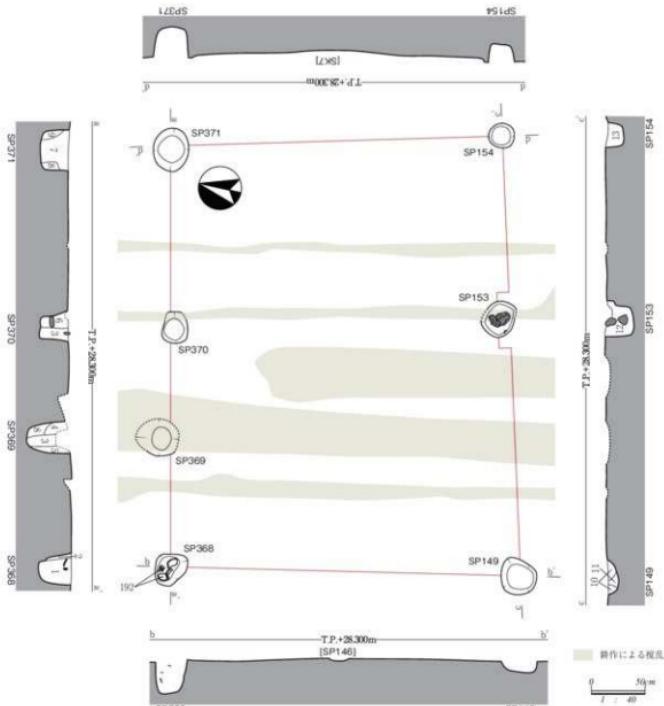


図116 SB6平面面図および遺物出土状況



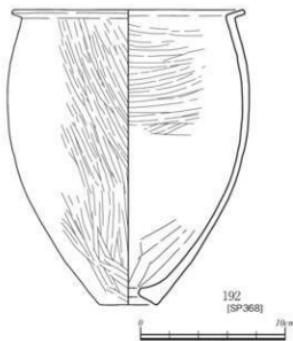


図118 SB7出土遺物

(8) SB9(図121)

遺構 SB9は2a区南側にあり、検出標高は約28.29mである。1間×2間の側柱建物で、梁行3.34m・桁行2.53mの規模である。長軸方向はN-81.05°-Eを指向する。各柱穴は直径30~40cmの梢円形もしくは円形を呈し、検出面からの深さは17~27cmである。柱間は梁方向が327cm、桁方向が120~137cmである。柱痕の可能性がある土層は黒色シルト(1層)で、掘り方は暗褐色(2層)・黄褐色シルト(3層)である。図示できる遺物は無いが、SP380より弥生土器の細片が出土している。SB9の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

(9) SB10(図122)

遺構 SB10は2a区南側にあり、検出標高は約28.23mである。1間×2間の側柱建物で、梁行2.54m・桁行3.47mの規模である。長軸方向はN-79.06°-Eを指向する。各柱穴は直径30~47cmの梢円形もしくは円形を呈し、検出面からの深さは22~52cmである。柱間は梁方向が243~258cm、桁方向は南側のみが1間となり163~331cmである。柱痕の可能性がある土層は黒色シルト(1・2層)である。図示できる遺物は無いが、SP388より弥生土器の細片が出土している。SB10の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

3 土坑

(1) SK1(図123・124・126)

遺構 SK1は1区南端部にあり、一部は調査外の西側へ続いている。検出標高は約28.12mである。SK2よりもSK1が新しいと判断した。長軸240cm・短軸140cm・検出面からの深さは21cmである、平面形は不整形な梢円形状を呈する。長軸方向はN-20.44°-Wを指向する。土層は黒褐色粘質土で、部分的に暗褐色粘質土を含む。検出時は小型竪穴建物の可能性を想定していたが、床面が安定せず壁溝や柱穴などもみられなかったため、土坑とした。弥生土器とともに石器や礫が出土している。SK1の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 197は壺の口縁部である。198は甕である。199は両刃石斧で、安山岩製の可能性がある。

(2) SK2(図123~126)

遺構 SK2は1区南端部にあり、一部は調査区外の西側へ続く。検出標高は約28.14mである。SK1よりもSK2が古いと判断した。平面形は不整形な梢円形と推定され、長軸240cm・短軸142cm・検出面からの深さは10cmである。土層は黒褐色粘質土が主体となる。弥生土器とともに

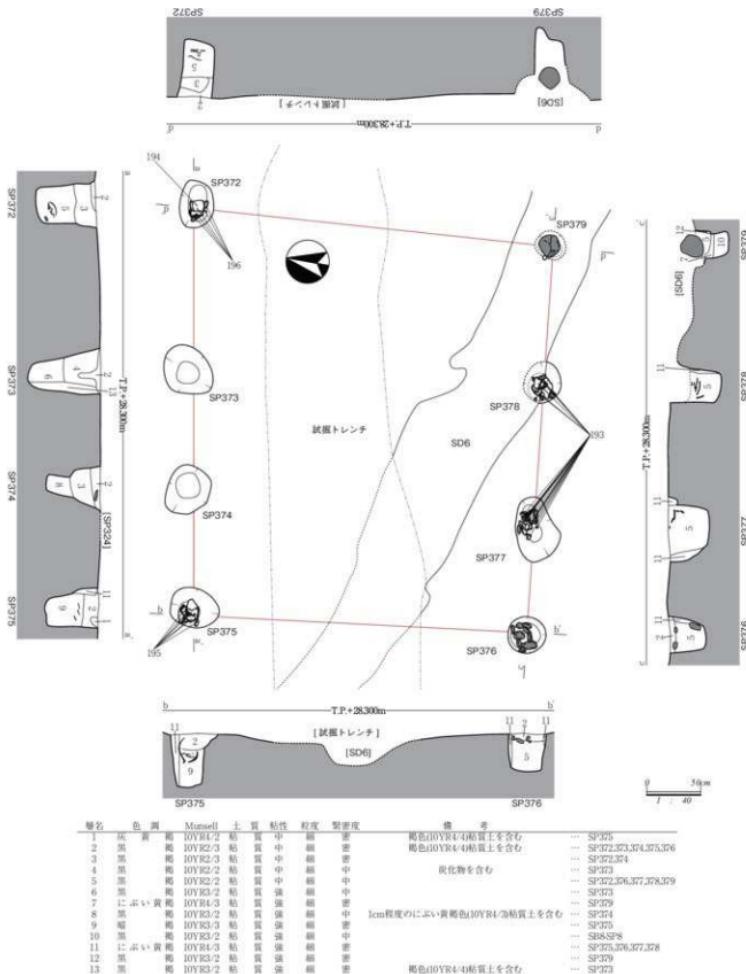


図119 SB8平面面図および遺物出土状況

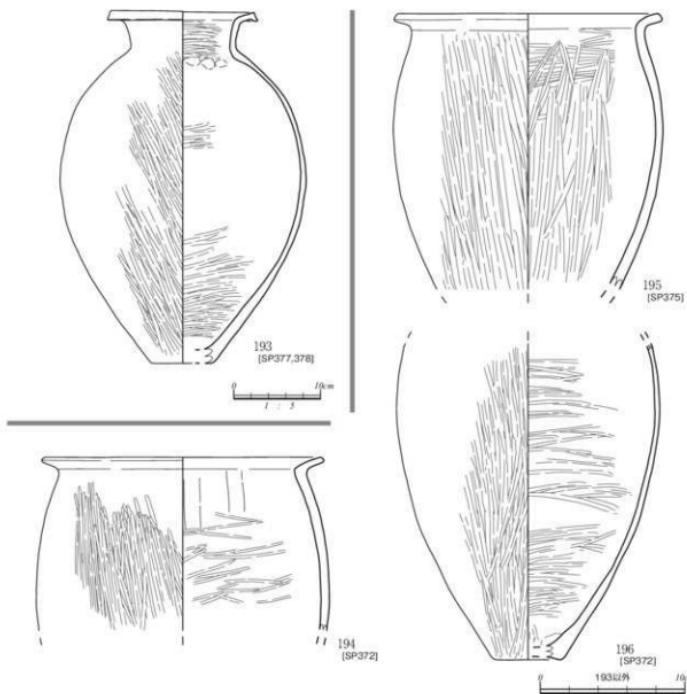


図120 SB8出土遺物

に石器や礫が出土している。SK2の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 200・201は壺の口縁部である。200は内面に円形浮文および斜格子文、端部には波状文が見られる。201では端部に綾杉状の列点文が見られる。202～208は甕である。202は底部、それ以外は口縁部である。204・205は倒卵形を呈する。209・210は石庖丁である。209は泥質片岩、210はサスカイト製である。

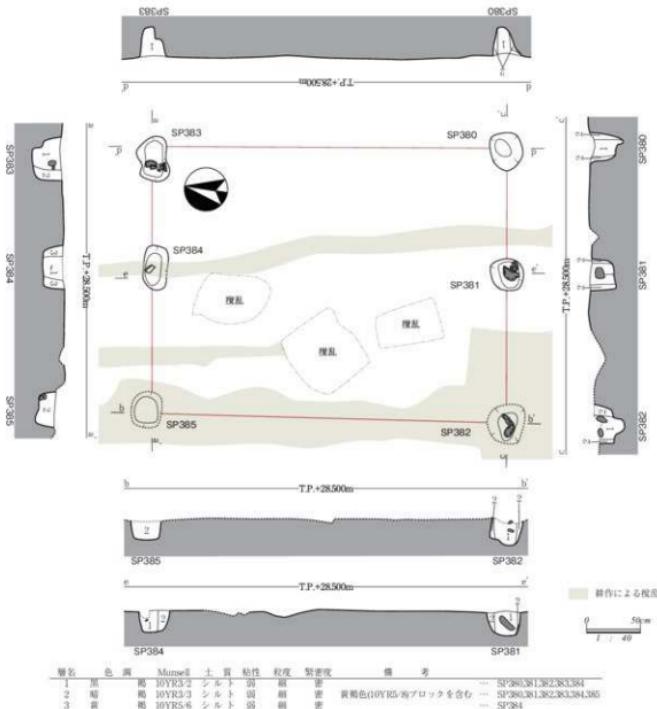


図121 SK9平面断面図および出土状況

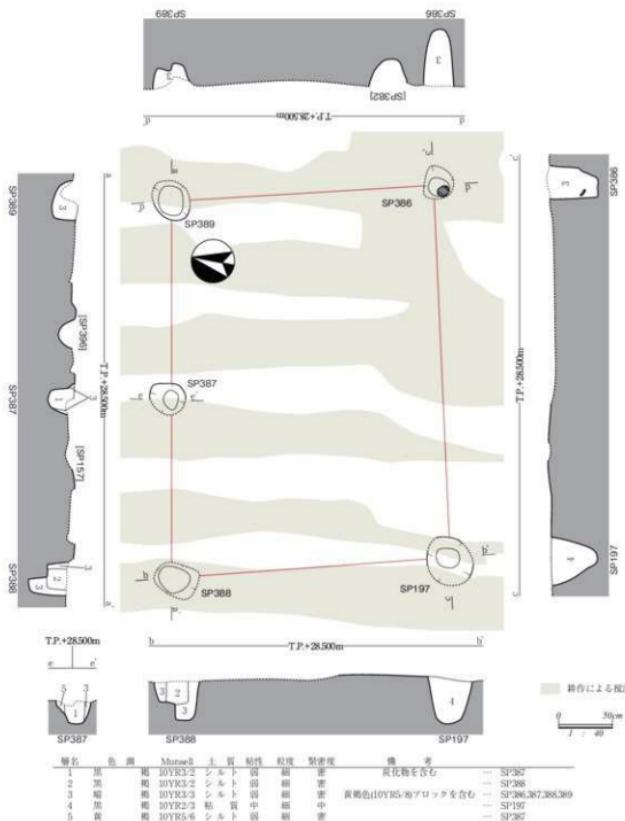
211・212はSK1・2出土間で接合した堀で、211は口縁部、212は底部である。

(3) SK3(図127)

遺構 SK3は1区南側にあり、一部は調査区外の西側へ続く。検出標高は約27.97mである。平面形は不整形な隅丸方形状と推定され、長軸160cm・短軸81cm・検出面からの深さは7cmである。土層は黒褐色粘質土で南側では黒色砂質土が見られた。図示できる遺物は無いが、弥生土器の細片が出土している。SK3の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代と考えられる。

(4) SK5(図128・129)

遺構 SK5は2a区南端部にあり、一部は調査区外の南側へ続く。検出標高は約28.3mである。平



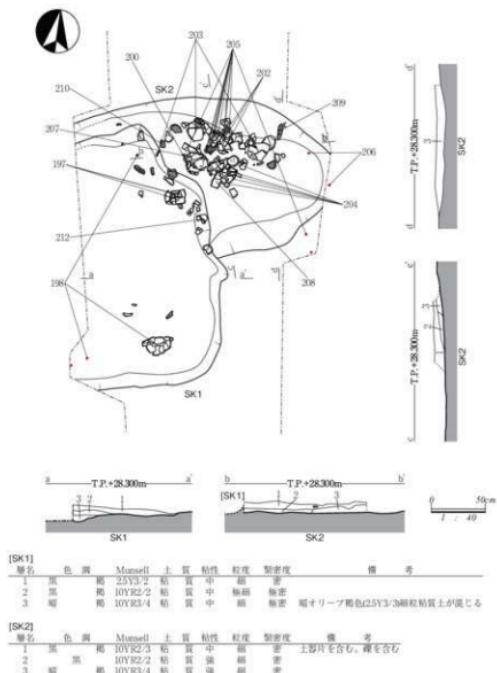


図123 SK1,2平面面図および遺物出土状況

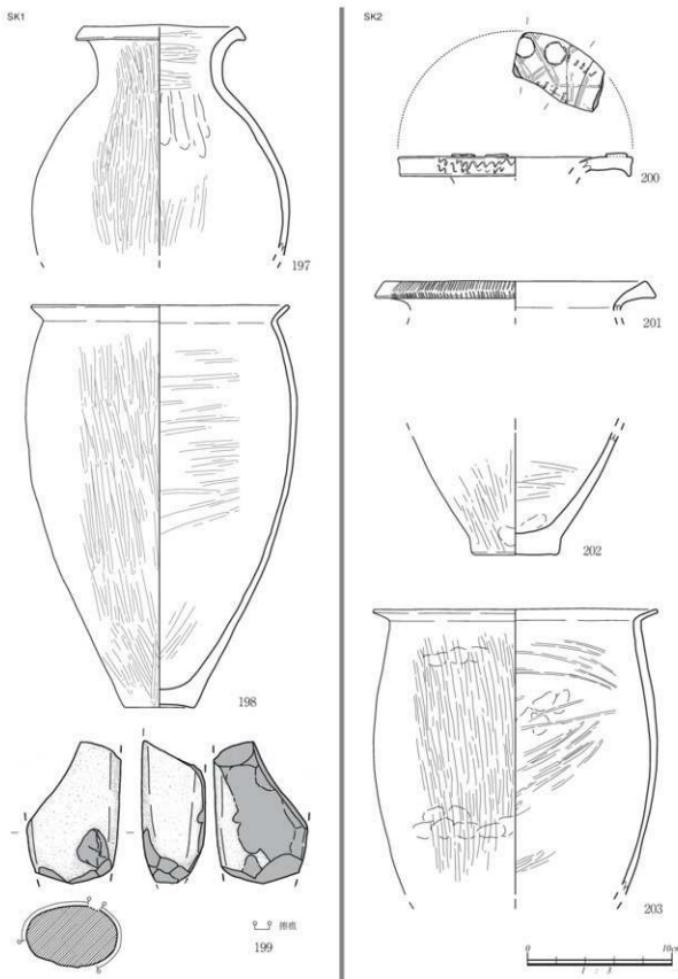


図124 SK1,2出土遺物(1)

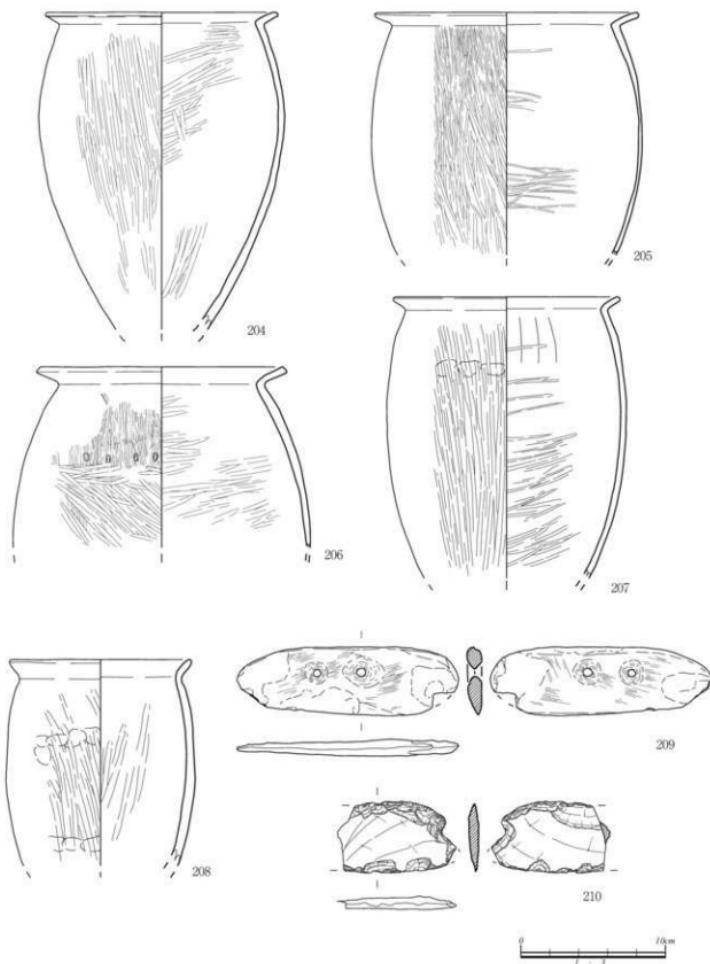


図125 SK2出土遺物(2)

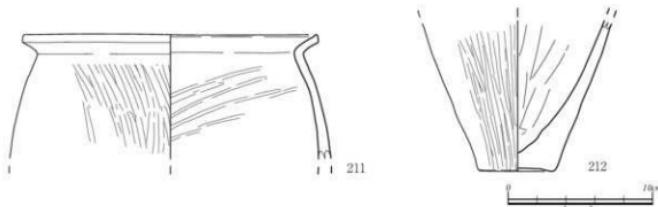


図126 SK1,2出土遺物

面形は隅丸方形と推定され、長軸218cm・短軸203cm・検出面からの深さは16cmであり、さらに南側へ続く。長軸方向はN-19.82°-Wを指向する。土層は黒褐色シルトで、壁際では明黄褐色シルト含む。1層は地山ブロックを含んでおり、人為的に埋め戻された可能性がある。弥生土器とともに礫が出土している。SK5の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 213は壺の口縁部で、口縁内外面に山形文が描かれ、頸部には貼付突帯文や波状文が巡る。214は短頸壺である。胴部に直線文や斜格子文、列点文が施される。215~219は甕である。

215は底部、それ以外は口縁部である。219は口縁端部に刻目がある。

(5) SK6(図130)

遺構 SK6は2a区南側にあり、検出標高は約28.06mである。搅乱が大部分に及んでおり、平面形は不整形な隅丸方形状と推定され、長軸354cm・短軸221cm・検出面からの深さは9cmである。長軸方向はN-68.78°-Eを指向する。土層は3層に分けられ、黒褐色シルトが主体である。弥生土器とともに石器や礫が出土している。SK6の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期中葉と考えられる。

遺物 220は甕の口縁部である。221は泥質片岩製の石器素材である。

(6) SK7(図131)

遺構 SK7は2a区中央南寄りにあり、検出標高は約28.14mである。平面形は不整形な隅丸方形状を呈し、長軸355cm・短軸270cm・検出面からの深さは14cmである。長軸方向はN-33.67°-Wを指向する。土層は黒色粘質土が主体となる。弥生土器とともに石器や礫が出土している。SK7の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代中期と考えられる。

遺物 222は甕の口縁部で倒卵形を呈する。223は緑色片岩製の石器素材で、石庵丁の可能性があ

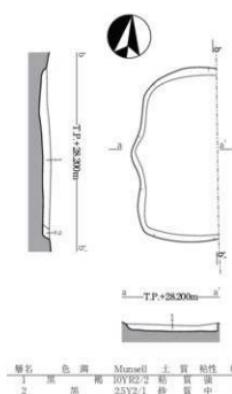


図127 SK3平面断面図

る。

4 遺構外の出土遺物(図132・133)

224は1区より、225～233は2区より出土した。224～227は壺である。224は口縁部である。225・226は口縁部および底部であり、同一個体の可能性が高い。227は口縁部に刻目が施され胴部中位に列点文が見られる。外面上半にハケ、中位で横方向、下半に縦方向のミガキが施される。228～232は甕の口縁部であり、228～230はくの字状、231は水平に屈曲する。229は端部に刻目、上端面に波状文が施される。232は貼付口縁であり、口縁上端面に波状文が見られる。

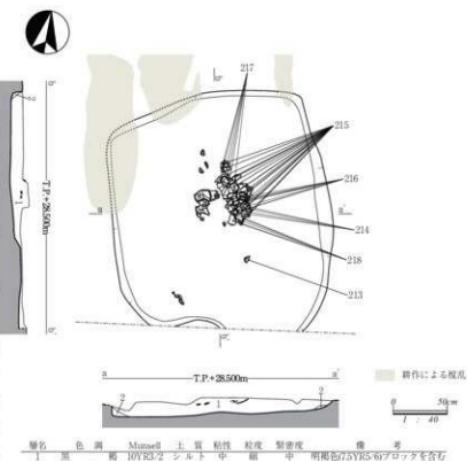


図128 SK5平面面図および遺物出土状況

第3節 古代の遺構と遺物

1 概要

古代の遺構は、溝3条である。全てIV層上面で検出しており、これらの遺構は古代以降と考えられる。出土遺物は土師器・須恵器である。

2 溝

(1) SD1(図134)

遺構 SD1は1区中央部にあり、検出標高は約28.43mである。SD2～4・SP26よりもSD1が新しい。検出長2631cm・最大幅91cm・検出面からの深さは最深部で9cmである。断面形は皿状で、平面形はおむね直線的であり、2度屈曲しながらSD7と並走し、北西へ延びるものとみられる。疊を含む状況から流水により埋土が堆積したものと考えられる。長軸方向はN-14.07° -Wを指向する。図示できる遺物は無いが、弥生土器が出土しており、摩耗がみられる。SD1の時期は検出層位と遺構の重複より古代以降と考えられる。

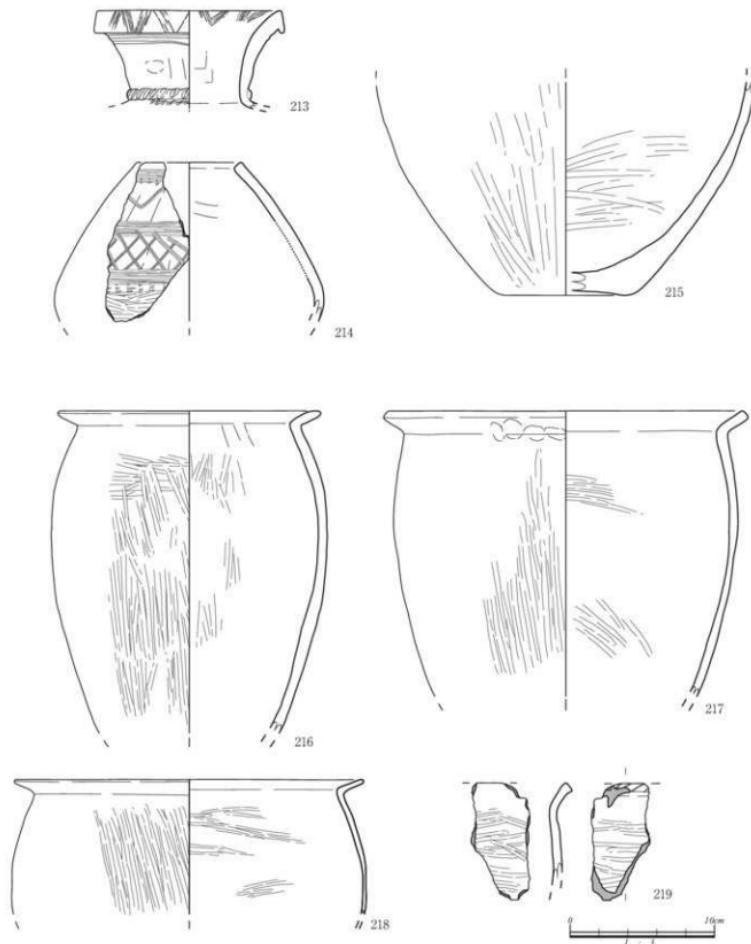


図129 SK5出土遺物

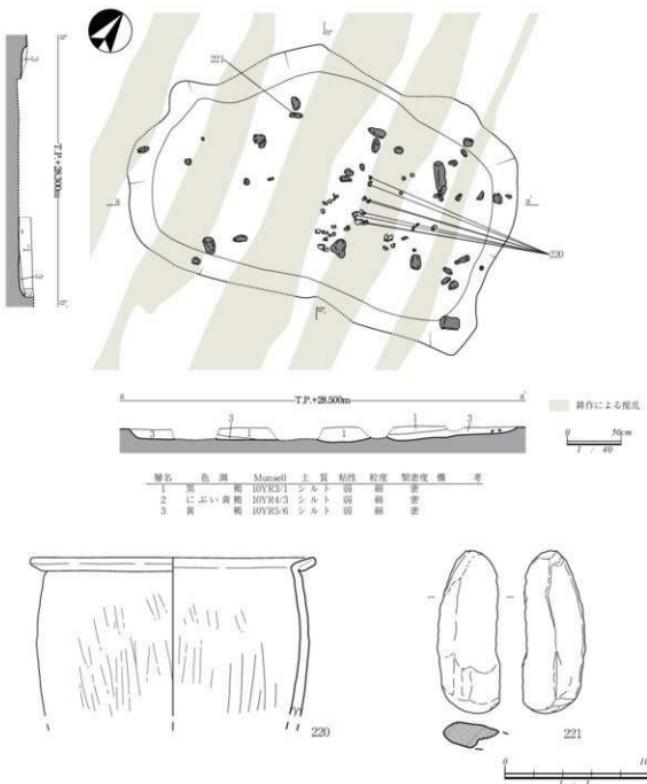


図130 SK6平面図および遺物出土状況および出土遺物

(2) SD3(図134)

遺構 SD3は1区中央南寄りにあり、検出標高は約28.02mである。南端は擾乱が及んでおり、SD1よりも古くSD4より新しい。位置的にSD2の一部であった可能性もある。検出長470cm・最大幅55cm・検出面からの深さは最深部で12cmである。断面形は緩やかなV字形で、流水により埋土が堆積したものと考えられる。南東から北方向へ緩く湾曲しており、長軸方向はN.39.16°-Wを指向する。土層は、に ぶい 黄褐色粘質土と暗褐色粘質土に分層できる。図示できる遺物は無いが

西喜光地道路の成果



図131 SK7平断面図および遺物出土状況および出土遺物

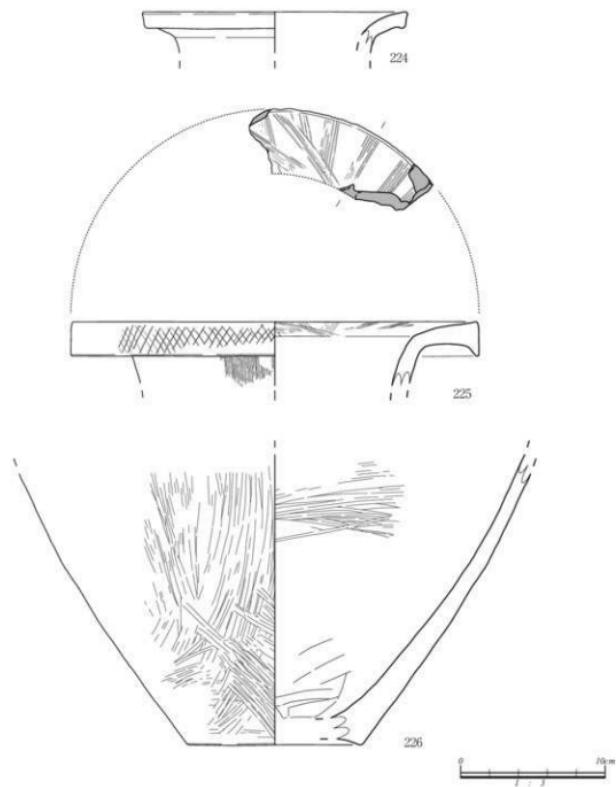


図132 包含層出土遺物(弥生時代) (1)

弥生土器および土師器が出土しており、摩耗がみられる。SD3の時期は、検出層位と出土遺物より古代以降と考えられる。

(3) SD6(図135)

遺構 SD6は調査区西側で1区および2a区にまたがる溝である。検出標高は1区で約27.78m、2a区で約28.06mである。SD5・SP313より古くSB4.8・SD2・SP329.330より新しい。検出長2,874cm・最大幅148cm・検出面からの深さは最深部で16cmである。断面形状は逆台形状で、平面形状は直

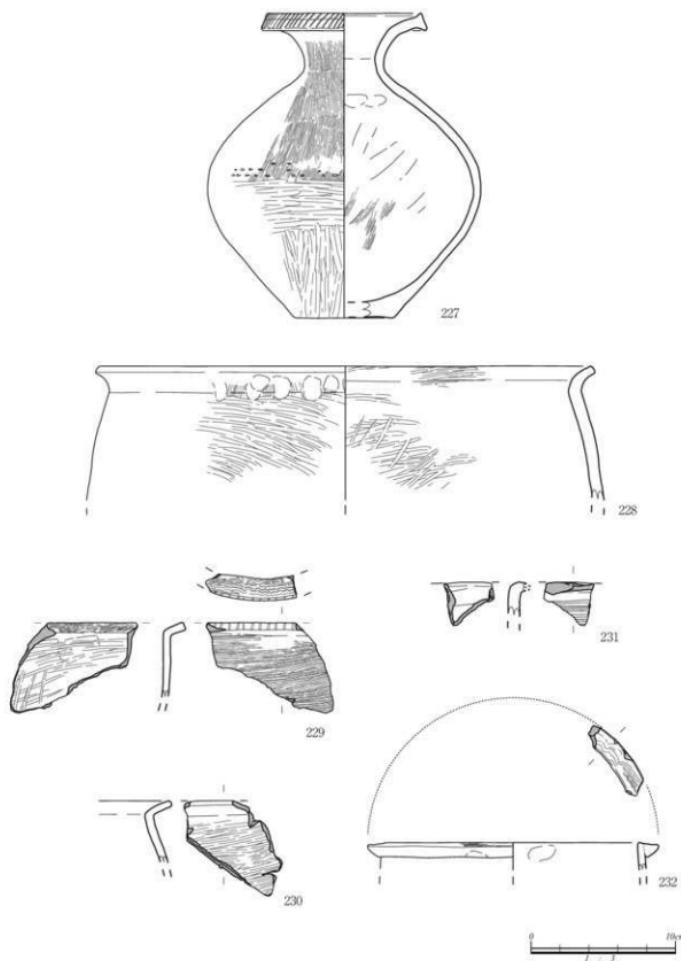


図133 包含層出土遺物(弥生時代) (2)

線的であり長軸方向はN-70.11° -Wを指向する。埋土に大小の礫を含む状況から、複数回の流水による堆積と想定される。遺物は弥生土器・須恵器のほか土師器が出土しており摩耗がみられる。SD6の時期は、検出層位と出土遺物より8世紀後半以降と考えられる。

遺物 233は弥生土器壺または甕の底部である。234は須恵器蓋である。天井部を欠くがつまみが付帯していた可能性がある。

第4節 中世の遺構と遺物

1 概要

中世の遺構は、溝3条・小穴2穴である。全てIV層上面で検出しており、これらの遺構は中世以降と考えられる。出土遺物には土師質土器・瓦器・陶磁器がある。

2 溝

(1) SD5(図136)

遺構 SD5は1区中央北寄りにあり、検出標高は約27.75mである。SB2・SD6,7,9,10よりもSD5が新しい。検出長2,356cm・最大幅100cm・検出面からの深さは最深部で22cmである。断面形は逆台形状であり、礫を含む状況から流水により埋土が堆積したものと考えられる。北西方向へ直進したのち北端で西へ屈曲する。長軸方向はN-26.62° -Wを指向する。弥生土器のほか土師器が出土しており、摩耗がみられる。SD5の時期は、検出層位と遺構の重複・出土遺物より中世以降と考えられる。

遺物 235は弥生土器甕の底部である。

(2) SD7(図137)

遺構 SD7は調査区北側で1区および2a区にまたがり、検出標高は約27.8mである。SD5より古くSD8より新しい。検出長1,452cm・最大幅254cm・検出面からの深さは最深部で16cmである。断面形は逆台形状であり、礫を含む状況から流水のもと埋土が堆積したものと考えられる。形状は直線的であり、長軸方向はN-71.65° -Eを指向する。

遺物 は1区で弥生土器・須恵器・土師器・瓦・土師質土器・瓦器椀が、2a区で土師質土器が出土している。SD7の時期は、検出層位と出土遺物より古代から中世と考えられる。

遺物 237は土師器甕の胴部である。内外面に刷毛目がみられる。238は土師器椀または杯の口縁部である。239は須恵器甕の胴部である。外面にタキギが施される。240は平瓦で、若干磨耗しているが内面に布目が見られる。241は土師質土器皿である。

(3) SD19(図137)

遺構 SD19は2a区西側にあり、検出標高は約27.96mである。SP242よりもSD19が新しい。検出長2,114cm・最大幅180cm・検出面からの深さは最深部で51cmである。断面形は逆台形状であり、礫を含む状況から流水のもと埋土が堆積したものと考えられる。形状は直線的でありSD7と並走し、長軸方向はN-76.77° -Eを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器や土師器・土師質

土器が出土し、摩耗がみられる。SD19の時期は、検出層位と出土遺物より中世以降と考えられる。

3 遺構外の出土遺物(図138)

242・243は1区、244～246は2区より出土した。一部に古代以降のものも含む。242は土師質土器皿である。243は和泉型瓦器椀の口縁部である。13世紀頃と推定される。244は土師質土器の底部、245は内面黒色土器の底部である。246は白磁碗IV類の口縁部である。

第5節 時期不明の遺構

1 挖立柱建物

(1) SB1(図139)

遺構 SB1は1区北側にあり、検出標高は約27.44mである。埋土の色調や検出面からの深さがおおむね揃う傾向であることから、掘立柱建物の可能性を考えた。1間×1間の個柱建物で、梁行1.44m・桁行2.43mの規模である。北東部の柱穴は確認できなかった。長軸方向はN-9.16°・Eを指向する。各柱穴は直径25～43cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは9～35cmである。柱間は梁方向が144cm、桁方向が244cmである。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は出土していない。

2 土坑

(1) SK4(図140)

遺構 SK4は2a区南端部にあり、検出標高は約28.3mである。長軸114cm・短軸85cm・検出面からの深さは10cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。軸方向はN-48.54°・Eを指向する。土層は黒褐色細砂が主体である。遺物は出土していない。

(2) SK8(図141)

遺構 SK8は2a区東部にあり、検出標高は約27.8mである。長軸147cm・短軸96cm・検出面からの深さは27cmであり、平面形は楕円形を呈する。長軸方向はN-65.56°・Eを指向する。土層は3層に分層される。遺物は出土していない。

3 溝

(1) SD2(図134)

遺構 SD2は1区中央部にあり、検出標高は約27.92mである。SD1,6より古くSP26より新しい。検出長2,685cm・最大幅118cm・検出面からの深さは最深部14cm、断面形は不整形な皿状であり、礫を含むことから流水のもと埋土が堆積したものと考えられる。形状はおおむね直線的でSD1と並走しており、長軸方向はN-16.9°・Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土しており、摩耗がみられる。SD2の時期は、検出層位と遺構の重複、出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

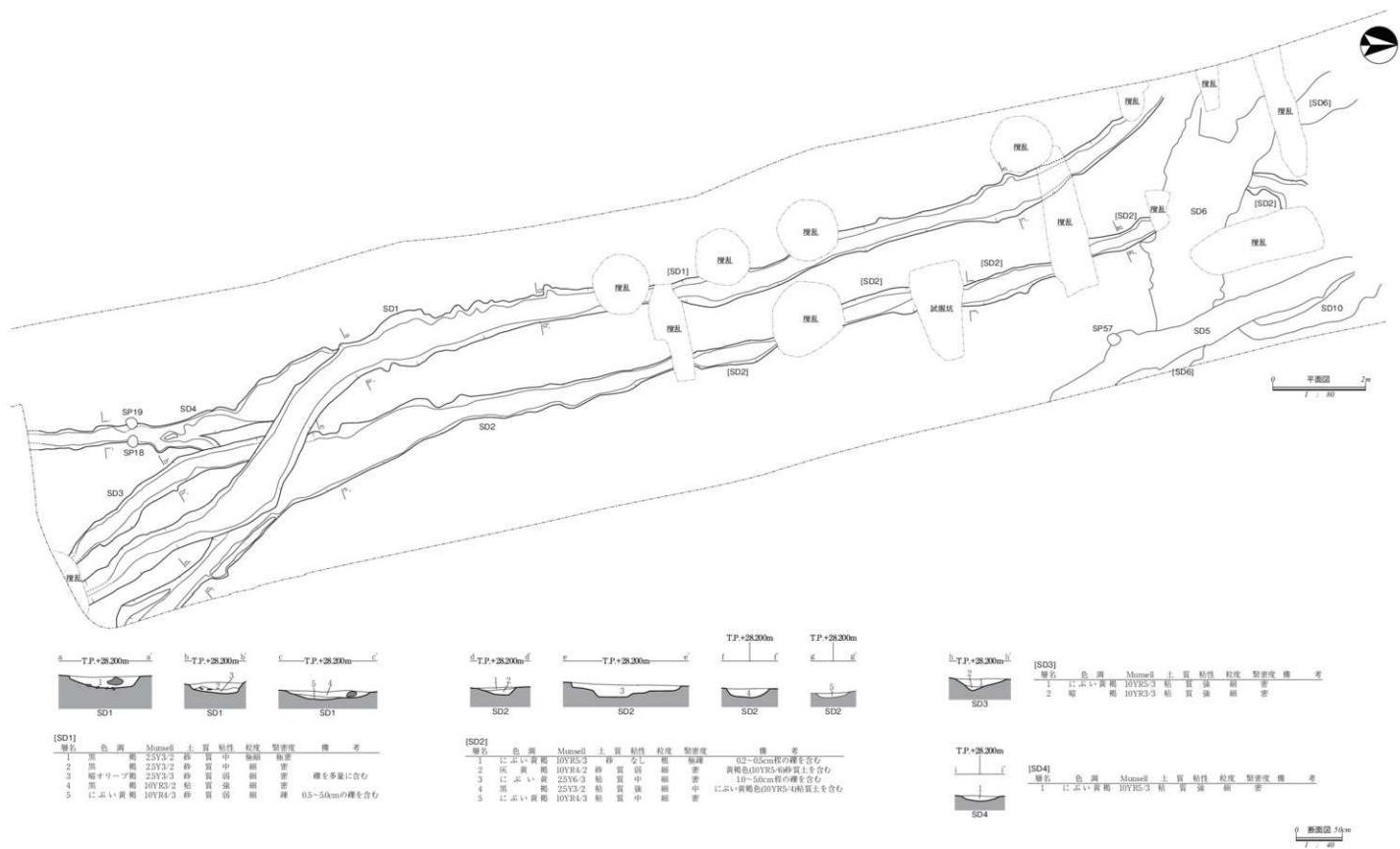


図134 SD1～4平面図

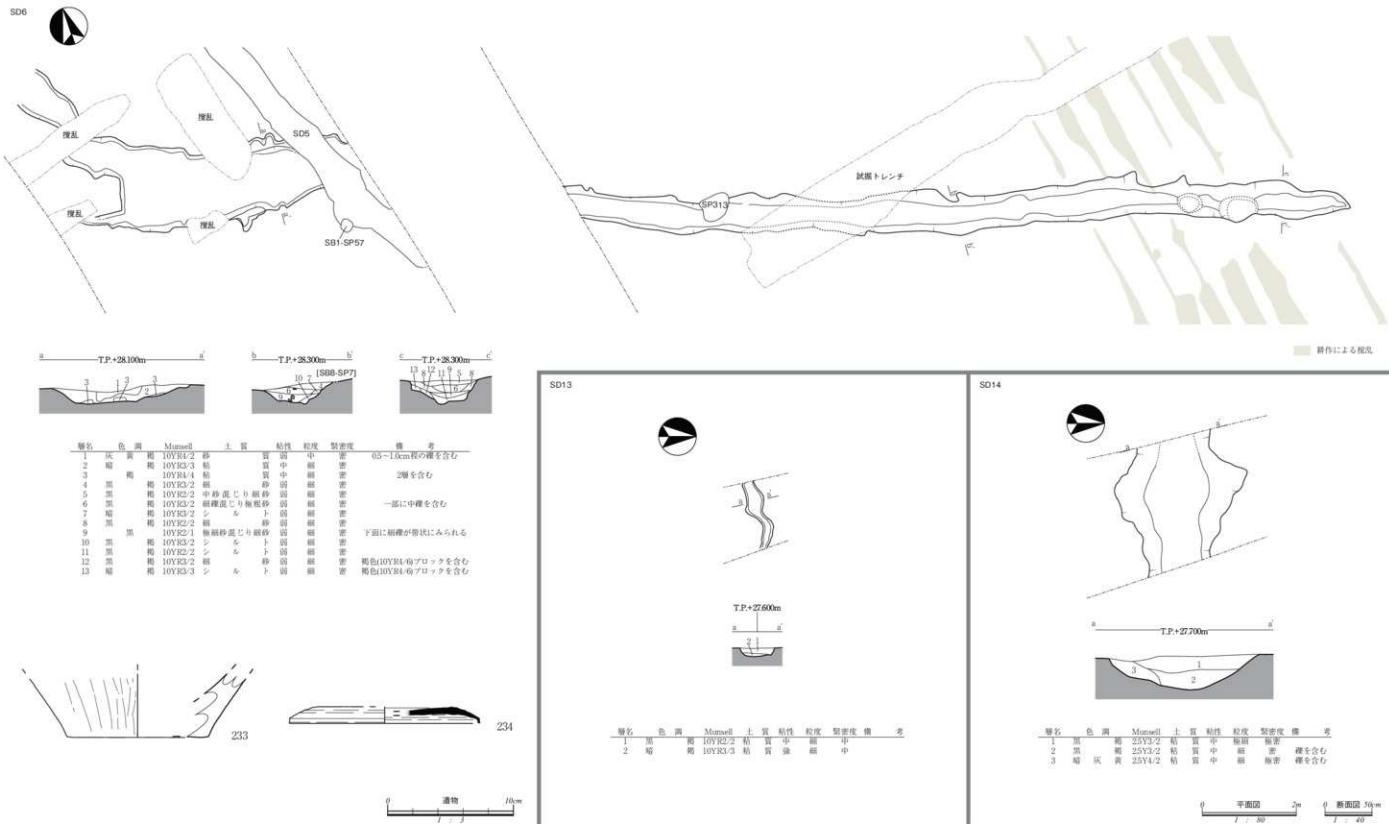


図135 SD6,13,14平面面図および出土遺物

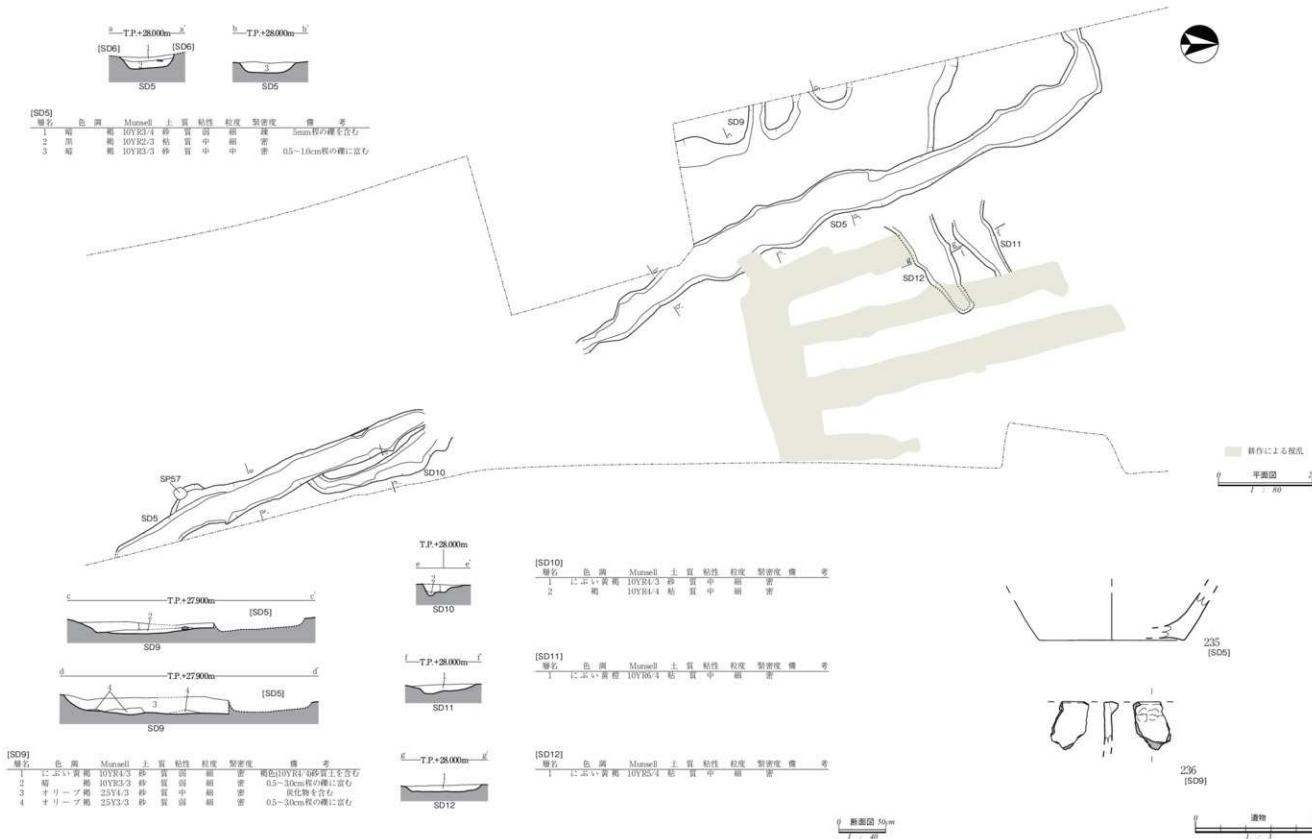


図136 SD5,9~12平面図および出土遺物

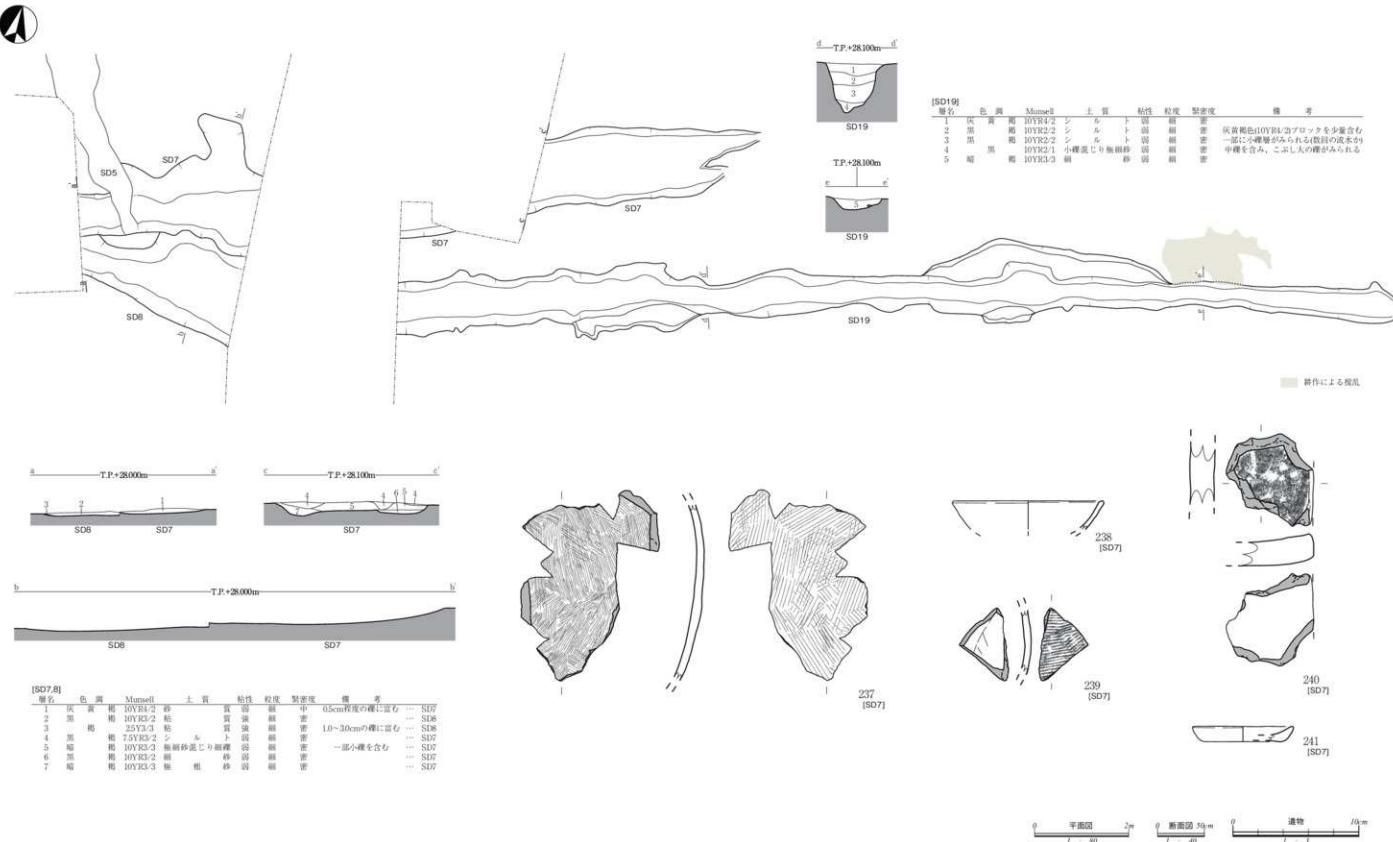


図137 SD7, 8, 19平面面図および出土遺物

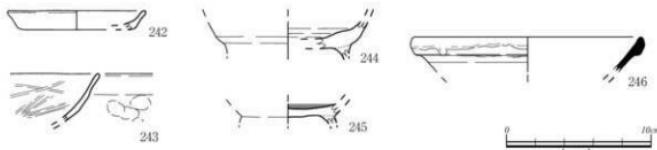


図138 包含層出土遺物(中世)

(2) SD4(図134)

遺構 SD4は1区中央南寄りにあり、検出標高は約27.97mである。SD1.3・SP18.19よりもSD4が古い。検出長720cm・最大幅94cm・検出面からの深さは最深部で6cmである。断面形は皿状である。碟を含む状況から埋土は流水により堆積したものと考えられ、平面形よりSD1の古い段階の一部であった可能性もある。形状はおおむね直線的で一部が分岐している。長軸方向はN-5.68°-Wを指向する。遺物は出土していない。

(3) SD8(図137)

遺構 SD8は1区中央部にあり、検出標高は約27.62mである。SD7よりもSD8が古い。検出長342cm・最大幅は194cm以上と推定され、検出面からの深さは最深部で4cmである。断面形は皿状である。碟を含む状況から埋土は流水により堆積したものと考えられ、平面形はおおむね直線的である。位置関係からSD19と同一の可能性があるが土層や軸方向が若干異なっており、別遺構として報告する。長軸方向はN-87.49°-Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土しており、摩耗がみられる。SD8の時期は、検出層位と遺構の重複、出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

(4) SD9(図136)

遺構 SD9は1区中央西端にあり、検出標高は約27.67mである。SD5よりもSD9が古い。検出長570cm・最大幅191cm・検出面からの深さは最深部で18cmである。断面形は皿状と推定され、碟を含む状況から埋土は流水により堆積したものと考えられ、形状はSD5との重複により不明である。長軸方向はN-23.25°-Wを指向する。遺物は弥生土器が出土しており、磨耗がみられる。SD9の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

遺物 236は弥生土器壺の口縁部である。貼付口縁である。

(5) SD10(図136)

遺構 SD10は1区中央部にあり、検出標高は約27.83mである。SD5よりもSD10が古い。北西方向であり南側で湾曲している。検出長720cm・最大幅94cm・検出面からの深さは最深部で6cmである。断面形は不整形な皿状であり、一部がえぐられたような形状から埋土は水流のものと堆積したものと考えられる。長軸方向はN-17.98°-Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土しており、摩耗がみられる。SD10の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

(6) SD11(図136)

遺構 SD11は1区中央北寄りにあり、検出標高は約27.76mである。検出長154cm・最大幅68cm・

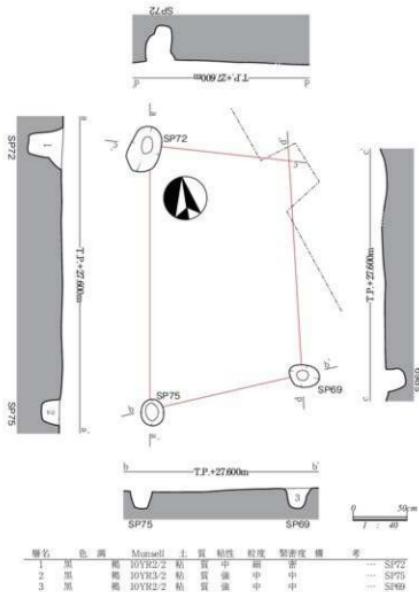


図139 SB1平面面図

検出面からの深さは最深部で9cmである。断面形は不整形な皿状である。平面形はおむね直線的であり、長軸方向はN-57.97°-Eを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器が出土している。SD11の時期は、検出層位と出土遺物より弥生時代以降と考えられる。

SD12(図136)

遺構 SD12は1区中央北寄りにあり、検出標高は約27.7mである。検出長228cm・最大幅80cm・検出面からの深さは最深部7cmである。断面形は皿状と推定される。平面形

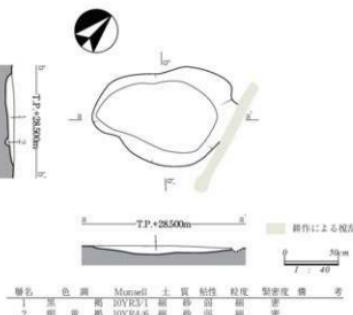


図140 SK4平面面図

はおおむね直線的であり、長軸方向はN-56.78°-Eを指向する。遺物は出土していない。

(7) SD13(図135)

遺構 SD13は1区北側にあり、検出標高は約27.43mである。検出長154cm・最大幅36cm・検出面から下の深さは最深部で9cmである。断面形状は不整形な皿状である。平面形は一部で蛇行しており、長軸方向にはN-80.29°-Wを指向する。遺物は出土していない。

(8) SD14(図135)

遺構 SD14は1区北側にあり、検査名 黒色 背面 Murexell 土質 硬粘性 程度 離散度 検査者
1 黒色 黄褐色 HDSF-3 シルト 地下
2 在い 黄褐色 HYRS-4 シルト 地下
3 明るい 黄褐色 HYRS-5 シルト 地下
出標高は約27.43mである。検出長

272cm・最大幅284cm・検出面からの深さは最深部で35cmである。

図141 SK8平断面図

断面形は緩いV字形と推定される。平面形は中程で若干膨らみ、長軸方向はN 87.02°-Eを指向する。遺物は出土していない。

(9) SD15() 142

遺構 SD15は2a区南東端にあり、検出標高は約27.87mである。形状は途中で二股に分かれている。SD5と同一の可能性もある。検出長786cm・最大幅63cm・検出面からの深さは最深部で10cmである。断面形は不整形な皿状であり、疊を含む状況から流水により埋土が堆積したものと考えられる。長軸方向はN-33.73°-Wを指向する。図示できる遺物は無いが弥生土器や土師器が出土しており、摩耗がみられる。SD15の時期は、検出層位と出土遺物より古代以降の可能性も考えられる。

(10) SD16(図142)

遺構 SD16は2a区西側にあり、検出標高は約28.06mである。西側は風倒木と重複している。検出長154cm・最大幅37cm・検出面からの深さは最深部で10cmである。断面形は不整形な皿状である。平面形は直線的であり、長軸方向はN-62°S-Wを指向する。遺物は出土していない。

(11) SD17(图142)

遺構 SD17は2a区南東側にあり、検出標高は約28.28mである。検出長206cm・最大幅37cm・検出面からの深さは最深部9cmである。断面形は皿状である。平面形は湾曲し、長軸方向はN-31.85°。Eを指向する。遺物は出土していない。

(12) SD18(?)142

遺構 SD18(±2a区南東側)にあり、検出標高は約128.11mの小規模な溝である。検出長189cm・最

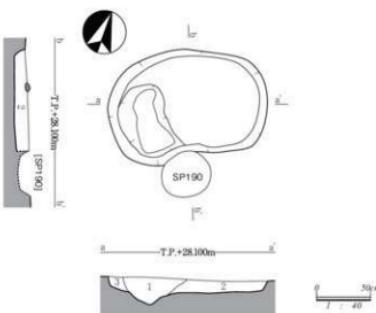
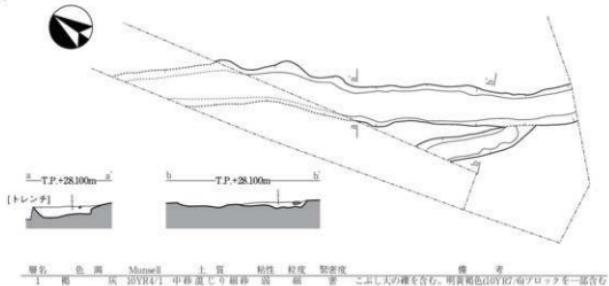


図141 SK8平断面図

西喜光地道路の成果

SD15



SD16



SD17



SD18

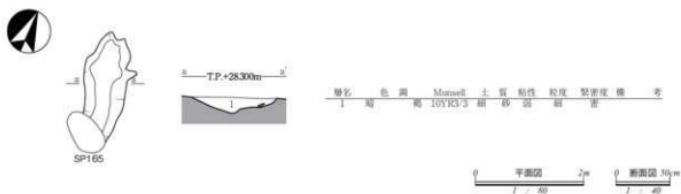


図142 SD15～18断面図

大幅79cm・検出面からの深さは最深部で14cmである。断面は不整形な皿状である。おおむね直線的で、長軸方向はN-14.21°-Wを指向する。遺物は出土していない。

4 小穴(図143~145)

遺物が出土せず時期が不明な小穴のうち、土層が複数層に分かれる16穴を掲載する。なお、詳

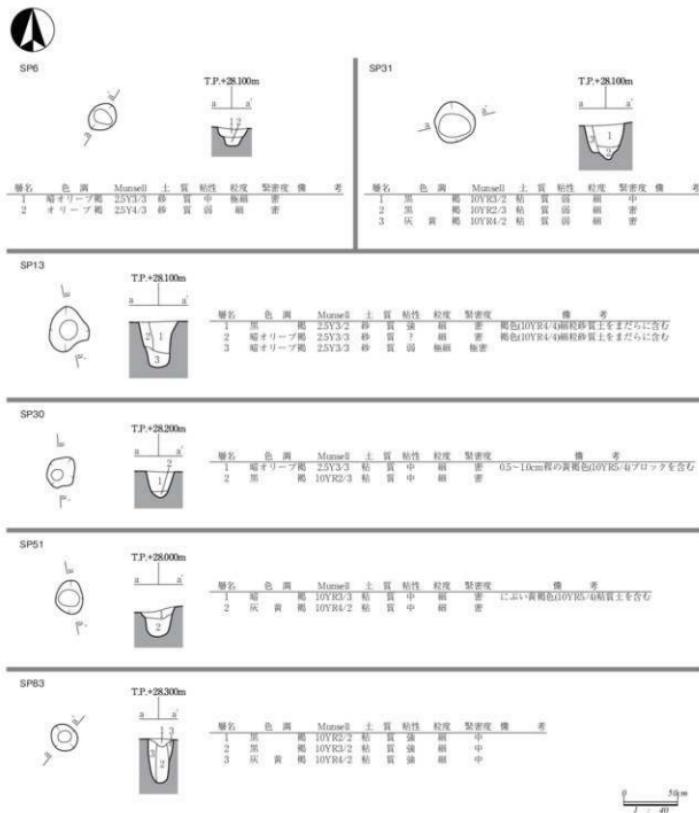
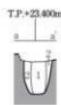


図143 SP6,13,30,31,51,83平面断面図

西喜光地道路の成果



SP103



層名	色	固	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐	10YR5/2	シルト	弱	細	中	
2	黒	褐	10YR3/2	シルト	中	粗	中	褐色(10YR4/6)ブロックを含む

SP126



層名	色	固	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐	10YR5/1	シルト	弱	細	中	
2	黒	褐	10YR2/1	シルト	弱	細	中	明黄色(10YR6/8)ブロックが混じる

SP152



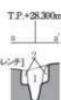
層名	色	固	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐	10YR5/2	シルト	弱	細	中	
2	黒	褐	10YR2/2	シルト	弱	細	中	

SP277



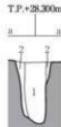
層名	色	固	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黄	褐	10YR5/3	シルト	弱	細	密	
2	黄	褐	10YR5/8	シルト	弱	細	密	
3	黑	褐	10YR3/2	シルト	弱	細	密	
4	黑	褐	10YR3/2	シルト	弱	粗	密	黃褐色(10YR5/8)ブロックが混じる

SP293



層名	色	固	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黄	褐	10YR5/3	シルト	弱	細	密	
2	黄	褐	10YR2/3	シルト	弱	細	密	褐色(10YR4/6)ブロックが混じる
3	黑	褐	10YR3/4	シルト	弱	粗	密	

SP294



層名	色	固	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黄	褐	10YR5/2	シルト	弱	細	中	
2	黄	褐	10YR3/3	シルト	弱	細	密	褐色(10YR4/6)ブロックが混じる

耕作による擾乱

図144 SP103,126,152,277,293,294平面面図

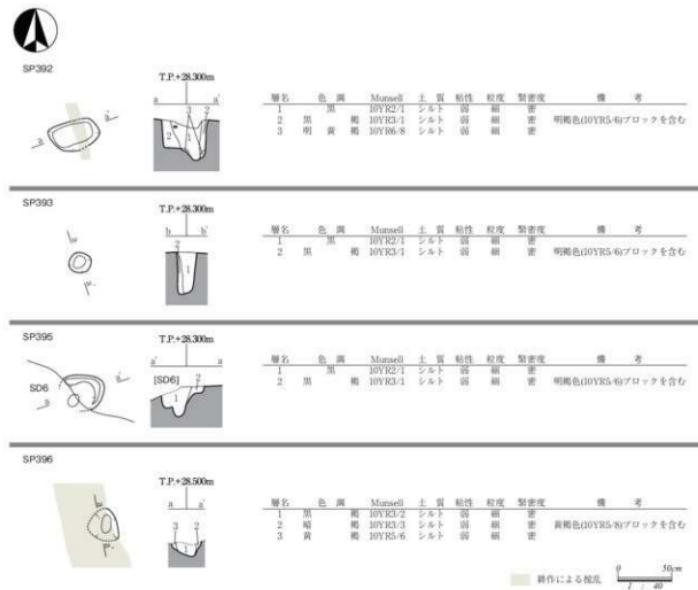


図145 SP392,393,395,396断面図

細は表11に記載し、ここでは図を掲載するにとどめる。

第6節 時期不明の遺物(図146・147)

247は1区、248～250は2区、251は排土より出土した。247は緑色片岩製の石庖丁の可能性がある。248は土錘である。249はサスカイト製の石鎌である。250は柱状片刃石斧で両側面が剥離している。251はサスカイト製の石錐の可能性がある。

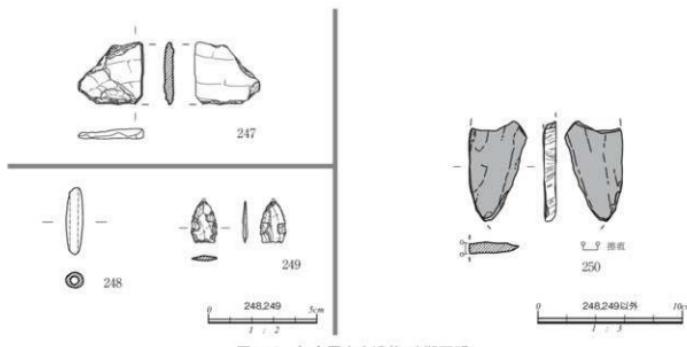


図146 包含層出土遺物(時期不明)

第7節 小結

西喜光地遺跡は弥生時代から中世の遺跡であり、中心となる時期は弥生時代中期(伊予東部地域II-3~III様式)である(柴田2000a・2005)。

弥生時代では掘立柱建物群や土坑を検出しており、当遺跡は集落域と考えられる。そのうち掘立柱建物群は、微高地想定範囲である南西側を中心に分布している。掘立柱建物の長軸方向は多くが旧地形に沿ったものと推定され、多数が近接するため建て替えがあったとみられるが、合計9棟のうち出土遺物より時期が確定できるものは3棟で重複例もないため、詳細な変遷は不明である。また、SB6は離れた北東端に位置しており、柱穴の形状や規模、柱間などの構造がほかの掘立柱建物と異なることから、ほかの掘立柱建物と性格に差があるものと思われる。今回は掘立柱建物のみの検出であったが、竪穴建物が存在するならば、掘立柱建物や土坑の分布する調査区南方付近に所在していたものと推定される。地形的に低位となる北側および北東側では遺構密度が低くなることから、今回の調査では集落北端を捉えており、集落の中心域は南側へ展開しているものと考えられる。

古代から中世まで続くとした溝SD7からは布目瓦が出土している。瓦はSD7のうちII区東壁付近のやや幅広となる部分より、須恵器や土師器甕といった古代の遺物とともに出土した。

中世の明確な遺構は今回多くは検出されず時期幅をもつ溝のみであったが、擾乱や耕作土中より比較的時期のまとまった中世前期の遺物が出土しており、周辺に中世遺跡が存在していたものと推定される。

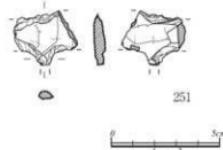


図147 出土地不明遺物(時期不明)

表10 主要造構一覧

種別	構造名	平面形	長さ	幅	深さ	単位:cm (*):複元値	[]:残存値	→*:~に切る、←*:~に切られる	重複関係		掘削遺物	回	回版
									SD	SD			
掘立柱 建物	SB1	長方	243.0	144.0	-	-	-	→SD5 ←	SD5	SD5	139	58	
	SB2	長方	336.0	249.0	-	-	-	→SD5 ←	SD5	SD5	188~191	111	58
	SB3	長方	388.0	196.0	-	-	-	→擾乱	SD194	SD194	113	59	
	SB4	長方	347.0	285.0	-	-	-	→SP194 ←	SD6	SD6	114	59	
	SB5	長方	326.0	261.0	-	-	-	→擾乱	SD198	SD198	115	60	60.64
	SB6	長方	462.0	213.0	-	-	-	→風倒木	SD198	SD198	116	61	
	SB7	不明	387.0	323.0	-	-	-	→擾乱	SD198	SD198	192	117	61
	SB8	長方	382.0	314.0	-	-	-	→SP324,343	SD6	SD6	193~196	119	62
	SB9	長方	334.0	253.0	-	-	-	→SP198 ←	擾乱	SD198	121	60	
	SB10	長方	347.0	254.0	-	-	-	→擾乱	SD198	SD198	122	60.64	
土坑	SK1	不整	240.0	[145.0]	21.0	-	-	→SK2	SD198	SD198	197~	123	63
	SK2	不整	[240.0]	142.0	10.0	-	-	→SK1	SD198	SD198	199,211,212	123	63
	SK3	不整	160.0	[81.0]	7.0	-	-	SD198	SD198	SD198	200~212	123	63
	SK4	不整	[114.0]	85.0	10.0	-	-	→擾乱	SD198	SD198	127	65	
	SK5	隅丸方	[218.0]	203.0	16.0	-	-	→擾乱	SD198	SD198	213~219	128	64
	SK6	不整	354.0	221.0	9.0	-	-	→擾乱	SD198	SD198	220,221	130	64
	SK7	不整	355.0	270.0	14.0	-	-	→擾乱	SD198	SD198	222,223	131	65
	SK8	椭円	147.0	96.0	27.0	-	-	→SP190	SD198	SD198	141		
溝	SD1	帯状(不整)	2631.0	91.0	9.0	-	-	→SD2,3,4 →SP26	SD2,3,4	SD2,3,4	134	66	
	SD2	帯状(不整)	2685.0	118.0	14.0	-	-	→SP26 ←	SD16	SD16	134	66	
	SD3	帯状(弧)	470.0	55.0	12.0	-	-	SD4 ←	SD1	SD1	134	66	
	SD4	帯状(不整)	598.0	40.0	6.0	-	-	SD13 ←	SP18,19	SP18,19	134	66	
	SD5	帯状(不整)	2321.0	96.0	12.0	-	-	→SD6,7,9,10 →SP57	SD6,7,9,10	SD6,7,9,10	235	136	65.67
	SD6	帯状(直線)	2874.0	148.0	16.0	-	-	→SP357(SB40,SP378(SB8),SP379(SB8))	SD2,3,4 →SP329,330,395	SD2,3,4 →SP329,330,395	233,234	135	65.67
	SD7	帯状(不整)	1450.0	168.0	15.0	-	-	→SD8 ←	SD5	SD5	237~241	137	67.68
	SD8	帯状(不整)	342.0	[194.0]	4.0	-	-	SD7 ←	SD7	SD7	137	67.68	
	SD9	帯状(不整)	570.0	191.0	18.0	-	-	SD5 ←	SD5	SD5	236	136	67
	SD10	帯状(不整)	291.0	42.0	12.0	-	-	SD5 ←	SD5	SD5	136	67	
	SD11	帯状(直線)	154.0	68.0	9.0	-	-	→擾乱	SD5	SD5	136	67	
	SD12	帯状(直線)	228.0	80.0	7.0	-	-	→擾乱	SD5	SD5	136	67	
	SD13	帯状(不整)	154.0	36.0	9.0	-	-	SD5 ←	SD5	SD5	135		
	SD14	帯状(直線)	272.0	284.0	35.0	-	-	→風倒木	SD5	SD5	135	67	
	SD15	帯状(直線)	786.0	63.0	10.0	-	-	SD5 ←	SD5	SD5	142	67.68	
	SD16	帯状(直線)	154.0	37.0	10.0	-	-	→風倒木	SD5	SD5	142	67.68	
	SD17	帯状(弧)	206.0	37.0	9.0	-	-	→SP164	SD5	SD5	142		
	SD18	帯状(直線)	189.0	79.0	14.0	-	-	→SP165	SD5	SD5	142		
	SD19	帯状(直線)	210.0	60.0	51.0	-	-	→SP242	SD5	SD5	137	67.68	

(主要造構一覧)

表11 柱穴一覧

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	(1/8)				
											(*)復元値	(**)残存値	→***を切る	***に切られる	
SP1	楕円	黒褐色(25Y3/2)	砂質	強	細	極密	38.0	32.0	32.0	SB2	111	58			
SP2	楕円	暗オリーブ褐色(25Y3/3)	砂質	弱	細	密	42.0	42.0	41.0	→擾乱	SB2 / 土器片を含む、 疊を多量に含む	111	58		
SP3	円	黒褐色(25Y3/2)	砂質	弱	極細	密	25.0	25.0	16.0						
SP4	楕円	暗オリーブ褐色(25Y3/3)	砂質	弱	極細	密	33.0	25.0	15.0						
SP5	不整	暗オリーブ褐色(25Y3/3)	砂質	弱	極細	密	48.0	42.0	14.0						
SP6	円	暗オリーブ褐色(25Y3/3)	砂質	中	極細	密	27.0	24.0	14.0				143		
SP7	円	黒褐色(25Y3/2)	砂質	弱	極細	密	19.0	17.0	8.0						
SP8	円	暗灰褐色(25Y4/2)	砂質	弱	極細	密	24.0	21.0	8.0						
SP9	楕円	黒褐色(10YR2/3)	砂質	弱	極細	密	27.0	23.0	11.0						
SP10	不整	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質	弱	極細	密	38.0	38.0	11.0						
SP11	楕円	黄褐色(25Y5/4)	砂質	弱	極細	極密	32.0	26.0	10.0						
SP12	円	黄褐色(25Y5/4)	砂質	弱	極細	極密	36.0	33.0	13.0						
SP13	不整	黒褐色(25Y3/2)	砂質	強	細	密	40.0	36.0	45.0				143		
SP14	楕円	暗オリーブ褐色(25Y3/3)	砂質	弱	細	密	38.0	31.0	10.0						
SP15	不整	黒褐色(10YR3/2)	砂質	弱	細	中	30.0	27.0	11.0						
SP16	楕円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	中	極細	極密	73.0	58.0	13.0	→擾乱					
SP17	円	黒褐色(25Y3/2)	砂質	中	極細	極密	17.0	16.0	14.0						
SP18	楕円	暗褐色(10YR3/4)	砂質	中	細	密	26.0	21.0	14.0	→SD4					
SP19	円	?	?	?	?	?	25.0	23.0	11.0	→SD4					
SP20	円	黒褐色(10YR2/3)	砂質	弱	細	密	29.0	25.0	7.0	→SP24					
SP21	楕円	黒褐色(10YR3/2)	砂質	弱	細	中	41.0	26.0	8.0						
SP22	不整	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	34.0	32.0	6.0						
SP23	楕円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	中	31.0	22.0	10.0						
SP24	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	20.0	13.0	9.0	→SP20					
SP25	楕円	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質	弱	細	密	27.0	19.0	10.0						
SP26	円	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質	中	粗	極疎	65.0	46.0	3.0	→SD12					
SP27	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	26.0	23.0	13.0	→SP32					
SP28	円	暗灰褐色(25Y4/2)	粘質	中	粗	密	27.0	23.0	10.0						
SP29	楕円	暗灰褐色(25Y4/2)	粘質	中	粗	密	38.0	32.0	18.0						
SP30	不整	暗オリーブ褐色(25Y3/3)	粘質	中	細	密	29.0	28.0	23.0				0.5~1.0cm程の黄褐色(10YR5/4)ブロックを含む	143 68	
SP31	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	37.0	37.0	32.0						
SP32	楕円	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	中	細	密	24.0	23.0	15.0	→SP27			にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土を含む	143	
SP33	楕円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	密	34.0	26.0	9.0						
SP34	円	褐色(10YR4/4)	粘質	中	細	密	46.0	40.0	10.0						
SP35	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	中	44.0	39.0	13.0						
SP36	不整	褐色(10YR4/4)	粘質	弱	細	密	39.0	34.0	8.0						
SP37	円	暗オリーブ褐色(25Y3/3)	砂質	弱	細	密	37.0	27.0	18.0						
SP38	楕円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	30.0	24.0	17.0						
SP39	楕円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	28.0	20.0	41.0						
SP40	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	中	粗	密	23.0	22.0	21.0						
SP41	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	中	粗	密	36.0	30.0	2.0						
SP42	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	中	粗	密	32.0	30.0	16.0						

(柱穴一覧)

(2/8) 単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る、←***に切られる

測査名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	回	図版
SP43	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	27.0	27.0	25.0				
SP44	椭円	褐色(10YR4/4)	砂質	弱	細	密	36.0	28.0	23.0				
SP45	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	26.0	25.0	20.0				
SP46	円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	33.0	31.0	6.0				
SP47	椭円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	弱	細	密	30.0	24.0	9.0				
SP48	椭円	暗オーリーブ褐色 (2.5Y3/3)	粘質	弱	細	密	34.0	25.0	6.0				
SP49	円	暗オーリーブ褐色 (2.5Y3/3)	粘質	中	細	密	30.0	28.0	5.0				
SP50	円	暗オーリーブ褐色 (2.5Y3/3)	粘質	中	細	密	30.0	27.0	8.0				
SP51	椭円	暗褐色(10YR3/3)	砂質	中	細	密	32.0	24.0	26.0				
SP52	椭円	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘質	中	細	密	32.0	21.0	7.0				
SP53	円	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘質	中	細	密	47.0	40.0	17.0				
SP54	椭円	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	粘質	中	細	密	40.0	33.0	8.0				
SP55	円	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘質	中	細	密	34.0	[19.0]	11.0				
SP56	不整	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	35.0	30.0	18.0				
SP57	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	27.0	24.0	33.0	→SD5	SB2	111	
SP58	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	36.0	30.0	18.0				
SP59	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	18.0	16.0	14.0				
SP60	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	34.0	31.0	17.0				
SP61	椭円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	29.0	21.0	8.0				
SP62	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	21.0	22.0				
SP63	椭円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	中	密	35.0	25.0	15.0				
SP64	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	中	密	33.0	28.0	13.0				
SP65	椭円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	密	60.0	40.0	15.0				
SP66	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	中	密	50.0	45.0	18.0				
SP67	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	中	密	50.0	35.0	9.0				
SP68	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	中	密	18.0	15.0	10.0				
SP69	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	中	中	30.0	20.0	9.0		SB1	139	58
SP70	不整	黒褐色(10YR2/2)	?	?	?	?	42.0	[32.0]	6.0				
SP71	円	黒褐色(2.5Y3/2)	粘質	強	中	中	25.0	21.0	17.0				
SP72	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	密	43.0	28.0	35.0		SB1	139	58
SP73	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	中	密	30.0	30.0	11.0				
SP74	円	暗褐色(10YR3/4)	粘質	強	中	中	30.0	25.0	16.0				
SP75	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	中	中	25.0	20.0	15.0		SB1	139	58
SP76	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	20.0	19.0	7.0				
SP77	椭円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	中	密	30.0	22.0	15.0				
SP78	椭円	?	?	?	?	?	62.0	[22.0]	7.0				
SP79	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	34.0	33.0	23.0				
SP80	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	45.0	40.0	27.0				
SP81	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	18.0	16.0	18.0				
SP82	椭円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	18.0	17.0	15.0				
SP83	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	27.0	24.0	41.0				143
SP84	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	32.0	27.0	8.0				
SP85	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	45.0	43.0	11.0	→SP96			
SP86	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	31.0	19.0	12.0				
SP87	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	18.0	13.0				
SP88	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	119.0	[68.0]	10.0				
SP89	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	19.0	15.0				
SP90	椭円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	29.0	22.0	9.0				
SP91	椭円	黒褐色(2.5Y3/2)	粘質	強	細	中	26.0	21.0	19.0				
SP92	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	39.0	24.0	10.0	→SP95			
SP93	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	19.0	[12.0]	16.0				
SP94	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	16.0	15.0	16.0				

《柱穴一覧》

西寄光地道路の成果

単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る、←***に切られる (3/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	固	固版
SP95	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	中	中	149.0	[79.0]	12.0	→SP92			
SP96	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	32.0	[23.0]	8.0	→SP85			
SP97	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	中	中	38.0	[19.0]	6.0				
SP98	円	黒(10YR2/1)	粘質	強	中	中	58.0	[18.0]	14.0				
SP99	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	中	中	42.0	[30.0]	14.0				
SP100	不整	?	?	?	?	?	27.0	26.0	33.0	→擾乱	SB2	111	
SP101	稍円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	34.0	[28.0]	7.0	→擾乱			
SP102	稍円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	27.0	[15.0]	6.0	→擾乱	炭化物を含む		
SP103	稍円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	中	細	中	27.0	22.0	34.0			144	
SP104	稍円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	39.0	29.0	10.0				
SP105	不整	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	36.0	21.0	19.0				
SP106	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	19.0	17.0	19.0	→擾乱			
SP107	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	32.0	24.0	7.0				
SP108	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	29.0	18.0	16.0				
SP109	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	40.0	24.0				
SP110	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	18.0	[16.0]	31.0	→擾乱			
SP111	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	23.0	23.0	29.0	→擾乱			
SP112	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	32.0	18.0	19.0	→擾乱			
SP113	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	19.0	18.0	18.0				
SP114	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	15.0	7.0				
SP115	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	35.0	31.0	11.0	褐色(10YR4/4)砂質土を含む			
SP116	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	19.0	18.0	17.0	→擾乱			
SP117	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	23.0	14.0	9.0				
SP118	稍円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	[30.0]	26.0	11.0	→擾乱			
SP119	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	21.0	[18.0]	12.0	→擾乱			
SP120	不整	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	中	細	中	20.0	[15.0]	10.0				
SP121	円	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	弱	細	中	30.0	26.0	9.0				
SP122	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	[19.0]	18.0	11.0	→SP134			
SP123	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	16.0	15.0	17.0				
SP124	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	18.0	[16.0]	10.0	→擾乱			
SP125	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	19.0	14.0				
SP126	円	黒褐色(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	16.0	15.0	18.0	明黄褐色(10YR6/6)ブロッカが混じる	144		
SP127	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
SP128	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[20.0]	20.0	15.0	→擾乱			
SP129	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	56.0	34.0	7.0	→擾乱			
SP130	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	15.0	12.0	14.0	→擾乱			
SP131	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	17.0	14.0	20.0	→擾乱			
SP132	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	28.0	26.0	15.0				
SP133	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	27.0	20.0	7.0	→擾乱	褐色(10YR4/4)砂質土に富む		
SP134	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	21.0	13.0	→SP122			
SP135	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	24.0	20.0	7.0				
SP136	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	10.0				
SP137	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	18.0	18.0	9.0	褐色(10YR4/4)砂質土を含む			
SP138	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	19.0	[18.0]	14.0	→擾乱			
SP139	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	19.0	20.0	褐色(10YR4/4)砂質土を含む			
SP140	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	19.0	12.0				
SP141	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	18.0	7.0				
SP142	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	27.0	24.0	24.0				
SP143	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	36.0	25.0	10.0	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む			
SP144	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	16.0	15.0	9.0				
SP145	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	14.0	14.0	8.0				
SP146	稍円	灰褐色(10YR4/2)	粘質	弱	細	中	22.0	18.0	19.0				
SP147	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	14.0	13.0	17.0				
SP148	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	10.0				

〈柱穴一覧〉

(4/8) 単位:cm (*)複元値 [**]残存値 →***を切る, ←***に切られる

測査名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	図	図版
SP149	稍円	黒褐色(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	36.0	30.0	10.0		SB7 / 明黄褐色 (10YR6/8)ブロックが混じる	117	
SP150	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	17.0	13.0	→擾乱	褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP151	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	19.0	20.0				
SP152	稍円	黒褐色(10YR3/2)	?	中	細	中	39.0	35.0	26.0				144
SP153	稍円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	34.0	30.0	24.0	→擾乱	SB7	117	61
SP154	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	中	中	22.0	22.0	16.0		SB7	117	
SP155	稍円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	31.0	24.0	17.0	→擾乱			
SP156	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[26.0]	19.0	20.0	→擾乱			
SP157	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	65.0	17.0	5.0	→擾乱			
SP158	稍円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	34.0	27.0	27.0				
SP159	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	中	中	27.0	22.0	9.0				
SP160	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	11.0				
SP161	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	中	密	31.0	24.0	5.0				
SP162	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	密	33.0	32.0	6.0				
SP163	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	32.0	30.0	8.0				
SP164	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	48.0	47.0	20.0	→SD17			
SP165	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	87.0	52.0	9.0	→SD18			
SP166	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	54.0	38.0	15.0				
SP167	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	密	25.0	23.0	12.0				
SP168	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	34.0	33.0	17.0				
SP169	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	51.0	32.0	5.0				
SP170	稍円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	52.0	34.0	11.0				
SP171	不整	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	46.0	44.0	11.0				
SP172	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[40.0]	30.0	9.0				
SP173	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	13.0	13.0	22.0	→擾乱			
SP174	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	60.0	38.0	16.0				
SP175	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	9.0				
SP176	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	29.0	21.0	12.0				
SP177	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	44.0	36.0	6.0	→SP189 ・風削木 含む			
SP178	稍円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	43.0	34.0	9.0	→風削木			
SP179	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	42.0	32.0	6.0				
SP180	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	42.0	28.0	9.0				
SP181	稍円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	69.0	59.0	12.0				
SP182	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	18.0	13.0				
SP183	不整	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	51.0	50.0	13.0				
SP184	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	81.0	75.0	13.0				
SP185	稍円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	68.0	54.0	11.0				
SP186	稍円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	84.0	76.0	5.0				
SP187	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	9.0				
SP188	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	24.0	21.0	17.0				
SP189	円	暗褐色(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	32.0	[30.0]	7.0	木 →SP177			
SP190	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	46.0	39.0	12.0	→SK8			
SP191	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	15.0	18.0				
SP192	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	34.0	29.0	15.0	→擾乱			
SP193	稍円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	28.0	23.0	7.0	→擾乱			
SP194	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	19.0	[12.0]	12.0	→SP352 (SB4)			
SP195	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	27.0	23.0	8.0				
SP196	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	17.0	11.0	→風削木			
SP197	稍円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	47.0	39.0	41.0	→擾乱	SB10 / 褐色(10YR4/4) 粘質土を含む	122	
SP198	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	24.0	18.0	17.0	→SP381 (SB9)			
SP199	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	20.0	17.0	14.0				
SP200	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	密	[25.0]	23.0	17.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		

柱穴一覧

単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る、←***に切られる

(5/8)

構造名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	固	固版
SP201	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	23.0	12.0				
SP202	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	22.0	27.0	7.0				
SP203	橋円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	77.0	[37.0]	8.0				
SP204	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	29.0	27.0	10.0				
SP205	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	23.0	21.0	7.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP206	橋円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	31.0	27.0	11.0				
SP207	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	22.0	19.0	7.0				
SP208	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	16.0	8.0				
SP209	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	強	細	中	21.0	20.0	9.0				
SP210	円	灰黄褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	20.0	20.0	16.0				
SP211	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	24.0	21.0	34.0				
SP212	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	中	中	26.0	24.0	18.0				
SP213	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	59.0	50.0	9.0				
SP214	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	29.0	27.0				
SP215	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	24.0	18.0	8.0				
SP216	円	灰黄褐色(10YR4/2)	粘質	強	細	中	19.0	19.0	28.0				
SP217	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	47.0	43.0	9.0				
SP218	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	45.0	40.0	13.0				
SP219	橋円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	37.0	28.0	6.0				
SP220	橋円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	20.0	16.0	9.0				
SP221	橋円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	23.0	22.0	8.0				
SP222	橋円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	弱	細	中	29.0	25.0	8.0				
SP223	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	31.0	27.0	14.0				
SP224	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	27.0	9.0				
SP225	橋円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	37.0	29.0	9.0				
SP226	橋円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	36.0	25.0	6.0				
SP227	不整	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	93.0	54.0	9.0				
SP228	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	25.0	21.0	11.0				
SP229	橋円	暗褐色(10YR3/4)	粘質	中	細	中	25.0	21.0	11.0				
SP230	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	40.0	39.0	5.0				
SP231	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	34.0	9.0				
SP232	橋円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	強	細	中	38.0	29.0	14.0				
SP233	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	37.0	27.0	21.0				
SP234	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	39.0	17.0				
SP235	橋円	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	中	細	中	26.0	20.0	6.0				
SP236	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	23.0	21.0	8.0				
SP237	橋円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	密	36.0	27.0	11.0				
SP238	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	28.0	25.0	9.0	→SP244			
SP239	橋円	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	中	細	中	26.0	20.0	11.0				
SP240	橋円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	40.0	31.0	9.0				
SP241	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	18.0	13.0				
SP242	橋円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	強	細	中	31.0	20.0	17.0	→SD19			
SP243	円	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘質	中	細	中	36.0	35.0	9.0				
SP244	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	[25.0]	24.0	11.0	→SP238			
SP245	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	38.0	35.0	12.0				
SP246	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	25.0	21.0	18.0				
SP247	橋円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	弱	細	中	49.0	41.0	10.0				
SP248	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	21.0	16.0	13.0	にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土を含む			
SP249	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	28.0	18.0				
SP250	橋円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	44.0	35.0	21.0				
SP251	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	22.0	19.0	11.0				
SP252	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	強	細	中	33.0	20.0	12.0	褐色(10YR4/4)粘質土を含む			
SP253	橋円	黒褐色(10YR3/2)	砂質	中	細	中	44.0	37.0	24.0	→謹層			
SP254	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	24.0	21.0	12.0				
SP255	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	31.0	25.0	9.0				
SP256	橋円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	23.0	18.0	10.0				

(柱穴一覧)

(6/8) 単位:cm (*)復元値 [**]残存値 →***を切る、←***に切られる

測査名	平面形	検出面土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	回	固
SP257	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	18.0	16.0	12.0	→擾乱			
SP258	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	37.0	31.0	16.0	→擾乱			
SP259	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	24.0	18.0	8.0				
SP260	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	23.0	17.0	15.0	→擾乱			
SP261	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	22.0	22.0	20.0				
SP262	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	13.0				
SP263	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	20.0	19.0	10.0	→擾乱			
SP264	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	32.0	30.0	11.0				
SP265	椭円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	中	25.0	21.0	11.0				
SP266	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	42.0	36.0	8.0				
SP267	椭円	黒褐色(10YR2-3)	粘質	強	細	中	68.0	44.0	12.0	→擾乱	褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP268	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	16.0	14.0	7.0	→擾乱			
SP269	椭円	暗褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	27.0	26.0	17.0				
SP270	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	30.0	22.0	10.0				
SP271	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	25.0	20.0	13.0				
SP272	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	28.0	27.0	9.0				
SP273	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	27.0	27.0	11.0				
SP274	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	22.0	22.0	6.0				
SP275	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	27.0	26.0	14.0				
SP276	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	70.0	64.0	7.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP277	椭円	暗褐色(10YR3-3)	シルト	弱	細	密	43.0	35.0	26.0			144	68
SP278	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	密	36.0	28.0	12.0				
SP279	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	17.0	16.0	19.0				
SP280	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	密	28.0	25.0	22.0		にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土を含む		
SP281	円	灰黃褐色(10YR4-2)	粘質	強	中	中	21.0	18.0	10.0				
SP282	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	89.0	75.0	22.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP283	椭円	黒褐色(10YR2-3)	粘質	中	細	中	38.0	31.0	12.0	→撹乱			
SP284	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	24.0	22.0	14.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP285	不整	黒褐色(10YR2-3)	粘質	中	細	中	36.0	28.0	10.0				
SP286	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	22.0	22.0	19.0				
SP287	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	強	細	中	38.0	28.0	19.0				
SP288	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	24.0	20.0	23.0				
SP289	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	40.0	23.0	9.0	→擾乱	暗褐色(10YR3/4)粘質土を含む		
SP290	椭円	黒褐色(10YR2-3)	粘質	弱	細	中	32.0	18.0	6.0	→擾乱			
SP291	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	25.0	15.0	26.0				
SP292	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	20.0	16.0	9.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP293	円	黒褐色(10YR2-3)	粘質	中	細	密	29.0	25.0	25.0			144	
SP294	円	黒褐色(10YR2-2)	粘質	中	細	中	34.0	33.0	56.0			144	
SP295	椭円	黒褐色(10YR2-3)	粘質	中	細	中	31.0	24.0	25.0				
SP296	椭円	黒褐色(10YR2-3)	粘質	強	細	密	28.0	19.0	18.0		にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土を含む		
SP297	不整	暗褐色(10YR3-3)	粘質	中	細	中	61.0	58.0	12.0				
SP298	円	灰黃褐色(10YR4-2)	粘質	強	細	中	16.0	15.0	15.0				
SP299	円	暗褐色(10YR3-3)	粘質	強	細	密	27.0	24.0	17.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP300	円	にぶい灰褐色(10YR4-3)	粘質	中	細	中	25.0	24.0	9.0				
SP301	円	灰黃褐色(10YR4-2)	粘質	中	細	中	19.0	17.0	9.0		暗灰黄色(2.5Y5-2)粘質土を含む		
SP302	円	にぶい灰褐色(10YR4-3)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	9.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		
SP303	椭円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	中	細	中	31.0	24.0	20.0				
SP304	円	黒褐色(10YR3-2)	粘質	弱	中	中	27.0	27.0	25.0				
SP305	円	灰黃褐色(10YR4-2)	粘質	強	細	中	26.0	24.0	11.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む		

〈柱穴一覧〉

西寄光地道路の成果

単位:cm (*)複元値 |**|残存値 →***|を切る、←***|に切られる (7/8)

遺構名	平面形	検出面埋土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複関係	備考	固版
SP306	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	28.0	26.0	11.0		褐色(10YR4/4)粘質土を含む	
SP307	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	24.0	12.0			
SP308	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	56.0	46.0	6.0			
SP309	楕円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	30.0	19.0	15.0		暗褐色(10YR3/3)粘質土を含む	
SP310	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	30.0	27.0	12.0			
SP311	楕円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	43.0	35.0	9.0			
SP312	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	密	23.0	22.0	34.0	→風倒木		
SP313	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	60.0	42.0	16.0	→SD6		
SP314	不整	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	密	31.0	28.0	9.0			
SP315	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	密	22.0	21.0	14.0			
SP316	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	24.0	18.0	20.0	→擾乱	褐色(10YR4/4)粘質土を含む	
SP317	楕円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	中	中	45.0	35.0	16.0			
SP318	楕円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	29.0	25.0	31.0			
SP319	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	弱	細	中	20.0	19.0	22.0			
SP320	円	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘質	強	細	中	15.0	13.0	27.0			
SP321	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	中	中	39.0	30.0	15.0			
SP322	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	33.0	10.0			
SP323	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	25.0	23.0	20.0			
SP324	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	43.0	(30.0)	9.0	←SP374 (SB8)		
SP325	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	25.0	24.0	11.0			
SP326	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	23.0	20.0	16.0			
SP327	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	30.0	21.0	13.0			
SP328	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	26.0	21.0	15.0			
SP329	楕円	黒褐色(10YR3/1)	砂質	中	粗	疏	21.0	19.0	18.0	→SD6	細繩を含む	
SP330	円	黒褐色(10YR2/1)	砂質	弱	粗	疏	16.0	15.0	15.0	→SD6	細繩を含む	
SP331	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	弱	細	中	78.0	54.0	15.0			
SP332	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	密	23.0	23.0	48.0	→擾乱		
SP333	不整	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	33.0	9.0			
SP334	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	23.0	22.0	20.0			
SP335	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	21.0	18.0	19.0			
SP336	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	20.0	17.0	18.0			
SP337	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	24.0	20.0	28.0			
SP338	楕円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	40.0	31.0	16.0			
SP339	円	暗褐色(10YR3/3)	粘質	中	細	中	22.0	20.0	22.0			
SP340	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	38.0	34.0	26.0			
SP341	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	24.0	22.0	15.0			
SP342	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	22.0	21.0	7.0			
SP343	不整	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	中	59.0	33.0	38.0	←SP377 (SB8)		
SP344	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	18.0	15.0	17.0			
SP345	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	密	23.0	19.0	14.0			
SP346	円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	44.0	40.0	34.0	→擾乱	SB3 / 明黄褐色 (10YR6-8)ブロックを含む	113 59
SP347	円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	24.0	22.0	21.0	→擾乱	SB3 / 明黄褐色 (10YR6-8)ブロックを含む	113
SP348	円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	47.0	42.0	67.0	→擾乱	SB3 / 明黄褐色 (10YR6-8)ブロックを含む	113
SP349	楕円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	50.0	37.0	58.0	→擾乱	SB3 / 明黄褐色 (10YR6-8)ブロックを含む	113
SP350	円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	30.0	24.0	21.0	→擾乱	SB3 / 明黄褐色 (10YR6-8)ブロックを含む	113
SP351	不整	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	40.0	35.0	65.0	→擾乱	SB3 / 明黄褐色 (10YR6-8)ブロックを含む	113

《柱穴一覧》

(8/8)

測査名	平面形	検出面土色調	土質	粘性	粒度	緊密度	長径	短径	深さ	重複間隔	備考	図	図版
SP352	楕円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	33.0	36.0	20.0	→SP194	SB4	114	
SP353	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	25.0	24.0	31.0	→擾乱	SB4	114	
SP354	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	30.0	26.0	28.0	→擾乱	SB4	114	
SP355	円	黒褐色(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	32.0	30.0	39.0	→擾乱	SB4 / 明褐色(10YR5/6) ブロックを含む	114	59
SP356	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	30.0	24.0	31.0		SB4	114	
SP357	円	黒褐色(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	35.0	34.0	35.0	→SD6	SB4 / 明褐色(10YR5/6) ブロックを含む	114	
SP358	楕円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	35.0	25.0	22.0	→擾乱	SB5	115	60
SP359	円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	29.0	27.0	26.0	→擾乱	SB5	115	
SP360	楕円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	34.0	26.0	31.0	→擾乱	SB5	115	60
SP361	楕円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	38.0	30.0	30.0	→擾乱	SB5	115	
SP362	楕円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	29.0	22.0	33.0	→擾乱	SB5	115	
SP363	楕円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	34.0	24.0	15.0	→擾乱	SB5	115	
SP364	隠丸方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	66.0	65.0	66.0		SB6 / 種を含む	116	
SP365	円	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	66.0	60.0	61.0		SB6 / 種を含む	116	61
SP366	隠丸方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	86.0	68.0	51.0	→風洞木	SB6 / 種を含む	116	
SP367	隠丸方	黒褐色(10YR3/2)	粘質	中	細	中	65.0	62.0	72.0		SB6 / 種を含む	116	61
SP368	不整	黒褐色(10YR2/3)	シルト	弱	細	密	30.0	28.0	24.0		SB7 / 灰化物を含む	117	61
SP369	円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	37.0	34.0	38.0	→擾乱	SB7	117	
SP370	円	黒褐色(10YR2/2)	シルト	弱	細	密	30.0	26.0	28.0	→擾乱	SB7 / 灰化物を含む	117	
SP371	円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	36.0	33.0	28.0		SB7	117	
SP372	楕円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	44.0	32.0	55.0		SB8 / 棕褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	62
SP373	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	46.0	45.0	66.0		SB8 / 棕褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	
SP374	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	45.0	40.0	53.0	→SP324	SB8 / 棕褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	
SP375	楕円	灰黄褐色(10YR4/2)	粘質	中	細	密	45.0	40.0	50.0		SB8 / 棕褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	62
SP376	円	黒褐色(10YR2/3)	粘質	中	細	密	36.0	35.0	35.0		SB8 / 棕褐色(10YR4/4)粘質土を含む	119	62
SP377	不整	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	60.0	42.0	36.0	→SP343	SB8	119	62
SP378	楕円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	40.0	34.0	39.0	→SD6	SB8	119	62
SP379	円	黒褐色(10YR2/2)	粘質	中	細	中	30.0	25.0	33.0	→SD6	SB8	119	
SP380	楕円	黒褐色(10YR2/3)	シルト	弱	細	密	36.0	30.0	24.0		SB9	121	
SP381	円	黒褐色(10YR2/3)	シルト	弱	細	密	30.0	30.0	26.0	→SP198	SB9	121	
SP382	円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	34.0	33.0	24.0	→擾乱	SB9	121	60
SP383	不整	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	40.0	30.0	27.0		SB9	121	
SP384	楕円	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	40.0	22.0	20.0	→擾乱	SB9	121	
SP385	楕円	暗褐色(10YR3/3)	シルト	弱	細	密	32.0	28.0	17.0	→擾乱	SB9 / 黄褐色(10YR5/8) ブロックを含む	121	
SP386	円	暗褐色(10YR3/3)	シルト	弱	細	密	30.0	26.0	52.0	→擾乱	SB10 / 黄褐色(10YR5/8)ブロックを含む	122	
SP387	楕円	暗褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	32.0	28.0	22.0	→擾乱	SB10 / 灰化物を含む	122	
SP388	楕円	暗褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	40.0	32.0	35.0	→擾乱	SB10	122	60
SP389	円	暗褐色(10YR3/3)	シルト	弱	細	密	38.0	34.0	29.0	→擾乱	SB10 / 黄褐色(10YR5/8)ブロックを含む	122	
SP390	円	暗褐色(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	23.0	20.0	32.0	→擾乱	明褐色(10YR5/6)ブロックを含む		
SP391	円	暗褐色(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	23.0	22.0	20.0	→擾乱	明褐色(10YR5/6)ブロックを含む		
SP392	楕円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	45.0	29.0	24.0	→擾乱		145	
SP393	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	25.0	21.0	35.0			145	
SP394	円	黒褐色(10YR3/1)	シルト	弱	細	密	19.0	18.0	18.0		明褐色(10YR5/6)ブロックを含む		
SP395	円	黒(10YR2/1)	シルト	弱	細	密	36.0	32.0	35.0	→SD6		145	
SP396	不整	黒褐色(10YR3/2)	シルト	弱	細	密	32.0	26.0	18.0	→擾乱		145	
SP397	円	黄褐色(10YR5/6)	シルト	弱	細	密	28.0	24.0	15.0	→擾乱	黄褐色(10YR5/8)ブロックを含む		

《柱穴一覧》

表12 掘載遺物一覧

(1/2)

番号	種別	器種	出土情報	法 量	外側色調 内側色調	調整	備考	箇 数
188	陶土器	壺	SP25SB2	TR0559 NB183 H48.39	SVR6-4 7SYV4-3	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ	口縁部外面部折子文 頭部外面部磨削	112 71
189	陶土器	壺	SP20SB2	H128	SVR6-6 7SYK7-4	αナデ・ミガキ αナデ		112 71
190	陶土器	壺	SP25SB2	TR142 NB107 H228	SVR6-3 2SYR5-3	αナデにより不明 αナデにより不明		112 71
191	石器	両刃石斧	SP15SB2	LH111 W17.75.0			緑色石	112 71
192	陶土器	壺	SP36SB17	TR155 NB139 H20.0	SVR6-4 7SYR7-3	αナデ・ミガキ αナデ・板ナデ・ミガキ	底部穿孔	118 72
193	陶土器	壺	SP37.3SB28	TR164 NB122 L286 H405	10YR5-1	αナデ・ミガキ		120 72
194	陶土器	壺	SP37.2SB29	TR185 NB112.0	7SYR6-4 7SYR6-5	αナデ・ミガキ αナデ		120 72
195	陶土器	壺	SP37.3SB29	TR137 NB109	7SYK7-4	αナデ		120 72
196	陶土器	壺	SP37.2SB29	LN4.0 H21.0	7SYR7-3 7SYR4-1	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		120 72
197	陶土器	壺	SK1	TR103 NB86 H15.7	7SYR4-2 10YR4-2	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		124 72
198	陶土器	壺	SK1	TR157 NB142 LB48 H27.0	10YR4-2 10YR7-4	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		124 73
199	石器	両刃石斧	SK1	L98. W65.74.5			安山岩	124 72
200	陶土器	壺	SK2	TR160 H11.6	10YR7-4 10YR5-3	αナデ・ミナデ	口縁部外面部折子文 (動) 口縁部内面部斜削 子文・利突刺点文・ 円形文	124 71
201	陶土器	壺	SK2	TR180 H2.0	7SYR5-3 7SYR5-3	αナデ・ミナデ	口縁部外面部折子文	124 71
202	陶土器	壺	SK2	LR56.9 HB4.0	10YR8-4	αナデ・ミガキ	口縁部外面部斜削 子文・利突刺点文・ 円形文	124 71
203	陶土器	壺	SK2	TR193 NB198.1	SVR5-4 2SYR5-3	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		124 71
204	陶土器	壺	SK2	TR155 H21.9	10YR8-4 10YR8-5	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		125 73
205	陶土器	壺	SK2	TR180 H17.0	10YR6-3 10YR7.3	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		125 73
206	陶土器	壺	SK2	TR166 H12.5	10YR6-3 10YR5-3	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ	体部外面部刻文点文	125 72
207	陶土器	壺	SK2	TR153 H10.4	10YR6-3 10YR8-2	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		125 73
208	陶土器	壺	SK2	TR122 H14.2	10YR4.2 10YR8-2	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		125 73
209	石器	石斧	SK2	L15.3 W4.7 T1.1			泥質片岩	125 74
210	石器	石斧	SK2	L82.0 W50.70.9			サスカイト質端面	125 74
211	陶土器	壺	SK1・2	TR20.0 H8.8	10YR5-3 10YR5-3	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		126 73
212	陶土器	曲又は壺	SK1・2	LR49 H10.4	7SYR5-4 7SYR4.3	αナデ・板ナデ ミガキ		126 74
213	陶土器	壺	盆合輪(2X)	TR126 H6.8	2SYR4-6 5YR5/6	αナデ・板ナデ・板ナデ αナデ・板ナデ	口縁部外面部5節の山 形文 口縁部下2節の山形文 頭部外面部磨削 頭部外面部波状文	129 74
214	陶土器	壺	SK5	TR7.3 H11.0	10YR5-2 10YR5-2	αナデ・板ナデ・ミガキ αナデ・板ナデ	外面部シザーライン 外面部波状文 利突刺点文・斜削子文	129 74
215	陶土器	壺	SK5	LR8.0 H14.7	10YR8/4 10YR4/1	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		129 74
216	陶土器	壺	SK5	TR17.9 H22.3	2SYR6-4 2SYR6-5	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		129 74
217	陶土器	壺	SK5	TR21.0 H18.8	7SYR6-4 10YR3-4	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		129 74
218	陶土器	壺	SK5	TR239 H9.3	10YR7/2 2SY7.2	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		129 75
219	陶土器	壺	SK5	H8.11	7SYR4/1 2SYR5-2	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ	口縁部外面部折子文	129 74
220	陶土器	壺	SK6	TR153 H11.0	10YR7/4 10YR7/4	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		130 75
221	石器	不明	SK6	LH12.2 W14.4 H11.8			泥質片岩 背面磨 石底子の可能性	130 75
222	陶土器	壺	SK7	TR6300 H22.5	10YR5-2 10YR8-2	αナデ・ミガキ αナデ・ミガキ		131 75
223	石器素材	不明	SK7	L10.5 W7.0 T1.2			緑色片岩 石底子の 可能性	131 75
224	陶土器	壺	盆合輪(2X)	TR180 H2.8	7SYR6-6 7SYR5-4	αナデ αナデ		132 75
225	陶土器	壺	盆合輪(2X)	TR22.7 H4.4	10YR8-3 2SY7.2	αナデ・板ナデ・ナデ・ハケ αナデ	口縁部内面部斜削 口縁部外面部折子文	132 75
226	陶土器	壺	盆合輪(2X)	LR11.8 H30.0	10YR6-3 2SY7.2	αナデ 板ナデ・ミガキ		132 75
227	陶土器	壺	盆合輪(2X)	TR10.9 NB15.9 LR6.6 H21.0	10YR5-2 10YR5-2	αナデ・ハケ・ミガキ αナデ・ナデ・ハケ	口縁部外面部斜削 体部外面部刻文点文	133 75

(掲載物一覧)

(2/2)

番号	種別	器種	出土情報	通量	外面部 内面部	調査	備考	回 回数
228	弥生土器	甕	混合層G区	T803.08 H10.3	23Y86-4 23Y86-4	○回サエ・ナデ・ハケ・ミガキ エナメル・サキ		133 75
229	弥生土器	甕	混合層G区	H6.2I	10Y82-1 7.5Y85-4	○ナデ・クンサキ エナメル・板ナデ・ミガキ	口縁部内面5条の波状文 口縁部波状目	133 76
230	弥生土器	甕	混合層G区	H6.6I	10Y86-4 10Y87-4	○ナデ・クンサキ エナメル		133 75
231	弥生土器	甕	混合層G区	H2.4I	5Y86-6 23Y86-6	○ナデ エナメル・板ナデ	口縁部外面下部の波状文 波状文	133 75
232	弥生土器	甕	混合層G区	T8017.36 H11.9I	7.5Y86-8 7.5Y86-8	○ナデ エナメル・板ナデ	口縁部内面6条の波状文	133 76
233	弥生土器	竪文は甕	SD6	L8011.2b H6.5I	10Y88-3	○ナデ・板ナデ・ミガキ エナメル		135 76
234	彌生器	釜	SD6	T8015.0b H11.3I	7.5Y86-1	○ナデ・回転ヘラケズリ エナメル		135 76
235	弥生土器	竪文は甕	SD5	L8011.5b H3.8I	5Y85-6 7.5Y85-8	○ナデ エナメル		136 76
236	弥生土器	甕	SD9	H6.3I	5Y83-3 5Y83-6	○回サエ・ナデ エナメル	附付口縁	136 76
237	土師器	甕	SD7	H6.13I	10Y84-2 10Y88-2	○ナデ エナメル		137 76
238	土師器	杯又は碗	SD7	T8011.6 H2.2I	10Y88-2 10Y88-2	○ナデ エナメル		137 76
239	彌生器	甕	SD7	H4.4I	23Y4-1 23Y4-1	○タカキ エナメル		137 76
240	瓦	平瓦	SD7	L7.4I W6.9I T2.0	10Y88-3 10Y87-3	○ナデ エナメル		137 76
241	土師質 釜	釜	SD7	T807.8 L9.6W.9 H1.2	5Y85-4 7.5Y86-3	○回転ナデ 回転ナデ		137 76
242	土師器	甕	混合層G区	T809.4 L8.7W.4 H1.4	5Y82-4 5Y82-4	○回転ナデ 回転ナデ		138 76
243	瓦	楕	混合層G区	H6.3I	23Y3-1 23Y3-1	○ナデ・エ・ナデ エナメル		138 76
244	土師器	楕	混合層G区	H2.6I	7.5Y87-4 7.5Y87-4	○回転ナデ 回転ナデ		138 76
245	土師器	楕内削	混合層G区	H1.4I	7.5Y84-4 7.5Y84-1	○ナデ エナメル		138 76
246	磁器(輸入)	白磁瓶	混合層G区	T8015.6 H12.5I	5Y77-1 5Y77-1	○回転ナデ 回転ナデ		138 76
247	石器	不明	混合層G区	L4.3 W1.5H T0.7			緑色片岩 石削丁の 可塑性	146 76
248	土製品	土鍤	混合層G区	L3.1 W0.25 T0.7	10B6-3	○ナデ エナメル	孔径0.3cm	146 76
249	石器	石劍	混合層G区	L4.1 W1.2 T0.2			サメカギト	146 76
250	石器	朴狀刃石斧	混合層G区	L8.9 W1.0 H1.0			緑色片岩 サメカギト 石器の 可塑性	146 76
251	石器	不明	耕土	L2.9 W1.2H T0.5				147 76

〈掲載遺物一覧〉

表13 出土遺物一覧

(1/4)

時期	出土情報	種 別	部位	器 種	区分	点数	規 級	番 号
弥生時代	SK3-SP1	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
			石器	石斧	A	1	191	
			自然遺物	不明	B	7		
	SK2-SP2	弥生上部	銅部	古又は要	A	2	198189	
			白陶器	豆	A	1	190	
			銅部	古又は要	B	17		
			自然遺物	不明	B	8		
	SK3-SP246	弥生上部	銅部	古又は要	B	2		
	SK3-SP248	弥生上部	銅部	古又は要	B	2		
	SK3-SP249	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
	SK3-SP250	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
	SK4-SP254	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
	SK6-SP265	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
	SK6-SP266	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
	SK6-SP267	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
	SK7-SP268	弥生上部	白陶器	豆	B	1		
			白陶器	豆	B	2		
			白陶器	豆	A	1	192	
			銅部	古又は要	B	2		
			銅部	古又は要	B	1		
	SK7-SP269	弥生上部	銅部	古又は要	B	4		
	SK8-SP272	弥生上部	白陶器	豆	A	1	194	
			銅部	古又は要	B	16		
			銅部	古又は要	A	1	196	
	SK8-SP274	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
	SK8-SP275	弥生上部	銅部	古又は要	B	7	196	
	SK8-SP276	弥生上部	白陶器	豆	A	1	195	
			銅部	古又は要	B	2		
	SK9-SP281	弥生上部	白陶器	豆	A	1	195	
			自然遺物	不明	B	3		
	SK9-SP283	自然遺物	不明	不明	B	1		
	SK10-SP288	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
	SK10-SP289	弥生上部	銅部	古又は要	B	1		
弥生時代 （成入）	SK1	弥生上部	手平	古又は要	B	1		
			白陶器	豆	A	1	198	
			銅部	豆	B	1		
			白陶器	豆	B	3		
			白陶器	豆	A	1	197	
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	6		
			銅部	豆	B	82		
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	1		
弥生時代 （成入）	SK2	弥生上部	白陶器	豆	A	2	200201	
			銅部	豆	B	1		
			白陶器	豆	B	5		
			白陶器	豆	A	5	203203~208	
			白陶器	豆	A	1	204	
			銅部	豆	B	4		
			銅部	豆	B	6		
			銅部	豆	A	66		
			銅部	豆	A	1	202	
			銅部	豆	B	1		
弥生時代 （成入）			銅部	豆	B	1		
			石器	石斧	A	1	199	
			自然遺物	不明	B	4		
			白陶器	豆	A	1	202	
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	1		
弥生時代 （成入）	SK3	弥生上部	白陶器	豆	B	1	211	
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	5		
			白陶器	豆	B	2		
			銅部	豆	B	5		
			銅部	豆	B	81		
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	A	1	212	
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	1		
弥生時代 （成入）	SK5	弥生上部	白陶器	豆	B	1	213	
			銅部	豆	B	1		
			銅部	豆	B	4		
			銅部	豆	A	1		
			銅部	豆	B	3		
			銅部	豆	B	3		
			銅部	豆	B	3		
			銅部	豆	B	3		
			銅部	豆	B	3		
			銅部	豆	B	3		

〈出土遺物一覧〉

(3/4)

時期	出土情報	種 別	部位	器 様	区分	点数	規 範 号
	土師器	銅部	不明	B	14		
	土師質 口縁部	黑	A	1	241		
	頭形器	銅部	甕	A	1	229	
	瓦器	銅部	陶	B	3		
SD7・8	生土器	銅部	甕又は甌	B	11		
	土師器	銅部	不明	B	2		
SD19	生土器	口縁部	甕	B	1		
	土師器	銅部	甕	B	1		
	土師質	銅部	甕又は甌	B	1		
	頭形器	銅部	甕又は甌	B	1		
	土師器	銅部	不明	B	1		
	土師質	銅部	甕又は甌	B	1		
	土師質	銅部	甕又は甌	B	1		
	土器	銅部	甕又は甌	B	1		
1区_難倉	生土器	口縁部	甕	B	1		
	土師器	銅部	甕又は甌	B	48		
	頭形器	銅部	甕又は甌	B	1		
	土師器	銅部	不明	B	1		
	土師質	銅部	甕又は甌	B	1		
	土器	銅部	甕又は甌	B	1		
2区_包含層	生土器	口縁部	甕	B	1		
	土師器	銅部	甕又は甌	B	19		
	頭形器	銅部	甕	B	1		
	土師器 (古代)	銅部	甕	B	1		
	土師器	口縁部	甕又は甌	B	1		
	土師器	銅部	甕又は甌	B	2		
	頭形器	銅部	不明	B	4		
	頭形器	銅部	甕又は甌	B	1		
3区_包含層	生土器	口縁部	甕	A	1	224	
	土師器	銅部	甕	B	1		
	頭形器	銅部	甕	B	1		
	土師器	銅部	甕又は甌	B	16		
	頭形器	銅部	甕又は甌	B	2		
	黑色土器	銅部	陶	B	1		
	土師器	口縁部	甕	A	1	282	
	土師器	銅部	甕又は甌	B	1		
	頭形器	銅部	不明	B	4		
4区_複雜	瓦器	口縁部	甕	A	1	243	
	生土器	銅部	甕	B	2		
	土師器	銅部	甕又は甌	B	5		
	土師器 (古代)	銅部	甕	B	1		
	土師器	口縁部	甕又は甌	B	1		
	土師器	銅部	甕	B	2		
	頭形器	銅部	甕又は甌	B	1		
5区_複雜	瓦器	口縁部	甕	B	2		
	生土器	銅部	甕	B	2		
	土師器	銅部	甕又は甌	B	1		
	土師器	口縁部	甕	B	1		
	頭形器(輸入)	銅部	甕	B	1		
6区_複雜	瓦器	口縁部	甕	B	1		
	生土器	銅部	甕	B	3		
	土師器	口縁部	甕	B	1		
	土師器	銅部	甕	B	2		
	頭形器	銅部	甕又は甌	B	81		
	土師器	銅部	黑	B	1		
	頭形器	銅部	不明	B	2		
7区_包含層	生土器	口縁部	甕	A	1	225	
	土師器	銅部	甕	B	18		
	口縁部	甕	B	4			
	口縁部	甕	B	19			
	口縁部	甕	A	1	228~233		
	口縁部	甕	A	1	227		
	頭形器	銅部	甕又は甌	B	303		
	頭形器	甕	A	1	226		
	頭形器	銅部	甕又は甌	B	16		
8区_複雜	瓦器	銅部	不明	B	1		
	土師器	口縁部	甕	B	1		
	土師器	銅部	黑	B	1		
	頭形器	銅部	陶	A	1	244	
	頭形器	銅部	黑	B	1		
	頭形器	銅部	黑	B	1		
	頭形器(内側)	銅部	甕	A	1	245	
	瓦器	銅部	陶	B	3		
	頭形器(輸入)	銅部	白砂陶	A	1	246	
中晉	SP187	瓦器	銅部	陶	B	1	
	SP271	土師器	銅部	甕又は甌	B	1	
	SC3	瓦器	口縁部	陶	B	1	

〈出土遺物一覧〉

(4/4)

時期	出土情報	種 別	部位	器 様	区分	点数	規 範 号
時期不明	SD19	自然遺物	不明	不明	B	1	
	SP24	不明	不明	不明	B	1	
	SP27	不明	不明	不明	B	1	
	SC21	自然遺物	不明	不明	B	1	
	1区_難倉	不明	頭形器	不明	B	38	
	1区_複雜	不明	頭形器	不明	B	8	
	1区_包含層	不明	口縁部	不明	B	1	
		頭形器	不明	B	37		
		石器	不明	不明	A	1	247
1区_表裏	土製品	實存	土器	B	1		
	不明	頭形器	不明	B	1		
1区_複雜	不明	頭形器	不明	B	18		
1区_頭上	石器	不明	酒器	B	1		
	不明	頭形器	不明	B	2		
	自然遺物	不明	不明	B	1		
2区_複雜	石器	不明	刮削器	B	1		
	土製品	實存	土器	A	1	248	
陶器(可燃)	口縁部	不明	頭形器	B	1		
		頭形器	不明	B	3		
		頭形器	不明	B	1		
		頭形器	不明	B	1		
		口縁部	不明	B	2		
		石器	不明	石器	A	1	249
		自然遺物	不明	自然遺物	A	1	250
		自然遺物	不明	不明	B	1	
		頭上	不明	B	1		
2区_複雜	石器	不明	不明	A	1	251	

第6章 理化学分析

第1節 目的

中村田所遺跡の調査では、火山灰分析と年代測定・樹種同定に適する資料を複数得ることができた。2区東壁の火山灰と縄文時代の土坑より出土し水洗選別した炭化物・弥生時代終末期の複数の焼失堅穴建物より検出した建築部材の可能性が高い炭化材である。新居浜周辺での鬼界アカホヤ火山灰の検出事例が少なく、今回の資料を鬼界アカホヤ火山灰と同定できれば鍵層を抑える手がかりになる。また、焼失堅穴建物の炭化物分析により建物構築部材の利用状況や年代の検討材料を得ることができる。これらを目的として分析を実施した。(首藤)

第2節 概要

中村田所遺跡は、新居浜市中村松木に所在する。遺跡は、新居浜平野中央西寄りを北流する尻無川左岸の微高地上に立地する。平成29年度の発掘調査では、縄文時代後期の土坑・弥生時代後期の集落・中世の掘立柱建物などが検出されている。とくに、弥生時代後期の集落からは4棟の堅穴建物が検出され、うち2区の3棟からは全てで焼土及び多量の炭化物が出土しており、火災による焼失建物と考えられた。また、2区の調査区東壁では下層において火山灰層が確認され、層相や遺物の検討から鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,約7,300年前)の可能性が示唆された。

ここでは、2区で確認された火山灰を同定し、土層の堆積年代を推定する。同じく2区で出土した縄文時代の集石土坑(SK7)の埋土より検出された炭化物を対象に、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施し、遺構の構築年代と当時の木材利用を検討する。また、焼失住居跡から出土した炭化材の樹種同定を実施し、当時の木材利用を検討する。(株式会社・古環境研究所)

第3節 火山灰分析

1 はじめに(図148)

四国地方には、おもに九州地方などの火山から噴出したテフラ(いわゆる火山灰)が数多く降灰しており、テフラを年代指標とする火山灰編年学により考古遺跡などの年代推定ができるようになっている(町田・新井,2011など)。中村田所遺跡の発掘調査では、良好な状態のテフラ層らしい土層が認められたことから、火山ガラス比分析(軽鉱物と重鉱物の含有率を求める)と火山ガラスの屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定を行うことになった。テフラ分析の対象は、調査区東壁側溝トレーナーから採取された火山灰試料である。(株式会社・古環境研究所)

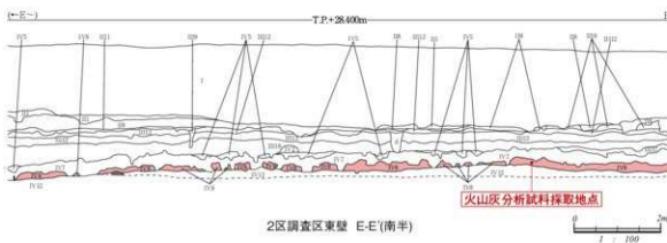
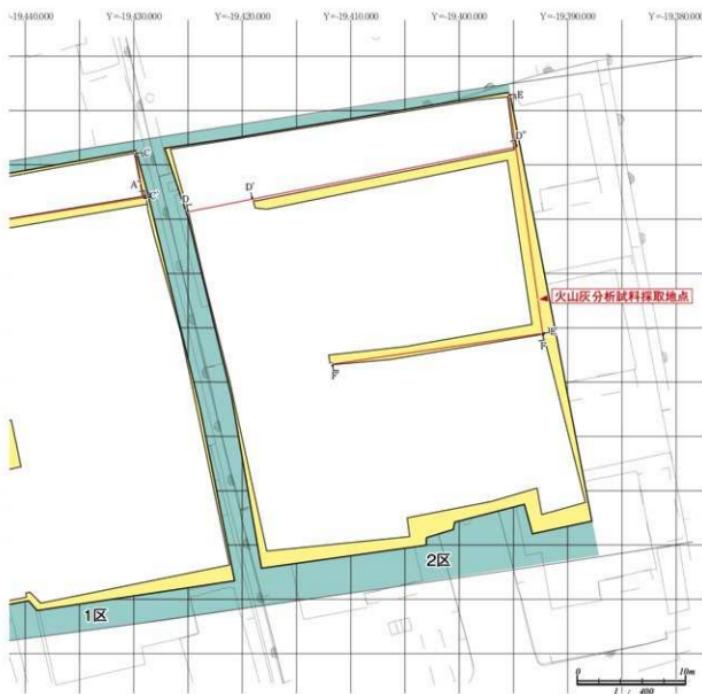


図148 2区東壁 火山灰分析試料採取地点

2 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

火山灰試料について、最初にテフラ粒子の検出を兼ねたテフラ検出分析を行い、次に火山ガラスの形態(一部色調)別含有率、軽鉱物および重鉱物の含有率を求める火山ガラス比分析を実施した。

- 1) 試料の高純度部から、電子天秤を用いて8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器をもじいて80°Cで乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や色調などを観察(テフラ検出分析)。
- 5) 分析筒により、 $2\sim3\phi$ (1/4~1/8mm)および $3\sim4\phi$ (1/8~1/16mm)の粒子を篩別。
- 6) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、 $2\sim3\phi$ (1/4~1/8mm)の火山ガラスの色調形態別含有率、軽鉱物と重鉱物の含有率を求める(火山ガラス比分析)。

火山ガラスの形態分類は町田・新井(2011)や早田(1999)に基本的に従い、バブル型、塊状の中間型、軽石型に区分した。軽石型については、さらにスボンジ状と纖維束状に分けた。なお、色調はバブル型ガラスを対象に記載を行い、無色透明、淡褐色、褐色に区分した。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表14に示す。火山灰試料には、火山ガラスがとくに多く含まれている。火山ガラスには、無色透明、淡褐色、褐色のバブル型のほか、無色透明の纖維束状軽石型が認められる。重鉱物には、斜方輝石や单斜輝石がわずかに含まれている。

表14 テフラ検出分析結果

試料名	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
	量	色調	最大径	量	形態	色調	
東壁側溝トレンチ	---	bw>pm(fb)	無色透明、淡褐、褐	(opx, cpx)			

***: とくに多い、**: 多い、*: 中程度、*: 少ない。bw: バブル型、pm: 軽石型、fb: 纖維束状。

opx: 斜方輝石、cpx: 単斜輝石、() 内は量がとくに少ない鉱物。

次に、火山ガラス比分析の結果の内訳を表15に、またダイヤグラムを図149に示す。火山灰試料には、火山ガラス、軽鉱物、重鉱物が、順に92.0%、2.0%、1.6%含まれており、火山ガラスの含有率が非常に高い傾向にある。火山ガラスとしては、無色透明のバブル型(65.6%)、纖維束状軽石型(18.0%)、淡褐色バブル型(5.2%)、分厚い中間型(2.8%)、褐色バブル型(0.4%)が認められる。

表15 火山ガラス比分析結果

試料	bw(cl)	bw(p-br)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
東壁側溝トレンチ	164	13	1	7	0	45	5	4	11	250

bw: バブル型、md: 中間型、pm: 軽石型、cl: 無色透明、p-br: 淡褐色、br: 褐色、sp: スボンジ状、fb: 纖維束状。数字は粒子数。

3 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

日本列島とその周辺に分布するテフラに関しては、同定精度向上のために火山ガラスや鉱物の

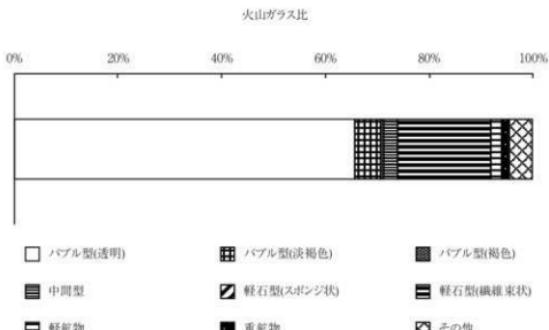


図149 中村田所遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム

屈折率測定がよく行われている。そこで、火山灰試料中に含まれる火山ガラスを対象に、屈折率測定を実施することになった。測定方法は温度一定型屈折率測定法(壇原,1993)で、テフラ検出分析後の篩別により得られた3~4φ(L/8~1/16mm)粒子中の火山ガラスを対象に測定を行った。

(2)測定結果

屈折率の測定結果を表16に、値の内訳を付表に示す。火山灰試料に含まれる火山ガラス(31粒子)の屈折率(n)は、1.508-1.512である。

4 考察

火山灰試料に含まれる火山ガラスの屈折率特性は、四国地方に分布する後期更新世以降の指

表16 屈折率測定結果

試料・テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率(n)	測定点数	
調査区東壁側溝トレーナー・火山灰試料	1.508-1.512	31	1)

四国地方に分布する代表的な指標テフラ

鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah;7.3ka)	1.508-1.516	2)
姶良 Tr(AT,28 ~ 30ka)	1.498-1.501	2)
阿蘇 4(Aso-4.85 ~ 90ka)	1.506-1.510	2)
鬼界葛原 (K-Tz;95ka)	1.496-1.500	2)
阿多 (Ata+B8105ka)	1.508-1.512	2)
阿蘇 3(Aso-3,130-133ka)	1.512-1.540	2)

1)本報告、温度変化型屈折率測定法(壇原,1993).

2)町田・新井(2011)、温度一定型屈折率測定法(新井,1972,1993).

ka:1,000 年前.

標テフラと比較すると、約10.5万年前に南九州の阿多カルデラから噴出した阿多火山灰(Ata,長岡,1989;町田・新井,2011など)と、約7,000年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,町田・新井,1978,2011など)によく似ている。火山灰試料の層位や産状、火山ガラスの形態や色調、さらに前者が四国地方において一次堆積層で認められること自体まれなことなどから総合的にみると、火山灰試料にはK-Ahに由来するテフラ粒子がとくに多く含まれていると考えられる。

なお、高純度であることから、遺跡にK-Ahの一次堆積層が存在した可能性は高いが、樹木根などによりブロック状になり、本来の降灰層準から移動したK-Ahも多いことから、土層の状況を詳細に把握して、K-Ahの一次堆積層や降灰層準を認定する必要がある。

5まとめ

新居浜市中村田所遺跡において採取された火山灰試料を対象として、火山ガラス比分析と火山ガラスの屈折率測定を行って、指標テフラの検出同定を実施した。その結果、試料中に鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,約7,300年前)に由来するテフラ粒子が非常に多く含まれていることが明らかになった。(株式会社・古環境研究所)

参考文献

- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究.第四紀研究,11,p.254-269.
 新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法.日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」,p.136-149.
 坪原 徹(1993)温度変化型屈折率測定法.日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」,東京大学出版会,p.149-158.
 町田 洋・新井房夫(1978)南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰.第四紀研究,17,p.143-163.
 町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス(第2刷)」,東京大学出版会,336p.
 長岡信治(1989)九州の第四紀テフラと地形編年.九州活断層研究会編「九州の活構造」,p.23-43.



調査区東壁掘削トレンチ・火山灰試料

透過光で撮影。

中央など：バブル型ガラス(無色透明)。

中央左：褐色バブル型ガラス。

中央右下：繊維束状軽石型ガラス。

左下(有色鉱物)：斜方輝石。

図150 火山灰顕微鏡写真

第4節 SK7出土炭化材の放射性炭素年代測定

1はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素(^{14}C)の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や穀実などの植物遺体、骨、貝殻、土壤、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である(中村2000)。

2 試料と方法

測定試料は、2区で出土した集石土坑(SK7)で採取された炭化物1点である。表17に測定試料の詳細と前処理・調整法および測定法を示す。試料は、前処理・調整後、加速器質量分析計(コンバクトAMS:NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。

表17 測定試料及び処理

試料番号	試料の詳細	種類	前処理・調整	測定法
1 SK7(2区)		炭化材	超音波洗浄、有機溶剤処理(アセトン)、酸-アルカリ-酸洗浄(塩酸、水酸化ナトリウム)	AMS

* AMS(Accelerator Mass Spectrometry)は加速器質量分析法

3 結果

加速器質量分析法(AMS:Accelerator Mass Spectrometry)によって得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素(^{14}C)年代および曆年代(較正年代)を算出した。表18にこれらの結果を示す。

(1) δ (デルタ) ^{14}C 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(%)で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(%)に標準化することで同位体分別効果を補正している。

(2) 放射性炭素(^{14}C)年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から現在(AD1950年基点)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を用いている。統計誤差(\pm)は 1σ (シグマ)(68.27%確率)である。 ^{14}C 年代値は下1桁を丸めて表記するのが慣例であるが、曆年較正曲線が更新された場合のために下1桁を丸めない曆年較正用年代値も併記した。

(3) 曆年代(Calendar Years)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正することで、放射性炭素(^{14}C)年代をより実際の年代値に近づけることができる。曆年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値及びサンゴのU/Th(ウラン/トリウム)年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータはIntCal 20、較正プログラムはOxCal 4.4である。

曆年代(較正年代)は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した曆年代の幅で表し、OxCalの確率法により 1σ (68.27%確率)と 2σ (95.45%確率)で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の 1σ ・ 2σ 値が表記される場合もある。 σ 内の%表示は、その範囲内に曆年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

表18 測定結果

試料番号 (PBD)	測定No. (%)	^{14}C	曆年較正年代		^{14}C 年代	曆年代(西暦)	
			(年 BP $\pm 1\sigma$)	(年 BP $\pm 1\sigma$)		1σ (68.27%確率)	2σ (95.45%確率)
1	4436B	-2491 \pm 0.15	3469 \pm 22	3450 \pm 30	3479-3484 cal BC (8.43%) 1772-1738 cal BC (31.97%) 1714-1694 cal BC (17.87%)	1879-1841 cal BC (23.32%) 1825-1793 cal BC (10.89%) 1782-1688 cal BC (61.24%)	

BP : Before Physics (Present), BC : 起元前

4 所見

中村田所遺跡で出土した集石土坑の構築年代を明らかにする目的で、加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定を行った。その結果、集石土坑の埋土から検出された炭化物は、補正 ^{14}C 年代が 3450 ± 20 BP、 2σ の曆年較正値は1878 cal BC-1841 cal BC(23.32%)、1825 cal BC-1793 cal BC(10.89%)、1782 cal BC-1688 cal BC(61.24%)であった。(株式会社・古環境研究所)

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(I), 337-360.
- Lanting, J. N., Aerts-Bijlma, A. T. and van der Plicht (2001) Dating of Cremated Bones. Radiocarbon, 43(2A), 249-254.
- 中村俊夫(2003)放射性炭素年代測定法と曆年代較正.環境考古学マニュアル同成社, p.301-322.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards,

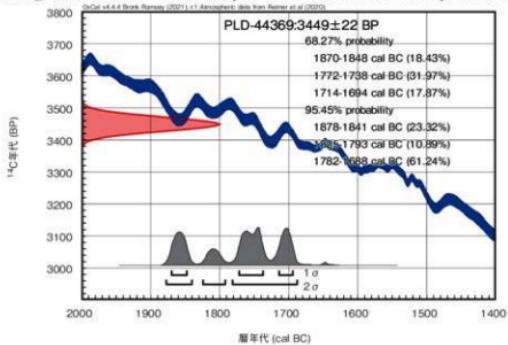


図151 曆年較正結果

D.A. Scott, E.M. Southon, J.R. Turney, C.S.M. Wacker, L. Adolphi, F. Bünzgen, U. Capano, M. Fahrni, S.M. Fogtmann-Schulz, A. Friedrich, R. Köhler, P. Kudsk, S. Miyake, F. Olsen, J. Reine, F. Sakamoto, M. Sookdeo.A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

第5節 SK7出土炭化材の樹種同定

1はじめに

木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとから、比較的近隣の森林植生の推定が可能である。また、遺構から出土したものを見ると、木材利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

2 試料

試料は、縄文時代後期と考えられる2区SK7の埋土を水洗選別して得られた炭化材である。3~8mm角程度の炭化材が6片ほどある。いずれも水洗の際に摩耗しており、接合関係は不明である。最大片1点を分析試料とする。

3 分析方法

炭化材を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柵目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。炭化材の周囲を樹脂でコーティングして補強する。走査型電子顕微鏡(低真空)で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

4 結果

炭化材は広葉樹のコナラ属コナラ節に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ節 Quercus sect. *Prinus* ブナ科

環孔材。大型の道管が配列する孔圈部は1~2列、孔圈外で急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織がある。

5 考察

同定できた炭化材は、約8mm角の小片であり、コナラ節に同定された。コナラ節には、コナラ、ミズナラ、カシワ、ナラガシワの4種がある。山地・丘陵地に生育する落葉高木であり、コナラは二次林(雜木林)の主要な構成種である。コナラ節の木材は、重硬で強度が高い。

炭化材は、縄文時代後期と考えられる2区SK7の埋土を水洗選別して得られたものである。同定試料の他にも5片ほどあるが、いずれも小片である。いずれも炭化している状況から火を伴う

用途に利用されたことが推定される。なお、同定試料以外も実体顕微鏡による観察を実施したが、その中にはコナラ節とは明らかに異なる特徴を持つものがあり、複数種類が混在していることが推定される。

伊東・山田(2012)のデータベースを用いて、愛媛県における縄文時代後期・晩期の事例をみると、船ヶ谷遺跡(松山市)と矢田八反坪遺跡(今治市)で報告例がある。その結果を見ると、木製品では常緑広葉樹の利用が多く、用途不明品等を合わせても落葉広葉樹の利用は認められない。一方、香川県では、林・坊城遺跡と居石遺跡(共に高松市)で調査事例があり、加工材や杭材にコナラ節の利用が確認できる。今回の結果は、愛媛県においてもコナラ節が生育していたこと、またその木材を利用していたことを示す結果として注目される。(株式会社・古環境研究所)

参考文献

- 林 昭三.1991.日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
 伊東隆夫.1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料31.京都大学木質科学研究所.81-181.
 伊東隆夫.1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料32.京都大学木質科学研究所.66-176.
 伊東隆夫.1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料33.京都大学木質科学研究所.83-201.
 伊東隆夫.1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料34.京都大学木質科学研究所.30-166.
 伊東隆夫.1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料35.京都大学木質科学研究所.47-216.
 伊東隆夫・山田昌久(編).2012.木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社.444p.
 烏地 謙・伊東隆夫.1982.図説木材組織.地球社.176p.
 Wheeler E.A.Bass P. and Gasson P.E.(編).1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修).海青社.122p. [Wheeler E.A.Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

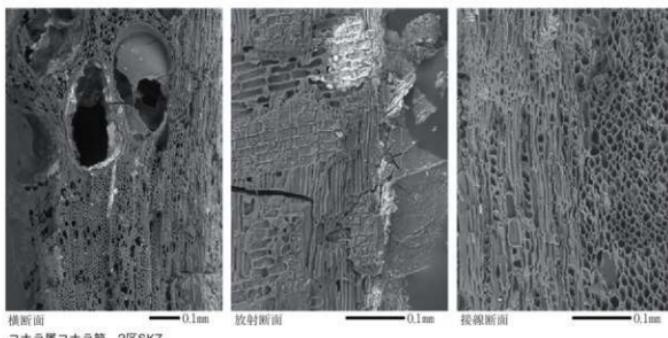


図152 SK7出土炭化材顕微鏡写真

第6節 SI2～4出土炭化材の樹種同定

1はじめに

木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとから、比較的近隣の森林植生の推定が可能である。また、遺構から出土したものを検討することにより、木材利用状況や流通を探る手がかりにもなる。中村田所遺跡の発掘調査では、弥生時代後期末頃とされる火災住居跡が検出された。そこで、出土した炭化材について樹種同定を実施し、当時の木材利用を検討することになった。

2 試料(図153～155)

試料は、SI2から出土した12点(試料番号1～12)、SI3から出土した1点(試料番号13)、SI4から出土した7点(試料番号14～20)の合計20点である。

3 分析方法

炭化材を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。炭化材の周縁を樹脂でコートイングして補強する。走査型電子顕微鏡(低真空)で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)

を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

表19 樹種同定結果

試料番号	遺構	位置	取上番号	形狀	樹種
1	SI2	①-1 区	No 1	分割状	コナラ属クスギ節
2	SI2	①-3 区	No 1	板目板状	マツ属複維管束亜属
3	SI2	①-3 区	No 3	破片	コナラ属クスギ節
4	SI2	②-2 区	No 2	破片	センダン近似種
5	SI2	②-2 区	No 4	破片	コナラ属クスギ節
6	SI2	③-1 区	No 4	ミカン削状	マツ属複維管束亜属
7	SI2	③-3 区	No 2	破片	ツブライ
8	SI2	③-4 区	No 1	柾目板状	コナラ属クスギ節
9	SI2	④-2 区	No 1	破片	コナラ属クスギ節
10	SI2	④-2 区	No 3-4	柾目板状	スダジイ
11	SI2	下層 SP2239	柱材	ミカン削状	クスノキ科
12	SI2	下層 SP240 周辺	柱材	破片	マツ属複維管束亜属
13	SI3		No 2	破片	スダジイ
14	SI4	1 区	No 1	分割状	コナラ属クスギ節
15	SI4	2 区	No 2	柾目板状	コナラ属クスギ節
16	SI4	2 区	No 3	柾目板状	コナラ属クスギ節
17	SI4	3 区	No 2	板目板状	コナラ属クスギ節
18	SI4	3 区	No 5	ミカン削状	コナラ属クスギ節
19	SI4	3 区	No 6	柾目板状	コナラ属クスギ節
20	SI4	4 区	No 2	柾目板状	コナラ属クスギ節

4 結果

樹種同定結果を表19に示す。炭化材は針葉樹1分類群(マツ属複維管束亜属)と広葉樹5分類群(クスノキ科、コナラ属クスギ節、スダジイ、ツブライ、セン

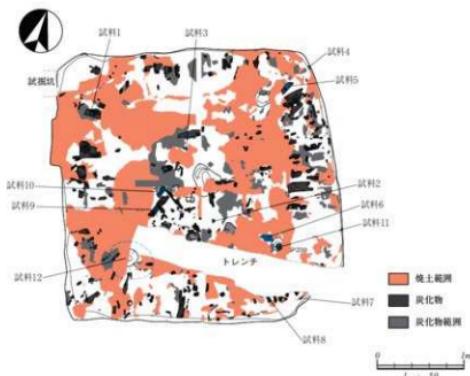


図153 SI2炭化材試料採取地点(試料1~12)

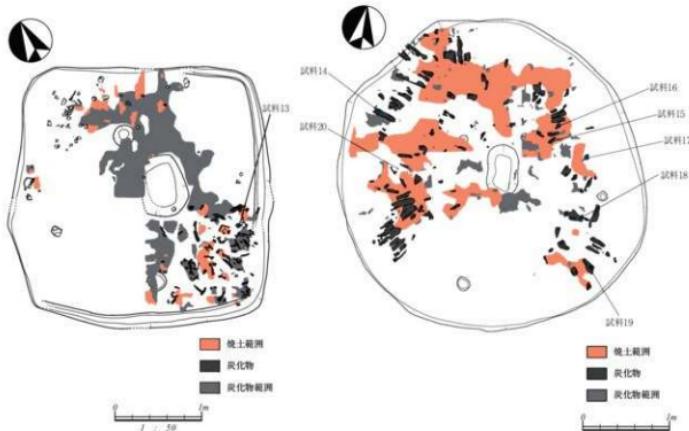


図154 SI3炭化材試料採取地点(試料13)

図155 SI4炭化材試料採取地点(試料14~20)

ダン近似種)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxyylon* マツ科

軸方向組織は、基本的に仮道管と垂直樹脂道で構成されるが、観察範囲内で垂直樹脂道が認められなかった試料もある。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には齧歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・クスノキ科 *Lauraceae*

散孔材。道管は單独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。

・コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Cerris* ブナ科

環孔材。孔圈部は1～2列、孔圈外で急激に道管径を減じたのち、小径の道管が単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織がある。

・スダジイ *Castanopsis sieboldii*(Makino)Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba subsp. *Sieboldii* ブナ科シイ属

環孔性放射孔材。道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3～4列、孔圈外でやや急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと集合～複合放射組織がある。

・ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky ブナ科シノキ属

環孔性放射孔材。道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3～4列、孔圈外で急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと集合～複合放射組織がある。

・センダン近似種 cf. *Melia azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel センダン科センダン属

試料は小片。道管は5～6個が塊状に複合して配列する。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、1～4細胞高、1～30細胞高。

査目でやや大型の道管が認められること、木口面の道管が塊状に配列する状況から、環孔材の晩材部分と判断できる。道管や放射組織からセンダンの可能性があるが、観察範囲が狭いために道管配列が確認できず、近似種とした。

5 考察

弥生時代後期末頃とされる住居跡から出土した炭化材には、合計6種類の樹種が認められた。各種類の材質をみると、針葉樹のマツ属複維管束亜属は、四国ではアカマツまたはクロマツである。海岸や二次林等に生育する常緑高木であり、木材は強度や保存性が比較的高い。広葉樹のス

ダジイとツブライは、暖温帶性常緑広葉樹林の主要な構成種となる常緑高木であり、木材は比較的重硬で強度が高い部類に入る。クヌギ節は、二次林や河畔等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。クスノキ科には、常緑性と落葉性があり、高木から低木まで含まれる。木材は比較的重硬な種類から軽軟な種類まで幅がある。センダン(近似種)は、沿海地等に生育する落葉高木であり、木材は比較的強度が高い部類に入る。確認された種類から、弥生時代後期末頃の遺跡周辺では、丘陵地等にシイ属(スダジイ・ツブライ)を主要要素とする常緑広葉樹林が見られ、沖積地の河畔にはクヌギ節、海岸や集落周辺にはマツ属複雑管束亜属等が生育していたことが推定される。

造構別にみると、SI2は住居のほぼ全面から屋根の構築部材等と考えられる炭化材が出土しているほか、下層のSP239およびSP240周辺から柱材と考えられる炭化材が出土している。屋根の構築部材等と考えられる炭化材は、クヌギ節を中心にマツ属複雑管束亜属、スダジイ、ツブライ、センダン近似種が認められ、5種類の木材が混在して利用されたことが推定される。また、柱材と考えられる2点はクスノキ科とマツ属複雑管束亜属であった。出土地点別にみると、住居跡の壁沿いで放射状に出土している炭化材では、5点中3点がクヌギ節、センダン近似種とツブライが各1点であり、クヌギ節の利用が多い傾向がある。また、住居跡の中央部から出土した炭化材では、クヌギ節とマツ属複雑管束亜属が各2点、スダジイが各1点である。壁沿いの炭化材と比較すると、クヌギ節やシイ属の利用は同様であるが、マツ属複雑管束亜属が利用される点は異なる。

SI3は、住居の南東部と北西部から炭化材が出土している。分析試料は、南東部から出土した炭化材から抽出された1点で有り、スダジイに同定された。1点のみの結果であるが、スダジイの利用はSI2の結果とも同様である。

SI4は、床面が円形を呈しており、他の2件とは床面形状が異なる。炭化材は、南側の一部を除くほぼ全面から出土しており、軸方向が住居の中心から放射状に延びるものが多い。選択された5点は全てクヌギ節に同定された。クヌギ節はSI2でも比較的多く確認されており、同様の木材が利用されているが、クヌギ節以外の種類が利用されない点はSI2とは異なっており、種類構成が異なっていた可能性がある。

伊東・山田(2012)のデータベースによれば、周辺では本郷I遺跡の弥生後期～古墳初頭とされる柱材にアカマツ(マツ属複雑管束亜属)が確認されており、本遺跡の結果とも整合的である。また、時期はやや古くなるが、久枝II遺跡の弥生時代中期とされる竪穴住居から出土した炭化材にはアカガシ亜属に混じってツブライが確認されている。

既存の調査例と比較すると、本遺跡ではアカガシ亜属の利用が認められない一方、周辺で利用例が報告されていないクヌギ節の利用が多い。こうした違いは、局所的な植生の違い等を反映している可能性がある。なお、クヌギ節については、本遺跡から距離は離れるが、祝谷アイリ遺跡(松山市)の弥生後期～古墳初頭とされる垂木に、アカガシ亜属と共に確認された例がある。(株式会社・古環境研究所)

参考文献

- 林 昭三.1991.日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫.1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料.31.京都大学木質科学研究所.81-181.
- 伊東隆夫.1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料.32.京都大学木質科学研究所.66-176.
- 伊東隆夫.1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料.33.京都大学木質科学研究所.83-201.
- 伊東隆夫.1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料.34.京都大学木質科学研究所.30-166.
- 伊東隆夫.1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料.35.京都大学木質科学研究所.47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編).2012.木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社.444p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編)2006.針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修).海青社.70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫.1982.図説木材組織.地球社.176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編)1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修).海青社.122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

第7節 まとめ

火山灰分析では鬼界アカホヤ火山灰由来のテフラ粒子が多く含まれており、当資料はブロック状の堆積であるが、周辺に一次堆積層が存在する可能性も想定できることが判明した。

SK7出土の縄文時代の炭化物については、材質はコナラ節であり、放射性炭素年代測定により補正¹⁴C年代が 3450 ± 20 BPの結果が得られた。

弥生時代終末期の焼失堅穴建物の炭化材樹種同定では、SI2ではクヌギ節を中心にマツ属複雑管束亞属・スダジイ・ツブラジイ・センダン類似種の5種類の使用が判明しており、多様性を持つことが当建物の特徴である。SI3では1点のみの分析であったが、スダジイの使用が捉えられ、SI4では複数の資料全てがクヌギ節であった。SI2とそれ以外では使用材の種類数に差異が認められ、SI2とSI4では遺構の接近状況や土器様相より若干の時期差が想定できることから、使用木材の違いには堅穴建物が構築された時期の差も関係している可能性がある。(首藤)

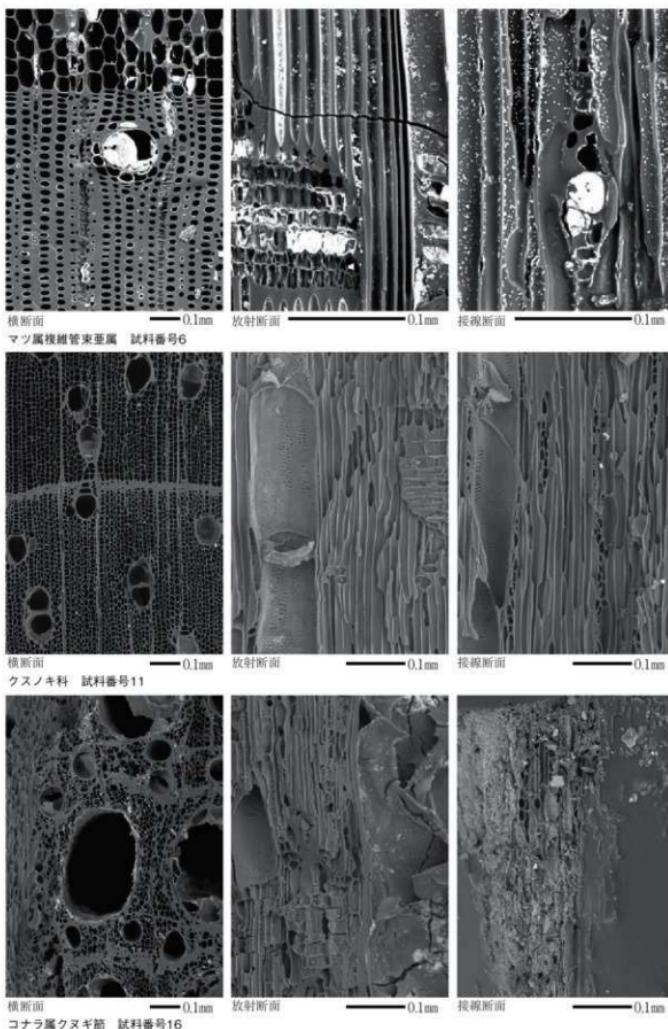


図 156 SI1~3 出土炭化材顕微鏡写真(1)

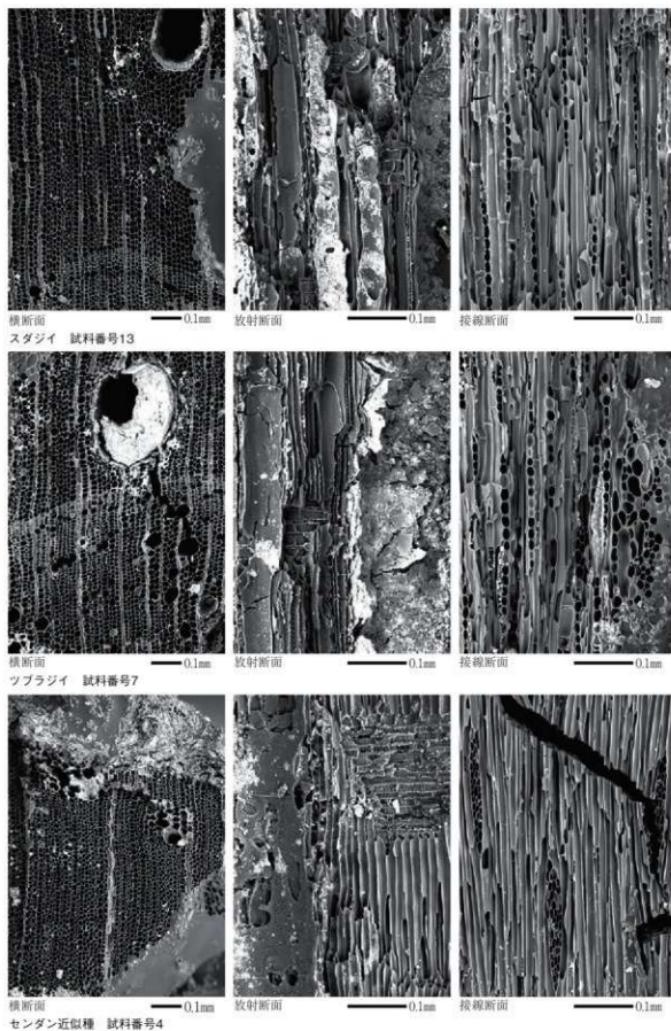


図 157 SI1～3 出土炭化材顯微鏡写真 (2)

第7章 総括

第1節 遺構の変遷(図158・159)

1 繩文時代以前

中村田所遺跡で検出された火山灰は、理化学分析で鬼界アカホヤ火山灰と同定された(第6章第3章参照)。鬼界アカホヤ火山灰はブロック状堆積が観察されたことから二次堆積と考えられる。2区から東方向に広がると推定されるものの約300m東側の中村田所東遺跡ではみられないため、広範囲にはおよばないものとみられる。

中村田所遺跡では縄文時代後期前葉を中心とする縁帶文期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査では堅穴建物が検出されず居住の痕跡がみられないことから、当時の人々が移動中に一時的な滞在をした場であった可能性が高い。キャンプサイトなどに関連する可能性がある遺構は北方向に広がるものと考えられる。

2 弥生時代

今回報告した3遺跡において主となる時期である。尻無川左岸に近接した中村田所東遺跡にて、前期末～中期前葉を中心とする小規模集落が検出されている。出土遺構は堅穴建物1棟・掘立柱建物2棟・土坑2基などであり、当時の最小生活単位の一端を捉えている可能性がある(柴田2006)。なお、南側で出土した小規模河川SR1は土器から若干の時期幅が認められるが、ここでは集落と同時並存の可能性も考えておきたい。SR1は、その位置から尻無川より分水した生活用水としての利用や、新居浜地域では未発見ではあるが下流域における水田域の存在も想定できる。

尻無川右岸に接する西喜光地遺跡では、中期中葉を中心とした集落遺跡が検出された。対岸の中村田所東遺跡と一時期並存していた可能性がある。主体となる掘立柱建物は柱穴が小さい傾向があり、出土遺物が全体的に少ないと明確な時期が判断できる例は多くはないものの、資料を提示できたSB2.7.8は少なくとも弥生時代中期中葉と考えられる。集落は微高地である南方向へ広がるものと推定され、掘立柱建物や土坑のほか、堅穴建物も存在していた可能性がある。河川近くに立地していた可能性があるSB2より、当集落は河川と有機的な関係も想定できる。また、石斧や石籠丁、石錐の出土から周辺において稲作を含む農耕のほか狩猟など複数の生業形態が推定される。SK2ではサスカイト製と在地産石材である泥質片岩製石籠丁が共伴し、当地域における弥生時代中期の石材利用状況の一端がうかがえる。1区でSB2が検出されており、尻無川左岸には中村田所東遺跡が位置することをあわせると、少なくとも弥生時代以降の調査区周辺では尻無川の川筋が大幅には変更されていないものと考えられる。

弥生時代終末期になると、中村田所遺跡において集落が営まれる。市内における後期前後の集落遺跡はこれまで調査例が少なく、当遺跡は貴重な事例である。主要遺構は堅穴建物4棟と掘立柱建物1棟である。西側のSIIと東側のSI2～4は約25m離れているため、焼失状態の有無など埋没

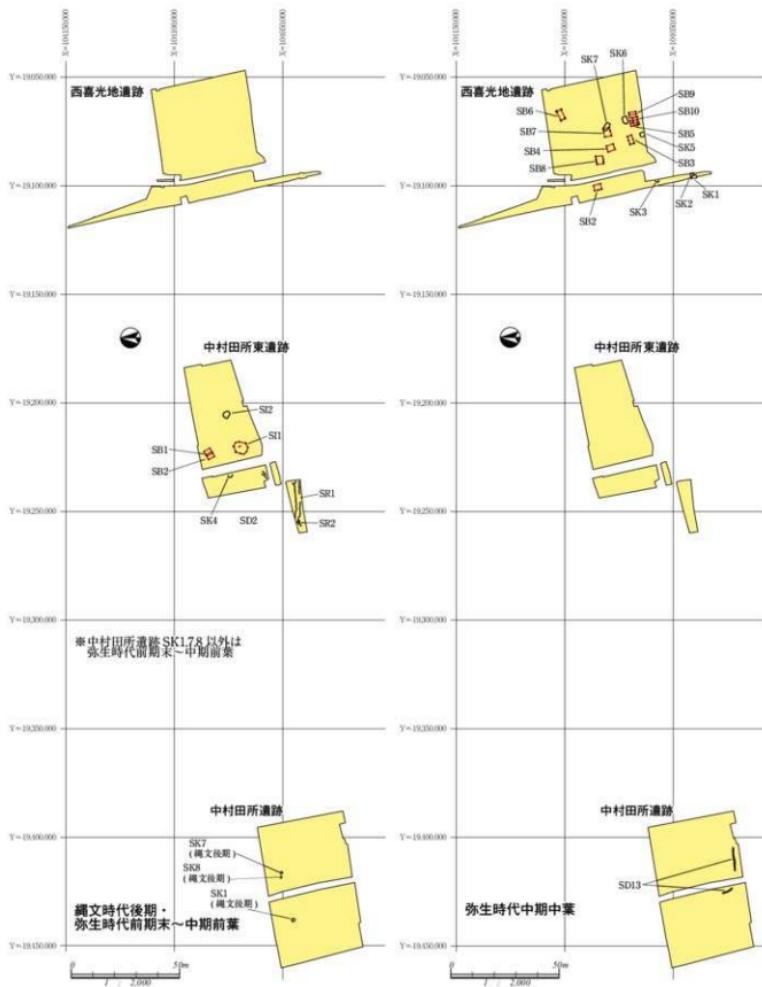


図158 中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡構造変遷図(1)

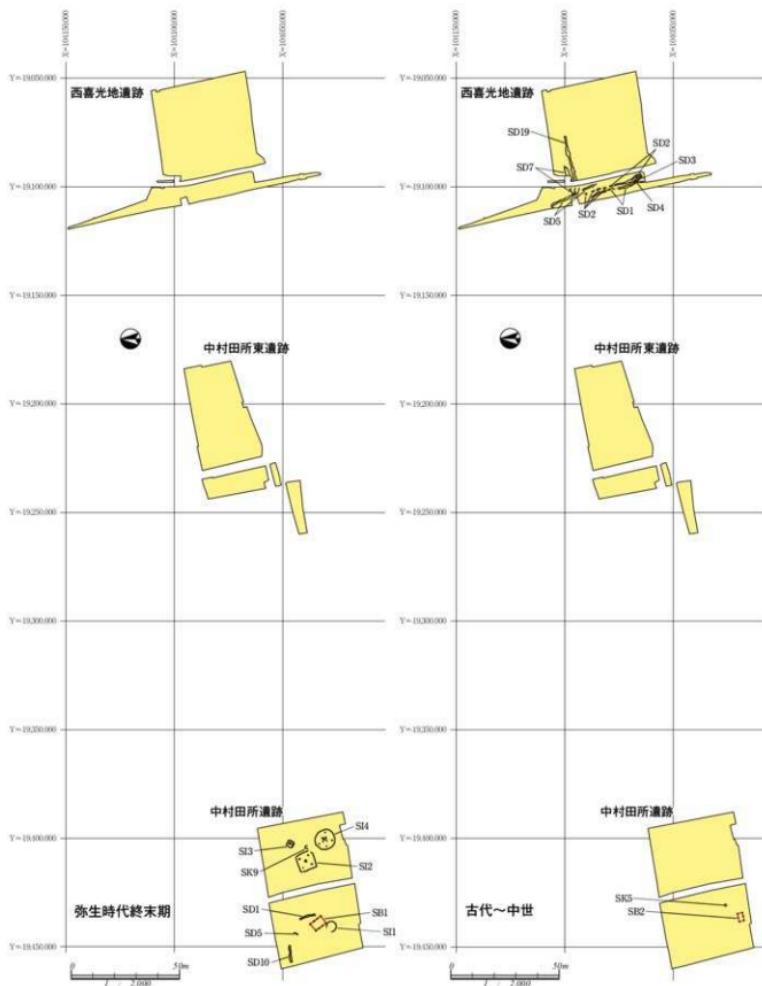


図159 中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜光地遺跡造構変遷図(2)

状況の違いなどからも異なる生活単位である可能性がある。東側3棟の平面形は方形2棟・円形1棟であり、いずれも焼失建物であった。そのうち、方形のSI2と円形のSI4は大型であり位置関係より両者は並存しないものと考えられる。壺の形状からは、SI2に比べSI4出土の胴部が若干丸みを帯びる傾向にあるため時期差が認められ、後者がより新しい様相と推定される(柴田2000b)。また、この両堅穴建物と小型方形であるSI3とは、並存関係の確定には至らなかった。

3 古代以降

今回の調査では古墳時代の遺構・遺物は確認されていない。古代以降の遺構については西喜光地遺跡の溝群があり、注目される遺物としてSD7より出土した布目瓦の細片がある。出土遺物に時期幅がある点に留意する必要があるが、出土瓦片は周辺地域において唯一瓦を伴うことが判明している河内庵寺遺跡以外の古代瓦葺き建物が存在していることを示唆している可能性もある。

中世では中村田所遺跡で柱穴祭祀を伴った掘立柱建物などが出土しており、集落は南側に展開すると推定できる。西喜光地遺跡では明確な遺構は少ないが、溝群が検出されている。また、3遺跡共に瓦器碗や土師質土器が、中村田所遺跡や西喜光地遺跡では内面黒色土器や白磁碗などの中世前期遺物が出土しており、尻無川流域周辺にも中世前期集落が展開している可能性が高いと考える。

西喜光地遺跡では、前述の微高地に相当する2区南西側を中心に筋状の搅乱が数多くみられ、包含層が安定的に遺存しないこととあわせて広範囲に搅乱の影響がおよんでいると考えられる。この搅乱は、田畠の上下の土を入れ替える天地返しと考えられ、近隣住民の証言も勘案すると実施時期は昭和期であろう。新居浜市内では、別子銅山の鉛毒による土壤汚染問題の対応策として、昭和30年代より上部地区や川西地区の一部を中心とした天地返しを大規模に行っている(新居浜郷土史談会2002)。今回調査区内で確認された搅乱もこれに関連するとみられ、同様の搅乱は星原市東遺跡や松原遺跡でも検出されていることから、新居浜地域における近現代史の一侧面を捉えていると考えられる。

第2節 特徴的な遺構・遺物

1 中村田所遺跡出土の火山灰

中村田所遺跡で確認された鬼界アカホヤ火山灰は、約7,300年前に鹿児島県の鬼界カルデラより噴出したとされ、新居浜地域ではこれまでに報告された事例はなかった。近隣では、西条市の池の内遺跡2次で同火山灰が確認されており、ほかに姶良丹沢火山灰なども報告されている。また旧小松町の明神I東岡東遺跡でも鬼界アカホヤ火山灰の報告例がある。

愛媛県内の鬼界アカホヤ火山灰は、松山平野の枝松遺跡群において比較的まとまった範囲で捉えられており、北井門遺跡でも報告されている。南予地方では高見I遺跡・東峰遺跡・上井遺跡で鬼界アカホヤ火山灰・姶良丹沢火山灰が、音地遺跡で鬼界アカホヤ火山灰が認定されている。

このように、愛媛県内の多くの地点で鬼界アカホヤ火山灰の存在が確認されており、今回新居

浜地域での例が新たに加わったことになる。

2 中村田所東遺跡出土のサヌカイト石器

弥生時代前期末の堅穴建物SII-SK2からはサヌカイト製の剥片やチップなどを含めた石器が100点近く出土している。いずれも肉眼で観察する限りすべて金山産サヌカイト製とみられる。

この資料について、製品・石核・剥片に分類し、剥片はさらに打法ごとに分類した(上峯2006、乗松2020b)。なお、1.0cm未満の資料については、調査時の取り上げの際のバイアスを避けるために分析から除外した。図160には石器の大きさの1.0cmごとの階級別グラフを示した。このグラフからは、2cm未満の小サイズの剥片で多数を占めることが分かる。図161・162は石器の種類ごとの点数比のグラフである。剥離方法が確認できる剥片はすべて両極打法による剥片で、直接打法剥片は認められない。約8割に達する打法不明の剥片の多くについても両極打法に伴う剥片の可能性がある。石核のうち1点は両極打法による石核(いわゆる楔形石器)で、この点は両極打法剥片で占められる剥片の状況と整合的といえる。唯一の製品は石鎌(123)である。

以上のことから、SIIでは両極打法を用いて小サイズの剥片を得ていたと判断できる。また、ここで得られた剥片は石鎌の素材であった蓋然性が高い。

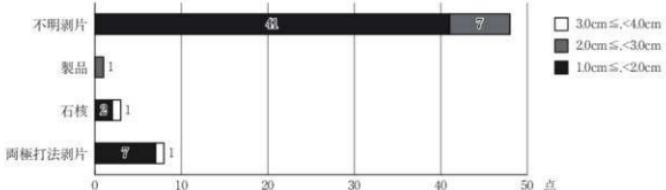


図160 石器の大きさの階級別点数

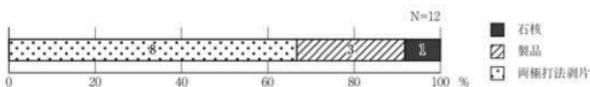


図161 石器種類別点数比率(不明剥片除く)

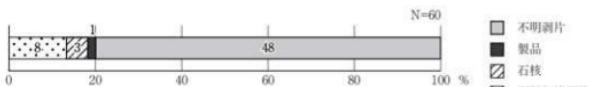


図162 石器種類別点数比率

3 西喜光地遺跡出土の掘立柱建物

西喜光地遺跡で検出された直径約30cm弱～50cmの小さい掘り方を持つ弥生時代中期の掘立柱

建物は、これまで同時期の県内ではあまり報告例がなかった。隣県の香川県では図163のように前期～中期中葉として龍川五条遺跡で2例・成重遺跡で9例、後期前半として旧練兵場跡遺跡19次で1例、後期の上林遺跡で2例の報告事例があり、愛媛県でも同様に小規模な柱穴をもつ堅穴建物の存在が今回明らかになった。

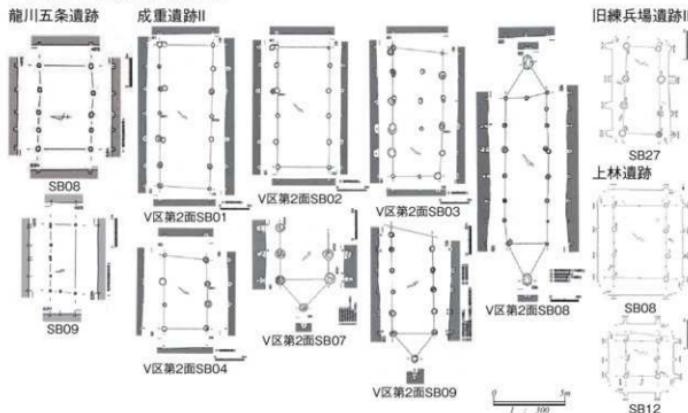


図163 香川県における弥生時代の掘立柱建物事例

4 中村田所遺跡出土の譜岐系土器

中村田所遺跡では、弥生時代終末期のSI3・SI4などから角閃石を含む香東川下流域産土器が出土している。多くが破片であり全体形状が把握できるものは限られているものの、当遺跡より出土した数少ない搬入土器である。近隣に位置し、ほぼ同時期と推定される政枝遺跡からも出土が報告されている(梅木2001)。管見の限りではあるが、東予地方において出土が報告されている遺跡の分布を図164にまとめた。調査面積等の偏りもあるが、報告点数からはおおむね一遺跡当たり数点程度の出土量にとどまるものとみられる。今治地域では集中しており、松山平野でも津田中学校構内遺跡1次・宮前川遺跡などの例がある。

5 中村田所遺跡出土の壺棺墓

中村田所遺跡より出土した壺棺墓ST1は、棺身に棺蓋を被せる典型的なものとは異なる複雑な構造をしており、埋葬状況の復元は果たせなかった。堅穴建物との位置関係からST1は居住域西北端の緩斜面中に単独で営まれたものと評価できる。最も近いSI1とは約17m・2区のSI2とは約40m・SI4でも約50mの距離であり、ST1とほぼ同時期と考えられることから、仮にいずれかの居



図164 東予地方における讃岐系土器の出土遺跡
1:上分西遺跡 2:旧観寿院跡 3:政柱遺跡 4:久枝II遺跡 5:経田遺跡・朝倉下下経田遺跡
6:登畠寺居II遺跡 7:松木広田遺跡 8:中寺馬之塚遺跡

図164 東予地方における讃岐系土器の出土遺跡

住関係者が葬られたとしても居住場所にはほど近い墓と考えられる。

弥生時代後期を中心として、居住域近隣に単獨もしくは少數の壺棺墓が見られる例は、東予地方では、四国中央市旧観寿院跡・西条市北竹ノ下II遺跡・今治市柚田池田遺跡・朝倉下下経田遺跡・新谷古新谷遺跡2次などがある。これらの壺棺墓は、いずれも近接する居住域から20m以内の距離である。

以上のような事例から、集団墓とは異なる居住域に隣接する小規模な墓制も一定程度認められ、このような墓制のあり方は周桑地域・今治地域のはか松山地域を含め広くみられるようである(梅木2001)。

6 中村田所東遺跡出土の瀬戸美濃卸皿

中村田所東遺跡で出土した中世陶器の瀬戸美濃卸皿(185)は、使用方法などに不明な点があるが、愛媛県内における出土遺跡の性格より一般的に使用されたものではなく武士をはじめとする上位階層と関連する可能性がある(首藤2015)。表20の通り、県内では一部13世紀を含むもの多くが14世紀～15世紀にかけての事例で14遺跡が確認されているが、新居浜地域ではこれまで出土例が確認されていない。今回出土の遺物は底部片であり、周辺よりの流れ込みと考えられ、詳細は不明ながら中村田所東遺跡周辺に上位階層を伴う中世遺跡の存在も想定できる。

第3節 出土した弥生土器について

1 弥生土器の変遷

今回調査を行った3遺跡で主たる出土遺物である弥生土器について、現在のところ良好な一括資料に恵まれているとは言えないが、ここでは弥生土器の変遷について、一括資料を中心に使用

表20 愛媛県内の瀬戸美濃卸皿

市町名	遺跡名	出土場所等	点数	時期
四国中央	上分西	7区SP70	1	14世紀前半
新居浜	中村田所東	遺構外	1	
西条	久枝	2区包含層	2	14世紀後半～15世紀前半
今治	古谷古屋敷	SP33	1	13世紀中頃～後半
	能郷城跡	包含層・トレンチ	3	14世紀後半～15世紀前半
東温	押志古窯群	未掲載		
松山	湯榮城跡	SK303・内堀	2	15世紀後半
	道後町	未掲載		
	石手寺村前2次	SP481	1	14世紀前半
	千足	SK32	1	
	北斎院地内4次	包含層	1	15世紀後半
	博味5次	包含層	1	
	北井門2次	2区SK19	1	14世紀前半
	別府	3区SD002	1	14世紀前半

し変遷を概観する。なお、前後する時期における状況の参考として、同じく新居浜バイパス関連調査の星原市東遺跡と松原遺跡の堅穴建物一括資料を図165・166へあわせて掲載した。

前期末～中期初頭では、星原市東遺跡B区SI001で壺・甕が出土している。壺は頸部に沈線を複数施すものや口縁部内面または胴部外面などに連鎖状刻目突帯文がみられる。甕は水平気味で刻目を持つ貼付口縁が多く、胴部に複数の沈線が巡る。

前期末～中期前葉の中村田所東遺跡SK1では、前時期同様に貼付突帯文を持つ壺があり、口縁部が短く立ち上がり外反する短頸広口壺も継続する。貼付口縁の甕も当時期まで確認できる。高杯はみられない。

中期前葉～中葉になると、西喜光地遺跡SB2・8の壺は貼付突帯文が頭部のみとなり、頭部が若干長くなる。ほかに胴部に文様が描かれる無頸壺がみられる。甕では、くの字状の折り曲げ口縁のみとなり、倒卵形を呈する胴部が主体となる。

中期後半～後期初頭では松原遺跡1区SI3出土土器がある。器種が増加し、壺・甕のほか高杯・鉢・蓋・水差などがみられる。壺・甕には四線文が施される。

後期初頭以降は調査例が不足しており、現状では様相が不明である。終末期では、中村田所遺跡SI2で甕・鉢が出土している。両者とも多くにタタキが施されており、法量差がみられる。鉢は形態的に多様性がある。ほかに壺や高杯なども少量出土している。

今回報告した遺跡では詳細な考察ができなかったが、胎土が他地域と異なる土器が一定量あり、胎土の違いは使用した粘土や含有物に由来すると想定される。

第4節 新居浜バイパス関連遺跡群における遺跡分布と弥生時代集落

1 これまでの調査状況

表21 新居浜バイパス関連発掘調査一覧

遺跡名	調査期間	調査面積 (m ²)	調査機関	主な年代	報告書名
星原市東	2000.7 ~ 2001.1	4,260	愛媛県埋蔵文化財調査センター	縄文～弥生・中近世	2001「星原市東遺跡・星原市道跡」第109集
星原市	2001.6 ~ 2001.8	1,400	愛媛県埋蔵文化財調査センター	中世	2001「星原市東遺跡・星原市道跡」第109集
松原	2003.7 ~ 2005.2	5,300	愛媛県埋蔵文化財調査センター	弥生・中近世	2006「松原遺跡」第127集
本郷2次	2010.4 ~ 2010.6	1,200	愛媛県埋蔵文化財調査センター	古墳・古代	2012「本郷遺跡2次・西米遺跡」第173集
農業1次	2011.10 ~ 2011.11	564	愛媛県埋蔵文化財調査センター	古代	2012「本郷遺跡2次・西米遺跡」第173集
喜来2次	2014.6 ~ 2014.7	320	愛媛県埋蔵文化財調査センター	古代	2015「喜来2次」第187集
中村田所	2017.9 ~ 2018.3	2,772	愛媛県埋蔵文化財調査センター	縄文・弥生・中世	未書報告
中村田所東	2018.4 ~ 2018.8	2,004	愛媛県埋蔵文化財調査センター	弥生・中世	未書報告
西喜光地	2020.10 ~ 2020.12	2,969	愛媛県埋蔵文化財調査センター	弥生・古代～中世	未書報告

平成12年度より実施された新居浜バイパス関連の埋蔵文化財調査は、今回調査した3遺跡を含め合計8遺跡におよび、これまで刊行された報告書は表21に示す通り計5冊を数える。国領川～渦井川の約5km間の断続的な調査により、新居浜平野の低地部における遺跡の動向が部分的ながら捉えられてきた。

2 遺跡の分布傾向

これまでの新居浜バイパス関連の調査成果から、低地部においては東西方向に遺跡が確認されていない範囲が存在することが判明している。図1～4に示すように少なくとも試掘調査が行われた本郷遺跡～松原遺跡間においては、遺跡の間に埋没河川を含む不安定地形が広がる状況が捉えられており、安定した人的活動を営むには不向きであったと考えられる。同様に、3遺跡の周辺でも現状で小水路となっているものを含む新旧河川・埋没河川により、遺跡の展開が分断されているものと推定される。また、図6のように南北方向に分布する遺跡も捉えられており、新居浜地域の低地部では、扇状地の南北方向に長い自然堤防上などの微高地に遺跡が営まれる傾向が想定できる。

3 弥生時代集落の変遷

新居浜バイパス関連調査のなかでも弥生時代の調査事例は一定量が蓄積されつつある。ここでは、今回調査した3遺跡を含めた弥生時代遺構の大まかな変遷を把握し、図167・168に示す集落の推移を検討したい。

前期末～中期初頭には、国領川左岸に位置する星原市東遺跡に堅穴建物3棟や平地式住居・土坑などが出現する。中期前葉では、尻無川左岸の中村田所東遺跡に堅穴建物1棟、掘立柱建物2棟や土坑を伴う集落がみられるが、いずれも小規模である。中期前葉～中葉では、尻無川右岸の西喜光地遺跡で掘立柱建物群を伴う集落が形成され、ほかに土坑がみられるが堅穴建物は検出されていない。中期後半～後期初頭では、松原遺跡において東西約3kmの範囲に2箇所程度のまとまりをもつ堅穴建物が合計10棟検出されている。後期では一時様相が不明瞭となるが、終末期の中村田所遺跡は堅穴建物4棟を伴う集落であり、そのうち2棟は方形を呈する。

総括

時期	遺跡・遺構名	壺	甕
前期末 ～中期 初頭	星原市東 B区SI001		
前期末 ～中期 前葉	中村田所東 SK1	長頸広口壺 短頸広口壺 短頸広口甕 	
中期中葉	西喜光地 SB2, 8	広口壺 無頸甕 	
中期中葉 (上郷遺跡)			
中期 後半	松原 1区SI3		
+	+		+
終末期	中村田所 SI2		

図165 新居浜バイパス関連遺跡群における弥生土器の変遷(1)

時期	遺跡・遺構名	鉢	高杯	その他
前期末 ～中期 初頭	星原市東 B区SI001			
前期末 ～中期 前葉	中村田所東 SK1			
中期中葉 (上郷遺跡)	西喜光地 SB2, 8			
中期 後半	松原 1区SI3			水差形
+	+		+	
終末期	中村田所 SI2			

図166 新居浜バイパス関連遺跡群における弥生土器の変遷(2)

総括

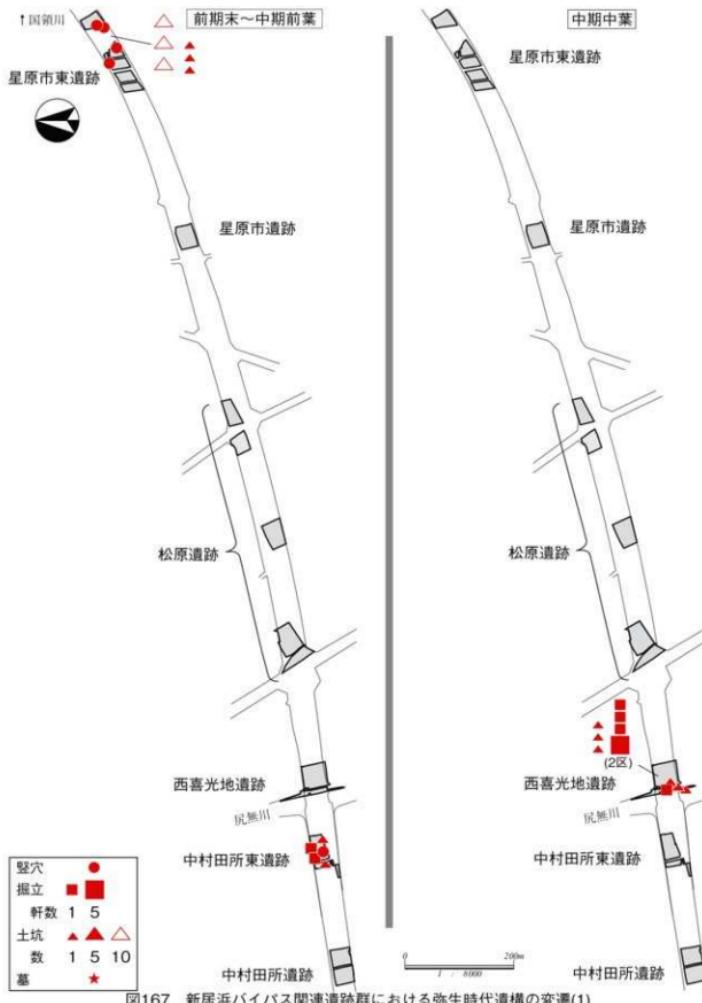


図167 新居浜バイパス関連遺跡群における弥生時代遺構の変遷(1)

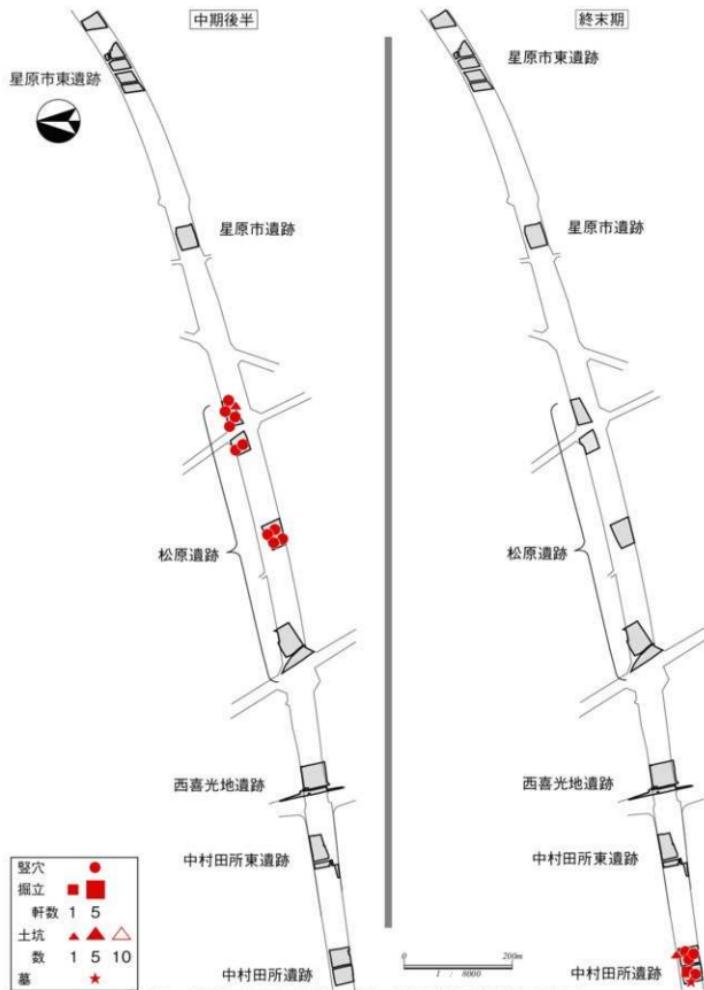


図168 新居浜バイパス関連遺跡群における弥生時代遺構の変遷(2)

総括

このように、新居浜地域の低地部においては弥生時代前末期の国領川や尻無川など比較的規模の大きい河川周辺での小規模な居住から、中期中頃以降には集落が拡大する傾向がうかがえる。しかし、基本的には小規模かつ比較的短期間の集落移動を繰り返した例が多いものと考えられ、これは市内山麓部に位置する上郷遺跡の傾向とも一致する(愛媛県埋蔵文化財センター-2009)。道前地域の久枝II遺跡にみられる小型環状石製品や武器形石器・多種におよぶ搬入土器・祭祀関連とされる区画溝を伴うような弥生時代遺跡は、新居浜地域では現在のところ未発見である。

今回実施した中村田所遺跡・中村田所東遺跡・西喜地遺跡の調査では、新居浜地域低地部においてこれまで不鮮明であった時期の弥生時代集落を捉えることができた。特に、中村田所東遺跡では弥生時代前末期の石器製作の具体像がうかがえ、西喜地遺跡では小規模な柱穴を有する掘立柱建物のみで構成される空間を把握できるなど、重要な知見が得られた。こうした成果は、低地部のみならず山麓部の遺跡も含めた検討を可能にし、さらには新居浜市域全体の弥生時代集落の解明に寄与することになるだろう。

注

*1 土岐幸司氏よりご教示いただいた。

参考文献

- 愛知県史編さん委員会2007「愛知県史別編窓葉2中世・近世瀬戸系」愛知県
幸泉満夫2011「第6章第1節 愛媛県上分西遺跡出土縁帶文土器群の編年学的考察」
『上分西遺跡・上分西安地区』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
幸泉満夫2012a「津雲A式土器の細分に向けた若干の考古学的考察」「南久米片廻り遺跡・久米庭田森元遺跡」
松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
幸泉満夫2012b「初期縁帶文土器群をめぐる諸問題」
『第23回中四国縄文研究会愛媛大会初期縁帶文土器群の成立と展開』
犬飼徹夫1993「平城II式の再検討」「古代吉備」15
上峯篤史2006「両極打法による剥片剥離実験・異種剥離方法の同定を基礎とした資料体作成に向けて-」
『旧石器考古学』68
梅木謙一2000「伊予中部地域」「弥生時代の様式と編年-四国」木耳社
梅木謙一2001「附章2 政枝遺跡出土資料」「斎院の遺跡II」松山市教育委員会・
(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
大久保徹也1990「第10節下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前期半の土器について」「下川津遺跡」
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公团
藏本晋司1999「第3節弥生時代終末期の土器様相について-下川津B類土器の動向を中心として-」
『中間西井坪遺跡 II』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公团
藏本晋司2019「第5章第2節香川川下流域土器群の基礎的研究」「上林遺跡」香川県埋蔵文化財センター
古代の土器研究会編1992~1994「都城の土器集成1~3」
柴田昌児2000a「伊予東部地域」「弥生土器の様式と編年-四国編」木耳社

- 柴田昌児2000b「湯道を残す鏡と後期弥生土器」『紀要愛媛』創刊号
- 柴田昌児2005「弥生土器総論」「久枝遺跡・久枝II・本郷I遺跡」
- 柴田昌児2008「北四国(瀬戸内海南岸)地域における前・中期弥生集落の居住形態」「弥生集落の成立と展開」
第55回埋蔵文化財研究集会発表要旨集
- 柴田昌児2009「松山平野における弥生社会の展開」「国立歴史民俗博物館研究報告」第149集
- 柴田昌児2012「愛媛県上分西遺跡の調査成果」
『第23回中四国縄文研究会愛媛大会初期縄文土器群の成立と展開』
- 首藤久士2015「愛媛県内出土の東海系中世陶器」「研究紀要」11(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 太宰府市教育委員会2000「太宰府茶釜跡XV・陶器分類編」
- 千葉豈1983「縄文系土器群の成立と展開」「史林」第72巻6号
- 千葉豈1999「縄文土器研究の展望近畿から四国」「縄文時代」10号
- 中世土器研究会編1995「概説中世の土器・陶磁器」真陽社
- 戸沢光則1994「縄文時代研究辞典」東京堂出版
- 中野良一2007「中世伊予の煮沸具について」「紀要愛媛」第7号(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 中野良一2013「第6章まとめ」「辻堂遺跡」(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 乗松真也2020a「弥生時代中期における金山産サヌカイト製石器の流通」
『さぬき野に種をまく「片桐さん」退職記念論集』さぬき野に種をまく「片桐さん」退職記念論集刊行会
- 乗松真也2020b「弥生時代中期の備讃瀬戸沿岸におけるサヌカイト製石器生産」「古文化談叢」85
- 山崎真治2003「縄文土器の縦年の研究」「東京大学考古学研究室研究紀要」第18号
- 吉田広2003「文京遺跡の弥生時代前期集落」「立命館大学考古学論集III-1」
- 報告書**
- 愛媛県
明徳I東岡東遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1995
『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書X-小松町編III』
- 朝倉下下経田遺跡(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2020「朝倉下下経田遺跡」
- 池の内遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2009「池の内遺跡2次」
- 枝松遺跡:松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財团埋蔵文化財センター1996「東本遺跡4次・枝松遺跡4次」
『松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財团埋蔵文化財センター2008「枝松遺跡7次・8次・9次・10次』
- 音地遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2003「常定寺遺跡・音地遺跡・伊勢越遺跡」
- 上井遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1999「上井遺跡」
- 上郷遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2009「上郷遺跡」
- 上深谷遺跡:新居浜市教育委員会2007「上小深遺跡」
- 北井門遺跡(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2012「北井門遺跡2次」
- 北竹ノ下II遺跡(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2021「北竹ノ下II遺跡現地説明会資料」
- 旧観寿院跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2010「旧観寿遺跡」
- 喜来遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2012「本郷遺跡2次・喜来遺跡」(公財)愛媛県埋蔵文化財センター

総括

2015「喜来遺跡2次」

正光寺山古墳群:新居浜市教育委員会2012「正光寺山古墳群」

袖田池田遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2009「袖田池田遺跡2次・3次」

高見I遺跡・東峰遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2002「四国縱貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

報告書XVIII-双海町編III」(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2018「高見I遺跡2次」

瀧の宮遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2011「本郷遺跡3次・瀧の宮遺跡」,新居浜市教育委員会2013

「瀧の宮遺跡2次」

津田小学校構内遺跡:松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター2001「斎院の遺跡II」

新谷古新谷遺跡(公財)愛媛県埋蔵文化財センター2016「新谷古新谷遺跡2次現地説明会資料」

星原市遺跡・星原市東遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2004「星原市東遺跡・星原市遺跡」

本郷遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2010「本郷遺跡」,(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2012

「本郷遺跡2次・喜来遺跡」(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2011「本郷遺跡3次・瀧の宮遺跡」

政枝遺跡:新居浜市教育委員会2006「政枝遺跡」

松原遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2006「松原遺跡」

宮前川遺跡(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1986「宮前川遺跡」

横山遺跡・横山古墳:新居浜市教育委員会1987「横山古墳発掘調査報告書」

香川県

上林遺跡:香川県埋蔵文化財センター2019「上林遺跡」

旧練兵場遺跡:香川県教育委員会・独立行政法人国立病院機構善通寺病院2011「旧練兵場遺跡II(第19次調査)」

龍川五条遺跡:香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公团1996「龍川五条遺跡I」

成重遺跡:香川県教育委員会・日本道路公团2005「成重遺跡II」

図 版

凡　　例

1. 遺物写真の縮率は、特に指定のないものについては約 1/3 である。
2. 遺構写真は現場担当者が、遺物写真は岡が撮影した。



遺跡遠景(滝の宮公園より)

中村田所遺跡

図版
2



1区調査前状況(南西より)



2区調査前状況(北東より)



1区東半遺構検出状況(南東より)



1区中央北半遺構検出状況(南東より)

中村田所遺跡

図版4



1区西半北側遺構検出状況(南東より)



1区東半南側遺構検出状況(北東より)



2区北半遺構検出状況(南東より)

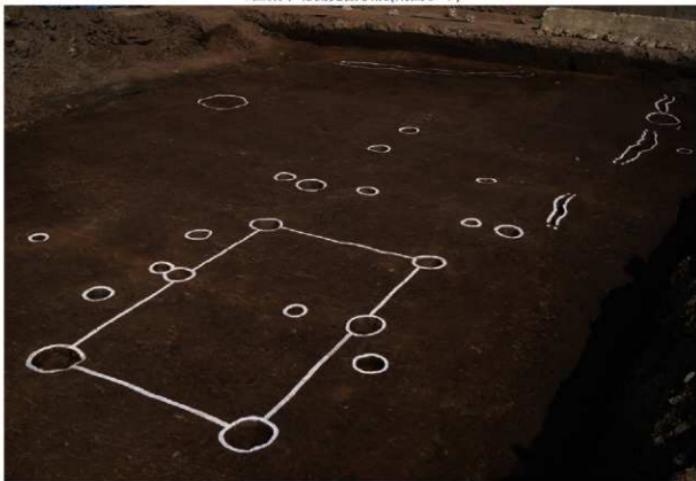


2区南半遺構検出状況(北西より)

図版
6



1区東半北側完掘状況(南西より)



1区東半南側完掘状況(南西より)



1区西半北側完掘状況(南東より)



1区北端部完掘状況(南東より)



2区南半完掘状況(北西より)



2区北端部完掘状況(北西より)



2区北半完掘状況(南東より)

中村田所遺跡

図版8



SI1完掘状況(東より)



SI1土層断面(北西より)



SI1土層断面(南東より)



SI1遺物出土状況(北西より)



SI2完掘状況(西より)



SI2土層断面(北西より)



SI2土層断面(南東より)



SI2遺物出土状況(南東より)



SI2遺物出土状況(北東より)

図版
10



SI2焼土・炭化物出土状況(西より)



SI2焼土・炭化物出土状況(南より)



SI2焼土・炭化物出土状況(南東より)



SI2焼土・炭化物出土状況(北西より)



SI2焼土・炭化物出土状況(北より)



SI2下層遺物出土状況(北西より)



SI2下層遺物出土状況(南より)



SI2下層遺物出土状況(北西より)



SI2-SK10土層断面(北西より)



SI2-SP239土層断面(西より)

中村田所遺跡

図版
12



SI3完掘状況(南より)



SI3土層断面(東より)



SI3土層断面(西より)



SI3焼土・炭化物出土状況(南より)



SI4完掘状況(北西より)



SI4土層断面(北西より)



SI4土層断面(南東より)



SI4床面検出状況(北西より)



SI4焼土・炭化物出土状況(北西より)



SI4焼土・炭化物出土状況(西北より)



SI4焼土・炭化物出土状況(南東より)



SI4下層遺物出土状況(南東より)



SI4下層遺物出土状況(北西より)



SI4下層遺物出土状況(北東より)



SI4下層遺物出土状況(東より)



SI4-SK12遺物出土状況(南西より)



SI4-SK12土層断面(南東より)



SI4-SP244土層断面(南より)



SI4-SP246土層断面(南西より)

図版
16



SB1完掘状況(南東より)



SB1-SP169発出土状況(西より)



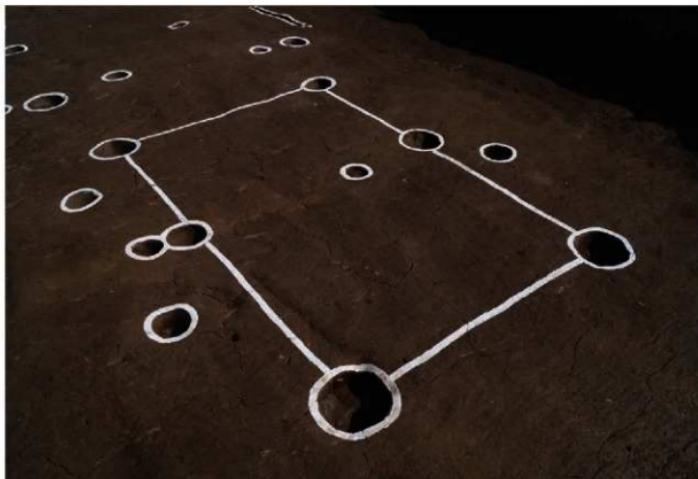
SB1-SP174発出土状況(西より)



SB1-SP169土層断面(西より)



SB1-SP171土層断面(南西より)



SB2完掘状況(北西より)



SB2-SP177遺物出土状況(北より)



SB2-SP177土層断面(南東より)



SB2-SP181土層断面(南より)



SB2-SP182土層断面(南西より)

図版
18



SK1遺物・礫出土状況(北より)



SK1完掘状況(北より)



SK1土層断面(南より)



SK1土層断面(北より)



SK7,8発掘状況(南東より)



SK7遺物出土状況(南東より)



SK7土層断面(南東より)



SK8遺物出土状況(南西より)



SK8土層断面(南東より)

図版
20



SK9遺物出土状況(西より)



SK9完掘状況(南西より)



SK9土層断面(南東より)



SK3土層断面(南より)



SK5完掘状況(西より)

図版
21



ST1内部完掘状況(北より)



ST1検出状況(北より)



ST1内部完掘状況(下層)(北西より)



ST1内部土層断面(北より)



ST1土層断面(北より)

図版
22



1区東半北側溝群完掘状況(北西より)



SD10,11完掘状況(西より)



SD12完掘状況(北西より)



SD13西半完掘状況(南より)



SD13東半完掘状況(東より)



SD1b-b'土層断面(北より)



SD2土層断面(北東より)



SD6土層断面(南より)



SD8 土層断面(東より)



SD10 土層断面(西より)



SD11 土層断面(西より)



SD12 土層断面(西より)



SD13a-a' 土層断面(北より)



SD13b-b' 土層断面(西より)



SP8 土層断面(北より)



SP112 土層断面(東より)

図版
24



SP113土層断面(南東より)



SP113土層断面(南東より)



SP140遺物出土状況(北西より)



SP142遺物出土状況(南西より)



SP144土層断面(西より)



SP183土層断面(南東より)



SP236土層断面(南より)



SX1土層断面(南より)



1区北壁(A-A'-A'')東半断面(南西より)



1区北壁(A-A'-A'')西半断面(南東より)



1区西壁(B-B')断面(南東より)



2区南壁(F-F')断面(北西より)

図版
26



2区北壁(D-D'-D'')断面(南西より)



2区東壁(E-E')断面(南西より)

図版
27

弥生時代 出土遺物 集合写真 / 繩文時代 出土遺物 SK・SP・包含層



出土遺物(弥生時代)

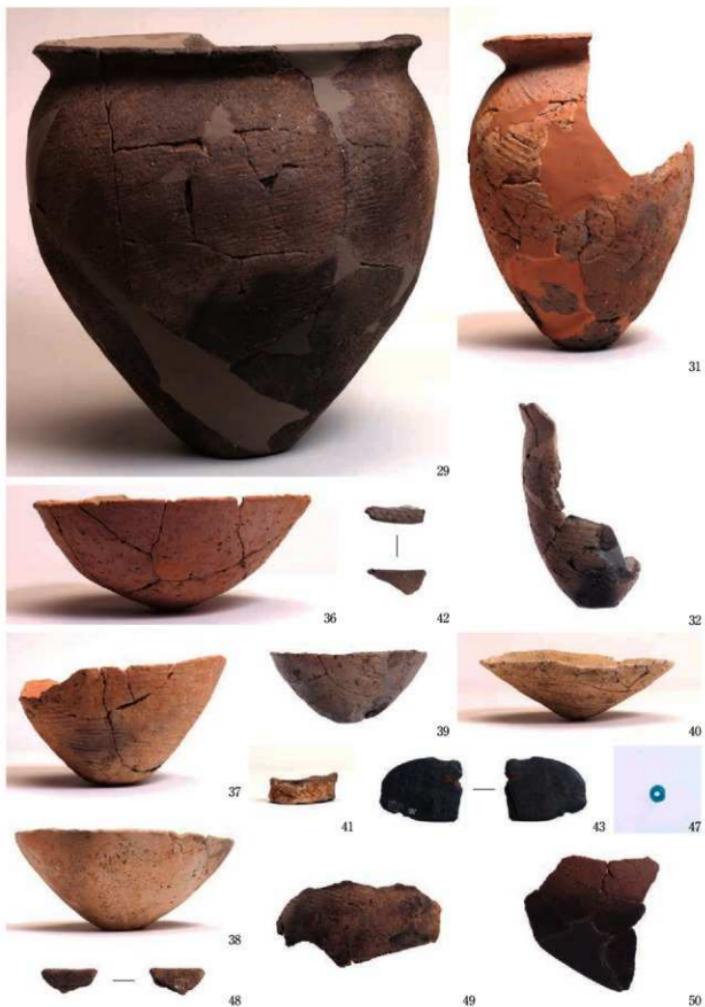


図版 28
縄文時代
出土遺物
包含層・出土地不明 / 弥生時代
出土遺物
SI



図版
29

弥生時代 出土遺物
SI



図版 30
弥生時代
出土遺物

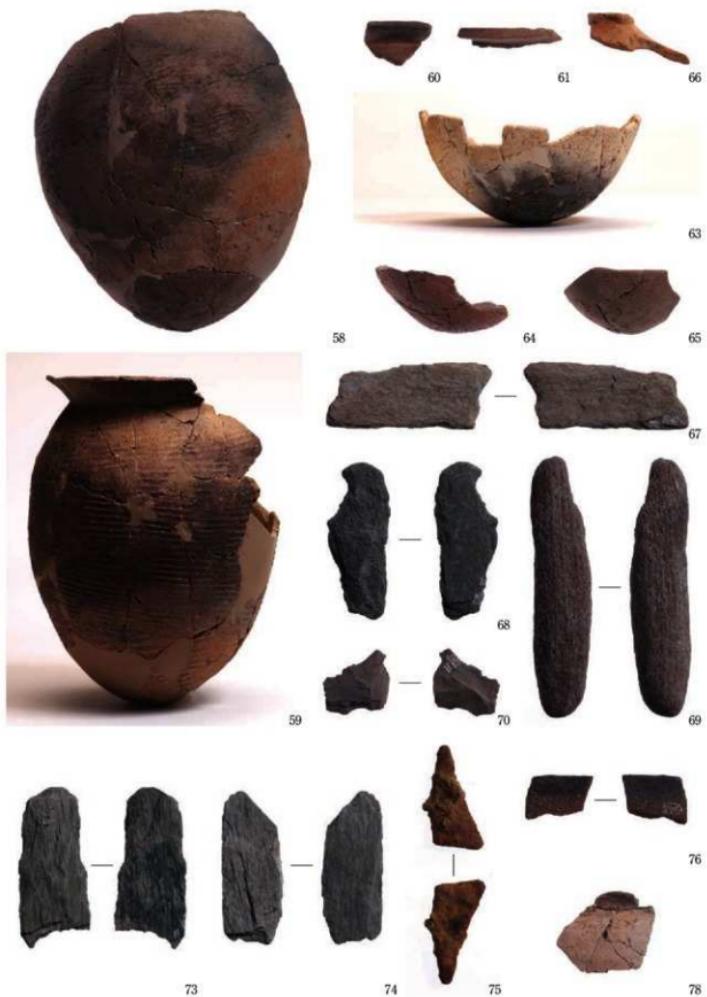
SI



図版
31

弥生時代
出土遺物

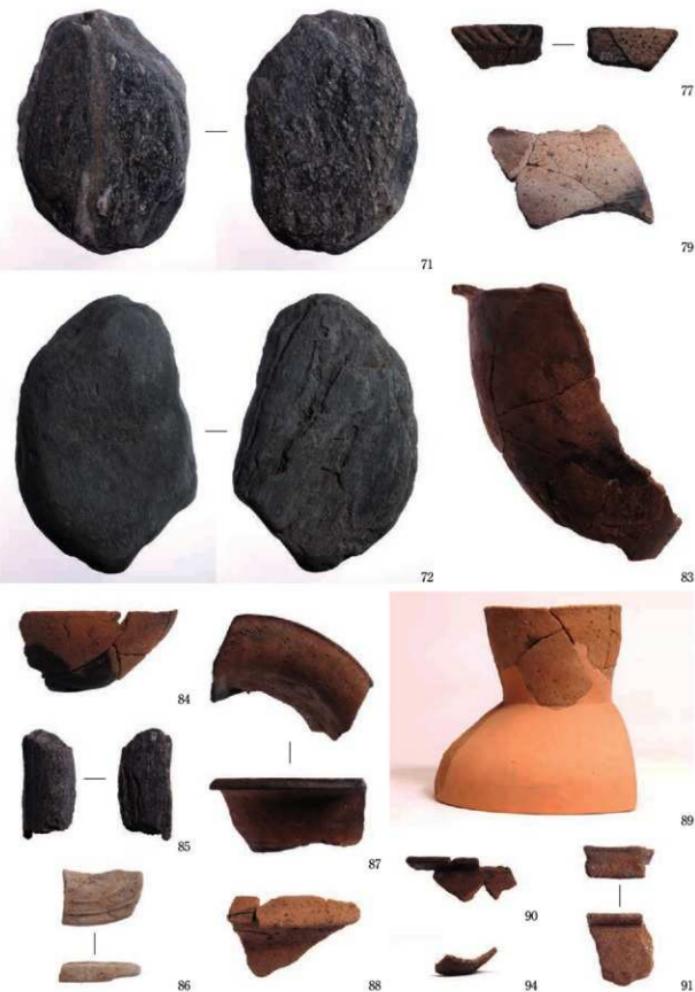
SI



図版
32

弥生時代
出土遺物

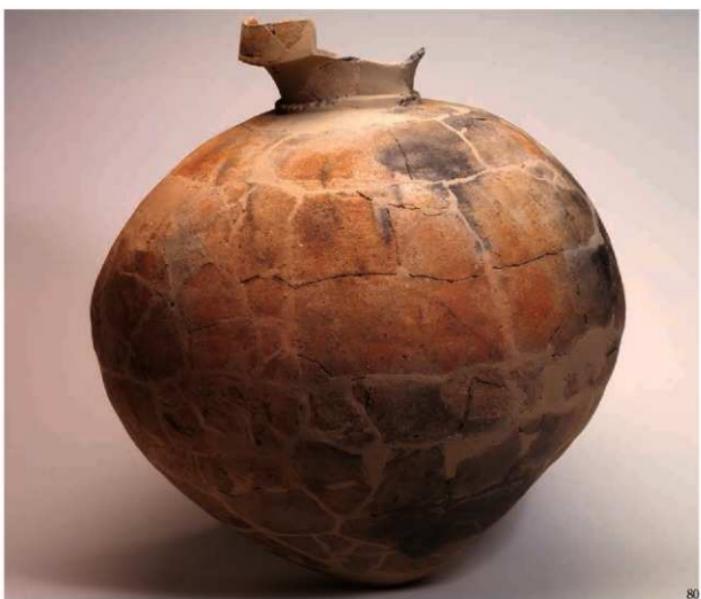
SI
SK
SD
SP
包含層



図版
33

弥生時代 出土遺物

ST



81



82

図版
34

弥生時代
出土遺物
包含層 / 中世
出土遺物

SB · SP ·
包含層



図版
35

弥生時代 出土遺物

包含層 / 中世 出土遺物
包含層



中村田所東遺跡

図版
36



1区東側調査前状況(南東より)



1区西側調査前状況(南西より)



2a区調査前状況(北より)



1区中央遺構検出状況(北西より)



1区東側遺構検出状況(南東より)



1区西側遺構検出状況(南より)



2a区遺構検出状況(北東より)



2c区東半遺構検出状況(西より)

中村田所東遺跡

図版
38



1区中央完掘状況(南西より)



1区東側完掘状況(南東より)



1区西側完掘状況(南西より)



2c区東半完掘状況(西より)



2a区完掘状況(南より)



2b区完掘状況(北東より)

図版
40



SI1完掘状況(南東より)



SI1-SP170土層断面(南より)



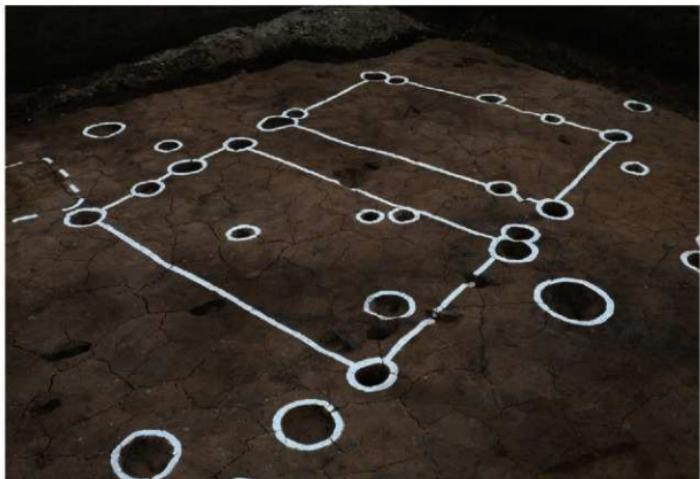
SI1-SK2土層断面(南より)



SI1-SK2土層断面(北西より)



SI1-SK2周辺焼土・炭化物出土状況(東より)



SB1,2完掘状況(南西より)



SK4完掘状況(南西より)



SK4土層断面(北より)



SK4遺物出土状況(南西より)



SK4遺物出土状況近景(南西より)

中村田所東遺跡

図版
42



SK1完掘状況(南西より)



SK1土層断面(西より)



SK1土層断面(北より)



SK1遺物出土状況(南東より)



SK3完掘状況(南西より)



SK3土層断面(南西より)



SD1完掘状況(南より)



SD1土層断面(北東より)



SD3完掘状況(北より)



SD3土層断面(南西より)



SD2土層断面(南西より)



SX1土層断面(南より)

図版
44



SR1完全掘削状況(東より)



SR1a-a'土層断面(西より)



SR1b-b'土層断面(東より)



SR2c-c'土層断面(東より)



SR2遺物出土状況(北東より)



SP72遺物出土状況(南東より)



SP332遺物出土状況(北東より)



1区北壁(D-D'-D'')西半断面(南西より)



1区北壁(D-D'-D'')東半断面(南東より)

図版
46



1区東壁(A-A'・B-B')北半断面(南西より)



1区東壁(A-A'・B-B')北半断面(南西より)



2a区北壁(F-F')断面(南より)



2a区東壁(G-G')断面(北西より)



2b区西壁(H-H')断面(東より)



2c区東壁(J-J')断面(南西より)



2c区北壁(I-I')断面(南西より)

図版
47弥生時代 出土遺物
集合写真・SI・SK $S=1/2(123,132,133,135)$

中村田所東遺跡

図版48
弥生時代
出土遺物

SK
SD
SP
SR

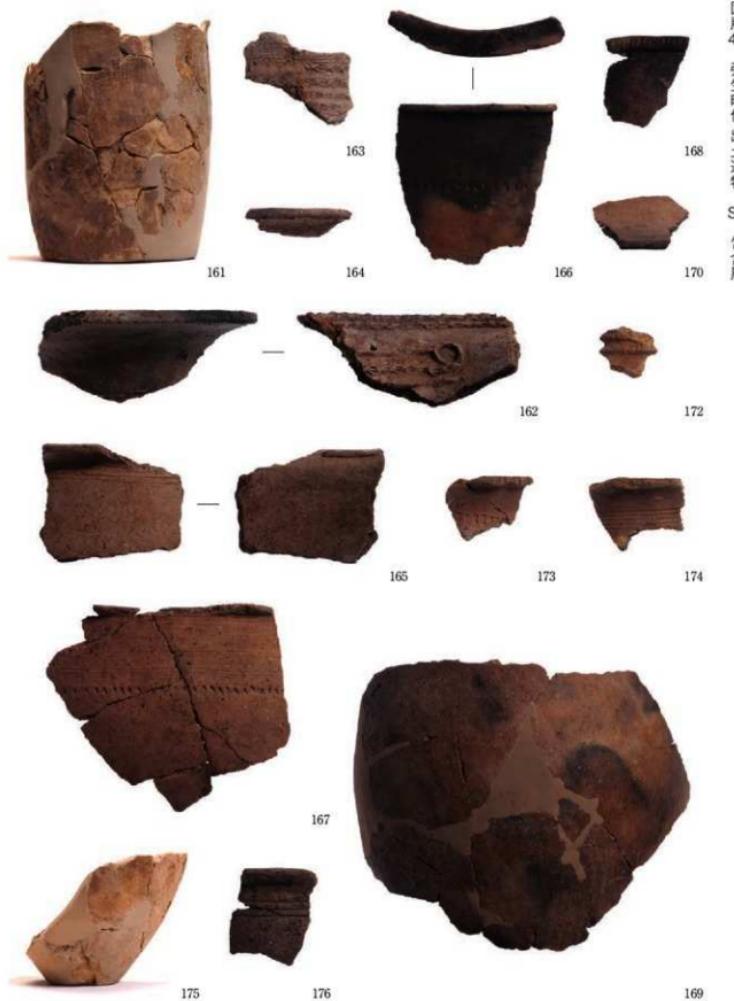


S=1/2(148), S=1/5(149~151)

図版
49

弥生時代 出土遺物

SR・包含層



中村田所東遺跡

図版
50

弥生時代
出土遺物

包含層・出土地不明／中世
出土遺物

SP
・包含層





1区調査前状況(南東より)



2a区調査前状況(南西より)



1区中央部南半遺構検出状況(北より)



1区中央部北半遺構検出状況(南より)



1区南端部遺構検出状況(南より)



1区北端部遺構検出状況(南より)



2a区南半西侧遺構検出状況(北より)



2a区南東側遺構検出状況(北東より)



2a区北端部遺構検出状況(南東より)



2a区北側遺構検出状況(西より)



2a区中央部遺構検出状況(西より)



1区中央部南半完掘状況(北より)



1区中央部北半完掘状況(南より)

図版
56



1区南端部完掘状況(北より)



1区北端部完掘状況(北より)



2b区完掘状況(北より)



2a区南半完掘状況(北より)



2a区北半完掘状況(南より)

図版
58



SB1挖掘状況(南より)



SB2-SP1遺物出土状況(南東より)



SB2-SP1土層断面(南より)



SB2-SP2遺物出土状況(北東より)



SB2-SP2最下層遺物出土状況(北東より)

SB2-SP2下層遺物出土状況(北東より)



SB3完掘状況(北西より)



SB3-SP346土層断面(南西より)



SB4-SP355土層断面(北より)



SB4完掘状況(北西より)



SB5,9,10完掘状況(北西より)



SB5-SP358土層断面(北西より)



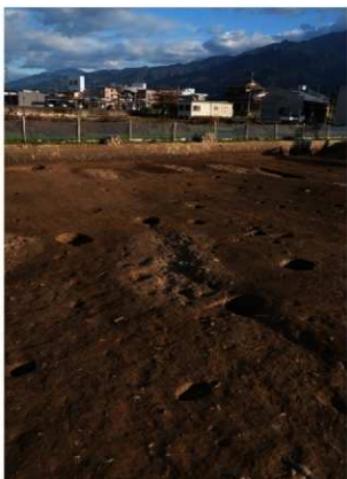
SB5-SP360土層断面(南東より)



SB9-SP381土層断面(北東より)



SB10-SP388土層断面(北東より)



SB6完掘状況(北西より)



SB6-SP365土層断面(南より)



SB6-SP367土層断面(北東より)



SB7北半完掘状況(北東より)



SB7-SP368遺物出土状況(南より)



SB7-SP153砾出土状況(東より)

図版
62



SB8完掘状況(南東より)



SB8-SP376礫出土状況(南より)



SB8-SP372遺物出土状況(南より)



SB8-SP372下層遺物出土状況(北西より)



SB8-SP375遺物出土状況(南東より)



SB8-SP375土層断面(北東より)



SB8-SP377遺物出土状況(北西より)



SB8-SP378遺物出土状況(南より)



SK1,2完掘状況(南西より)



SK1,2遺物出土状況(北西より)



SK1,2遺物出土状況(北西より)



SK1,2遺物出土状況(北より)



SK1,2遺物出土状況(南より)



SK1土層断面(南東より)



SK5完掘状況(北より)



SK5遺物出土状況(北より)



SB5,10・SK6完掘状況(北東より)



SK6遺物出土状況(東より)



SK6土層断面(南東より)



SK7完掘状況(南東より)



SK7遺物出土状況(南東より)



SK7北側遺物出土状況(北より)



SK3完掘状況(北西より)



SK4完掘状況(北より)



SD5,6土層断面(南より)



SD5b-b'土層断面(北より)



1区中央南半溝群完掘状況(南東より)



SD1a-a'土層断面(南より)



SD1b-b'土層断面(南より)



SD2d-d'土層断面(南より)



SD2f-f'土層断面(南より)



SD3土層断面(南より)



SD4土層断面(北より)



1区北側溝群完掘状況(北より)



SD6c-c'土層断面(西より)



SD9d-d'土層断面(北より)



SD10土層断面(南より)



SD7,8完掘状況(南西より)



SD7,19完掘状況(南西より)



SD15完掘状況(南東より)



SD14完掘状況(南東より)

図版
68



SD7,8a-a'土層断面(東より)



SD7c-c'土層断面(東より)



SD15a-a'土層断面(南より)



SD19d-d'土層断面(西より)



SD19e-e'土層断面(東より)



SP30土層断面(西より)



SP51土層断面(西より)



SP277土層断面(西より)



1区西壁(A-A'-A'')南半断面(南東より)



1区西壁(A-A'-A'')北半断面(南東より)



1区西壁(B-B'-B'')南半断面(南東より)



1区西壁(B-B'-B'')北半断面(北東より)



2b区西壁(C-C')断面(北東より)



2a区西壁(D-D'-D'')南半断面(南東より)



2a区西壁(D-D'-D'')北半断面(南東より)

図版
70



2a区南壁(E-E'-E'')東半断面(北西より)



2a区南壁(E-E'-E'')西半断面(北西より)



2a区東壁(F-F'-F'')北側断面(南西より)



2a区東壁(F-F'-F'')北半断面(南西より)



2a区東壁(F-F'-F'')南半断面(北西より)



出土遺物(弥生時代)



188



201



191



190



200



202

圖版
72



圖版
73



198



204



205



203



207



208



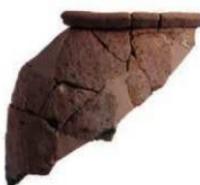
211

圖版
74





218



220



222



221



225



230

231



224



226



227



228

図版
76



報告書抄録

ふりがな	なかむらたごろひがしいせき	なかむらたごろひがしいせき	にしきこうじいせき					
書名	中村田所遺跡	中村田所東遺跡	西喜光地遺跡					
副書名	一般国道11号新居浜バイパス新居浜市道西喜光地町副道1号線埋蔵文化財調査							
卷次								
シリーズ名	(公財)愛媛県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第203集							
編著者名	首藤久士(編) 岡美奈子(編)	乗松真也						
編集機関	公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター							
所在地	〒791-8025 愛媛県松山市衣山西四丁目68-1		TEL (089) 911-0502					
発行年月日	西暦 2022年 3月							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 緯	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
		市町村 遺跡番号	北 緯 度	東 緯 度		平面積 m ²	総面積 m ²	
なかむらたごろひがしいせき 中村田所遺跡	えひめけんにいはまし 愛媛県新居浜市 なかむらたごり 中村松木二丁目	38205	33°56'16"	133°17'23"	20170925 20180309 20191001 20191029	2,772	2,772	一般国道11号 新居浜バイ パス建設
なかむらたごろひがしいせき 中村田所東 遺跡	えひめけんにいはまし 愛媛県新居浜市 なかむらたごり 中村松木二丁目・ とうじよ 土橋一丁目	38205	33°56'17"	133°17'33"	20180418 20180831 20200414 20200417	2,004	2,004	一般国道11号 新居浜バイ パス建設
にしきこうじいせき 西喜光地遺跡	えひめけんにいはまし 愛媛県新居浜市 にしきこうじよう 西喜光地町	38205	33°56'18"	133°17'36"	20200420 20201228	3,122	3,122	一般国道11号 新居浜バイ パス新居浜市道 西喜光地町 分離建設
所取遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
中村田所遺跡	集落	縄文時代・ 弥生時代・ 中世	堅穴建物4棟・掘立柱 建物4棟・土坑10基、 壇棺1基、満15条・ 小穴250穴、性格不明 遺構1基	縄文土器・弥生土器・ 石器、鉄製品、ガラス 製品・土師器(古代・中 世)・瓦器・土質質土器			新居浜地域における低 地部の弥生時代集落遺 跡群。弥生時代前中期 ～中期の遺構のほか、 当地域で調査例が少な い弥生時代終末期の集 落が検出された。また、 鬼界アカホヤ火山 灰の自然科学分析を行 なった。	
中村田所東 遺跡	集落	弥生時代・ 中世	堅穴建物1棟・掘立柱 建物4棟・土坑4基・満 3条・小穴435穴、自然 流路2条、性格不明 遺構1基	弥生土器・石器・瓦 器・土質質土器・中世 陶器				
西喜光地遺跡	集落	弥生時代・ 古代・中世	掘立柱建物10棟・土坑 8基・満19条・小穴297 穴	弥生土器・土師器(古 代)・土質質土器・須 恵器・瓦器・陶器・ 石器・瓦				
要約	新居浜平野中央部に立地する、弥生時代の前中期～中期中葉ならびに終末期の集落遺跡群である。 ばかりに縄文時代や古代・中世の遺構・遺物が出土している。 中村田所遺跡では、鬼界アカホヤ火山灰の二次堆積が検出され、縄文時代後期前葉の土坑・小穴が出土した。弥生時代終末期では、焼失穴巣建物や掘立柱建物・壇棺などが出土している。 中村田所東遺跡では、弥生時代前中期～中期初頭の堅穴建物や土坑・自然流路が検出された。堅穴建物からは一定量のササキイト片が出土し、石器製作の痕跡が捉えられた。 西喜光地遺跡では、弥生時代中期中葉の掘立柱建物群や土坑が出土しており、当期の集落の一部を構成していると考えられる。							

埋蔵文化財発掘調査報告書 第203集

中 村 田 所 遺 跡
中 村 田 所 東 遺 跡
西 喜 光 地 遺 跡
埋蔵文化財発掘調査報告書

令和4年3月

編集・発行 公益財團法人愛媛県埋蔵文化財センター
愛媛県松山市衣山四丁目68-1
TEL (089) 911-0502

印 刷 岡田印刷株式会社